

生駒市幼稚園再編に係る基本方針

(案)

令和 7 年 1 2 月

生駒市教育委員会

目 次

第1章 生駒市の幼稚園、保育園のこれまで

1	生駒市について	1
2	幼稚園、保育園の現状等	5
3	幼稚園、保育園等に対する利用者等意見（アンケート調査結果）	17
4	今後の人口、教育・保育ニーズの予測について	37
5	本市の幼稚園再編の考え方	38

第2章 公立幼稚園のこれから【個別基本方針】

例	各基本方針の見方について	39
1	あすか野幼稚園の基本方針	42
2	桜ヶ丘幼稚園の基本方針	45
3	俵口幼稚園の基本方針	48
4	なばた幼稚園の基本方針	51
5	生駒台幼稚園の基本方針	54
6	ひがし保育園の基本方針（参考）	57

第3章 再編の推進にあたって

1	こどもの学び・育ちの確保	59
2	関係団体、保護者、地域との協働	59
3	社会情勢の変化への対応	59
4	再編後の跡地利用について	59
5	再編スケジュール	60
6	再編後の姿	61

資 料 編

1	公立幼稚園園児保護者向けアンケート調査結果	資_1
2	公立保育園園児保護者向けアンケート調査結果	資_27
3	認定こども園園児保護者向けアンケート調査結果	資_44
4	0～2歳児をもつ保護者向けアンケート調査結果	資_53
5	教育・保育行政に対するご要望等	資_61

第 1 章

生駒市の幼稚園、保育園のこれまで

（１）市の概況と総人口の推移

本市は、奈良県の北西端に位置し、大阪府と京都府に接しており、西に標高 642mの生駒山を主峰とする生駒山地が、東に矢田丘陵と西の京丘陵があり、これら 2 つの眺望が、本市の自然豊かな景観軸を形成しています。また、大阪府近郊地という特性から、従来よりそのアクセス性が重視され、昭和 34（1959）年に阪奈道路、昭和 39（1964）年に新生駒トンネルが貫通するなど、大阪府との一層の距離の短縮が図られてきました。

本市は、昭和 46（1971）年 11 月 1 日に市制施行されましたが、その後の高度経済成長期やバブル経済期にかけては、全国の宅地開発ブームのもと、本市でも同様に大規模宅地開発が行われ、豊かな自然環境や大阪府へのアクセスのよさなどが相まって人口は急増し、市制施行当時の約 37,000 人から、平成 7（1997）年には 100,000 人を超え、令和 7（2025）年時点で約 116,000 人の人口規模となっています。

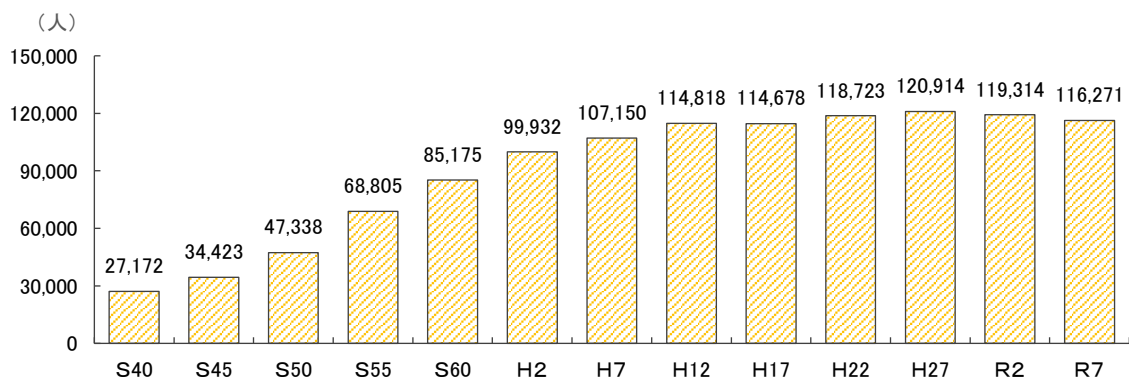


図 1 - 1 総人口の推移

資料：住民基本台帳各年 5 月 1 日

（２）3 区分人口と就学前児童数の推移

本市の 3 区分別人口の推移をみると、高齢者人口が一貫して増加しているのに対し、近年、生産年齢人口と年少人口が減少してきており、いわゆる少子高齢化が進んでいる状況となっています。

また、就学前児童は、総人口が減少に転じた平成 27（2013）年以降、同様に減少し続けており、平成 27（2015）年と令和 7（2015）年を比べると、全体で約 30%減少しています。

特に、1 歳児人口の減少率が最も高く、平成 27（2015）年から令和 7（2015）年にかけて約 40%減少している状況です。

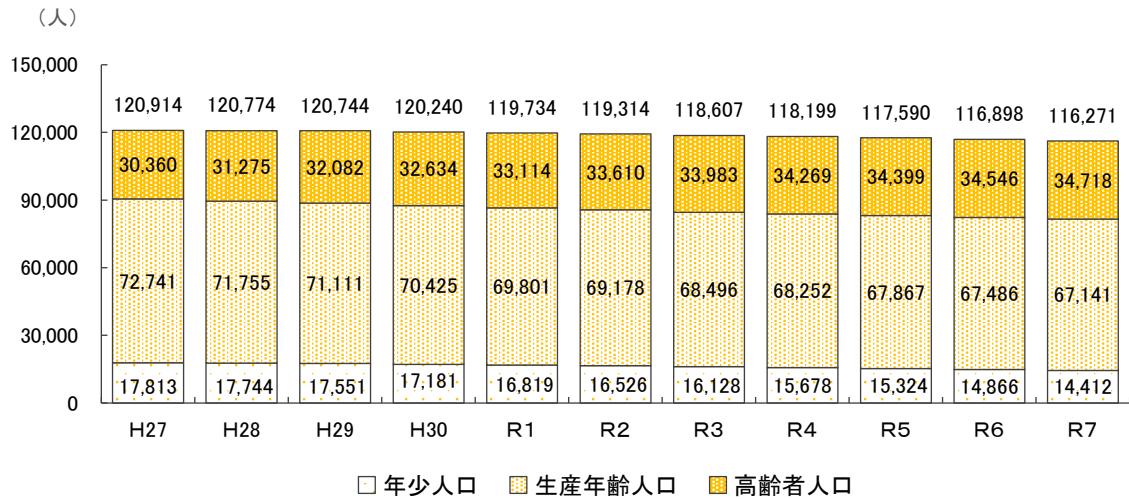


図 1 - 2 3 区分人口の推移

資料：住民基本台帳各年 5 月 1 日

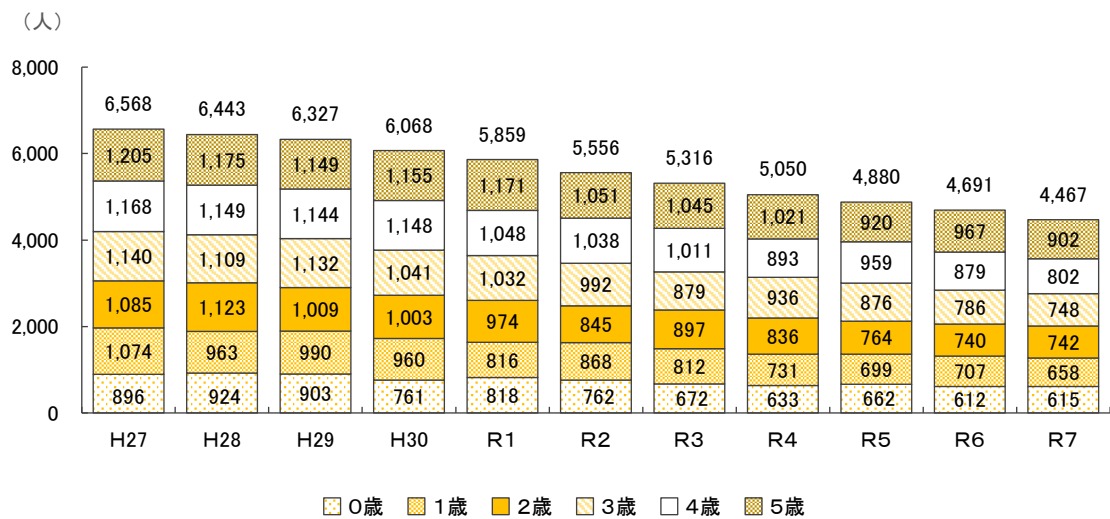


図 1 - 3 就学前人口の推移

資料：住民基本台帳各年 5 月 1 日

(3) 世帯の推移

市内居住者の家族類型別世帯数をみると、総世帯数は増加傾向であり、令和 2（2020）年の世帯数は 47,617 世帯で、同年総人口 116,675 人から除した 1 世帯あたりの人員は 2.45 人となっています。また、世帯類型別では、夫婦と子ども世帯が最も多く、平成 12（2000）年以降、16,000 世帯以上で推移しています。その他、ひとり親と子ども世帯も増加傾向であり、これら 2 つの世帯類型を合わせた、いわゆる子どもを持つ世帯は、令和 2（2020）年時点で約 20,000 世帯となっています。

つぎに、6 歳未満の子どもがいる世帯の推移をみると、平成 12（2000）年から平成 27（2015）年にかけては、増減を繰り返しながらも約 5,000 世帯前後で推移していましたが、令和 2（2020）

年は約 4,000 世帯に減少し、総世帯に占める割合も 8.5%と減少しています。

一方、6 歳未満のこどものいる世帯の共働き世帯は、平成 12（2000）年以降増加し続けており、令和 2（2020）年には、約半数の世帯が共働き世帯となっています。

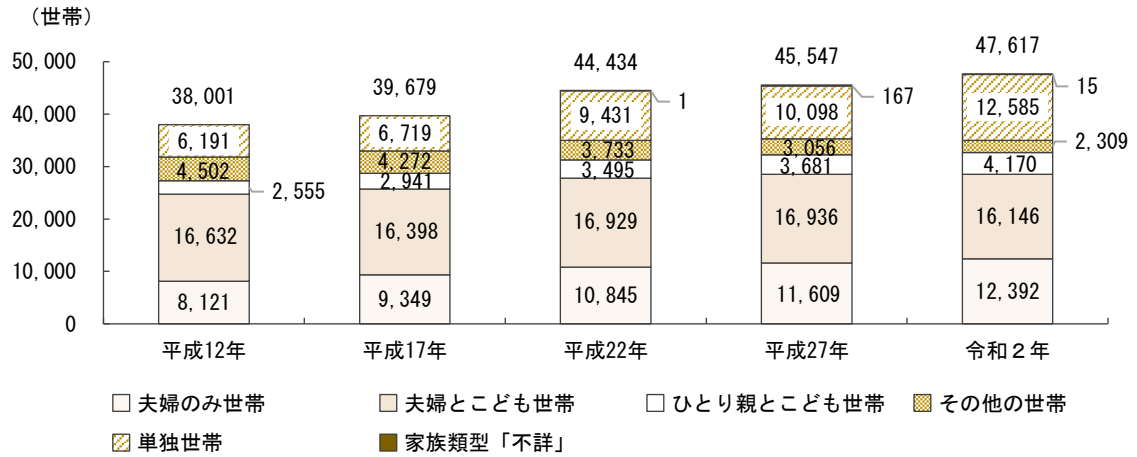


図 1-4 家族類型別世帯数の推移

資料：国勢調査

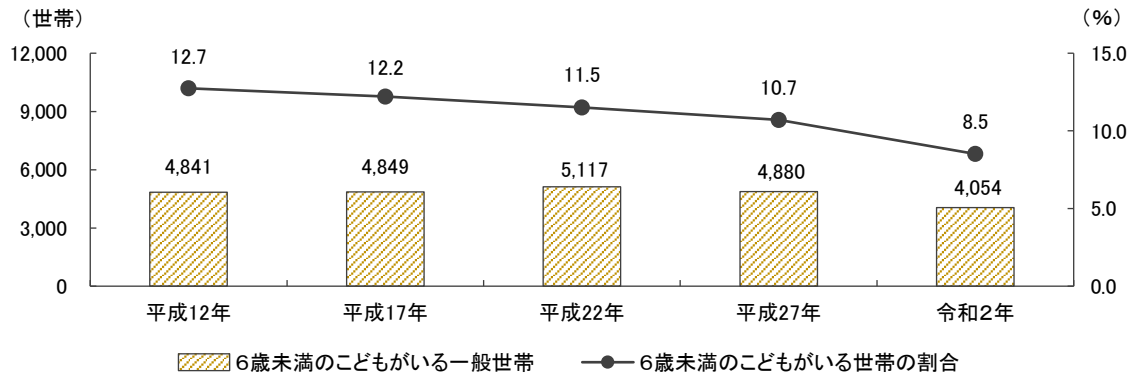


図 1-5 6 歳未満のこどもがいる世帯数の推移

資料：国勢調査

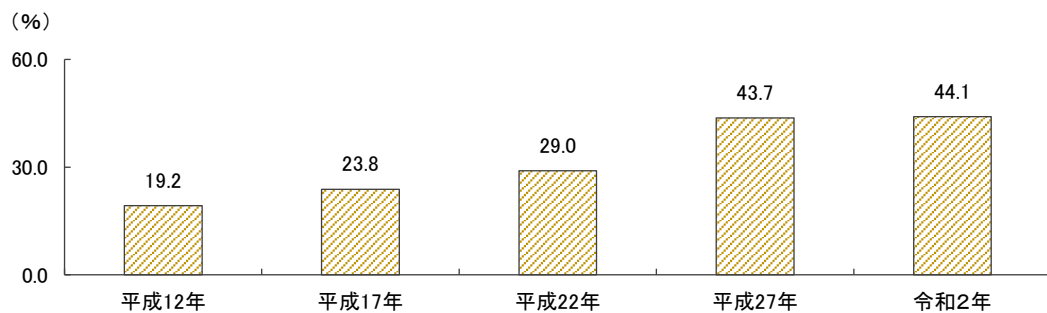


図 1-6 6 歳未満のこどものいる世帯の共働き世帯の割合

資料：国勢調査

(4) 女性就業率

過去 20 年間の女性の就業率の推移をみると、各年代とも就業率が高くなっており、25～29 歳で 16.9 ポイント、30～34 歳で 27.5 ポイント、35～39 歳で 26.9 ポイント増加しています。

また、30～40 歳代では 7 割以上の方が就労しており、平成 12（2000）年と比べると、いずれも 20 ポイント以上上昇しています。

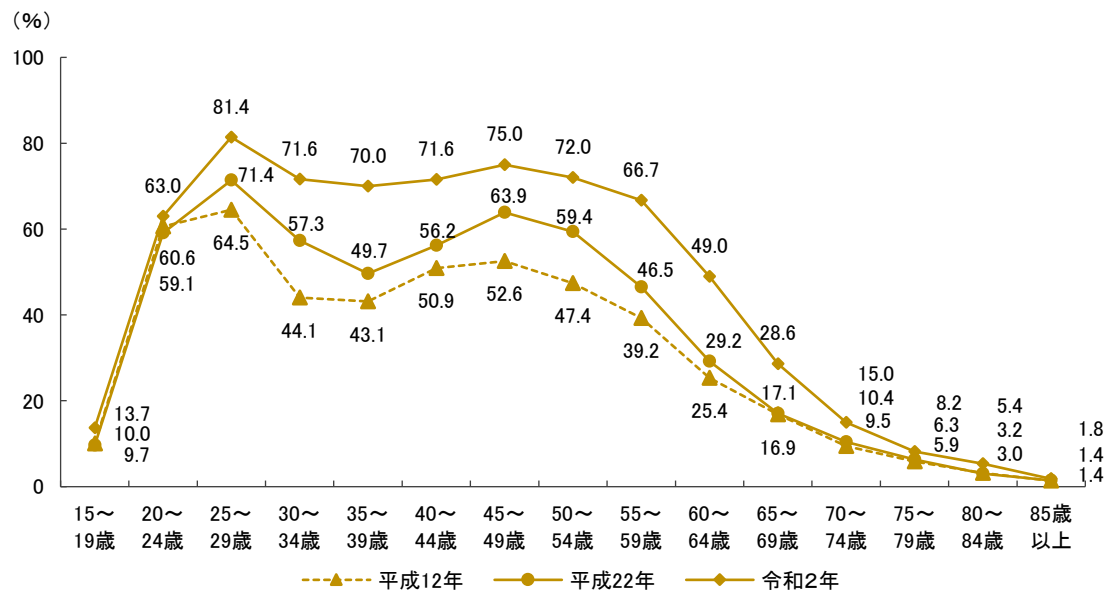


図 1 - 7 女性就業率の推移

資料：国勢調査

2 幼稚園、保育園の現状等

(1) 幼稚園、保育園の変遷と現状

本市では、昭和 28（1953）年に「みなみ保育所（当時は町立）」を開園し、翌年の昭和 29（1954）年に「私立北倭幼稚園（昭和 30（1955）年北倭村立高山幼稚園となる）」が開園して以降、昭和 40 年代からの宅地開発による人口増加に合わせて多くの幼稚園・保育園を整備してきました。その後も本市の人口は、環境や立地等の特性を背景に増加し続け、また、共働き世帯の増加も相まって、教育・保育サービスの需要の広がりや、保護者ニーズに合ったサービス提供のあり方など、量・質両面においてニーズの多様化がみられるようになってきました。

国においても、社会構造の著しい変化や保護者ニーズなどに応えるため、平成 18（2006）年に「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」を制定し、教育・保育の両方の機能を併せ持った「認定こども園」制度¹が開始されました。

本市においても、保護者ニーズに対応していくため、「認定こども園」化にむけた検討を進め、令和 2（2020）年までに市内 10 ヶ所の認定こども園が開園し、令和 9（2027）年度には沓分幼稚園が民設民営の公私連携幼保連携型認定こども園として開園する予定です。また、平成 27（2015）年度から始まった「子ども・子育て支援新制度²」の一環として、0～2 歳までの乳幼児の保育ニーズに対応する地域型保育事業³については、現在、市内 12 か所で実施されています。

表 1-1 幼稚園、保育園等の開園状況

【公立幼稚園（合計定員：1,371 人）】

令和 7 年 10 月現在

園名	開園年月	定員	所在
なばた幼稚園	昭和 46 年 4 月	173	東生駒月見町 207 番地 25
生駒台幼稚園	昭和 48 年 4 月	259	新生駒台 3-44
南幼稚園	昭和 49 年 4 月	100	小平尾町 25-1
俵口幼稚園	昭和 53 年 5 月	198	俵口町 2231
あすか野幼稚園	昭和 54 年 4 月	274	あすか野南 2 丁目 5-2
桜ヶ丘幼稚園	昭和 57 年 4 月	172	桜ヶ丘 7-16
沓分幼稚園	昭和 58 年 4 月	195	沓分町 520

¹ 「認定こども園」制度とは、「認定こども園」は教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育園の良さを併せ持っている施設について、都道府県から認定こども園としての認定を受けることが出来る仕組み。

² 「子ども・子育て支援新制度」とは、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていくためにつくられた制度。幼稚園等での幼児教育と、保育を必要とするこどもへの保育を保障するための給付制度であり、給付対象となる幼稚園、保育園、認定こども園などを利用した場合、その費用に関し、公費から給付が受けられるようになる。給付は市から施設等に直接支払う仕組みとなっている。

³ 地域型保育事業とは、待機児童の解消を図るため、保育園より少ない人数で 0～2 歳のこどもをお預かりする保育事業。具体的には小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型保育事業の 4 つ事業があり、本市では小規模保育事業が 9 か所、事業所内保育が 3 か所ある。

【公立保育園（合計定員：743人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
みなみ保育園	昭和28年5月	200	小平尾町25-1
ひがし保育園	昭和43年9月	200	辻町22
小平尾保育園	昭和48年5月	88	小平尾町1553-1
中保育園	昭和49年8月	255	東新町8-28

【公立認定こども園（合計定員：180人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
認定こども園生駒幼稚園	平成29年3月	180	西旭ヶ丘18-12

【私立幼稚園（合計定員：650人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
白百合幼稚園	昭和17年6月	280	西松ヶ丘3番40号
奈良佐保短期大学附属 生駒幼稚園	昭和52年11月	220	鹿ノ台南2の12
白庭台幼稚園	平成22年4月	150	白庭台2丁目1番1号

【私立保育園（合計定員：524人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
いこま乳児保育園	昭和46年4月	75	元町2-14-8
鹿ノ台佐保保育園	昭和56年4月	60	鹿ノ台北2丁目2-6
あすかの保育園	昭和57年4月	90	あすか野南2-1-25
會津生駒保育園	平成20年2月	69	山崎町5-6
学研まゆみ保育園	平成23年4月	120	真弓南1丁目14-1
會津壱分保育園	平成25年4月	110	壱分町1190-1

【私立認定こども園（合計定員：1,365人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
いこまこども園	平成29年4月	290	北新町2の11
生駒ピュアこども園	平成29年4月	120	鹿畑町3013
ソフィア東生駒こども園	平成29年4月	159	東生駒4丁目398の280
たかやまこども園	平成30年4月	282	高山町12595の2
うみ保育園	平成30年4月	102	白庭台4丁目10の5
もり保育園	平成30年4月	132	上町3305の1
はな保育園	平成30年4月	165	上町2576の2
いちぶちどり保育園	令和2年4月	115	壱分町83の87

【私立地域型保育事業（合計定員：219人）】

令和7年10月現在

園名	開園年月	定員	所在
にじ保育園	平成28年1月	9	白庭台6丁目12番1号
いちぶちどりキッズ	平成28年2月	12	萩の台1丁目2-2 ライフコート萩の台B-2号室
ソフィア谷田保育園	平成28年11月	19	谷田町875-1 CSSビル2階
いちぶちどりキッズたにだ	平成30年4月	19	谷田町359-3 パストラル生駒1F
きたやまと保育園	平成31年4月	14	北大和1-23-1
小規模認可保育所 わらべ学園	令和2年4月	11	谷田町371-10
サンライズキッズ保育園 生駒園	令和4年4月	12	谷田町851番地1
サンライズキッズ保育園 西松ヶ丘園	令和5年4月	19	西松ヶ丘11-8
生駒せいかナーサリー	令和7年4月	19	東松ヶ丘16-20
阪奈中央こぐま園	平成20年4月	54	俵口町471番地
キッズガーデン	平成21年4月	16	北新町12-28
奈良先端大 咲いてく保育園	令和6年10月	15	北新町12-28

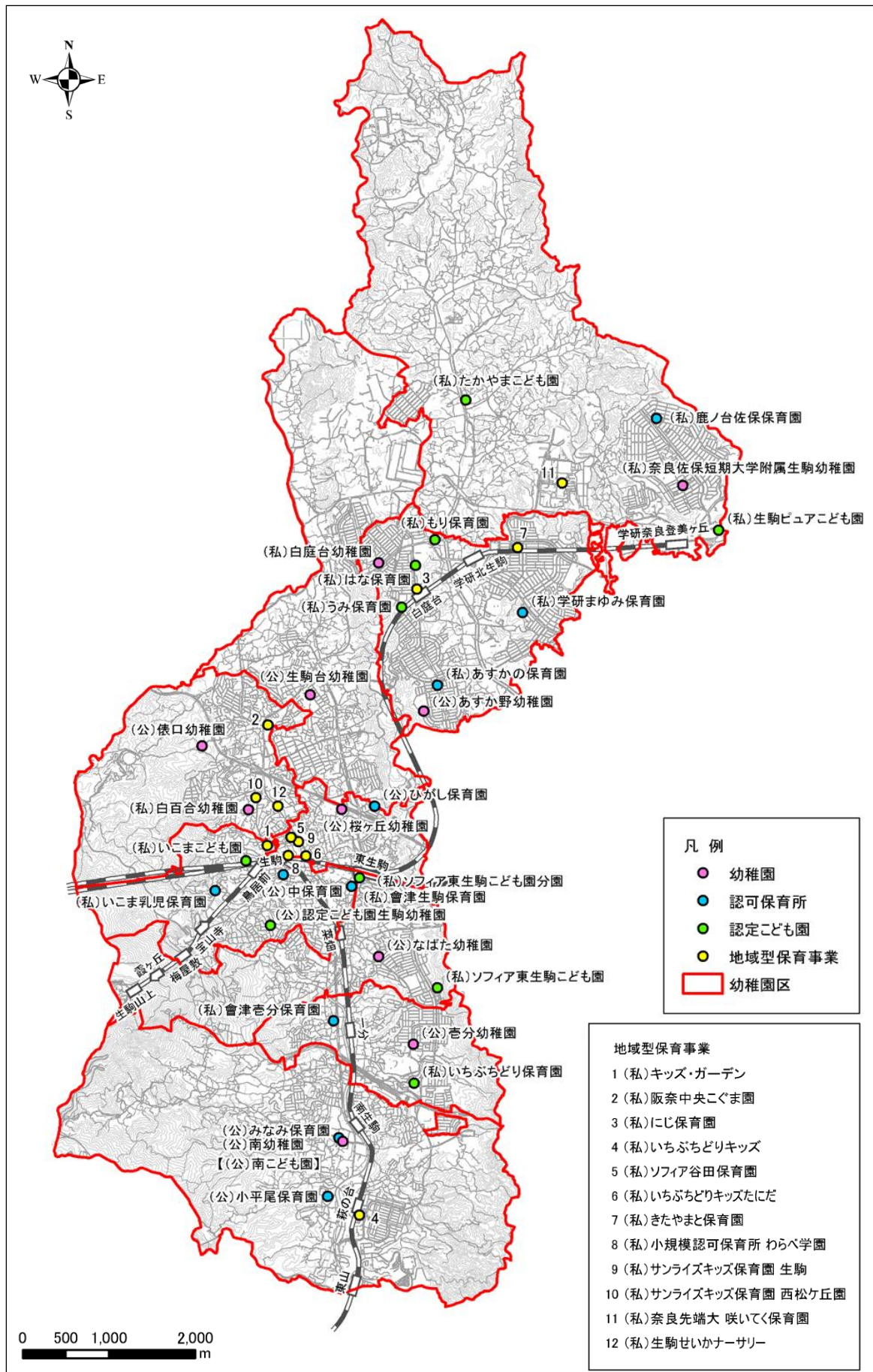


図 1 - 8 市内幼稚園・保育園位置図 (令和 7 年 10 月 1 日時点)

(2) 通園区域

本市では、各公立幼稚園からの距離に応じて、以下のとおり通園区域を設定しています。

通園区域内に居住している就学前児童は希望すれば必ず入園することができます。

また、各園の利用定員に余裕がある場合は、通園区域外からの入園も可能ですが、入園は、原則、通園区域内の居住者が優先されます。

表 1 - 2 本市の通園区域

園名	通園区域
なばた	東生駒 1～4 丁目・東生駒月見町・東菜畑全域・中菜畑全域・西菜畑全域・菜畑町・緑ヶ丘
生駒台	生駒台全域・新生駒台・南田原町・北田原町・松美台・小明町・西白庭台全域
南	萩原町・藤尾町・西畑町・鬼取町・小倉寺町・大門町・有里町・小瀬町・青山台・東山町・萩の台全域・小平尾町・乙田町
認定こども園生駒	山崎町・東旭ヶ丘・西旭ヶ丘・新旭ヶ丘・東新町・北新町・山崎新町・本町・元町全域・仲之町・門前町・軽井沢町
俵口	俵口町・東松ヶ丘・西松ヶ丘・光陽台・喜里が丘全域
あすか野	上町・上町台・真弓全域・真弓南全域・北大和全域・あすか野全域・あすか台・白庭台全域 (※鹿畑町・鹿ノ台全域・美鹿の台も通園可能)
桜ヶ丘	谷田町・辻町・桜ヶ丘
壱分	壱分町・さつき台全域・南山手台・翠光台

※高山町・ひかりが丘全域・鹿畑町・鹿ノ台全域・美鹿の台は、(私) たかやまこども園の通園区域としています。

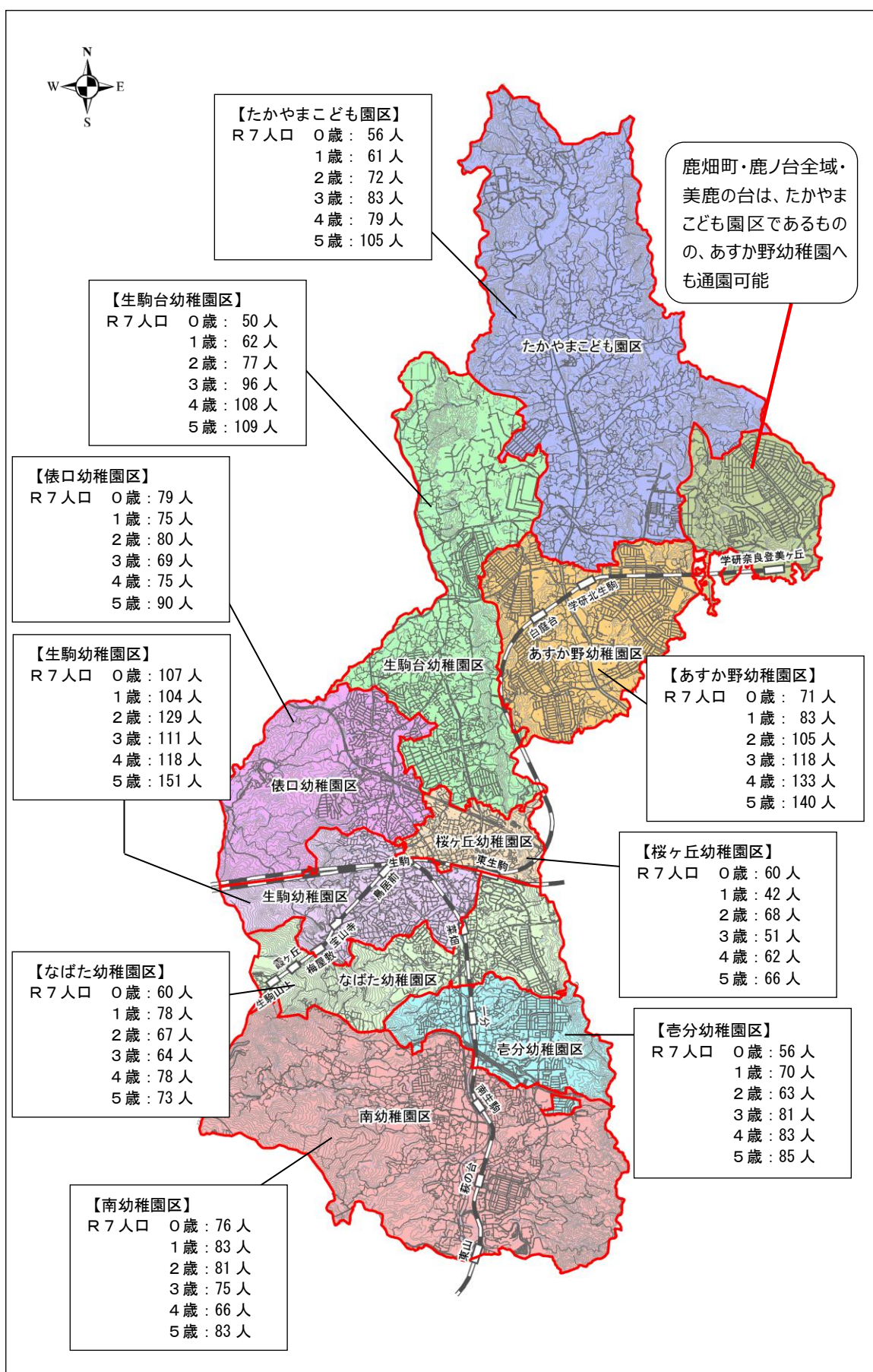


図1-9 本市の通園区域図

(3) 幼稚園、保育園等園児数の推移

① 幼稚園

本市の公立幼稚園は、令和 7（2025）年度現在、認定こども園である生駒幼稚園を除くと、なばた幼稚園、生駒台幼稚園、南幼稚園（※南こども園 1 号認定⁴（幼稚園））、俵口幼稚園、あすか野幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、壱分幼稚園の 7 園であり、この 7 園の園児数は、平成 27（2015）年の 1,106 人から令和 7（2025）年には 334 人と、約 70%減少しています。

私立幼稚園は、令和 7（2025）年度現在、白百合幼稚園、奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、白庭台幼稚園の 3 園がありますが、公立幼稚園と同様に園児数は減少傾向であり、平成 27（2015）年の 578 人から令和 7（2025）年には 370 人と、約 36%減少しています。

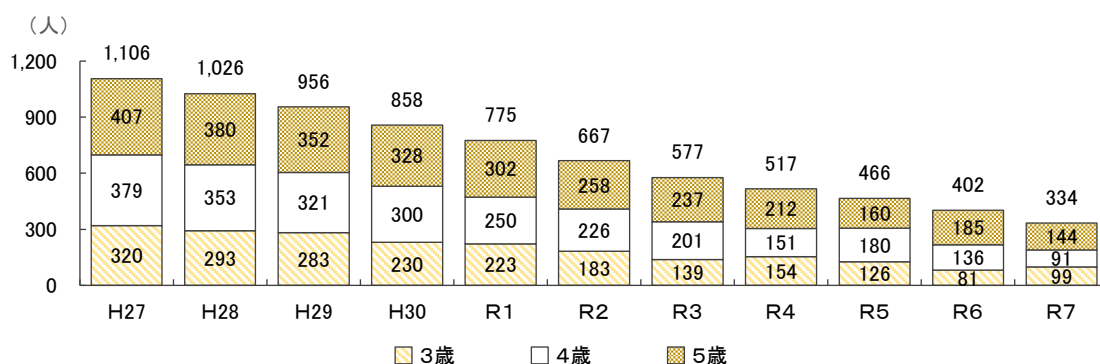


図 1-10 公立幼稚園の園児数の推移

※ なばた幼稚園、生駒台幼稚園、南幼稚園（※南こども園 1 号認定（幼稚園））、俵口幼稚園、あすか野幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、壱分幼稚園の合計値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

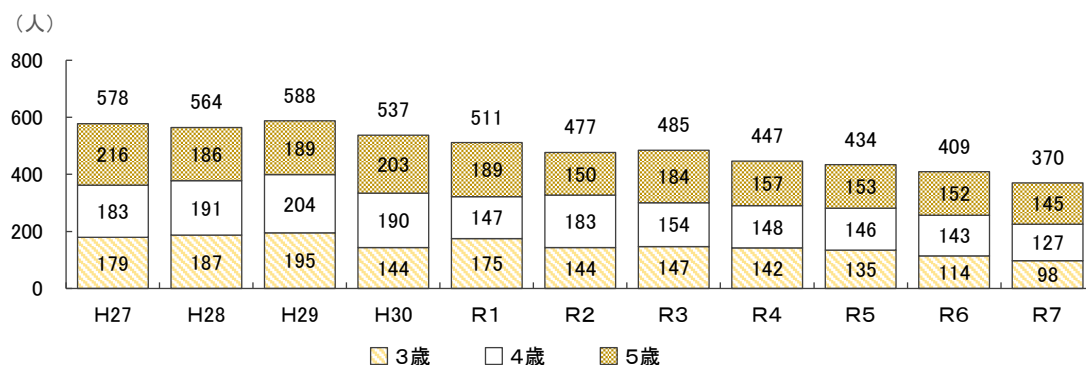


図 1-11 私立幼稚園の園児数の推移

※ 白百合幼稚園、奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、白庭台幼稚園の合計値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

⁴ 1 号認定とは、満 3 歳以上のこどもが保育を必要とせず、「教育を希望」する場合の認定区分。1 号認定の方が利用できる施設は幼稚園と認定こども園で、保育園は利用できません。

② 保育園

本市の公立保育園は、みなみ保育園（※南こども園 2～3号認定⁵（保育園））、ひがし保育園、小平尾保育園、中保育園の4園であり、また、私立保育園は、いこま乳児保育園をはじめ6園ありますが、公私ともに園児数は概ね横ばいで推移しています。

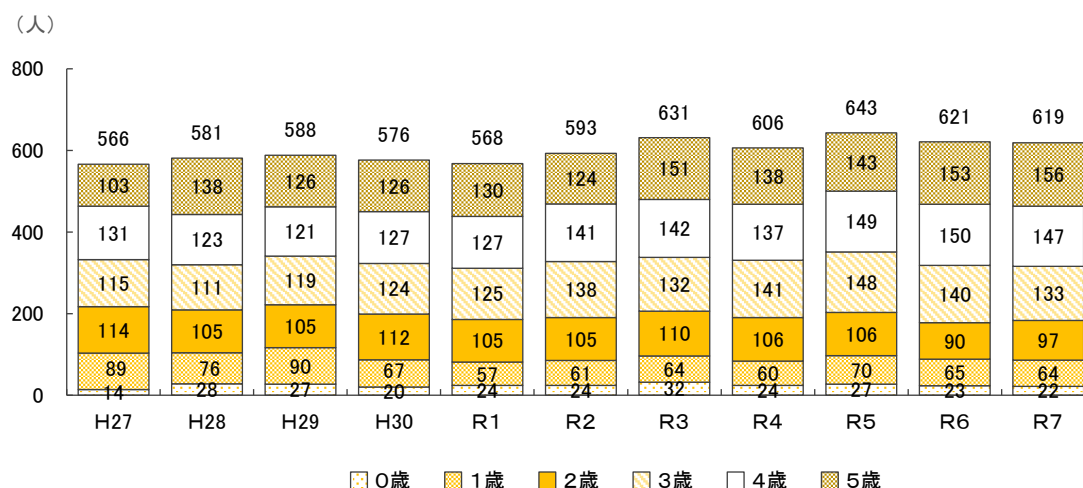


図 1-12 公立保育園の園児数の推移

※みなみ保育園（※南こども園 2～3号認定（保育園））、ひがし保育園、小平尾保育園、中保育園の合計値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

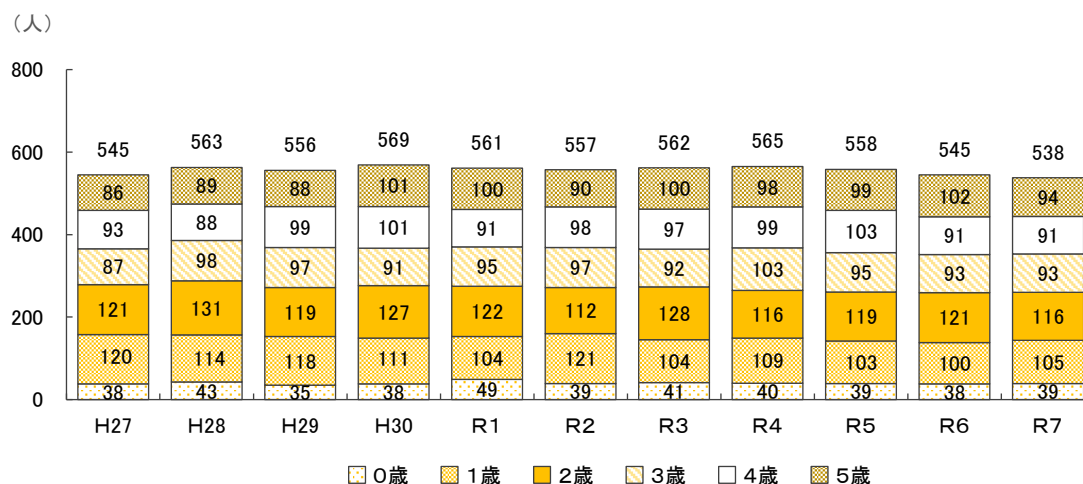


図 1-13 私立保育園の園児数の推移

※いこま乳児保育園、鹿ノ台佐保保育園、あすかの保育園、會津生駒保育園、学研まゆみ保育園、會津壱分保育園の合計値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

⁵ 満3歳以上のこどものうち、1号認定が保育を必要とせず、「教育を希望」する場合の認定区分であるのに対し、「保育を必要」とする場合は2号認定となる。3号認定は0～2歳までの「保育を必要」とする方の認定となる。

③ 認定こども園

公立の認定こども園は、認定こども園生駒幼稚園 1 園（※南こども園は南幼稚園とみなみ保育園とが施設を一体利用しているもので「認定こども園」ではないため、1 号幼稚園、2～3 号保育園に含む）であり、園児数は 150 名前後で概ね横ばいで推移しています。また、私立の認定こども園は、いこまこども園をはじめ 8 園がありますが、園児数は、1,100 人前後で概ね横ばいで推移しています。

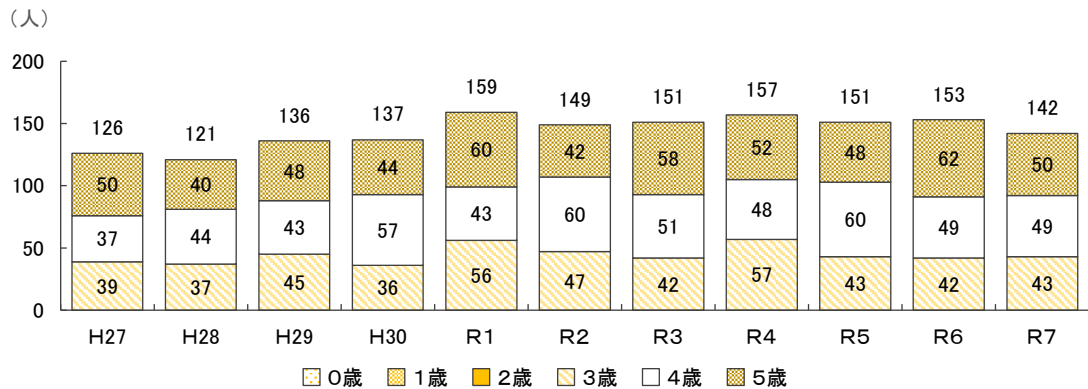


図 1-14 公立認定こども園（認定こども園生駒幼稚園）の園児数の推移

※認定こども園生駒幼稚園の値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

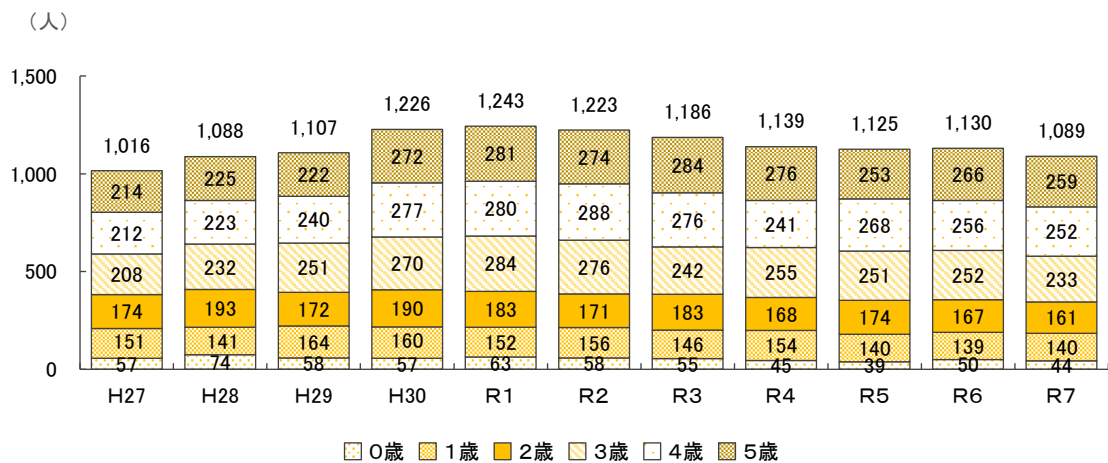


図 1-15 私立認定こども園の園児数の推移

※いこまこども園、たかやまこども園、生駒ピュアこども園、うみ保育園、ソフィア東生駒こども園（分園含む）、いちぶちどり保育園、もり保育園、はな保育園の合計値。

資料：生駒市調べ（各年度 5 月 1 日現在）

（４）公立幼稚園のあり方についてのこれまでの検討経緯

本市では、今後の公立幼稚園のあり方について、これまで様々な議論を行ってきました。以下に、これまでの検討経緯を整理します。

① 就学前教育・保育のあり方に関する基本方針（平成 30 年 3 月）（生駒市）

「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」は、教育大綱に基づき就学前教育・保育のあり方に関する今後の市の方向性について提示するものであり、その中のひとつとして、幼稚園ニーズの変化に対して、4 つの視点とその対応策が示されました。

課題認識：幼稚園ニーズの変化

◆幼稚園ニーズの減少 ◆適正な学級規模 ◆支援を要する園児への対応 ◆管理運営上の課題

対応策



◆幼稚園ニーズの減少

→保育的機能の付加（預かり保育の拡充、給食導入の検討、認定こども園への移行）

◆適正な学級規模

→5 歳児における 30 人学級編成の実施

◆支援を要する園児への対応

→相談体制の強化（特別支援研修会の実施、専門職員の派遣等）

◆管理運営上の課題

→余裕教室の活用（子育てサークル等への貸し出し、2 歳児保育の検討等）

→施設の複合化や統廃合の検討

② 今後の生駒市立幼稚園のあり方について（令和 2 年 2 月）

（生駒市学校教育のあり方検討委員会）

平成 30（2018）年の「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」に掲げられた取組について、その具体的な公立幼稚園の施設規模適正化に向けた進め方を示すものとして、教育委員会の諮問機関である生駒市学校教育のあり方検討委員会から令和 2（2020）年 2 月に「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」の答申が示されました。

取組の具体的進め方（案）

◆施設の規模適正化（案）

→なばた幼稚園と壱分幼稚園を統合、認定こども園化

→俵口幼稚園と生駒台幼稚園を統合、認定こども園化

◆その他の方策・方向性

→地域全体で地域の子どもを守り、育て、教育的な配慮を持って地域が関わる基盤づくり

→預かり保育の拡充（水曜日の実施、午後 5 時までの時間延長、長期休暇中の実施検討）

③ 生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方（令和 2 年 10 月）

（生駒市教育委員会）

生駒市学校教育のあり方検討委員会からの答申を受け、令和 2（2020）年 10 月に本市の就学前施設の望ましい規模と配置に関する課題に対して、市民と教育委員会が「協創」して取り組む指針である「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」（以下、「基本的な考え方」とする。）を策定しました。

生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方

※令和 2（2020）年 10 月時点のもの

公立幼稚園の再編について

- 令和 2（2020）年 2 月の答申を尊重。
- 園児にとってより良い保育環境を提供することを最重要課題と位置づけ、保護者や地域住民とともに協議を重ね検討
- 民間活力（民間への譲渡、公私連携幼保連携型認定こども園等）の導入も含めて検討
- 園児の通園の負担及び通園時の安全に関することも含めて検討
- 園と地域の繋がりに配慮した検討
- 跡地利用含め検討

④ 各地域協議会の開催と意見書の提出（令和 3 年 8 月）

令和 2（2020）年 10 月の「基本的な考え方」を踏まえ、幼稚園の再編の対象とされた、なばた幼稚園、壱分幼稚園、俵口幼稚園及び俵口幼稚園との再編の可能性がある生駒台幼稚園のそれぞれに保護者、地域住民、幼稚園や教育委員会から成る地域協議会を設置し、「基本的な考え方」をベースとした協議が行われ、各意見書が提出されました。

生駒台幼稚園

当協議会としては、生駒台幼稚園と俵口幼稚園の再編を決定する際には、俵口幼稚園の地域協議会からの意見をできる限り尊重していただきたいと考える。

その上で、生駒台幼稚園と俵口幼稚園を統合して、生駒台幼稚園をこども園とし、その際には、「協議会としての意見」を取り入れて進められたい。

壱分幼稚園

当協議会及び地域住民としては、市教育委員会の「基本的な考え方」をベースにして、現在、生駒市の行政課題となっている少子化に伴う就学前児童の減少、および保育ニーズへの需要の転換、これに伴う待機児童対策を考えると、なばた幼稚園と壱分幼稚園を統合して、一日も早く壱分幼稚園のこども園化を実現することを希望する。

また、時間がかかるのであれば再編を待たずに壱分幼稚園単独でのこども園化を進めることを求める。

なばた幼稚園

当協議会の総意として、原案に反対する。保護者・地域の代表としてなばた幼稚園の存続、または、なばた幼稚園でのこども園化を求める。

俵口幼稚園

当協議会としては、俵口幼稚園の存続を求める。しかしながら、将来的に少子化や就労家庭の増加から地域の保育ニーズに対応する必要があるれば、俵口幼稚園のこども園化についても具体的に検討されたい。

⑤ 生駒市立幼稚園の再編に係る方向性について（令和 3 年 11 月）（生駒市教育委員会）

以上の検討結果を踏まえ、令和 3（2021）年 11 月、生駒市教育委員会において、生駒市立幼稚園の再編に係る今後の方向性として、以下の内容が取りまとめられました。

生駒台幼稚園

こども園化するためには、駐車場の整備、増加する園児数に対応できる保育スペースの確保等が大きな課題として残ること、俵口幼稚園の地域協議会からの意見をできる限り尊重してほしいとの意向があること等に鑑み、当面は引き続き公立幼稚園として継続する。

今後、俵口幼稚園をはじめとする、市内や周辺地域の就学前教育・保育のニーズや児童数の変化等も注視し、前述した課題への対応を検討しながら、必要に応じてこども園化を見据えた検討を進めていくこととする。

壱分幼稚園

こども園化を行うに当たり、特に大きな課題も見受けられないことから、保護者のニーズに応え、こどもたちにより良い教育環境を整備するため、今後、単独でのこども園化と、保護者・地域との協働により、良い教育活動の検討を進めていくこととする。

なばた幼稚園

俵口幼稚園

公立幼稚園の運営や幼稚園を中心とした地域活性化の取組を、市教育委員会や園、地域や保護者等の関係者との協働により、さらに具体的に進めていくことを前提に、俵口幼稚園・なばた幼稚園を当面存続する。但し、集団性・協同性の育ち等のために、1 つの学年の園児数が 10 人以下、もしくは、全学年で学年当たりの園児数が 15 人以下となった時、子どもの成長を最優先に考え、当該園の再編に向けた対応を進めていくこととする。

（５）幼稚園、保育園等の現状を踏まえた課題

① 幼稚園

本市では、昭和 40 年代～平成初期にかけての急激な人口増加に対応すべく、教育・保育施設の充実に努め、入園希望者の全員を受け入れることができる態勢づくりを進めてきました。

特に、公立幼稚園では、当時まだ珍しかった通園バスを運行するとともに、平成 13（2001）年度以降、3 年保育の実施などにいち早く取り組んだほか、就労家庭の増加や保護者ニーズの多様化などに対応するため、平成 19（2007）年度から預かり保育を行うなど、保育機能の付加・拡充に努めてきました。

しかしながら、少子化や女性の社会進出・就業率の上昇など、社会環境が著しく変化する中、幼稚園の園児数は公私ともに減少してきています。また、公立幼稚園では昭和 40～50 年代にかけて建てられた園舎は築年数が 40 年を経過するなど、老朽化が進んでいます。さらに、園児数の減少により、学年あたりの園児数が 10 人未満の園があるなど、就学前教育に必要な集団性の確保が課題となっています。

② 保育園

保育園に関しては、少子化ではあるものの、核家族化や女性の社会進出、共働き世帯の増加などを背景に、保育ニーズが高止まりしており、現在も待機児童が発生している状況です。

特に、多くの園では保育士不足によって定員まで受け入れることができていないなど、保育人材の不足が課題です。

また、公立保育園では幼稚園と同じように築年数が 40 年を超える園舎があり、老朽化が進んでいます。

③ 認定こども園

就労家庭が増加し、各幼稚園の定員割れが急激に進む一方、保育園等への入園希望者が増加し、待機児童のうち 3 歳未満が 95%となっています（令和 7 年 4 月現在）。また、特に、多くの園では保育士不足によって定員まで受け入れることができていないなど、保育人材の不足も課題です。

また、多様化する教育・保育ニーズへの対応については、1 号・2 号認定児の両方を受け入れることが可能なこども園の拡充が必要であるため、設置に当たっては既存の幼稚園等のこども園化を進めていくことなどが考えられますが、保育士不足によって定員まで受け入れることができていない園もあり、保育人材をどう確保するかが課題です。

3 幼稚園、保育園等に対する利用者等意見（アンケート調査結果）

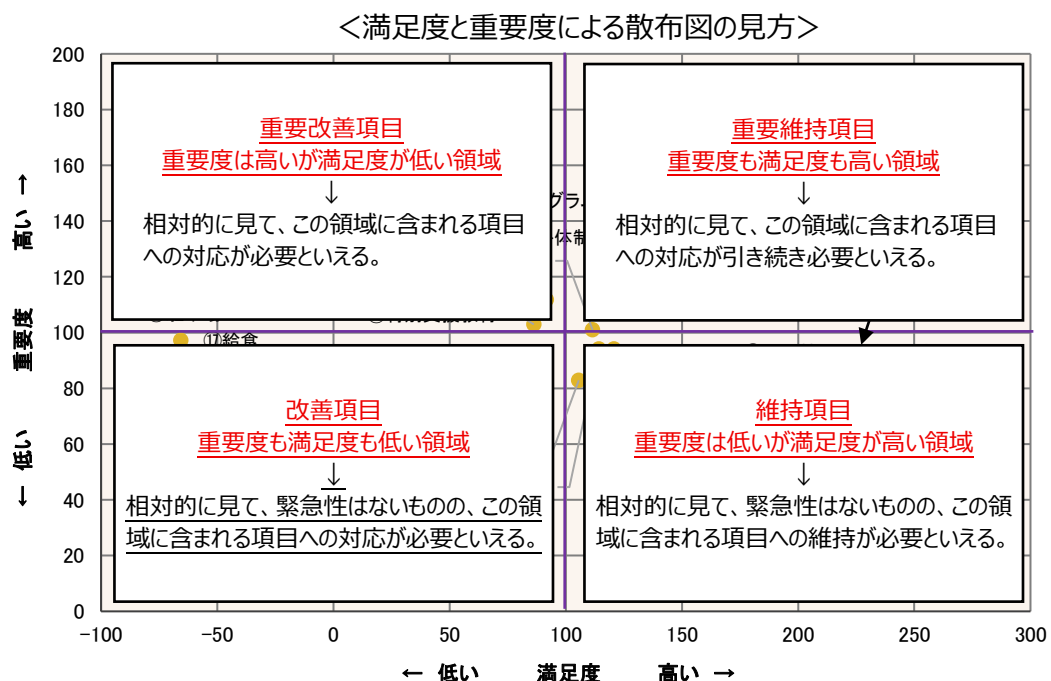
令和7（2025）年8月、今後の幼稚園や保育園のあり方を検討するための基礎資料とするため、①公立幼稚園に通う園児の保護者、②公立保育園に通う園児の保護者、③公立認定こども園に通う園児の保護者、④現在0～2歳のこどもがいる保護者（②を除く）を対象としたアンケート調査を実施しました。

表1-3 アンケート調査の種類と配布・回収数

対象	配布数	回収数	有効回答率
公立幼稚園（生駒幼稚園を除く）に通う園児の保護者	317	177	55.84%
公立保育園に通う園児の保護者	514	191	37.16%
公立認定こども園（生駒幼稚園）に通う園児の保護者	138	71	51.45%
0～2歳のこどもがいる市内在住の方（合計）	1,917		
うち、市内私立保育園に通う園児の保護者	776	792	41.31%
うち、通園していない園児を持つ保護者	1,141		

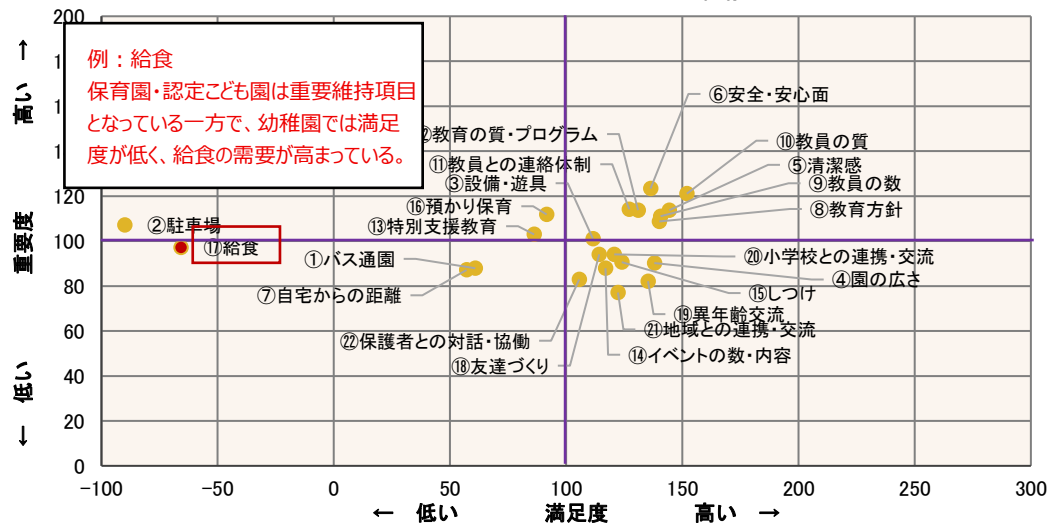
【各グラフの見方】

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問（※グラフ中（MA）と記載。）の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・選択肢が長い場合、本文や図中では省略した表現を用いることがあります。
- ・満足度と重要度を用いた散布図は、各項目の回答結果を5段階で点数化（満足/重要：2点、やや満足/やや重要：1点、普通：0点、やや不満/やや不要：-1点、不満/不要：-2点）したうえで、それらの和を当該項目の取得点数とし、全項目の平均点を軸として作成しています。そのため、各項目の評価は、全項目に対する相対評価として表されるものとなります。

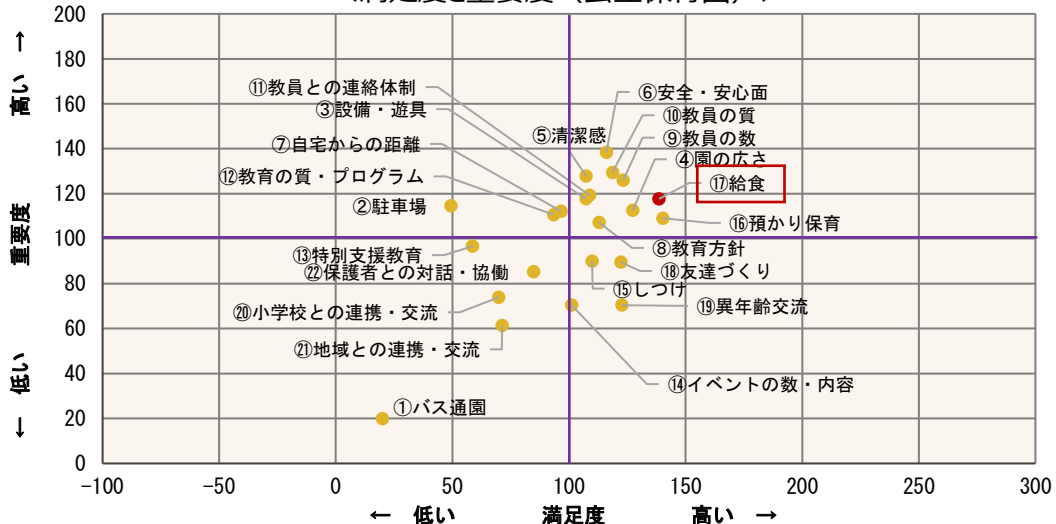


なお、散布図は幼稚園、保育園、認定こども園それぞれの違いを見る狙いがあります。参考例は以下のとおり。

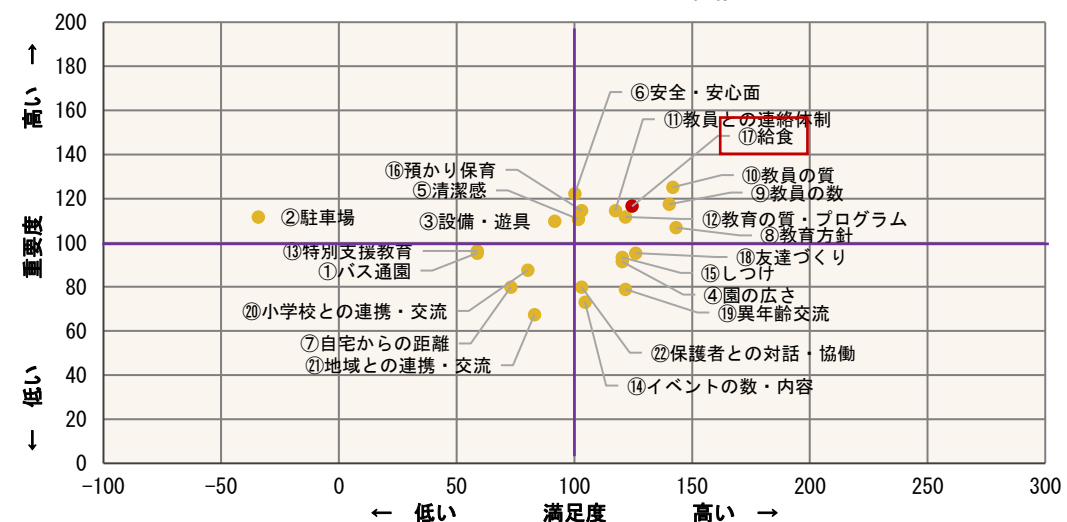
＜満足度と重要度（公立幼稚園）＞



＜満足度と重要度（公立保育園）＞



＜満足度と重要度（認定こども園）＞



(1) 公立幼稚園（生駒幼稚園を除く）に通う園児の保護者を対象とした結果概要

父親の 91.0%がフルタイムで就労しており、母親はフルタイムが 3.4%、パート・アルバイトが 32.2%、就労していないが 52.5%となっています。

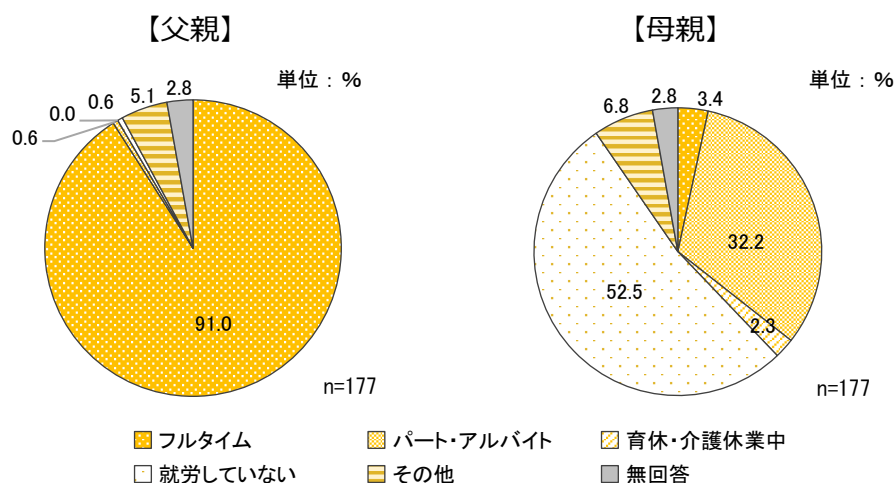


図 1 -16 親の就労状況

こどもの入園にあたり、公立幼稚園以外に見学・検討した施設では、「特になし」を除き、「私立幼稚園」の割合が高くなっています。また、公立幼稚園を選んだ理由として「自宅から近い」のほか、「小学校と連携している」と回答され方の割合が 42.9%となっています。

母親の就労状況や保育園やこども園への入園をあまり検討されていない現状を勘案すると、現在、幼稚園に通っている園児の家庭では、その多くが、もとより幼稚園への入園を前提に考えられており、一定の幼稚園需要が存在するものと考えられます。

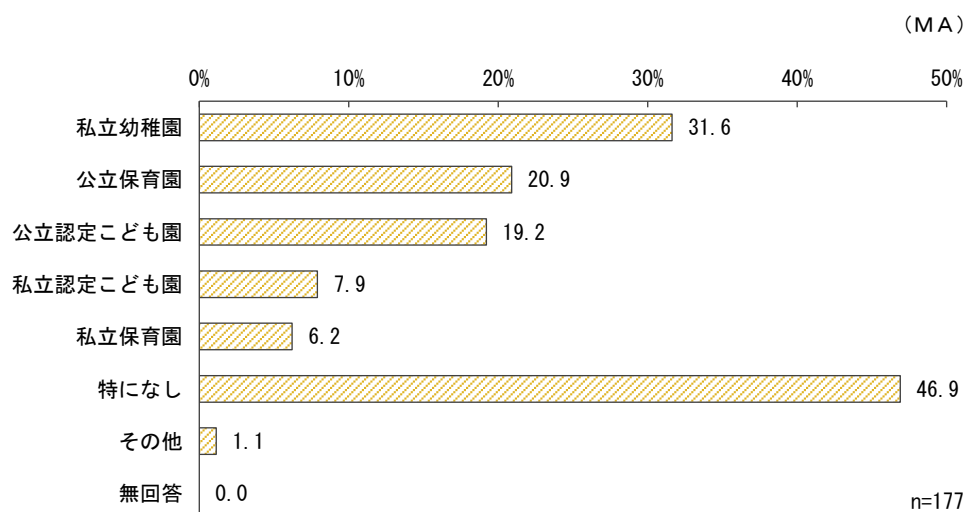


図 1 -17 入園にあたり、見学・検討した施設

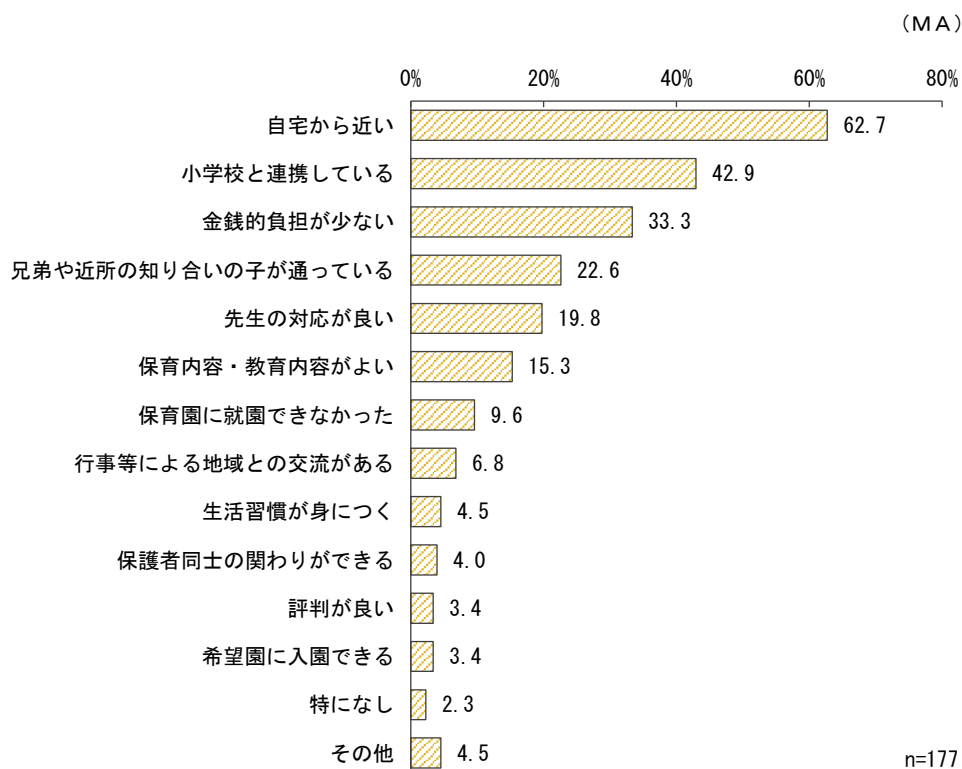


図 1 -18 公立幼稚園を選んだ理由

つぎに、公立幼稚園に求めるサービスや改善が必要と思うことでは、「駐車場」や「給食」といったキーワードが上位に挙げられています。また、現在の預かり保育に対しては、約 85%の方が利用している一方、利用料の負担軽減や長期休暇中での実施を求める声が多く挙げられています。

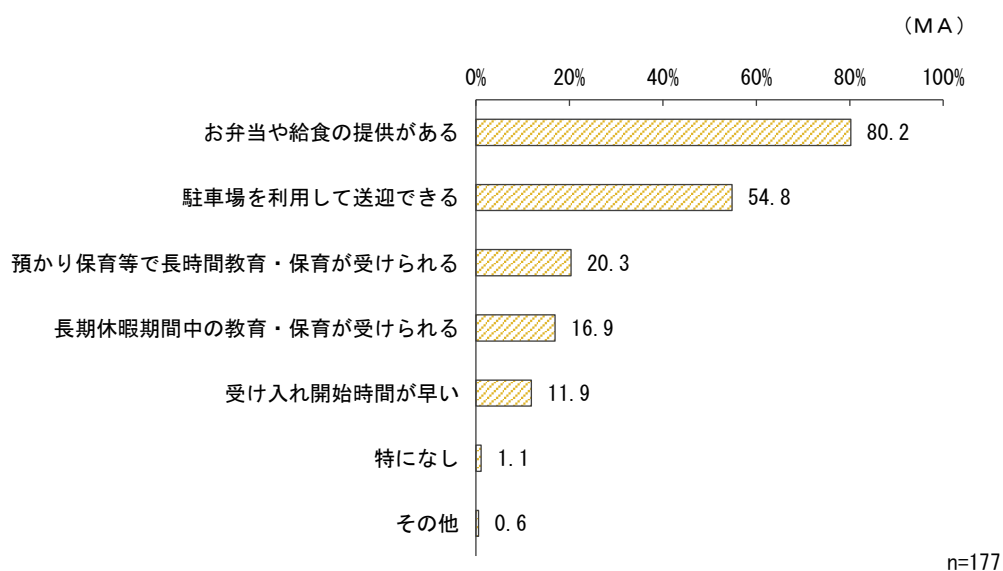


図 1 -19 公立幼稚園にあればいいと思うサービス

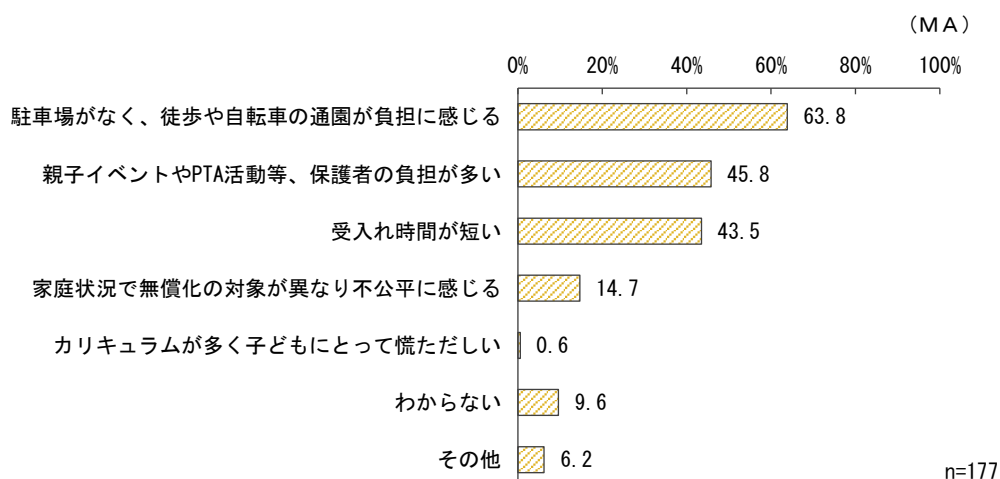


図 1-20 公立幼稚園に対して改善が必要と思うところ

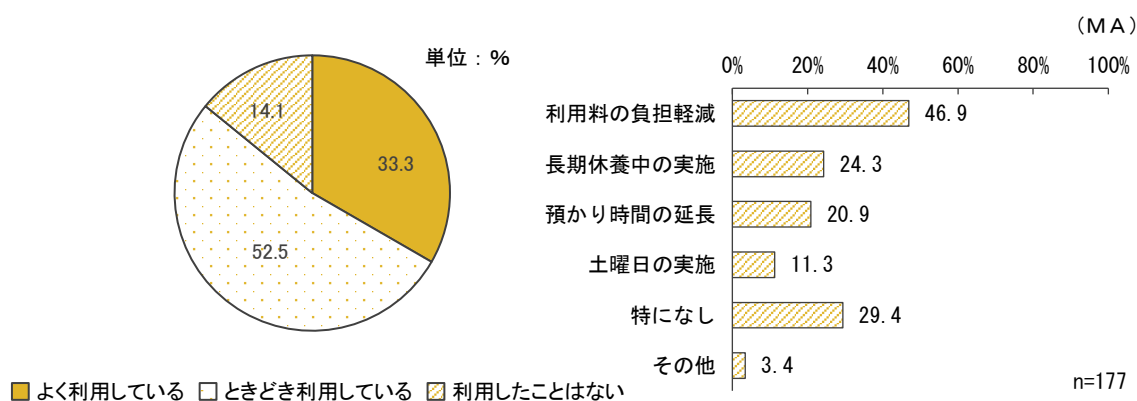


図 1-21 預かり保育の利用状況

図 1-22 預かり保育に対する要望

公立幼稚園のいいところについては、「参観や行事などを通して園での様子がよくわかる」、「適正な規模での教育・保育が受けられる」といったご意見が多く挙げられており、その他、約半数の方から、「地域との交流がある」といったご意見も挙げられています。

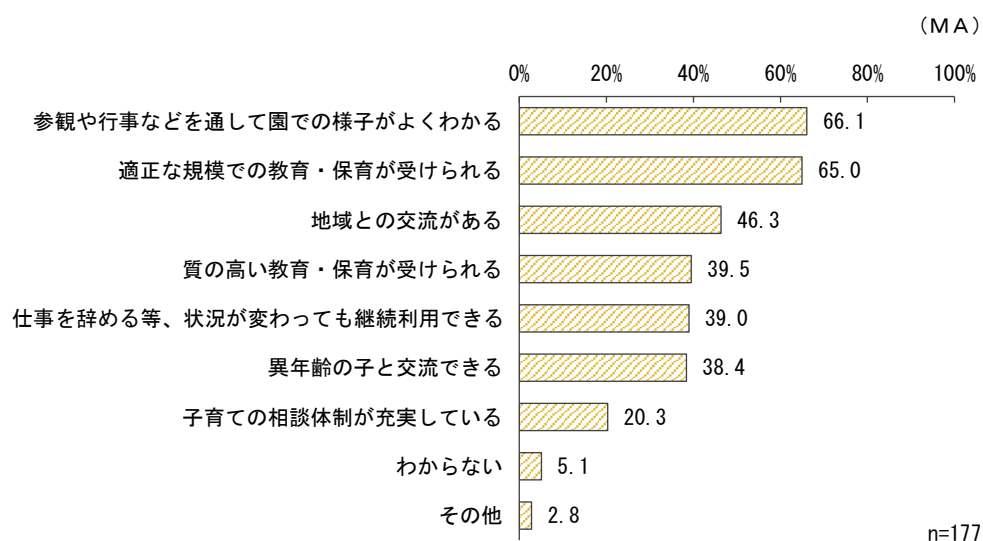


図 1-23 公立幼稚園のいいところ

また、公立幼稚園に関わるいくつかのキーワードに対して、満足度をお伺いしたところ、「教員の質」「安全・安心面」「教育の質・プログラム」「清潔感」「教育方針」で満足（「満足」+「やや満足」）が高くなっており、特に「教員の質」では約 90%の方が満足となっています。その一方、「駐車場」「給食」「自宅からの距離」「バス通園」「預かり保育」では不満（「不満」+「やや不満」）が高くなっており、特に「駐車場」では約 70%の方が不満となっています。

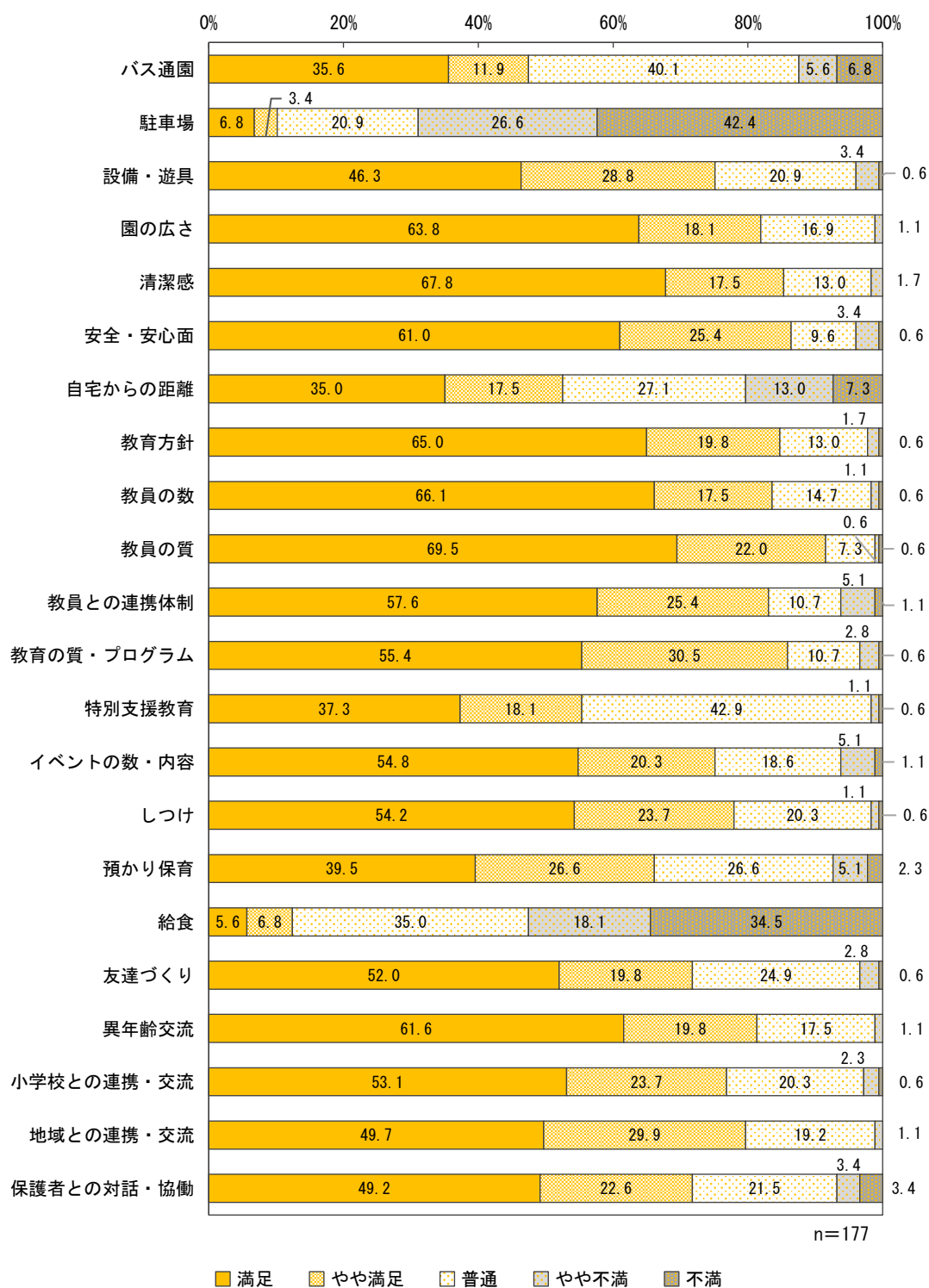


図 1-24 公立幼稚園の満足度

さらに、満足度と重要度の相関関係をみると、「駐車場」、「預かり保育」、「特別支援教育」の3項目については重要改善項目とされ、一方で、「安全・安心面」、「教員の質」、「教員との連絡体制」、「教育の質・プログラム」、「清潔感」、「教員の数」、「教育方針」、「設備・遊具」については、重要度・満足度ともに高く、重要維持項目となります。

その他、「給食」、「バス通園」「自宅からの距離」については、重要改善項目よりも優先順位は低いものの、満足度が低いことから、改善項目として位置付けられます。

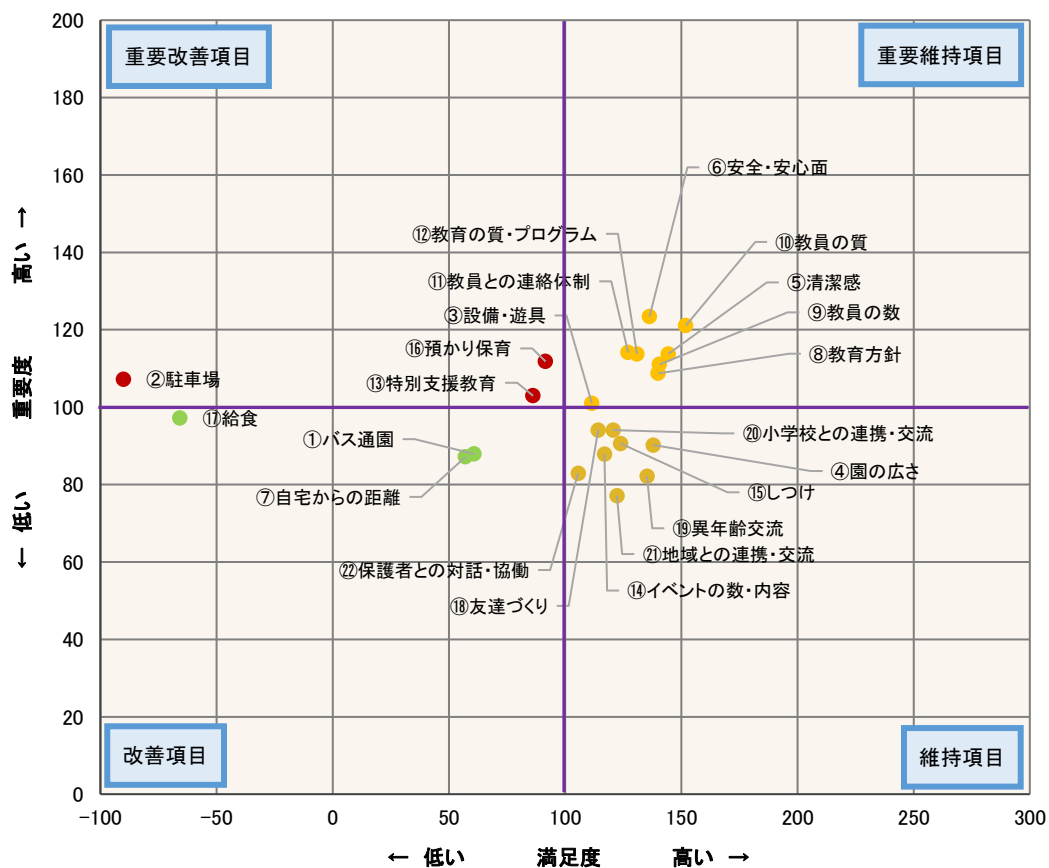


図 1-25 満足度と重要度（公立幼稚園）

(2) 公立保育園に通う園児の保護者を対象とした結果概要

続いて、公立保育園に通う園児の保護者へのアンケート調査結果をみると、父親の就労状況は公立幼稚園と同様、約 91.0%がフルタイムで就労しており、母親はフルタイムが 65.4%、パート・アルバイトが 17.3%と、高い水準となっています。

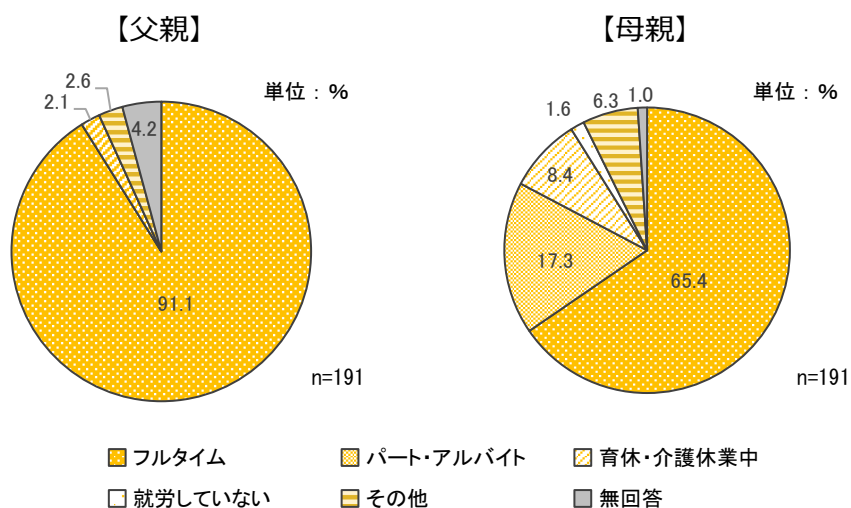


図 1 -26 親の就労状況

こどもの入園にあたり、公立保育園以外に見学・検討した施設では、「私立保育園」、「公立認定こども園」の割合が高く、幼稚園と回答された方の割合は低くなっています。

また、公立保育園を選んだ理由として「自宅から近い」の他、「給食の提供がある」と回答され方の割合が 34.0%となっています。

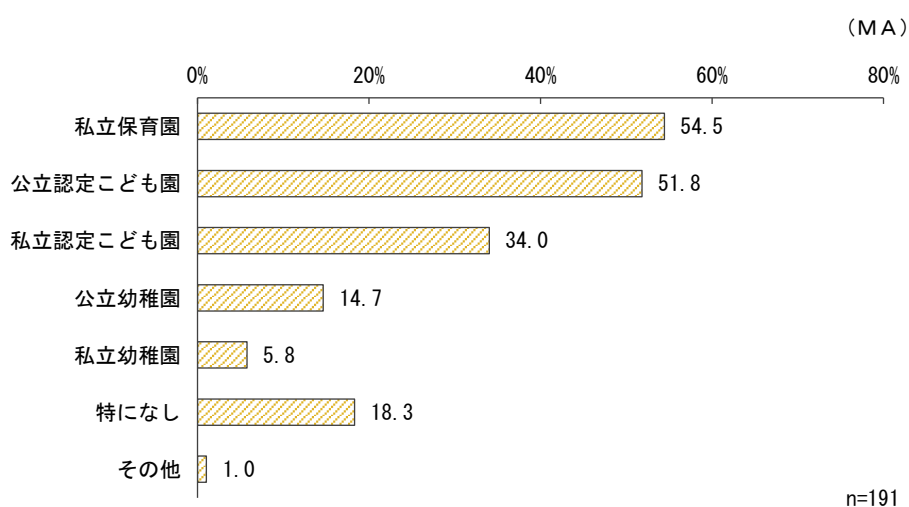


図 1 -27 入園にあたり、見学・検討した施設

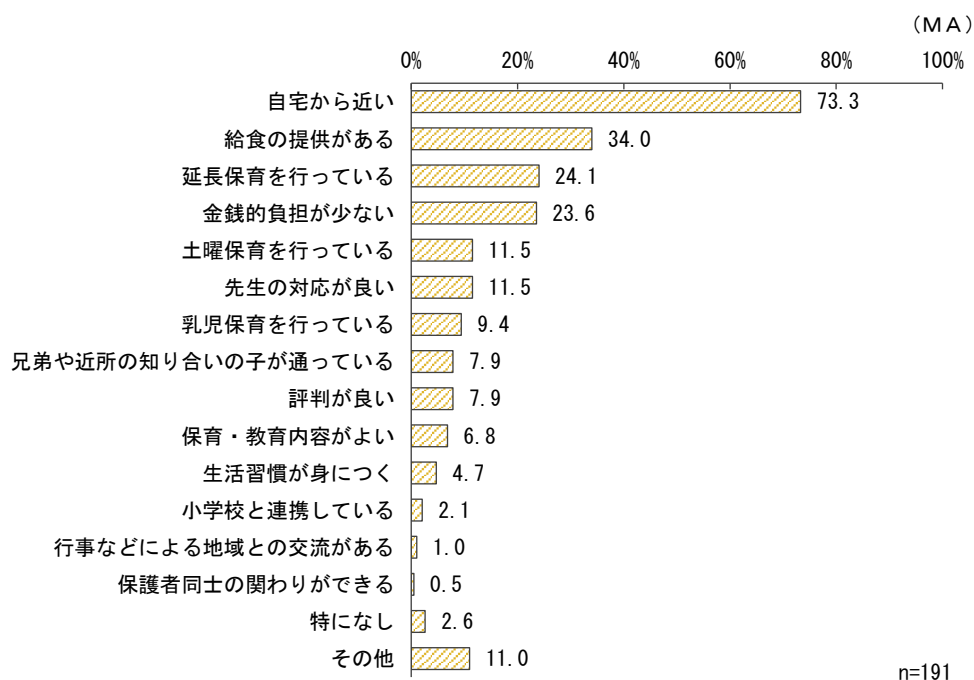


図 1-28 公立保育園を選んだ理由

つぎに、公立保育園に子どもが通っている保護者から見た、公立幼稚園を選ぶ理由では、「預かり保育等で長時間教育・保育が受けられる」、「お弁当や給食の提供がある」といった内容が上位に挙げられており、一方で、公立保育園のいいところでは「受け入れ時間が長い」といったご意見が多く挙げられています。

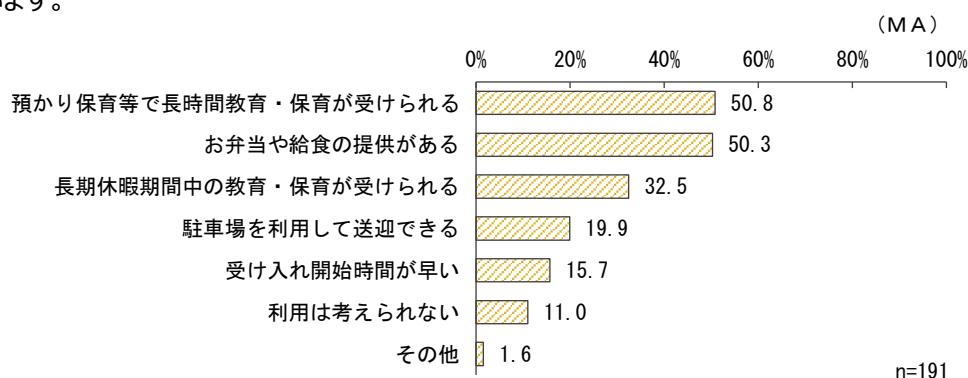


図 1-29 どのようなサービスがあれば公立幼稚園を選ぶか

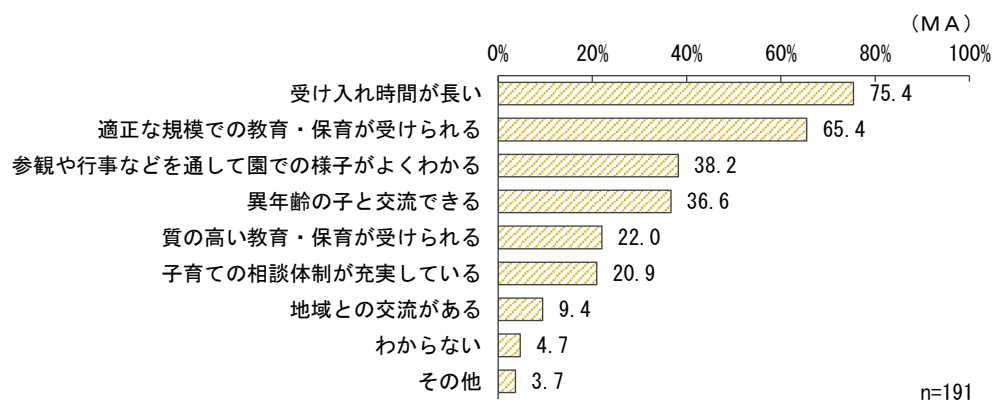


図 1-30 公立保育園のいいところ

また、公立保育園に関わるいくつかのキーワードに対して、満足度をお伺いしたところ、「保育時間」「給食」「安全・安心面」「教員の質」「教員の数」で満足（「満足」+「やや満足」）が高くなっており、特に「保育時間」と「給食」では約 80%の方が満足となっています。その一方、「駐車場」「自宅からの距離」「バス通園」「園の広さ」「清潔感」で不満（「不満」+「やや不満」）が多くなっており、特に「駐車場」では約 25%の方が不満となっています。

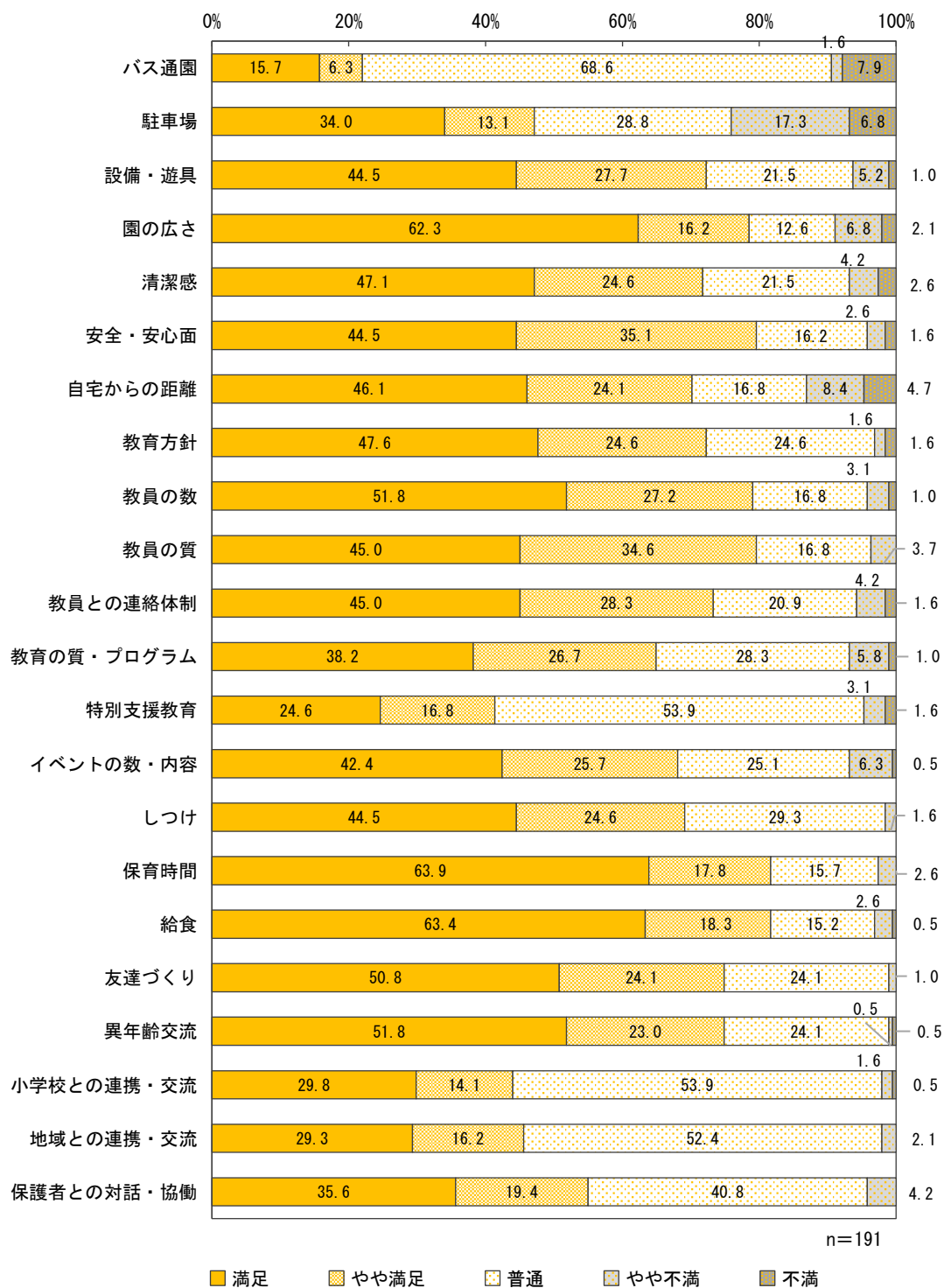


図 1-31 公立保育園の満足度

さらに、図 1 -32 に示した満足度と重要度の相関関係をみると、「駐車場」、「自宅からの距離」、「教育の質・プログラム」、については重要改善項目とされ、一方で、「安全・安心面」、「教員の質」、「教員の数」、「給食」、「保育時間」など 10 項目については、重要度・満足度ともに高く、重要維持項目となります。

その他、「小学校との連携・交流」、「地域との連携・交流」、「バス通園」、「特別支援教育」、「保護者との対話・協働」については、重要改善項目よりも優先順位は低いものの、満足が低いことから、改善項目として位置付けられます。

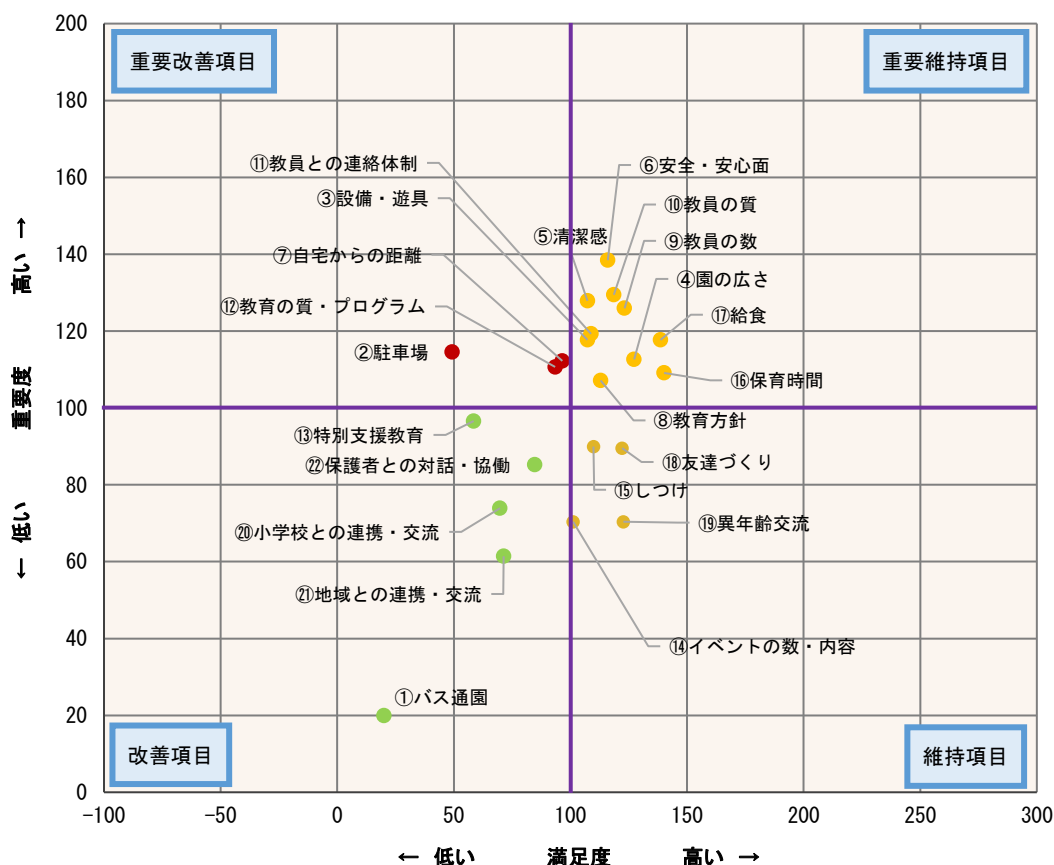


図 1 -32 満足度と重要度 (公立保育園)

（３）公立認定こども園（生駒幼稚園）に通う園児の保護者を対象とした結果概要

公立認定こども園（生駒幼稚園）に通う園児の保護者へのアンケート調査結果をみると、父親の就労状況は公立幼稚園や保育園と同様、90%以上の方がフルタイムで就労しており、母親はフルタイムが19.7%、パート・アルバイトが25.4%となっています。

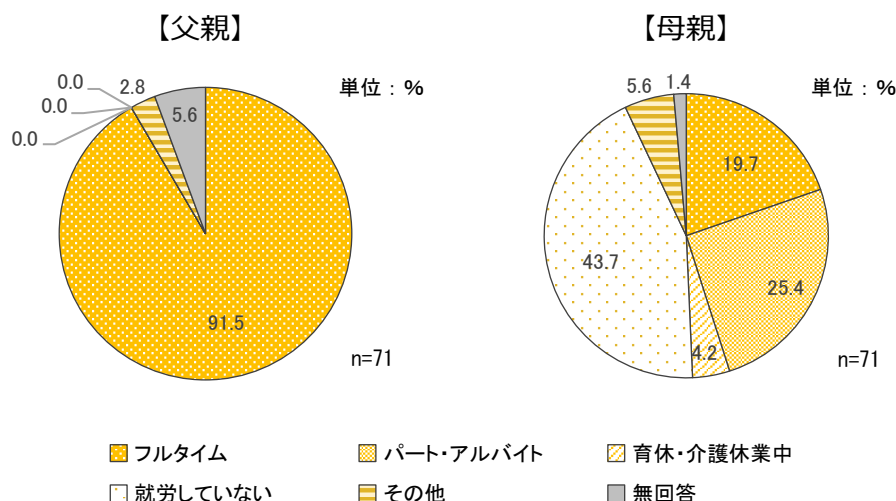


図 1-33 親の就労状況

また、公立認定こども園（生駒幼稚園）を選んだ理由では、公立保育園と同様、「自宅から近い」のほか、「給食の提供がある」と回答され方の割合が高くなっています。

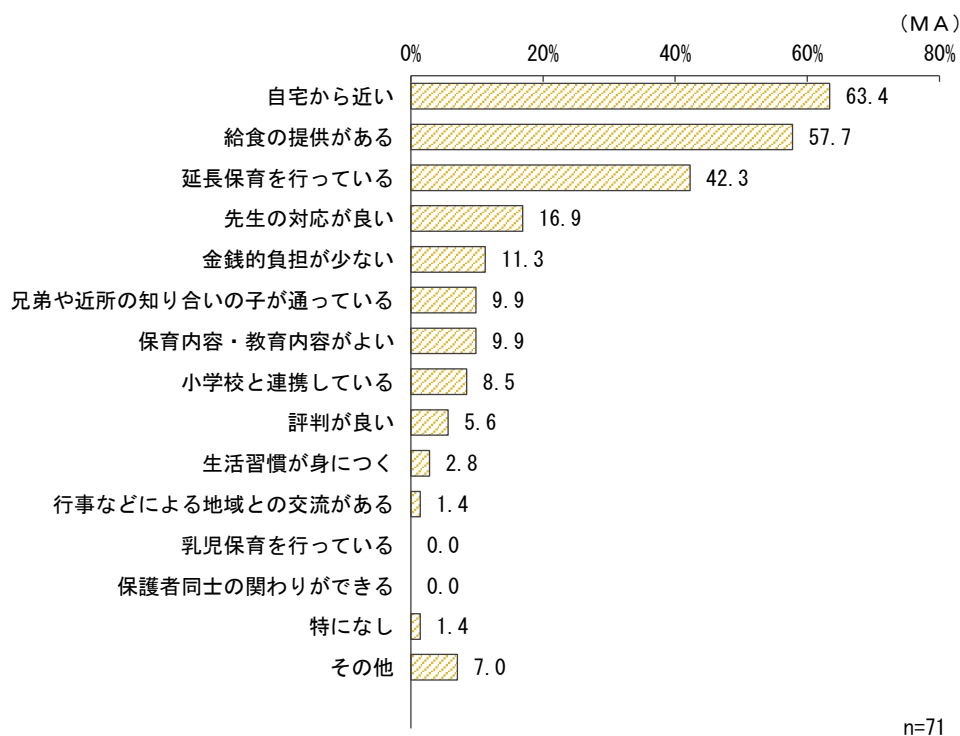


図 1-34 公立認定こども園（生駒幼稚園）を選んだ理由

つぎに、公立認定こども園（生駒幼稚園）にこどもが通っている保護者から見た、公立幼稚園を選ぶ理由では、公立保育園同様、「お弁当や給食の提供がある」、「預かり保育等で長時間教育・保育が受けられる」、といった内容が上位に挙げられており、一方で、公立認定こども園（生駒幼稚園）のいいところでは「給食がある」といったご意見が多く挙げられています。

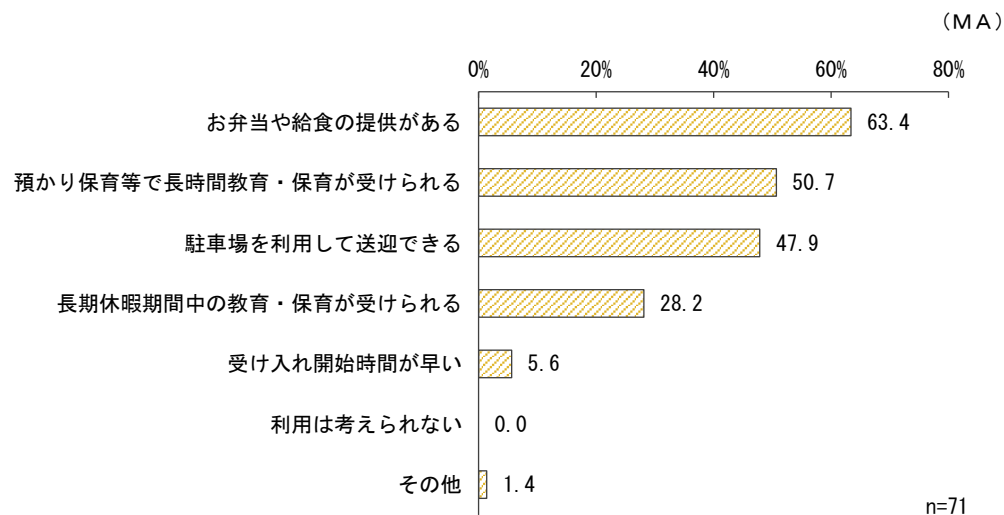


図 1 -35 どのようなサービスがあれば公立幼稚園を選ぶか

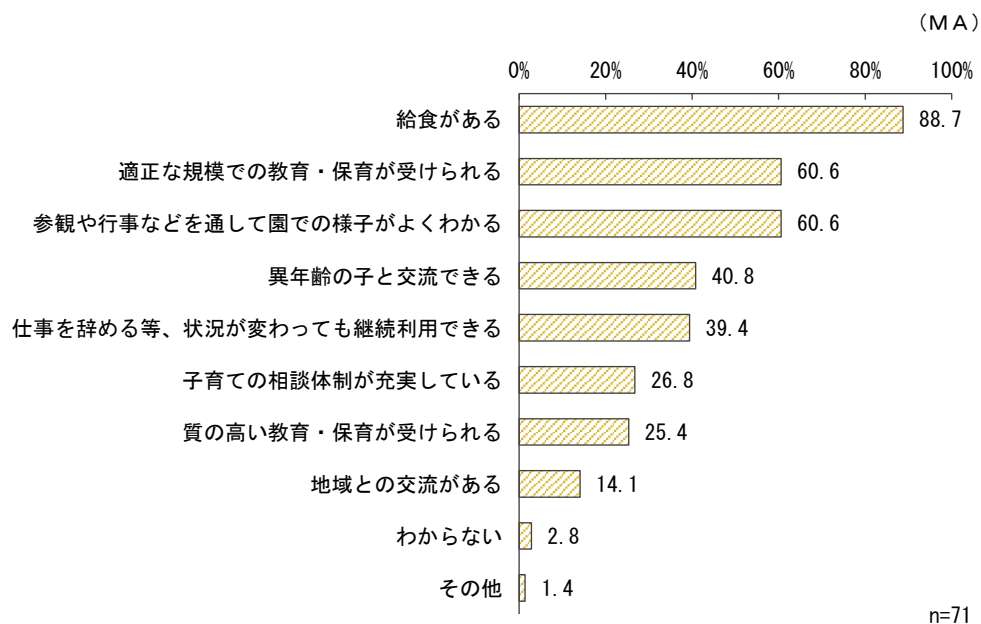


図 1 -36 公立認定こども園（生駒幼稚園）のいいところ

また、公立認定こども園（生駒幼稚園）に関わるいくつかのキーワードに対して、満足度をお伺いしたところ、「教員の質」「教育方針」「教員の数」「教育の質・プログラム」「異年齢交流」で満足（「満足」+「やや満足」）が高くなっており、特に「教員の質」では約 90%の方が満足となっています。その一方、「駐車場」「自宅からの距離」「バス通園」「清潔感」「預かり保育」で不満（「不満」+「やや不満」）が多くなっており、特に「駐車場」は約 46%の方が不満となっています。

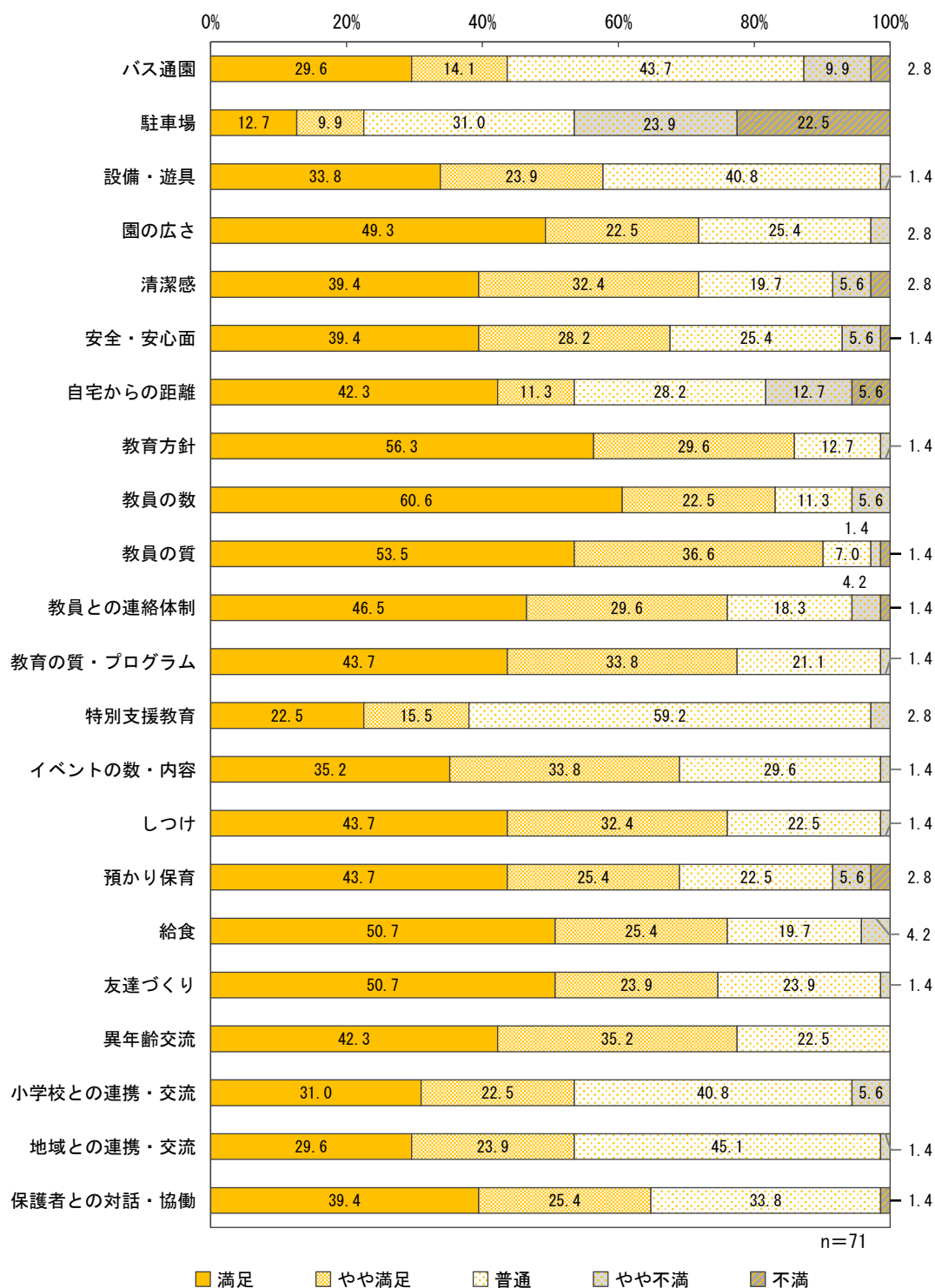


図 1-37 公立認定こども園（生駒幼稚園）の満足度

さらに、図 1 -38 に示した満足度と重要度の相関関係をみると、「駐車場」、「設備・遊具」については重要改善項目とされ、一方で、「教員の質」、「給食」、「教員との連絡体制」、「教育の質・プログラム」、「清潔感」、「教員の数」、「教育方針」、「安全・安心面」、「預かり保育」については、重要度・満足度ともに高く、重要維持項目となります。

その他、「特別支援教育」、「バス通園」など 5 項目については、重要改善項目よりも優先順位は低いものの、満足度が低いことから、改善項目として位置付けられます。

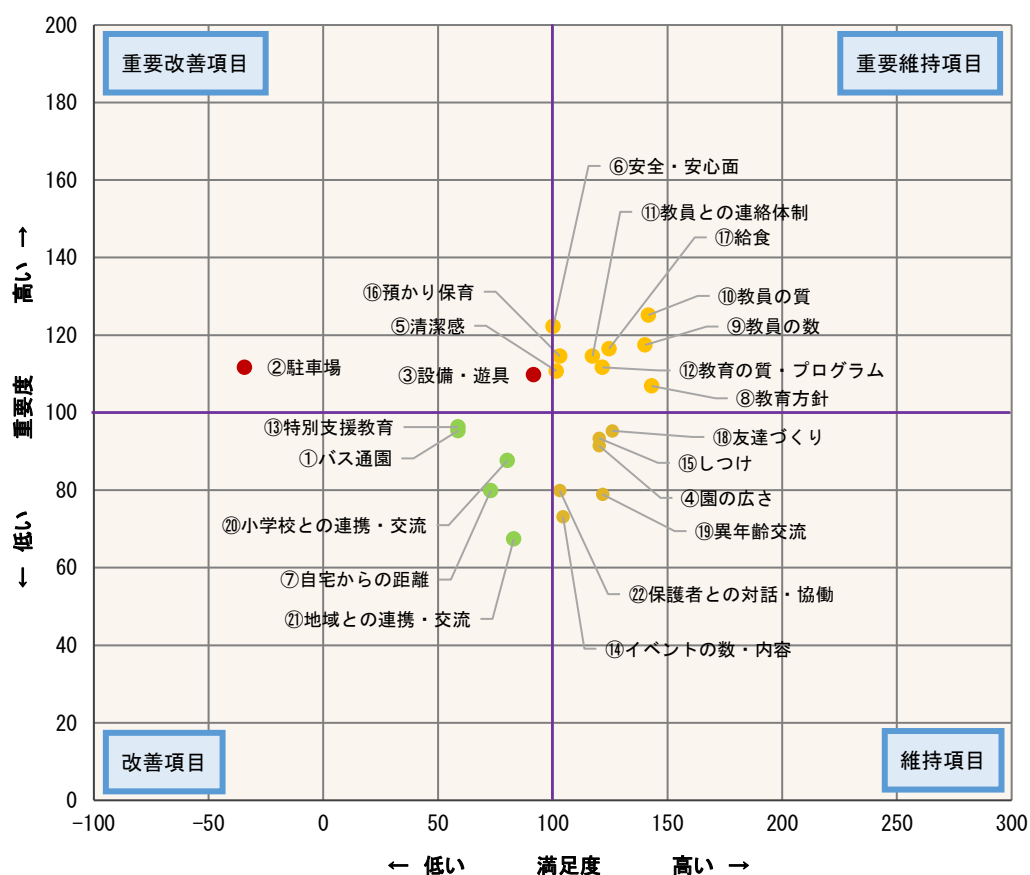


図 1 -38 満足度と重要度（公立認定こども園）

(4) 0～2歳の子どもがいる市内在住の方を対象とした結果概要

0～2歳の子どもがいる市内在住の方へのアンケート調査結果をみると、父親の就労状況は園に通っている子どもがいる家庭と同様、90%以上がフルタイムで就労しており、母親はフルタイムが28.7%、パート・アルバイトが9.8%、育休・介護休業中が28.4%となっています。

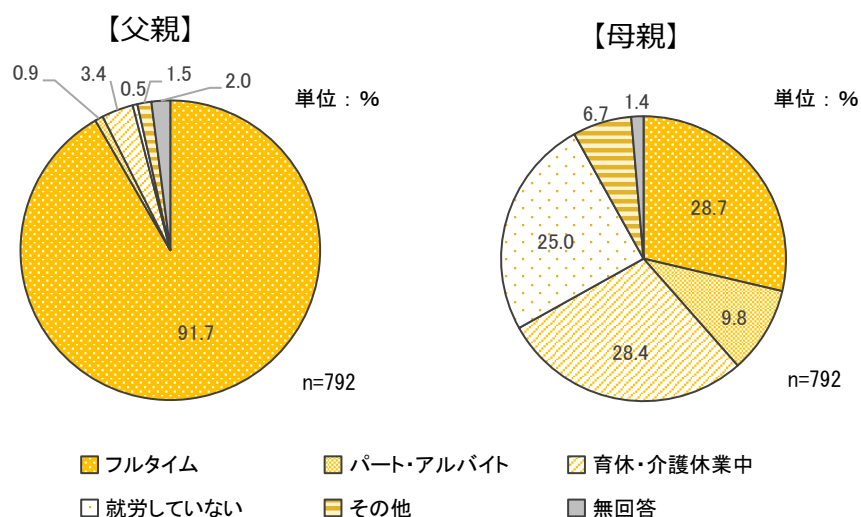


図 1-39 親の就労状況

今後、こどもの入園を検討している施設では、「公立認定こども園」が最も多く、次いで「公立保育園」の割合が高くなっており、幼稚園の入園を検討されている方は20%台と低い水準となっています。

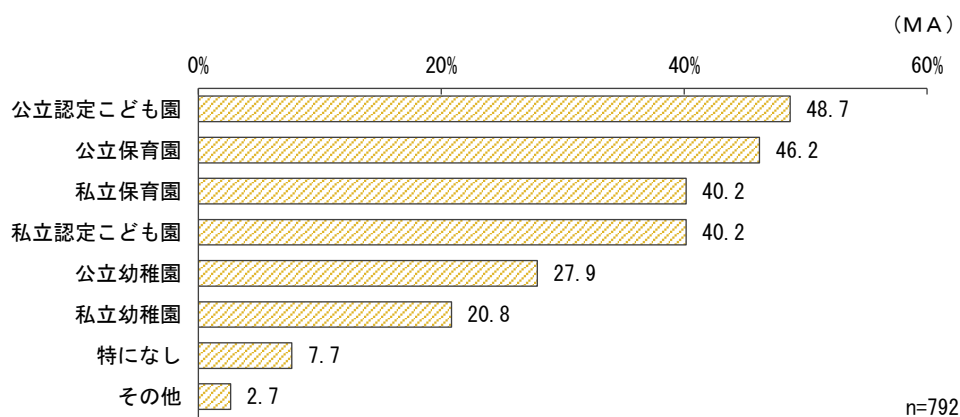


図 1-40 検討している施設

また、保育園や幼稚園の入園等を検討するにあたり重要視することでは、「安全・安心面」、「清潔感」、「教員の質」がそれぞれ 80%を超えています。また、重要度（「重要」+「やや重要」）では上記 3 項目のほかに、「自宅からの距離」「教員との連携体制」「教員の数」「設備・遊具」「給食」が 90%を超えています。

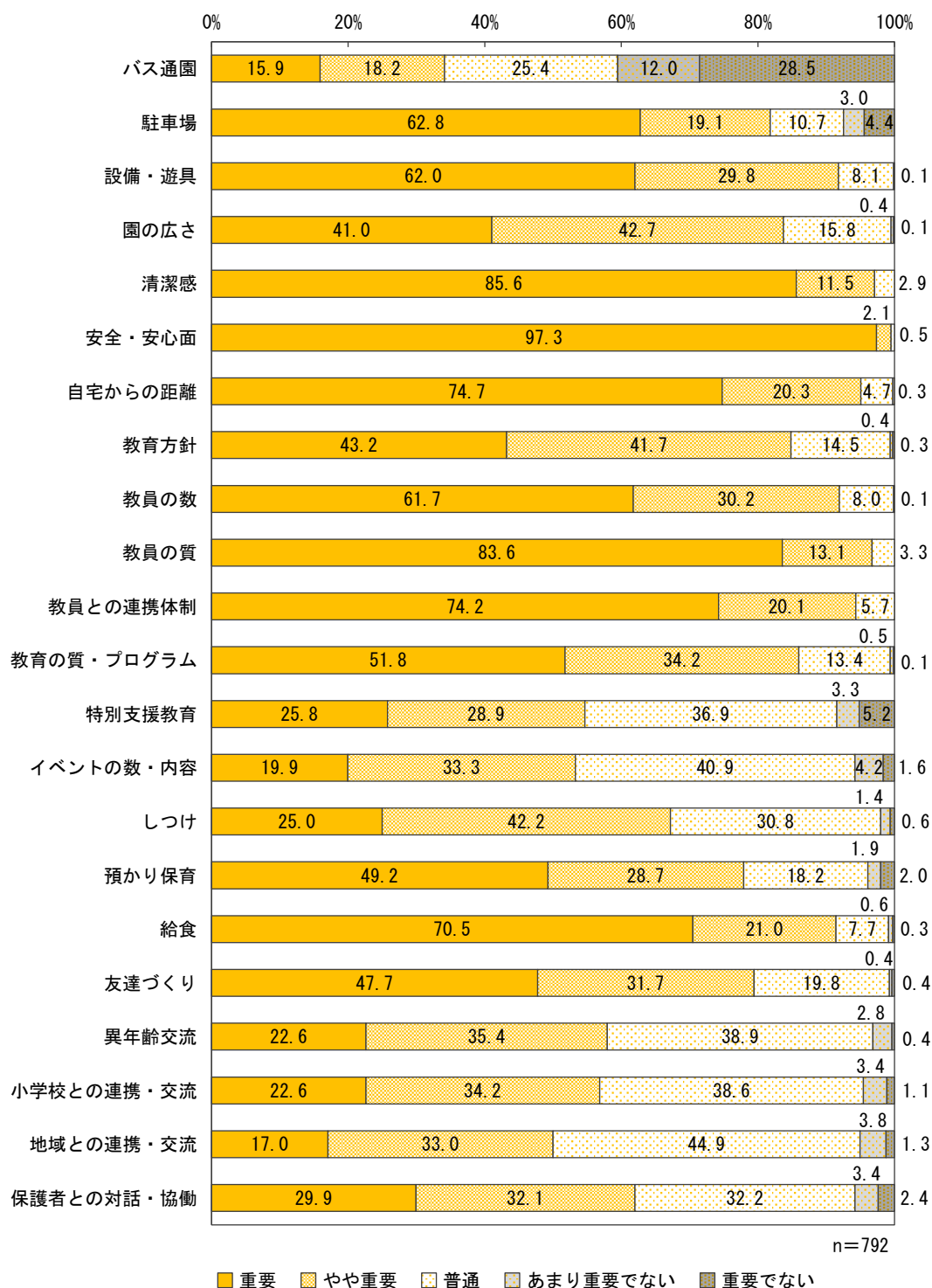


図 1 -41 入園等を検討する際に重要視すること

その他、幼稚園の利用にあたっての希望では、「預かり保育等で長時間教育・保育が受けられる」ことや「お弁当や給食の提供がある」ことが上位に挙げられています。

なお、公立幼稚園が現在取り組んでいる「預かり保育」や「小学校との接続事業」等に対する認知度は、それぞれ3～4割程度となっています。

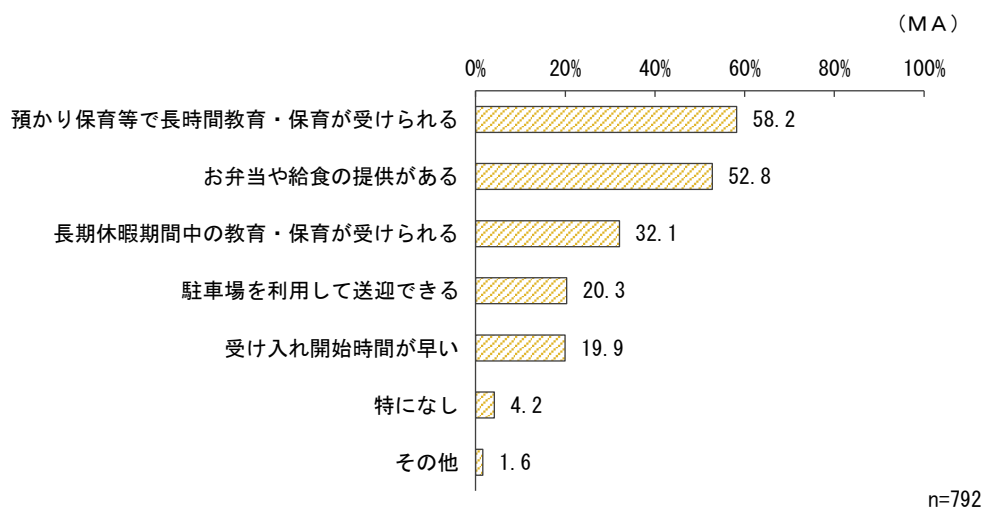


図 1 -42 どのようなサービスがあれば幼稚園を利用したいか

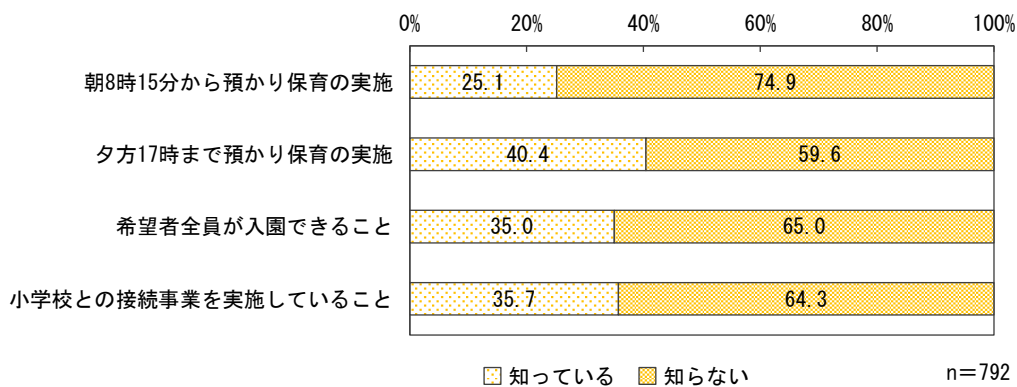


図 1 -43 公立幼稚園の各取組に対する認知度

(5) アンケート調査結果のまとめ

① 公立幼稚園（生駒幼稚園を除く）に通う園児の保護者

- ・ 公立保育園や公立認定こども園に通う保護者に比べて、親の就労割合が低く、また、保育園、こども園を見学・検討した割合が低いことから、幼稚園への入園を前提とされており、一定の幼稚園需要が存在することが分かります。
- ・ 公立幼稚園を選んだ理由の第1位として、「自宅から近い」が挙げられています。
- ・ 公立幼稚園にあればいいと思うサービスでは「お弁当や給食の提供」が最も多く、次いで「駐車場を利用して送迎できる」となっています。また、改善が必要と思うところでも「駐車場がない」が最も多くなっています。
- ・ 重要度と満足度では、「教育方針」や「教員の質」では重要度・満足度ともに高く、一定の評価をいただいています。
- ・ 「駐車場」、「給食」に関しては満足度が低くなっています。

② 公立保育園に通う園児の保護者

- ・ 就労している割合が高く、公立保育園のいいところでも「適正な規模での教育・保育が受けられる」よりも「受け入れ時間が長い」が高く、最も回答が多くなっているほか、どのようなサービスがあれば公立幼稚園を選ぶか、という質問に対しても「預かり保育等で長時間教育・保育が受けられる」が第1位と、長時間の保育の必要性が高いことが伺えます。
- ・ 公立保育園を選んだ理由の第1位として、「自宅から近い」が挙げられています。
- ・ 公立保育園を選んだ理由、どのようなサービスがあれば公立幼稚園を選ぶか、のどちらも「（お弁当や）給食の提供がある」が2番目に多くっており、「食事の提供」というニーズが高いことが伺えます。
- ・ 重要度と満足度では、「教育方針」や「教員の質」など、教育の本質に関わる内容のほか、「給食」や「保育時間」でも重要度・満足度がともに高く、一定の評価をいただいています。

③ 公立認定こども園（生駒幼稚園）に通う園児の保護者

- ・ 公立認定こども園を選んだ理由の第1位として、「自宅から近い」が挙げられています。
- ・ 公立認定こども園を選んだ理由の第2位、どのようなサービスがあれば公立幼稚園を選ぶかの第1位、認定こども園（生駒幼稚園）のいいところの第1位がともに「（お弁当や）給食の提供がある」となっており、「食事の提供」のニーズが高いことが伺えます。
- ・ 重要度と満足度では、「教育方針」や「教員の質」など、教育の本質に関わる内容のほか、「給食」や「預かり保育」でも重要度・満足度がともに高く、一定の評価をいただいています。

④ 0～2歳の子どもがいる市内在住の方

- ・ 今後こどもの入園を検討している施設では「公立認定こども園」が最も多く、次いで「公立保育

園」、「私立保育園」、「私立認定こども園」と続きます。

- ・ 入園等を検討する際に重要視することでは「安全・安心面」、「清潔感」、「教員の質」となっています。
- ・ どのようなサービスがあれば幼稚園を利用したいかという質問には、「預かり保育等で長時間教育・保育が受けられる」、「お弁当や給食の提供がある」が多くなっており、長時間の預かりや食事の提供に対するニーズが高いことが伺えます。
- ・ 公立幼稚園の各取組に対する認知度は 50%以上が「知らない」と回答しており、朝 8 時 15 分からの預かり保育については 74.9%が知らないと回答しています。

新しいサービスほど認知度が低いことから、引き続き、取組について発信していく必要があります。

⑤ 調査結果（全体）のまとめ

- ・ 公立幼稚園、公立保育園、公立認定こども園（以下、公立園という）に通う園児の保護者の重要度は、「安全・安心面」、「教員の質」などの項目が高くなっており、特に「教員の質」、「教員の数」などは満足度も高くなっています。
- ・ 駐車場に対するニーズが高く出ています。
- ・ 公立幼稚園の保護者が「園にあれば良いと思うサービス」では、お弁当や給食の提供に対するニーズが高く出ています。
- ・ 公立園に通う園児の保護者が通っている園を、選んだ理由の第 1 位は「自宅から近い」で共通しています。

4 今後の人口、教育・保育ニーズの予測について

就学前教育・保育に関しては、少子高齢化、核家族化、共働き世帯の増加、就労形態の多様化など、取り巻く環境が大きく変化してきています。また、就学前人口の減少と共働き世帯の増加により、保育園ニーズが高止まりしている一方、幼稚園ニーズが減少しています。今回、基本方針を策定するにあたり、令和8（2026）年以降のニーズ量を図るため、改めて人口動態から推計を行いました。

【人口動態】

平成27（2015）年から令和7（2025）年までの各通園区域の0歳から5歳の人口実数から、令和8（2026）年から令和17（2035）年までの推計を行いました。また、各通園区域の合計を本市全体の数（就学前児童数）としています。

なお、本基本方針における本市の今後の就学前児童数の推計については下記のとおりです。

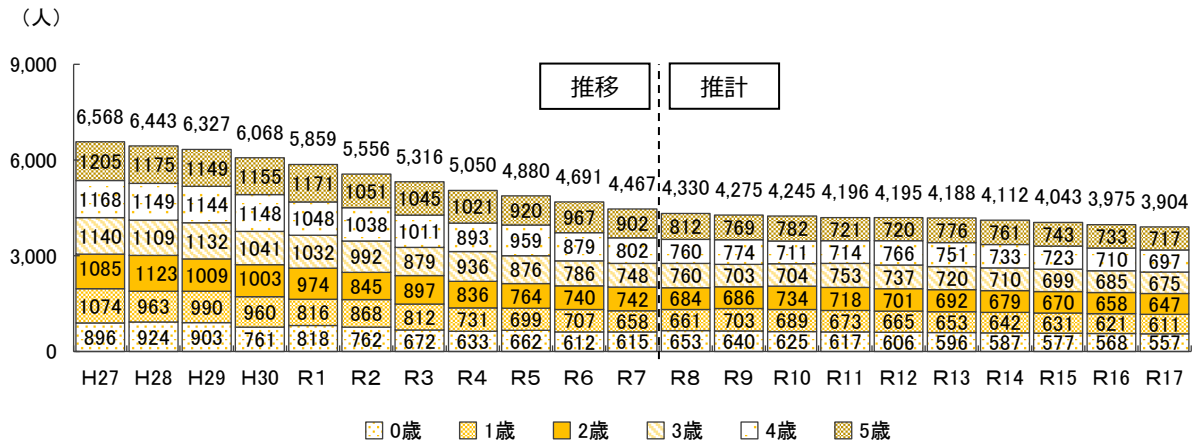


図1-44 就学前児童の人口動態（推移・推計）

資料 （推移）住民基本台帳各年5月1日 （推計）通園区域別コーホート変化率法⁶による推計値の積み上げ

【幼稚園の利用見込み】

幼稚園の利用率は、「対象年齢通園児/幼稚園通園区域の該当年齢児童数」で算出し、利用数は、人口推計に利用率を乗じて算出しています。

なお、利用率については、過去からの変動のみをもって推計の根拠とした場合、年数が経過するほどに低下し、ゼロになった以降は上昇することがないため、算出にあたり、次の2つの方法を用いています。

- ①令和7（2025）年度の利用率を今後の利用率とする方法（令和7（2025）年度の利用率が将来も変動しないとして）
- ②過去5年間の利用率を基に推計する方法
ベースとなる3歳児に利用率を用いて算出し、3歳から4歳、4歳から5歳については、年度ごとの変化率を基にして算出しています。

⁶ コーホート変化率法とは、一定期間における人口の変化率に着目し、その変化率が将来にわたって維持されるものと仮定して、将来人口を算出する方法。

5 本市の幼稚園再編の考え方

今後、適正なサービスを提供していくためには、これまでの本市の現状と課題、保護者ニーズ、将来人口推計を基に、幼稚園のあり方を改めて考える必要があります。

なお、本基本方針における「再編」とは、統合、認定こども園化、閉園等をさします。

子どもたちの学びや育ちにつながる環境づくりを第一に、時代の変化やニーズに応じた教育行政を推進するため、本市における幼稚園の再編に向けた考え方を、以下のとおり整理します。

1. 望ましい集団規模の確保

就学前教育の場では、適切な集団をつくり、子どもたちの成長（集団性・協同性の育ち）を促し、活動を広げ、生活・遊びの流れを作ることができると考えられます。

そのため、令和3年に決定した「生駒市立幼稚園の再編に係る方向性について」において定めた「1つの学年の園児数が10人以下、もしくは、全学年で学年当たりの園児数が15人以下」(以下「再編に係る方向性の基準」という。)となった時、子どもの成長を優先に考え、再編を進めていくこととします。

なお、再編を行う場合でも、引き続き、在籍している園児が安心して過ごせる環境を整えるとともに、園児の学びや育ちにつながる環境の確保を目的として、園児数の確保に努めるなどの対応を行います。また、園が地域とともに子育てをする場であることに配慮しつつ、地域とのつながりが継続されるよう努めていきます。

2. 増加する保育ニーズへの対応

今後も、就労家庭の増加により保育ニーズが増加することが予想されることから、今後の需要予測も鑑みながらこども園化を進めることで、そのニーズに対応していきます。

3. 多様化する保護者ニーズへの対応

保育ニーズが増加する一方で、調査結果からは、幼稚園に対するニーズが一定存在していることがわかります。このことから、これまで本市が培ってきた「保幼小接続事業」や「就学前教育」をさらに発展させていきます。

なお、今回の調査結果では、「食事の提供」「駐車場」「長時間保育」など、従来の幼稚園にはなかったサービスに対するニーズが多く、保護者ニーズが多様化していることがわかります。

保護者ニーズの多様化は、共働き世帯の増加が要因と考えられるため、幼稚園に対するニーズが一定あっても、保育園を選択するケースが多いと推測されます。

よって、保護者が、就労状況に応じて幼稚園を選択することができるよう、多様化する保護者ニーズへの検討を進めていきます。

第 2 章

公立幼稚園のこれから【個別基本方針】

例 各基本方針の見方について

本章では、前章の考え方を踏まえ、各公立幼稚園（あすか野幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、俵口幼稚園、なばた幼稚園、生駒台幼稚園）の今後の個別基本方針について記載しています。

各個別基本方針の見方は、以下のとおりです。

(1) ●●●●幼稚園の現状

●●●●幼稚園は、昭和 54（1979）年に開園した幼稚園で 46 年が経過しています

園児数は、平成 27（2015）年 12 月 1 日現在、令和 7（2025）年には 25 人になると見込まれます。

令和 7（2025）年には 25 人になると見込まれます。園児数は、平成 27（2015）年 12 月 1 日現在、令和 7（2025）年には 25 人になると見込まれます。

各幼稚園の現状について記載

通園区域内の保育・教育施設

各幼稚園の基本的な情報について記載

S:鉄骨造
LS:軽量鉄骨造
RC:鉄筋コンクリート造

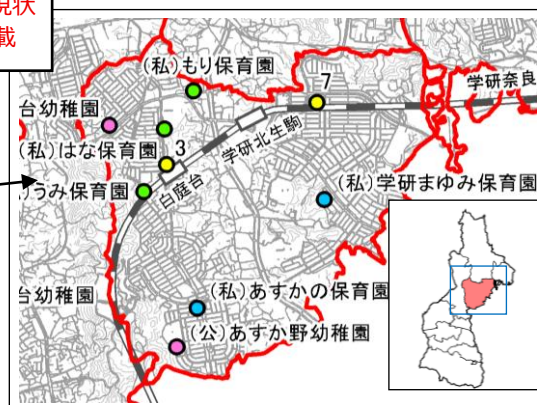


図 2 - ● 通園区域の状況（図 1 - 9 より抜粋）

表 2 - ● あすか野幼稚園の基本情報

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
管理棟	S	375 m ²	1979 年	46 年	274 人	25 人	9.1%
保育棟 1	S	546 m ²	1979 年	46 年			
保育棟 2	S	234 m ²	1980 年	45 年			

令和 7 年 5 月 1 日

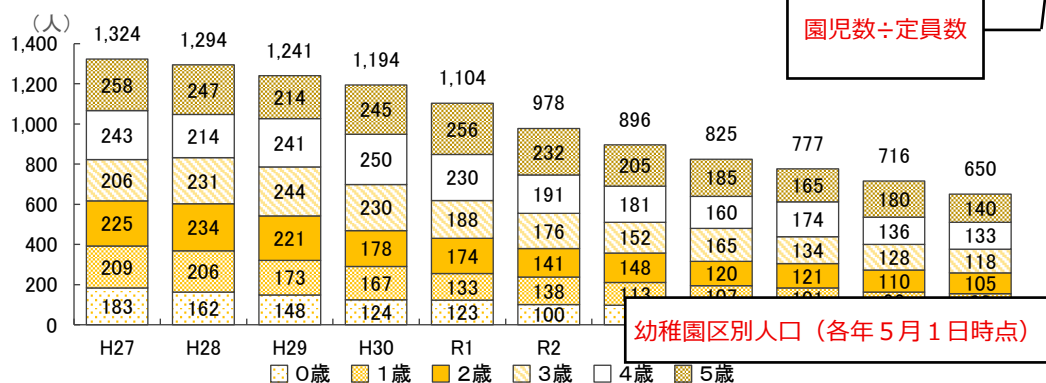


図 2 - ● 人口の推移

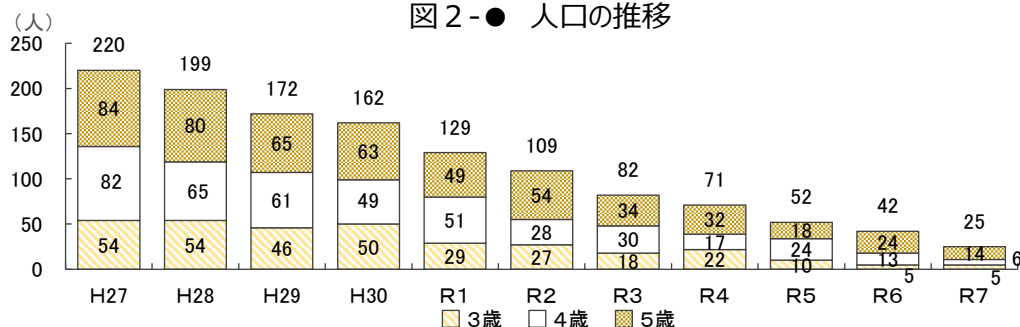


図 2 - ● 園児数の推移

(2) ●●●●● 幼稚園の課題

各幼稚園の課題
について記載

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、●●●●● 幼稚園の園児数は、就学前人口の減少に伴い令和 7（2025）年度と比較すると減少することが予測されています。今後、高値予測においても 3 学年合わせて 17 名から 15 名、全ての学年で 10 人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。低値予測では令和 8（2026）年度以降、現状よりも園児数の確保が難しくなると予測されています。

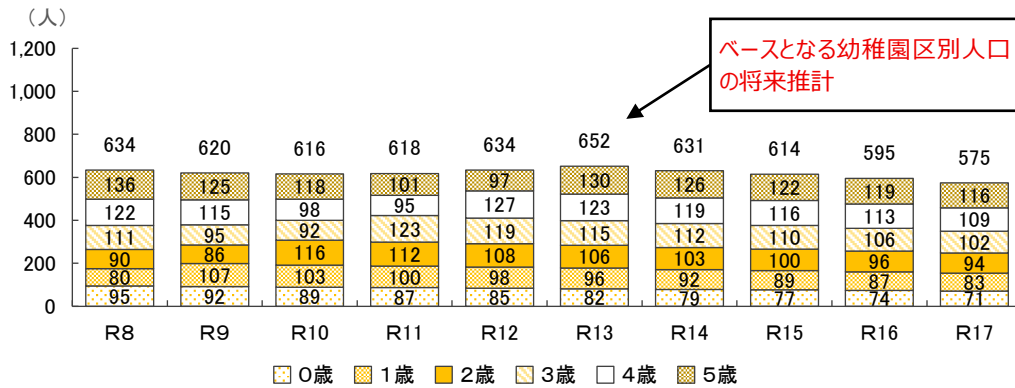


図 2-● 人口の将来推計

将来予測についてはこれまでの変動がそのまま続くと仮定した算出をすると極端に低い予測となり、正確な予測として確定することが難しいため、2つのパターン（高・低）で推計したものを掲載しています。

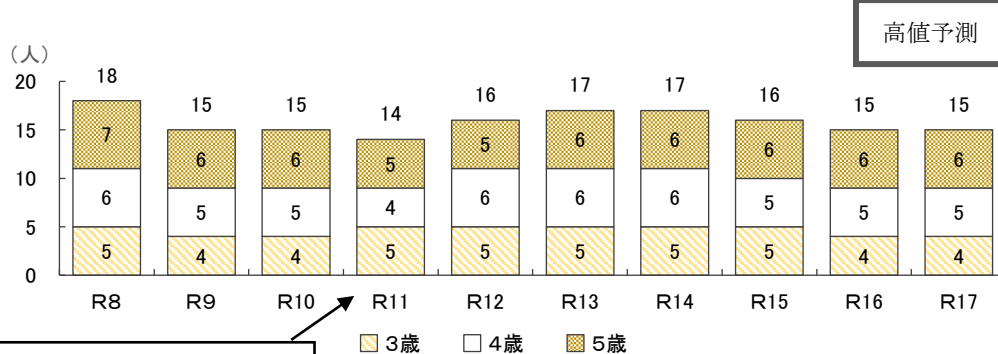


図 2-● 園児数の将来推計（高値予測）

ベースとなる 3 歳児の利用率については、令和 7（2025）年度から利用率がこれ以上下がらない想定として算出し、4 歳児、5 歳児については 3 歳児が 1 学年上がった時の変動を算出して予測（高値予測）

化率法により算定。3 歳児は令和 7 年度の園利用率を乗じて算定。

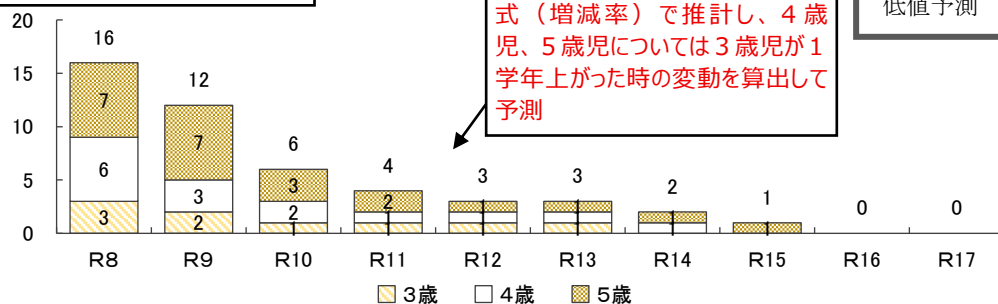


図 2-● 園児数の将来推計（低値予測）

※ 4～5 歳児はコーホート変化率法により算定。3 歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

●●●●幼稚園は、年々園児数が減少し、令和 7（2025）年に建設された鉄骨造の建物です。

建物の耐用年数の考え方や老朽化の状況について記載

生駒市個別施設計画（以下、「個別施設計画」という。）では鉄骨造は、50 年で更新となっていることから、引き続き使用する場合に建替えを行う必要があります。

通園区域内の保育・教育施設の立地施設と令和 7（2025）年 4 月 1 日時点の通園区域内就学前児童数を記載



園舎等の現況
写真を掲載

③ 施設の適正配置

あすか野幼稚園区には、あすか野幼稚園のほか、私立幼稚園・保育園が 6 園あり、令和 7（2025）年の通園区域内 0～5 歳人口 650 人に対して、1,094 人分の供給量（合計定員数）を有しています。

④ 災害危険性

土砂災害（特別）警戒区域、浸水想定区域内であるかを記載

供給量は、通園区域内保育・教育施設の 0 歳～5 歳（1 号から 3 号）の定員数を合算した値

園舎のうち、管理棟及び保育棟 2 の一部分が、土砂災害警戒区域（急傾斜地）（通称：イエローゾーン）に、管理棟及び保育棟 1 の一部分が土砂災害警戒区域（土石流）（通称：イエローゾーン）に含まれています。

（3）●●●●幼稚園の方針

●●●●幼稚園は、年々園児数が減少し、令和 7（2025）年時点で、3 歳児が 5 人、4 歳児が 6 人、5 歳児が 14 人で全園児数は 25 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当しています。

また、園舎は、令和 7（2025）年時点で、3 歳児が 5 人、4 歳児が 6 人、5 歳児が 14 人で全園児数は 25 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当しています。また、園舎は、令和 7（2025）年時点で、3 歳児が 5 人、4 歳児が 6 人、5 歳児が 14 人で全園児数は 25 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当しています。

当該幼稚園の現状や課題を勘案しながら、今後の再編・存続等にむけた基本的な考え方を整理。

●●●●幼稚園の通園区域は、ほかに幼稚園、保育園が 6 園あり、通園区域内 0～5 歳人口を大きく超える供給量を有しています。

以上のことから、本園は、周辺の園と再編に向けた協議を行うこととしますが、周辺の園の状況により再編が困難と判断した場合には、閉園の検討を行います。

なお、これらの協議については、保護者と対話を重ねて今後判断することとします。また、保護者の要望があれば、市が、近隣の園につないでいくなど、保護者に寄り添った対応を行います。

I あすか野幼稚園の基本方針

(1) あすか野幼稚園の現状

あすか野幼稚園は、昭和 54（1979）年に開園した幼稚園で 46 年が経過しています。

園児数は、平成 27（2015）年の 220 人から令和 7（2025）年には 25 人と減少し、「再編に係る方向性の基準」に該当しており、稼働率は 9.1%となっています。なお、同通園区域内には、私立幼稚園・保育園が 6 園あり、最も近接した場所に（私）あすかの保育園が立地しています。

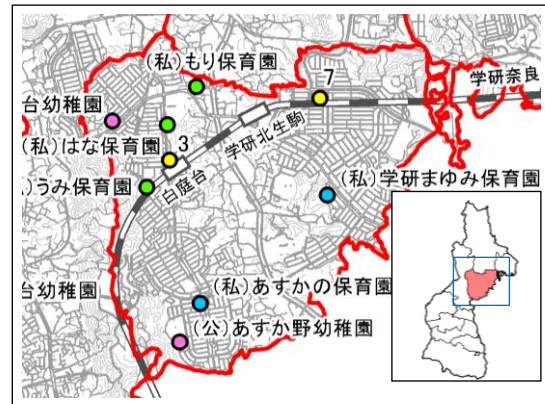


図 2 - 1 通園区域の状況（図 1 - 8 より抜粋）

表 2 - 1 あすか野幼稚園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
管理棟	S	375 m ²	1979 年	46 年	274 人	25 人	9.1%
保育棟 1	S	546 m ²	1979 年	46 年			
保育棟 2	S	234 m ²	1980 年	45 年			

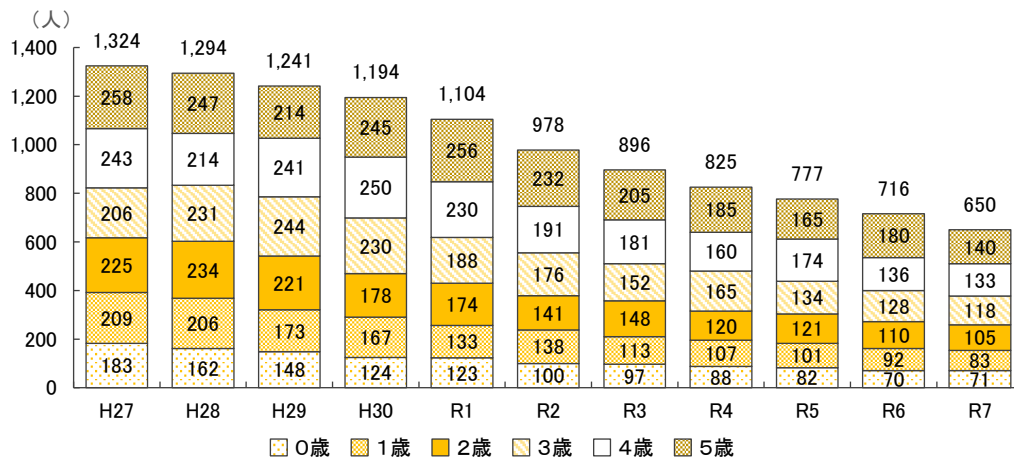


図 2 - 2 人口の推移

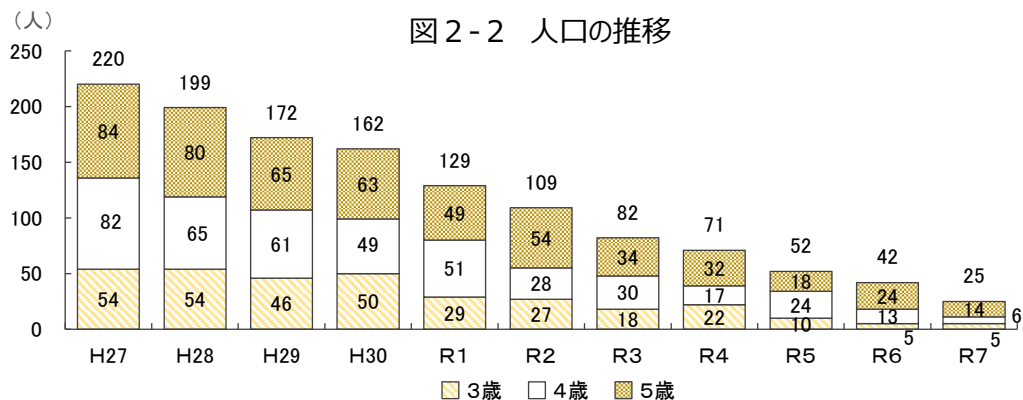


図 2 - 3 園児数の推移

(2) あすか野幼稚園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、あすか野幼稚園の園児数は、就学前人口の減少に伴い令和7（2025）年度と比較すると減少することが予測されています。今後、高値予測においても3学年合わせて17名から15名、全ての学年で10人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。低値予測では令和8（2026）年度以降、現状よりも園児数の確保が難しくなると予測されています。

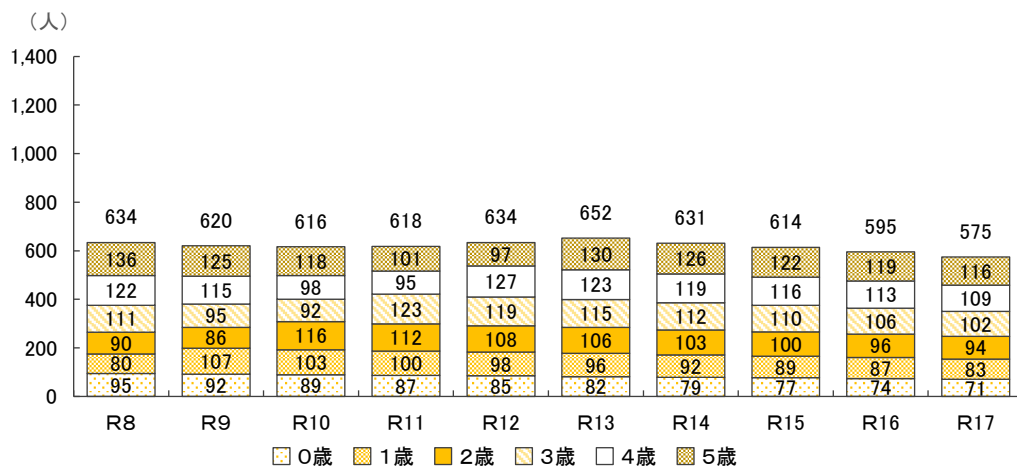


図2-4 人口の将来推計

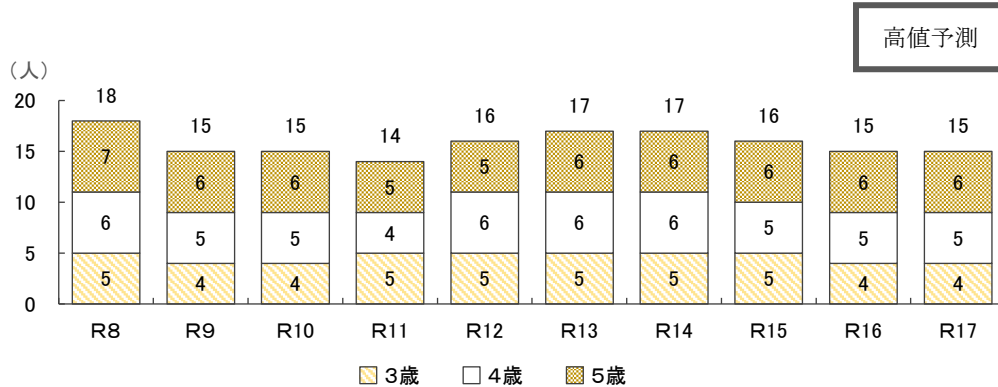


図2-5 園児数の将来推計（高値予測）

※ 4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は令和7年度の園利用率を乗じて算定。

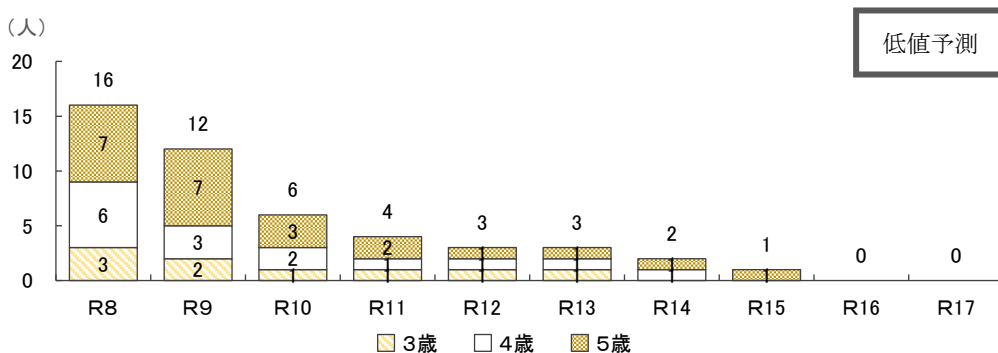


図2-6 園児数の将来推計（低値予測）

※ 4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

あすか野幼稚園は、昭和 54（1979）年に建設された鉄骨造で、築後 46 年が経過しています。

生駒市個別施設計画（以下、「個別施設計画」という。）では鉄骨造は、50 年で更新となっていることから、引き続き使用する場合は建替えを行う必要があります。



③ 施設の適正配置

あすか野幼稚園区には、あすか野幼稚園のほか、私立幼稚園・保育園が 6 園あり、令和 7（2025）年の通園区域内 0～5 歳人口 650 人に対して、1,094 人分の供給量（合計定員数）を有しています。

④ 災害危険性

園舎のうち、管理棟及び保育棟 2 の一部分が、土砂災害警戒区域（急傾斜地）（通称：イエローゾーン）に、管理棟及び保育棟 1 の一部分が土砂災害警戒区域（土石流）（通称：イエローゾーン）に含まれています。

（３）あすか野幼稚園の方針

あすか野幼稚園は、年々園児数が減少し、令和 7（2025）年時点で、3 歳児が 5 人、4 歳児が 6 人、5 歳児が 14 人で全園児数は 25 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当しています。

また、園児数の将来推計では、今後、高値予測においても 3 学年合わせて 17 名から 15 名、全ての学年で 10 人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。

施設については、昭和 54（1979）年建築の鉄骨造で築後 46 年が経過し、老朽化が進んでいます。現在まで修繕を行い使用してきましたが、個別施設計画では、鉄骨造は築 50 年で更新とされていることから、引き続き使用する場合は、建替えを行う必要があります。

あすか野幼稚園の通園区域は、ほかに幼稚園、保育園が 6 園あり、通園区域内 0～5 歳人口を大きく超える供給量を有しています。

以上のことから、本園は、周辺の園と再編に向けた協議を行うこととしますが、周辺の園の状況により再編が困難と判断した場合には、閉園の検討を行います。

なお、これらの協議については、保護者と対話を重ねて今後判断することとします。また、保護者の要望があれば、市が、近隣の園につないでいくなど、保護者に寄り添った対応を行います。

2 桜ヶ丘幼稚園の基本方針

(1) 桜ヶ丘幼稚園の現状

桜ヶ丘幼稚園は、昭和 57（1982）年に開園した幼稚園で 43 年が経過しています。

園児数は、平成 27（2015）年の 128 人から令和 7（2025）年には 34 人と減少し、「再編に係る方向性の基準」に該当しており、稼働率は 19.8%となっています。なお、同通園区域内には、ひがし保育園が立地しています。

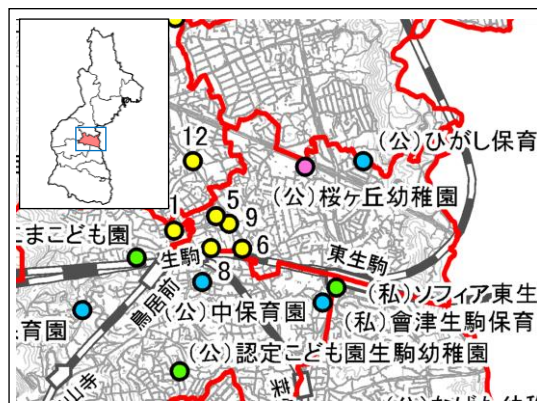


図 2-7 通園区域の状況（図 1-8 より抜粋）

表 2-2 桜ヶ丘幼稚園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
管理棟	S	390 m ²	1982 年	43 年	172 人	34 人	19.8%
保育棟 1	S	420 m ²	1982 年	43 年			
保育棟 2	S	152 m ²	2009 年	16 年			

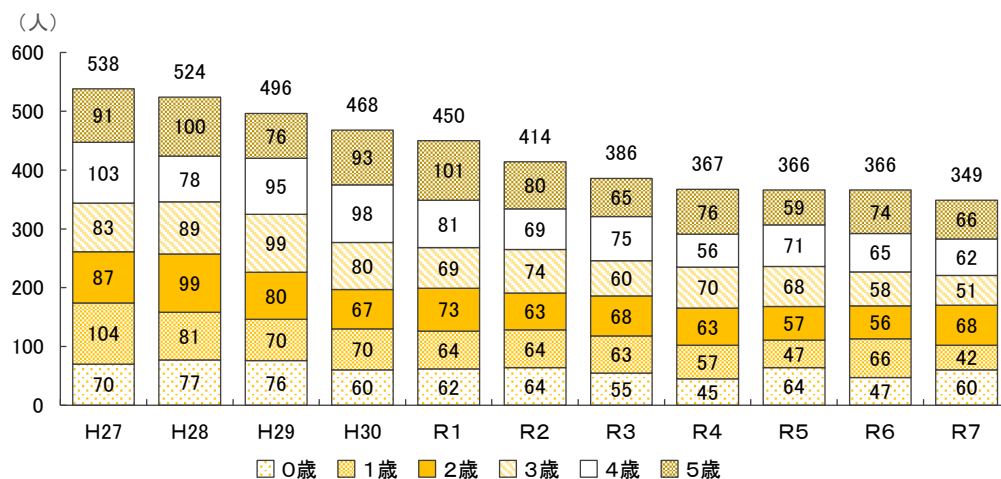


図 2-8 人口の推移

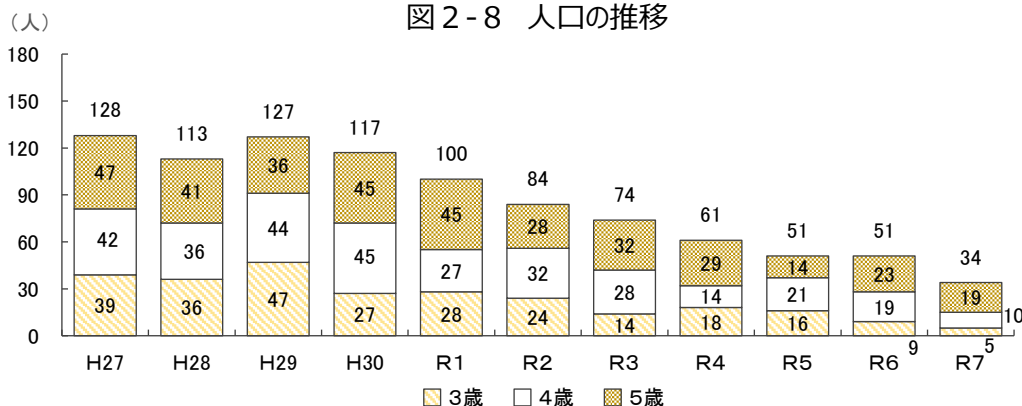


図 2-9 園児数の推移

(2) 桜ヶ丘幼稚園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、通園区域内の就学前人口は増減するものの、園児数は令和7（2025）年度と比較すると減少することが予測されています。今後、高値予測においても3学年合わせて20人前後、全ての学年で10人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。低値予測では今後園児の確保が難しくなることが予測されています。

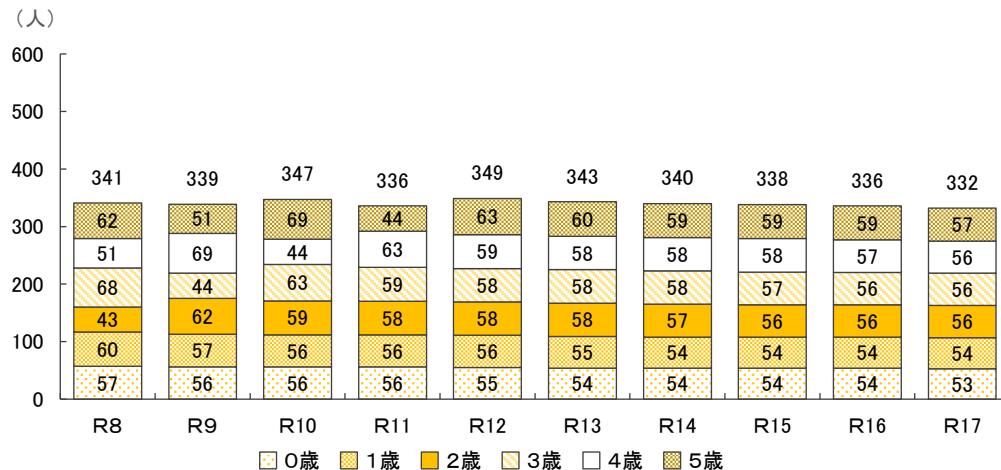


図2-10 人口の将来推計

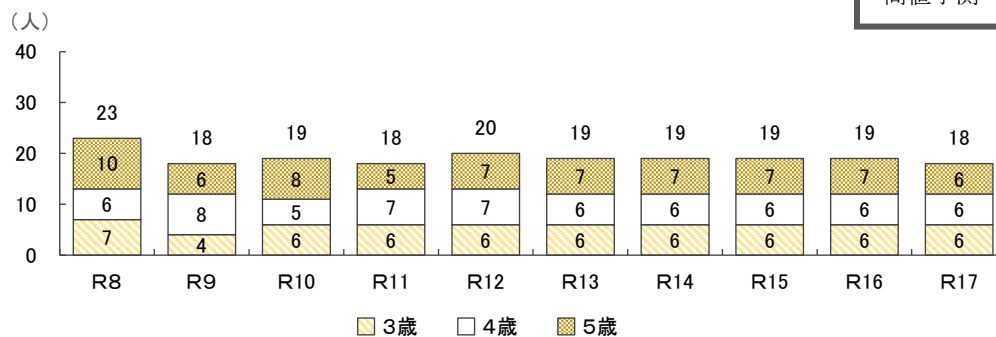


図2-11 園児数の将来推計（高値予測）

※4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は令和7年度の園利用率を乗じて算定。

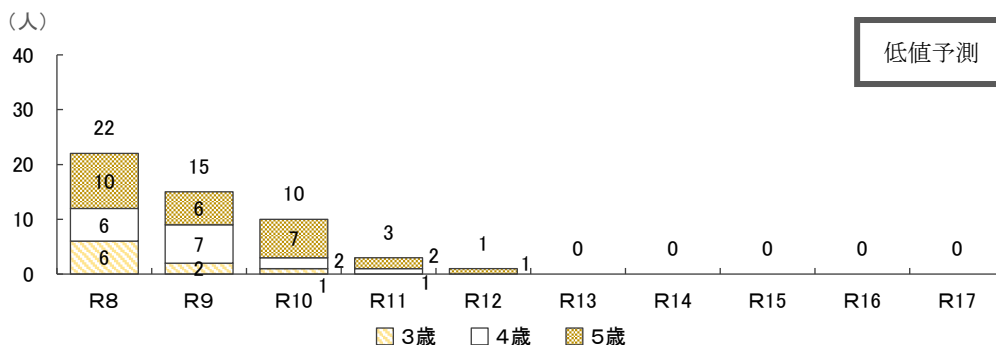


図2-12 園児数の将来推計（低値予測）

※4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

桜ヶ丘幼稚園は、昭和 57（1982）年に建設された鉄骨造で、築後 43 年が経過しています。

個別施設計画では鉄骨造は、50 年で更新となっていることから、引き続き使用する場合は建替えを行う必要があります。



③ 施設の適正配置

桜ヶ丘幼稚園園区には、桜ヶ丘幼稚園とひがし保育園があり、令和 7（2025）年の通園区域内 0 ～ 5 歳人口 349 人に対して、372 人分の供給量（合計定員数）を有しています。

④ 災害危険性

同園は、土砂災害警戒区域外に立地しています。

（3）桜ヶ丘幼稚園の方針

桜ヶ丘幼稚園は、年々園児数が減少し、令和 7（2025）年時点で 3 歳児が 5 人、4 歳児が 10 人、5 歳児が 19 人で全園児数は 34 人となり「再編に係る方向性の基準」に該当します。

また、園児数の将来推計では、高値予測においても 3 学年合わせて 20 人前後、全ての学年で 10 人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。

施設については、保育棟 1 及び管理棟が昭和 57（1982）年建築の鉄骨造で築後 43 年が経過し老朽化が進んでいます。現在まで修繕を行い使用してきましたが、個別施設計画では、鉄骨造は築 50 年で建替えとされていることから、引き続き使用する場合は、建替えを行う必要があります。

以上のことから、本園は、「公私連携幼保連携型認定こども園」を目指すこととします。

なお、こども園化にあたっては、俵口幼稚園、ひがし保育園を統合し、現在の桜ヶ丘幼稚園の敷地内に、新園舎の建設を検討していきます。

（令和 13（2031）年 4 月 1 日 （仮称）桜ヶ丘こども園 開園予定）

3 俵口幼稚園の基本方針

(1) 俵口幼稚園の現状

俵口幼稚園は、昭和 53（1978）年に開園した幼稚園で 47 年が経過しています。

園児数は、平成 27（2015）年の 138 人から令和 7（2025）年には 36 人と減少し、「再編に係る方向性の基準」に該当しており、稼働率は 18.2%となっています。なお、同通園区域内には、（私）白百合幼稚園が立地しています。

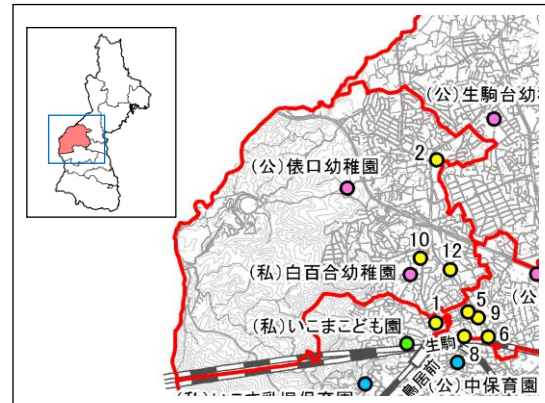


図 2-13 通園区域の状況（図 1-8 より抜粋）

表 2-3 俵口幼稚園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
管理棟	S	420 m ²	1978 年	47 年	198 人	36 人	18.2%
北保育棟	S	628 m ²	1978 年	47 年			
南保育棟	S	157 m ²	2000 年	25 年			
渡り廊下	S	19 m ²	1978 年	47 年			

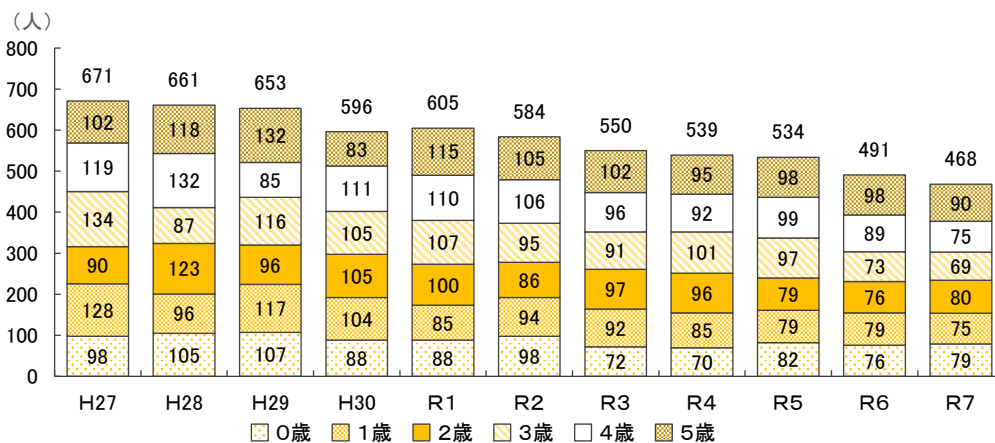


図 2-14 人口の推移

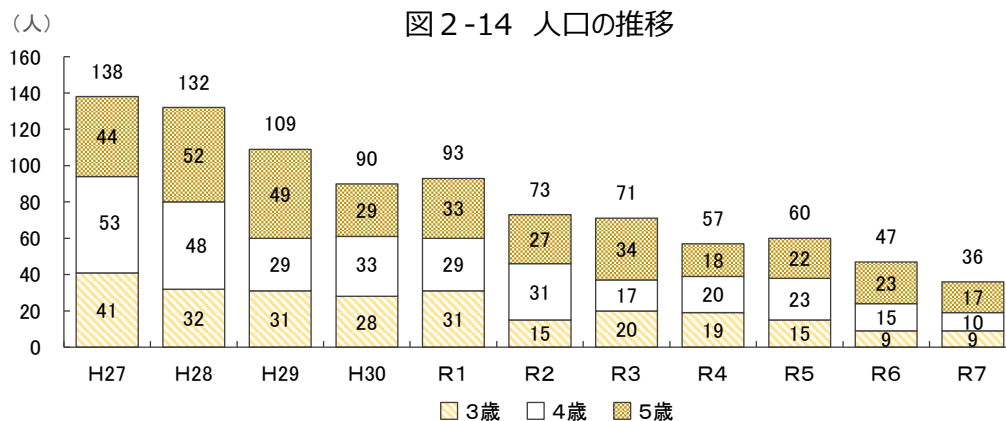


図 2-15 園児数の推移

(2) 俵口幼稚園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、俵口幼稚園の園児数は、就学前人口の現象に伴い令和 7（2025）年度と比較すると減少することが予測されています。今後、高値予測でも 3 学年合わせて 30 人前後、全ての学年で 15 人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。低値予測においては、令和 11（2029）年以降は全ての学年が 10 人未満となると予測されています。

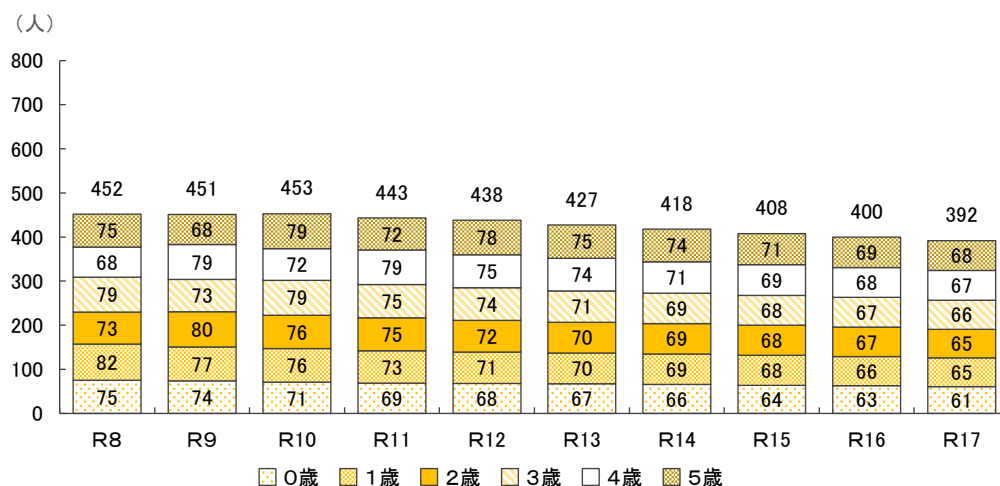


図 2-16 人口の将来推計

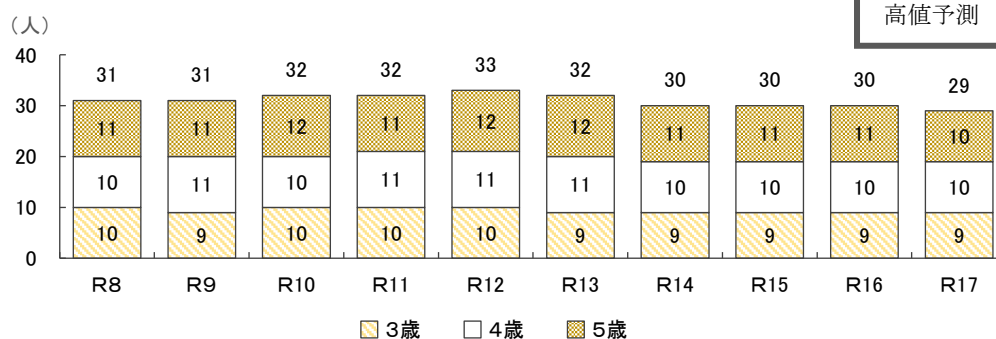


図 2-17 園児数の将来推計（高値予測）

※ 4～5 歳児はコーホート変化率法により算定。3 歳児は令和 7 年度の園利用率を乗じて算定。

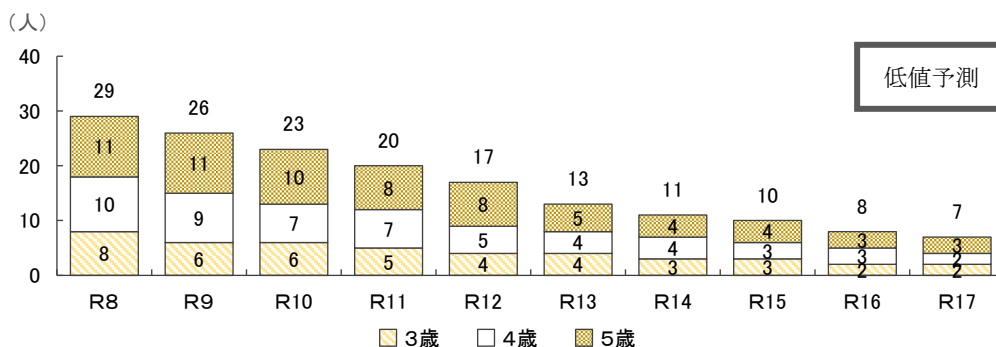


図 2-18 園児数の将来推計（低値予測）

※ 4～5 歳児はコーホート変化率法により算定。3 歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

俵口幼稚園は、昭和 53（1978）年に建設された鉄骨造で、築後 47 年が経過しています。

個別施設計画では鉄骨造は、50 年で更新となっていることから、引き続き使用する場合は建替えを行う必要があります。



③ 施設の適正配置

俵口幼稚園園区には、俵口幼稚園と（私）白百合幼稚園があり、令和 7（2025）年の通園区域内 0～5 歳人口 468 人に対して、478 人分の供給量（合計定員数）を有しています。

④ 災害危険性

同園は、土砂災害警戒区域外に立地しています。

（3）俵口幼稚園の方針

俵口幼稚園は年々園児数が減少し、令和 7（2025）年時点で 3 歳児が 9 人、4 歳児が 10 人、5 歳児が 17 人で全園児数は 36 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当します。

また、園児数の将来推計では高値予測でも 3 学年合わせて 30 人前後、全ての学年で 15 人未満で推移すると予測され「再編に係る方向性の基準」に該当します。

施設については、南保育棟を除く建物が昭和 53（1978）年建築の鉄骨造で築後 47 年が経過し、老朽化が進んでいます。現在まで修繕を行ってきましたが、個別施設計画では、鉄骨造は築 50 年で建替えとされていることから、引き続き使用する場合は、建替えを行う必要があります。

本園は、令和 3（2021）年「生駒市立幼稚園の再編に係る方向性について」で、保護者や地域の協力のもと当面存続としていましたが、以上の理由により、桜ヶ丘幼稚園の敷地内に新たに建設を検討する「公私連携幼保連携型認定こども園」との統合を目指すこととします。

（令和 13（2031）年 4 月 1 日 閉園予定）

4 なばた幼稚園の基本方針

(1) なばた幼稚園の現状

なばた幼稚園は、昭和 46（1971）年に開園した幼稚園で 54 年が経過しています。

園児数は、平成 27（2015）年の 118 人から令和 7（2025）年には 34 人と減少し、「再編に係る方向性の基準」に該当しており、稼働率は 19.7%となっています。なお、同通園区域内には、（私）ソフィア東生駒こども園（分園含む）が立

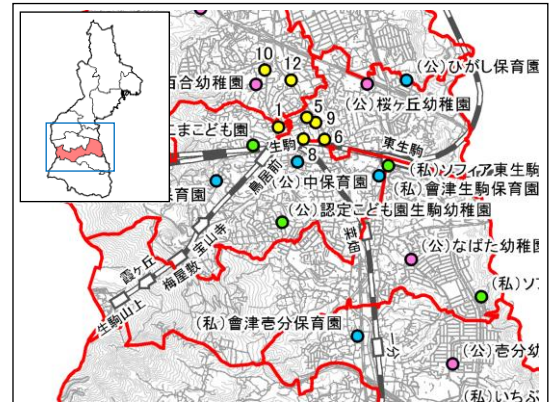


図 2-19 通園区域の状況（図 1-8 より抜粋）

表 2-4 なばた幼稚園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
新築棟	S	1,195 m ²	1991 年	34 年	173 人	34 人	19.7%
保育棟	S	112 m ²	2009 年	16 年			
会議室	LS	39 m ²	2004 年	21 年			
渡り廊下	LS	35 m ²	2009 年	16 年			

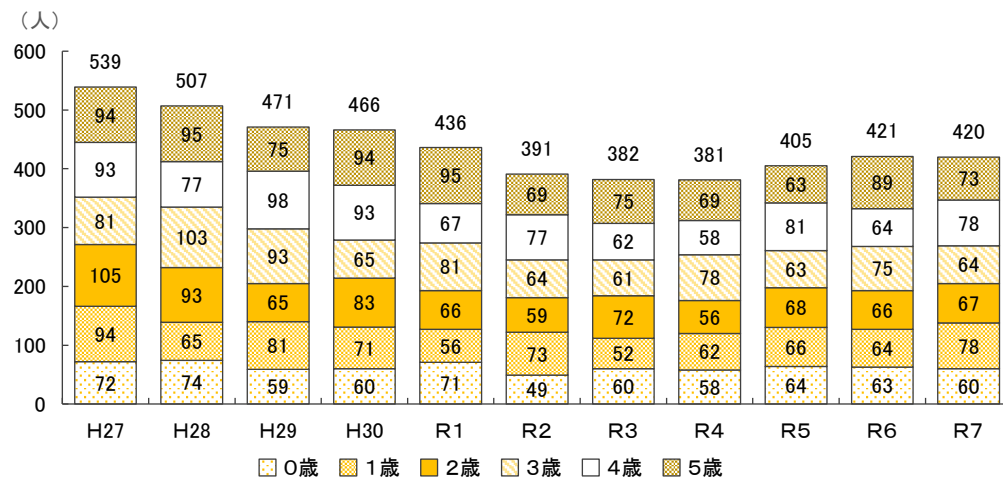


図 2-20 人口の推移

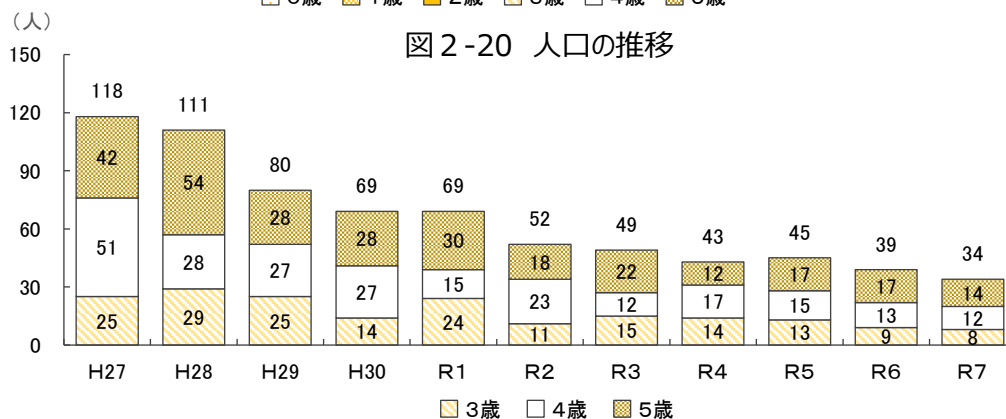


図 2-21 園児数の推移

(2) なばた幼稚園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、なばた幼稚園の園児数は、就学前人口の現象に伴い令和7（2025）年と比較すると減少することが予測されています。高値予測でも3学年合わせて30人以下、全ての学年で15人未満で推移すると予測され、「再編に係る方向性の基準」に該当します。低値予測では令和9（2027）年に以降は全ての学年で10人を下回ると予測されています。

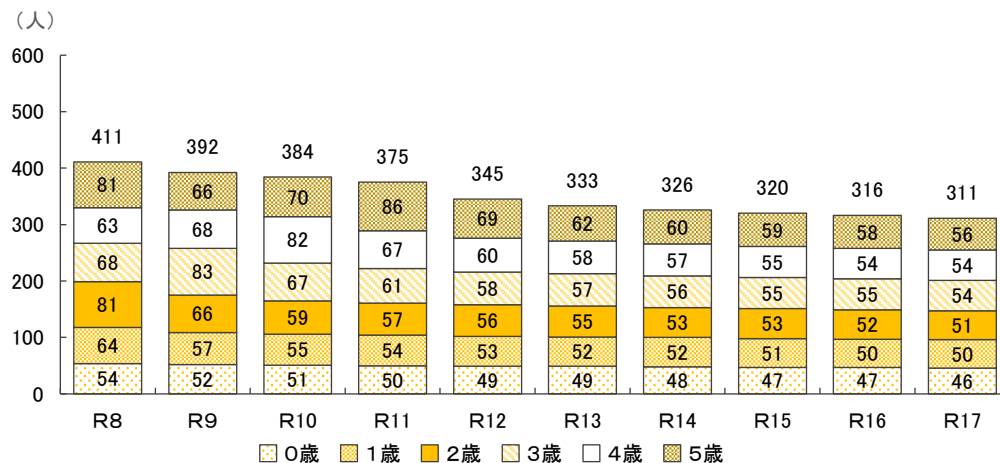


図 2-22 人口の将来推計

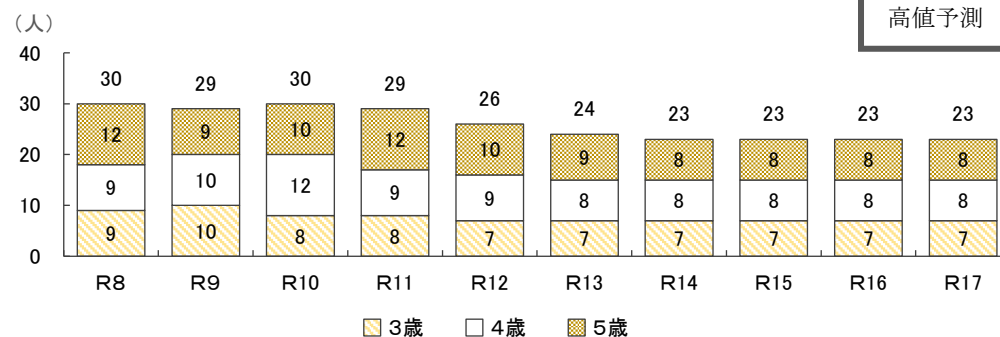


図 2-23 園児数の将来推計（高値予測）

※ 4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は令和7年度の園利用率を乗じて算定。

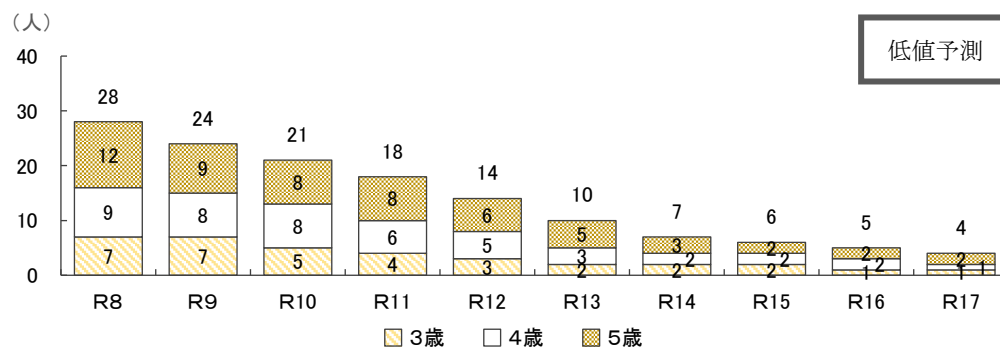


図 2-24 園児数の将来推計（低値予測）

※ 4～5歳児はコーホート変化率法により算定。3歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

現在の園舎は、平成 3（1991）年に建替えられたもので、築後 34 年が経過しています。個別施設計画においては予防保全を計画的に実行した上で、鉄骨造では 50 年以上を目標耐用年数としていることから、当面の間、維持補修を行いながら運用するものです。



③ 施設の適正配置

なばた幼稚園通園区域には、なばた幼稚園と（私）ソフィア東生駒こども園（分園含む）があり、令和 7（2025）年の通園区域内 0 ～ 5 歳人口 420 人に対して、357 人分の供給量（合計定員数）を有しています。また、近接地には（私）會津生駒保育園が立地しています。さらに、令和 9 年 4 月には、壱分幼稚園の再編により、（仮称）認定こども園壱分こども園が開園する予定です。

④ 災害危険性

同園は、土砂災害警戒区域外に立地しています。

（３）なばた幼稚園の方針

なばた幼稚園は年々園児数が減少し、令和 7（2025）年時点で 3 歳児 8 人、4 歳児 12 人、5 歳児 14 人で全園児数は 34 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当します。

また、園児数の将来推計では、高値予測でも 3 学年合わせて 30 人以下、全ての学年で 15 人未満で推移すると予測され、「再編に係る方向性の基準」に該当します。

施設については、新築棟は平成 3（1991）年建築の鉄骨造で築後 34 年、会議室は平成 16（2004）年建築の軽量鉄骨造で築後 21 年、保育棟は平成 21（2009）年建築の鉄骨造で築後 16 年が経過しています。個別施設計画では、大規模修繕は鉄骨造では築 25 年、軽量鉄骨造で築 20 年、建替は鉄骨造で築 50 年、軽量鉄骨造は築 40 年とされており、現在まで修繕を行ってきたことから、当面の間、維持補修を行いながら運用することが可能です。

同園通園区域内では、現在大規模宅地開発が行われており、また（私）ソフィア東生駒こども園（分園含む）の利用率は 90%を超え、近接地の（私）會津生駒保育園の利用率は 100%を超えていることから、同園通園区域内の保育需要は今後増加することが見込まれます。

以上のことから、同園の空き部屋を活用し、私立保育園を分園化して迎え入れ、集団規模を確保して園児の成長につなげるとともに、給食や長時間保育といった保護者ニーズへの対応を図ります。

（令和 10（2028）年度 私立保育園分園 開園予定）

5 生駒台幼稚園の基本方針

(1) 生駒台幼稚園の現状

生駒台幼稚園は、昭和 48（1973）年に開園した幼稚園で 52 年が経過しています。

園児数は、平成 27（2015）年の 208 人から令和 7（2025）年には 84 人と減少しており、稼働率は 32.4%となっています。なお、同通園区域内に、その他の幼稚園・保育園は立地していません。

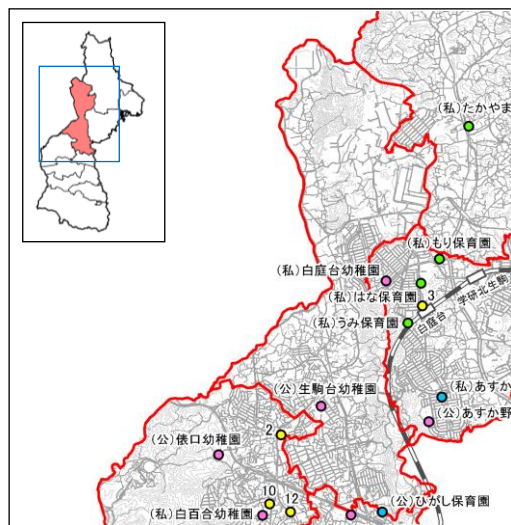


図 2-25 通園区域の状況（図 1-8 より抜粋）

表 2-5 生駒台幼稚園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
本棟	S	2,020 m ²	2015 年	10 年	259 人	84 人	32.4%

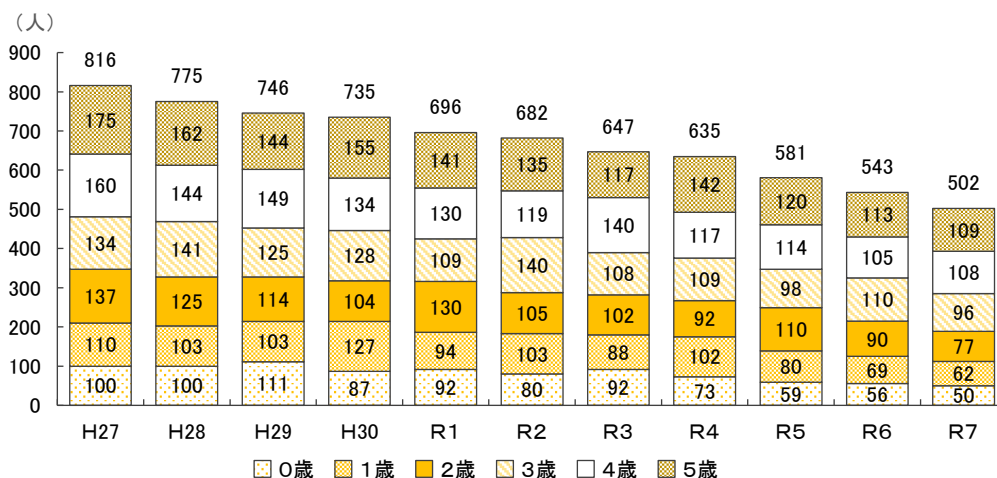


図 2-26 人口の推移

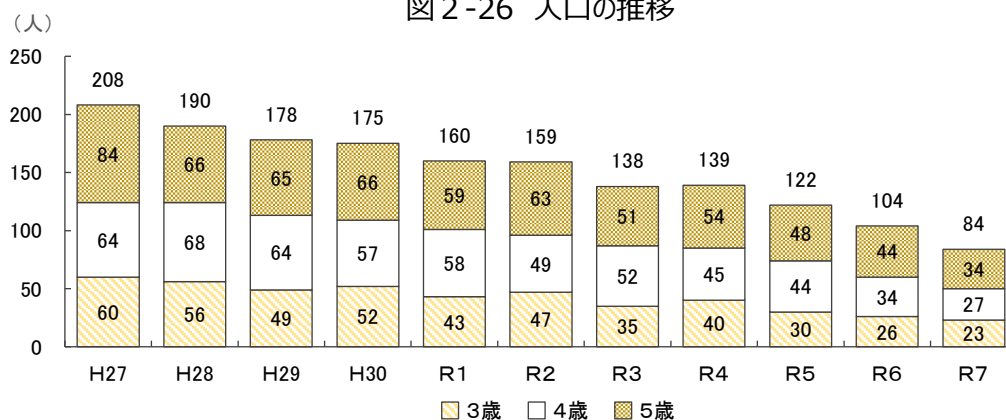


図 2-27 園児数の推移

(2) 生駒台幼稚園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、通園区域内の就学前人口は増減するものの、生駒台幼稚園の園児数は、令和 7（2025）年度と比較すると減少することが予想されています。高値予測では 65 人前後で推移するものと予測されますが、低値予測では令和 13（2031）年には年少が 10 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当します。

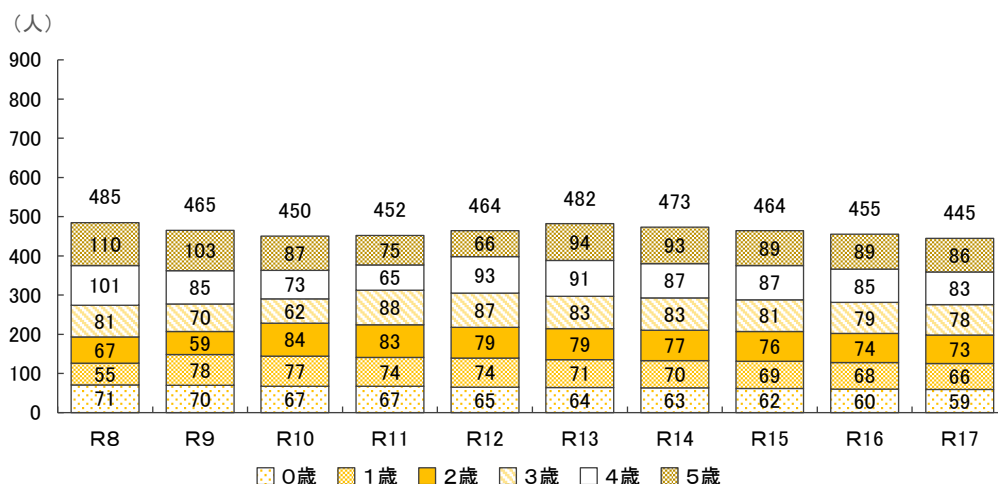


図 2-28 人口の将来推計

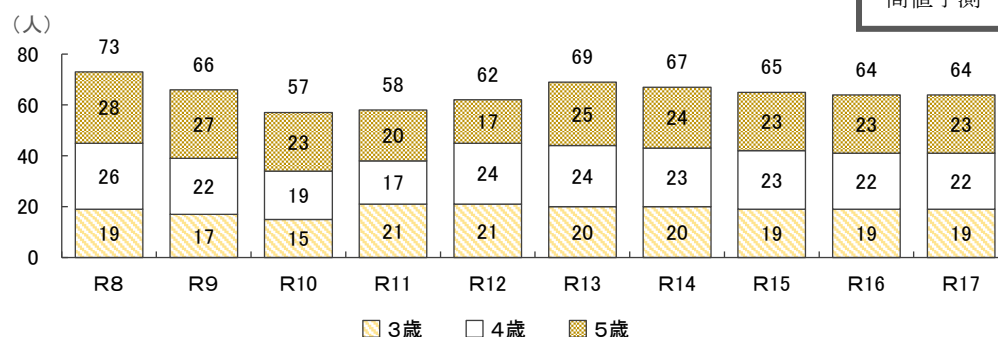


図 2-30 園児数の将来推計（高値予測）

※ 4～5 歳児はコーホート変化率法により算定。3 歳児は令和 7 年度の園利用率を乗じて算定。

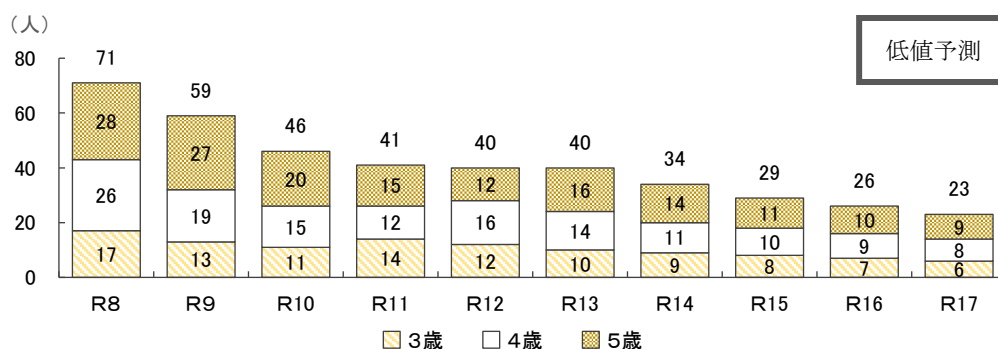


図 2-29 園児数の将来推計（低値予測）

※ 4～5 歳児はコーホート変化率法により算定。3 歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

現在の園舎（本棟）は、平成 27（2015）年に建替えられたもので、個別施設計画の評価も全ての項目で A 評価となっています。

今後とも計画的な修繕による施設の長寿命化と維持管理費の低減を図りつつ、引き続き、施設を有効に活用していくことが望まれます。



③ 施設の適正配置

生駒台幼稚園通園区域には、その他の幼稚園・保育園は立地しておらず、令和 7（2025）年の通園区域内 0 ～ 5 歳人口 502 人に対して、259 人分の供給量（生駒台幼稚園定員数）を有しています。

④ 災害危険性

同園は、土砂災害警戒区域外に立地しています。

（３）生駒台幼稚園の方針

生駒台幼稚園は、年々園児数が減少していますが、市内その他公立幼稚園と比べて在園児が最も多く、令和 7（2025）年時点で全園児数は 84 人です。

園児数の将来推計では、高値予測でも今後園児数が増加に転じることはなく、低値予測では令和 13（2031）年には 3 歳児が 10 人となり、「再編に係る方向性の基準」に該当します。今後の園児数の動向を注視する必要がありますが、他園と比べて通園区域内の供給量が少ない状況でもあり、今後も一定の入園者が今後も見込まれると考えられることから、こどもの育ちに必要な集団性・協同性は一定維持できると推察されます。

施設については、平成 27（2015）年建築の鉄骨造で、築後 10 年が経過しています。個別施設計画では、鉄骨造は築 25 年で大規模改修とされていることから、当面は、修繕の必要がありません。

なお、生駒台幼稚園は、令和 3（2021）年「生駒市立幼稚園の再編に係る方向性について」に基づき、公立幼稚園として継続しながら、こども園化を見据えた検討を進めてきましたが、周辺道路の通行規制の影響により通園時間帯に車両が侵入できず、駐車場が整備できないことが判明しています。

以上のことから、本園は、公立幼稚園として存続します。そのうえで、本園は、本市の「就学前教育を牽引する園」と位置付け、多様な保護者ニーズへの対応も検討しながら、公教育の更なる推進を図っていきます。

6 ひがし保育園の基本方針（参考）

（１）ひがし保育園の現状

ひがし保育園は、昭和 43（1968）年に開園した保育園で 57 年が経過しています。

平成 24（2012）年度にはリズム室を保育室 2 室に改修し、定員の増加を図っています。園児数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和 7（2025）年の稼働率は 84.0%となっております。なお、近隣には、桜ヶ丘幼稚園が立地しています。

表 2-6 ひがし保育園の基本情報

令和 7 年 5 月 1 日

建物名	構造	延床面積	建設年	築年数	定員数	園児数	稼働率
管理・保育棟	RC	895.1 m ²	1984 年	41 年	200 人	168 人	84.0%
遊戯等	S	326.5 m ²	1984 年	41 年			
渡り廊下	S	37.5 m ²	1984 年	41 年			

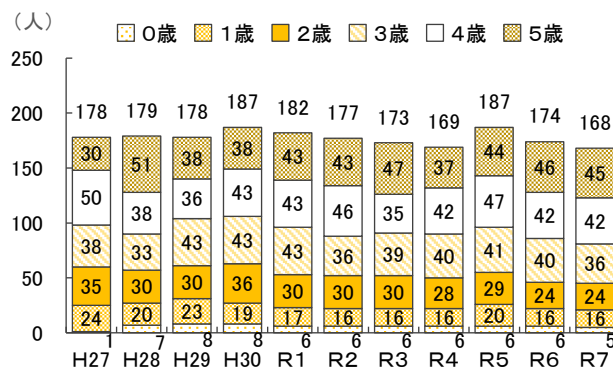


図 2-31 園児数の推移

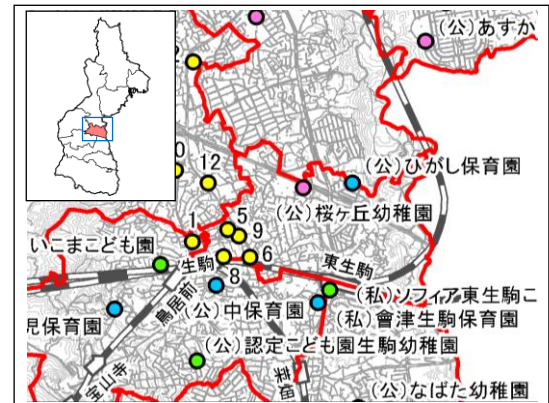


図 2-32 通園区域の状況（図 1-8 より抜粋）

（２）ひがし保育園の課題

① 園児数の将来予測

将来推計の結果、ひがし保育園の園児数は、高値予測においては徐々に減少することが予測されますが、低値予測では令和 13（2031）年には 180 人を超える水準となると予測されています。

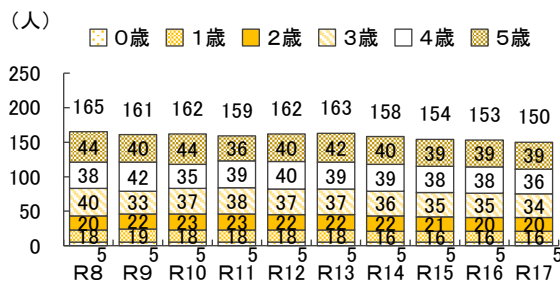


図 2-33 園児数の将来推計（高値予測）

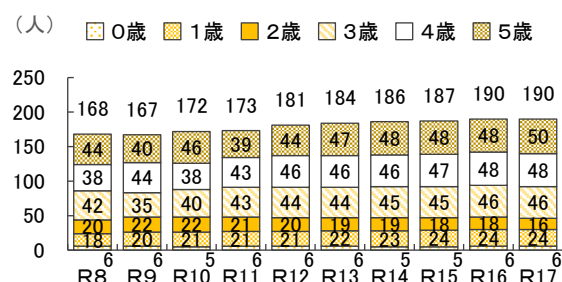


図 2-34 園児数の将来推計（低値予測）

※ 1～5 歳児はコーホート変化率法により算定。
0 歳児は令和 7 年度の園利用率を乗じて算定。

※ 1～5 歳児はコーホート変化率法により算定。
0 歳児は過去の利用率をもとに直線回帰式により算定。

② 施設の老朽化

ひがし保育園（管理・保育棟）は、昭和 59（1984）年に建設された鉄筋コンクリート造で、築後 41 年が経過しています。令和 6 年度には管理保育棟及び保育棟屋上防水改修工事を行っています。今後、築 60 年で大規模修繕が必要となっています。



③ 施設の適正配置

ひがし保育園のある桜ヶ丘幼稚園の通園区域には、ひがし保育園と桜ヶ丘幼稚園があり、令和 7（2025）年の当該通園区域内 0～5 歳人口 349 人に対して、372 人分の供給量（合計定員数）を有しています。

④ 災害危険性

同園は、土砂災害警戒区域外に立地しています。

（3）ひがし保育園の方針

ひがし保育園は、令和 7（2025）年時点で全園児数は 168 人です。園児数の将来推計では、高値予測、低値予測ともに今後も利用率が高い状態で推移すると予測されています。

施設については、昭和 59（1984）年建築の鉄筋コンクリート造（遊戯棟、渡廊下は鉄骨造）で築後 41 年が経過し老朽化が進んでいます。個別施設計画では、鉄筋コンクリート造は築 40 年で大規模改修とされており、令和 6 年度には管理保育棟及び保育棟屋上防水改修工事を行っていることから、現在の使用に問題はありませんが、今後は、維持補修を行いながら運用し、築 60 年で大規模修繕が必要となります。

なお、本園のリズム室は保育室 2 室に改修していることから、雨天や園行事の際には活動が制限されています。

以上のことから、桜ヶ丘幼稚園の敷地内に新たに建設を検討する「公私連携幼保連携型認定こども園」との統合を目指すこととします。

（令和 13（2031）年 4 月 1 日 （仮称）桜ヶ丘こども園 開園予定）

第3章

再編の推進にあたって

1 こどもの学び・育ちの確保

再編を進めるにあたっては、園児にとってより良い保育環境を提供することを最優先事項と位置付けます。再編によって園児の成長発達に適した規模の集団をつくり、こどもたちへ多様な経験の場を提供することで、こどもたちの成長（自立心や社会性・協調性の育ち）を促し、「遊び」を通して創造的な「学び」につなぐ就学前教育の充実、一人ひとりに寄り添った保育の充実を図ります。

また、再編後も引き続き幼稚園・保育園・こども園・小学校がつながって、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を目指し、現時点で在籍している園児はなるべく現在の幼稚園・保育園で卒園できるよう、柔軟な対応を心がけていきます。

さらに、特別な配慮・支援を要する園児については、再編により移動面や教育・保育面において、不利益が生じないような必要な対応策を講じていくこととします。

2 関係団体、保護者、地域との協働

再編の対象となる幼稚園・保育園の関係者や在籍する園児の保護者、地域との協議の場を設け、広く意見を聞くとともに、再編によって、園と地域との関係性に大きな影響が生じることも予想されることから、園が地域とともに子育てをする場であることに配慮しつつ、そのつながりが継続されるよう努めます。

3 社会情勢の変化への対応

本基本方針をとりまとめるにあたり、過去の人口動態や各幼稚園の利用率をもとに、将来の利用者数等の推計を行いました。例えば、現在、分譲が行われている「生駒緑ヶ丘こもれびテラス」や、壱分北部地区の宅地開発など、様々な外部要因が影響することにより、計画の見込みに変化が生じることが考えられます。そのため、今後は、各園の入園児数の推移や保護者ニーズ等を注視しながら、必要に応じて、再編の進め方を見直すなど、柔軟な対応を心がけていきます。

4 再編後の跡地利用について

再編による幼稚園等跡地及び施設の利活用については、地域と十分協議した上で、総合的に検討していくこととします。

5 再編スケジュール

あすか野幼稚園は、令和 11（2029）年度末を目途に再編または閉園、俵口・桜ヶ丘幼稚園及びひがし保育園については令和 12（2030）年度末で閉園し、令和 13（2031）年度から「（仮称）桜ヶ丘こども園」を開園する予定です。

また、なばた幼稚園については、令和 10（2028）年 4 月に分園を設定し、保育機能の充実を図っていく予定です。

表 3 - 1 再編スケジュール

		令和 7 年度時点						
幼稚園	保育園・こども園	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	備考
生駒台幼稚園		存続						
あすか野幼稚園								令和 11 年度末を目途に再編または閉園
俵口幼稚園								令和 12 年度末で閉園
桜ヶ丘幼稚園								令和 12 年度末で閉園
	ひがし保育園							令和 12 年度末で閉園
	（仮称）桜ヶ丘こども園							開園予定（令和 13 年度）
	中保育園	存続						
	認定こども園 生駒幼稚園	存続						
なばた幼稚園		存続						令和 10 年 4 月に分園（私）を敷地内開園
壱分幼稚園								令和 8 年度末で閉園
	（仮称）壱分こども園							開園（令和 9 年度）
南幼稚園		存続						
	みなみ保育園	存続						
	小平尾保育園	存続						

6 再編後の姿

(1) 公立幼稚園の再編後の編成

個別基本方針に基づく公立幼稚園の再編後は、以下の編成となります。

表 3-2 公立幼稚園再編後の編成

【公立幼稚園・保育園・認定こども園】

園名	種別	定員	備考
なばた幼稚園	幼稚園	未定	私立保育園の分園を敷地内に設置
生駒台幼稚園	幼稚園	259	
南幼稚園	幼稚園	100	
みなみ保育園	保育園	200	
小平尾保育園	保育園	88	
中保育園	保育園	255	
認定こども園生駒幼稚園	認定こども園	180	

【私立幼稚園・保育園・認定こども園】

園名	種別	定員	備考
白百合幼稚園	幼稚園	280	
奈良佐保短期大学附属 生駒幼稚園	幼稚園	220	
白庭台幼稚園	幼稚園	150	
いこま乳児保育園	保育園	75	
鹿ノ台佐保保育園	保育園	60	
あすかの保育園	保育園	90	
會津生駒保育園	保育園	69	
学研まゆみ保育園	保育園	120	
會津壱分保育園	保育園	110	
いこまこども園	認定こども園	290	1号 15名、2～3号 275名
たかやまこども園	認定こども園	282	1号 150名、2～3号 132名
生駒ピュアこども園	認定こども園	120	1号 15名、2～3号 105名
うみ保育園	認定こども園	102	1号 12名、2～3号 90名
ソフィア東生駒こども園	認定こども園	159	1号 10名、2～3号 149名（分園含む）
いちぶちどり保育園	認定こども園	115	1号 6名、2～3号 109名
もり保育園	認定こども園	132	1号 12名、2～3号 120名
はな保育園	認定こども園	165	1号 15名、2～3号 150名
(仮) 壱分こども園	認定こども園 (R9.4より)	160	現在の壱分幼稚園→単独こども園化
(仮) 桜ヶ丘こども園	認定こども園 (R13.4より)	未定	桜ヶ丘幼稚園・俵口幼稚園・ひがし保育園 統合

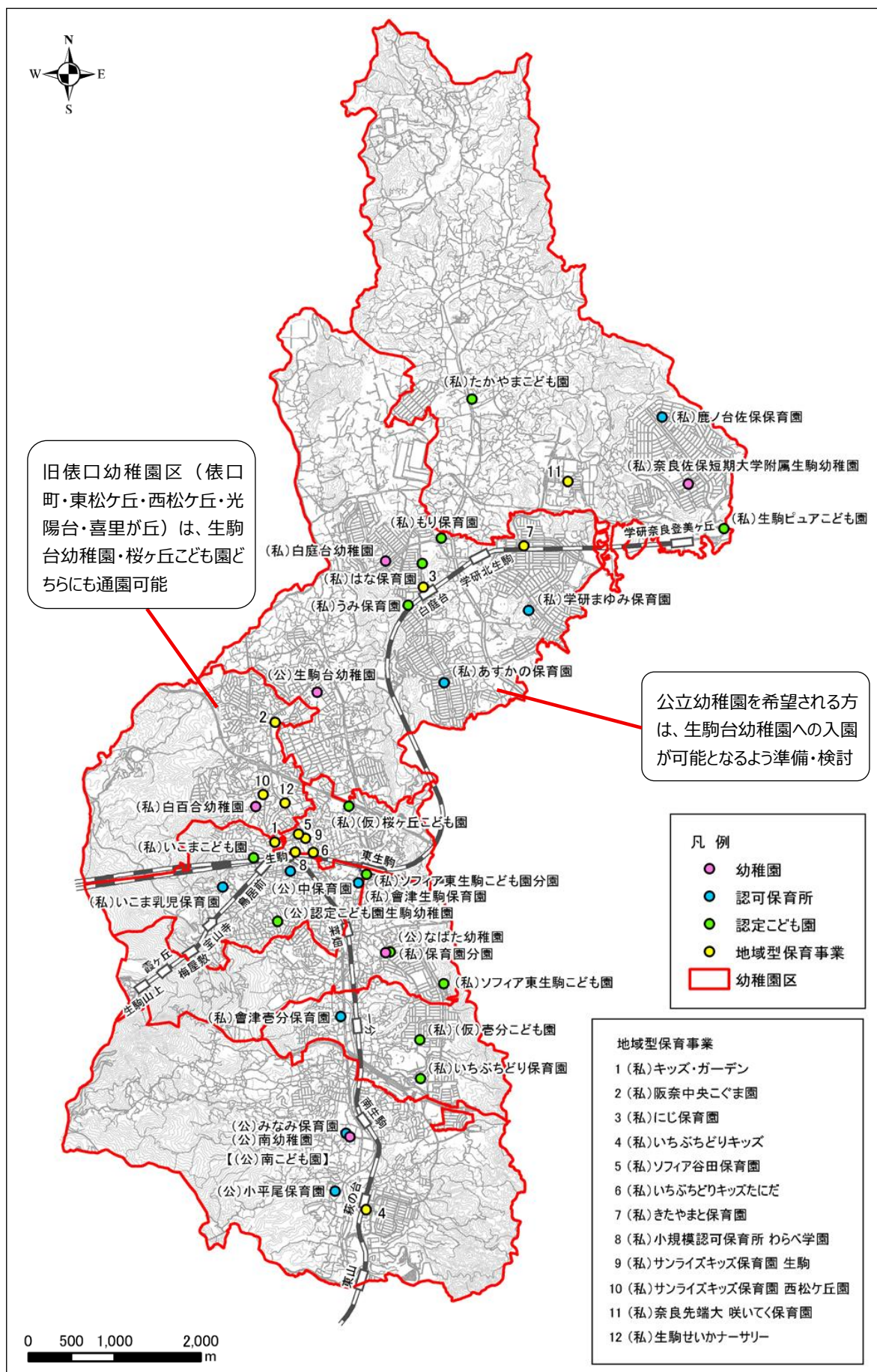


図 3 - 1 再編後の市内幼稚園・保育園位置図

(2) 再編後の通園区域等

再編後は以下のような通園区域となります。

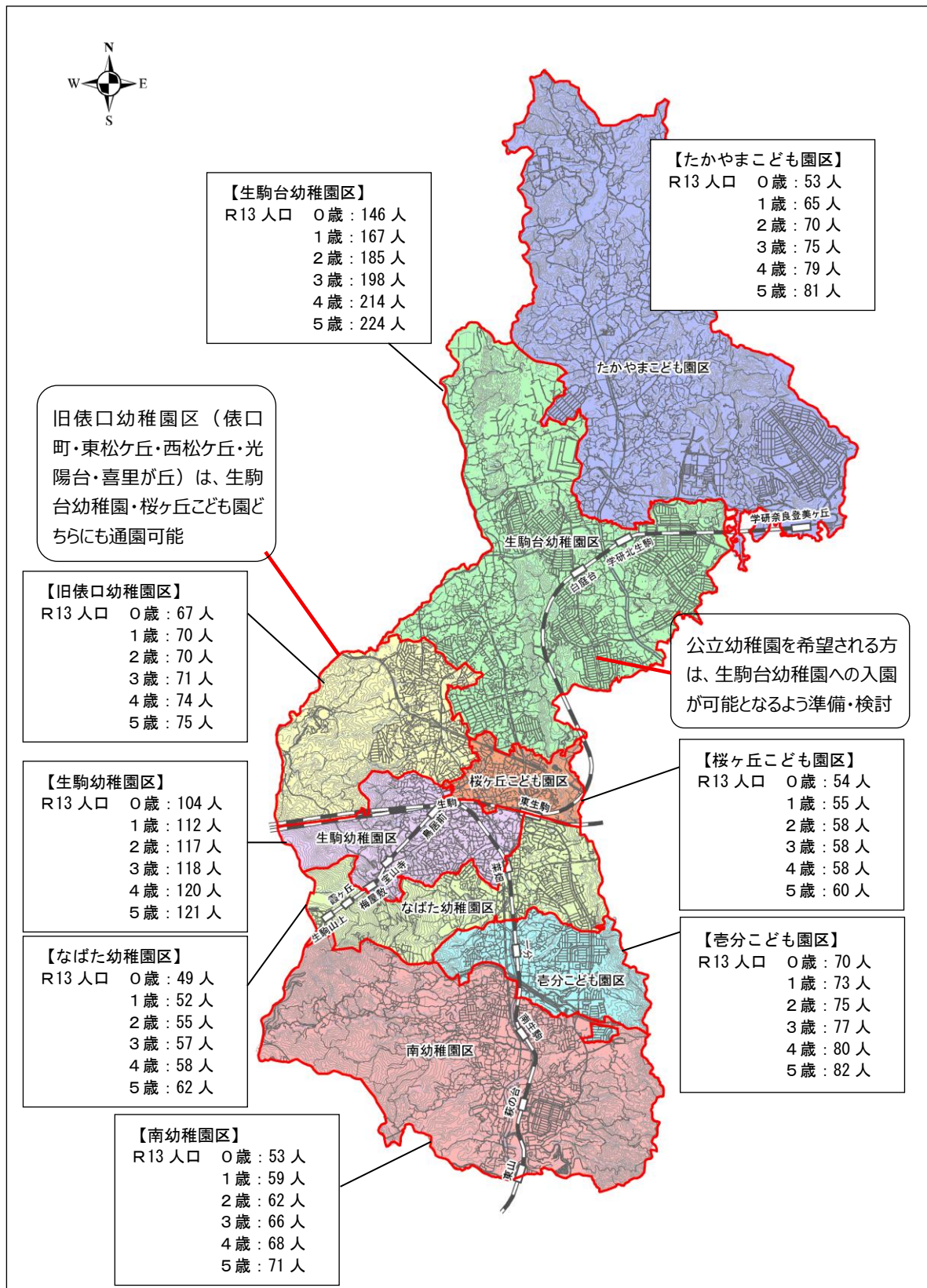


図 3-2 再編後の本市の通園区域図

資料編



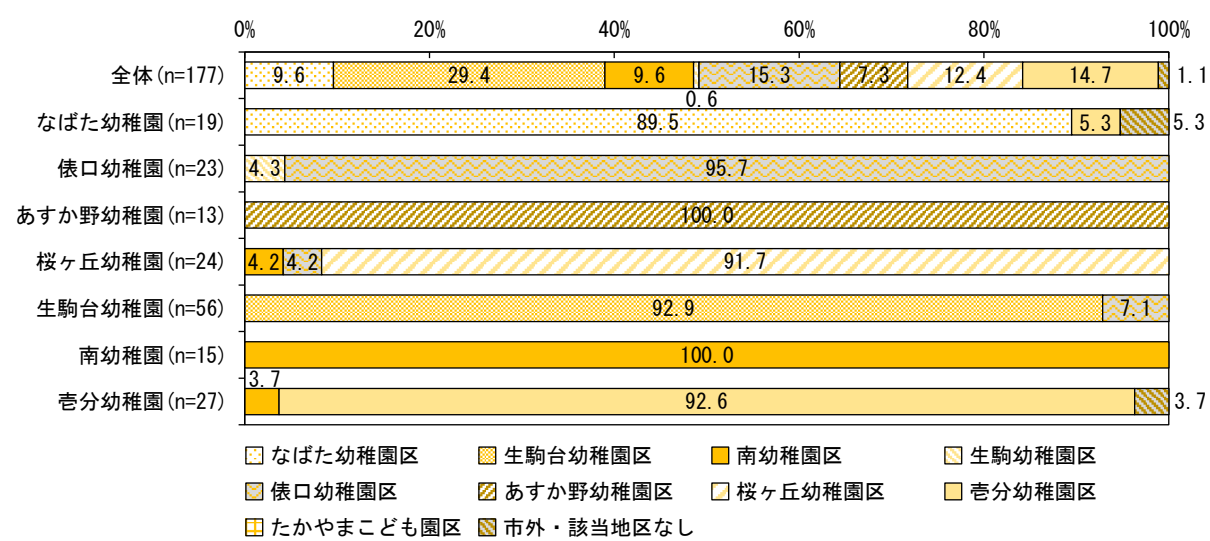
公立幼稚園園児保護者向けアンケート調査結果

お住まいの地域

お住まいの地域について、あすか野幼稚園、南幼稚園では、すべての園児（保護者）が同通園区域内に居住しており、その他の園においても概ね 90%以上が同通園区域に居住しています。

「市外・該当地区なし」は、なばた幼稚園で 5.3%、壺分幼稚園で 3.7%であり、全体では 1.1%となっています。

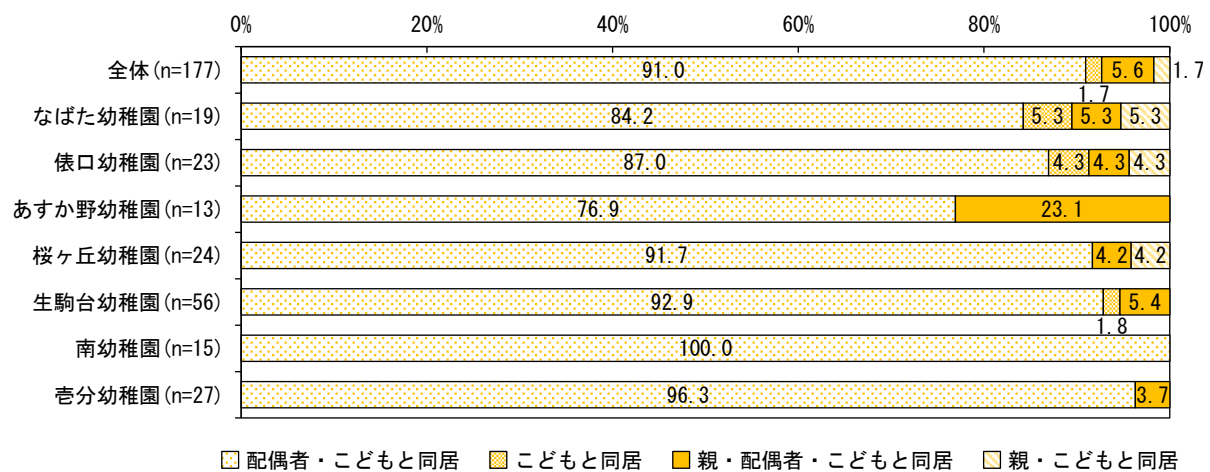
園児（保護者）の居住地



家族構成

家族構成について、全体の 90%以上が「配偶者・子どもと同居」となっていますが、あすか野幼稚園では、その割合が 76.9%、となっており「親・配偶者・子どもと同居」の割合が他園よりも高くなっています。

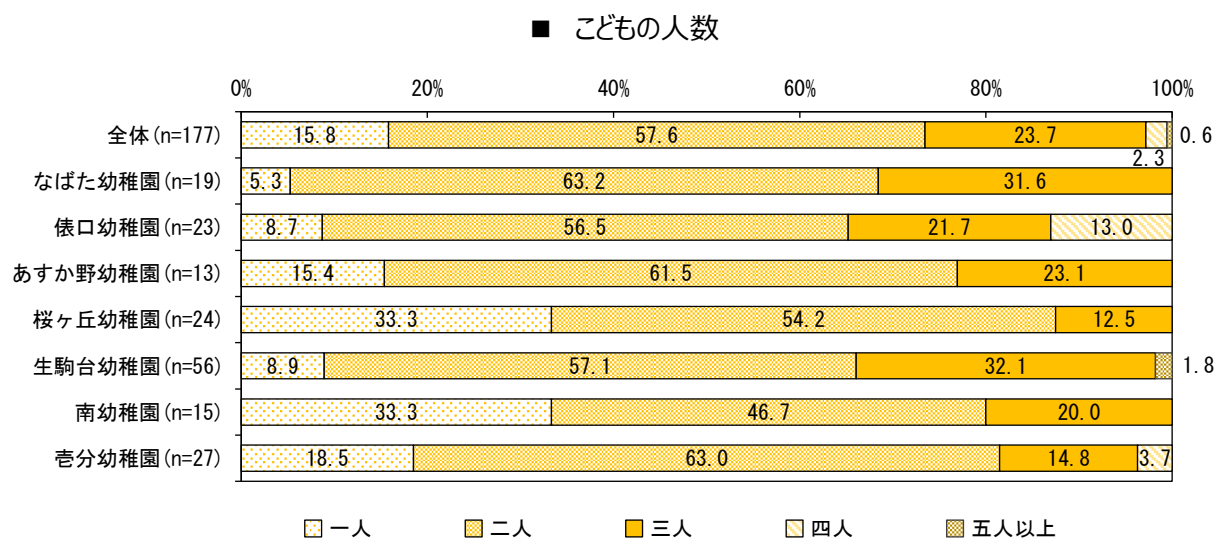
家族構成



こどもの人数

こどもの人数について、全体では「二人」の割合が 57.6%と最も高く、次いで「三人」の割合が 23.7%となっています。

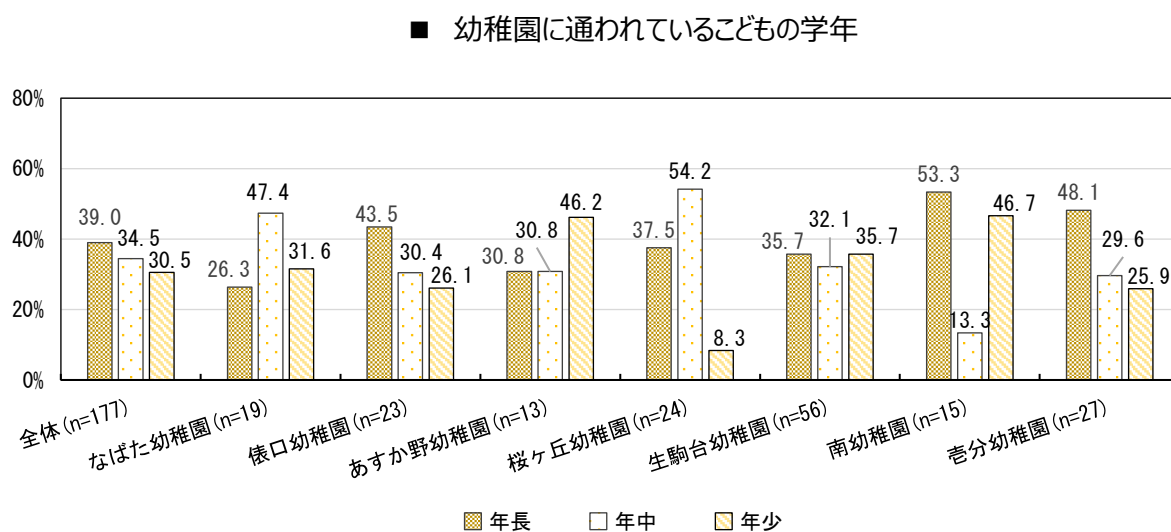
なばた幼稚園では全体と比べると「三人」の割合が高く「一人」の割合が低く、南幼稚園では「一人」の割合が高く「二人」の割合が低くなっています。



幼稚園に通うこどもの学年

こどもの学年について、全体では「年長」の割合が 39.0%と最も高く、「年中」の割合が 34.5%、「年少」の割合が 30.5%となっています。

あすか野幼稚園では「年少」の割合が、なばた幼稚園と桜ヶ丘幼稚園では「年中」の割合が、南幼稚園と壱分幼稚園では「年長」の割合が、全体と比べて高くなっています。

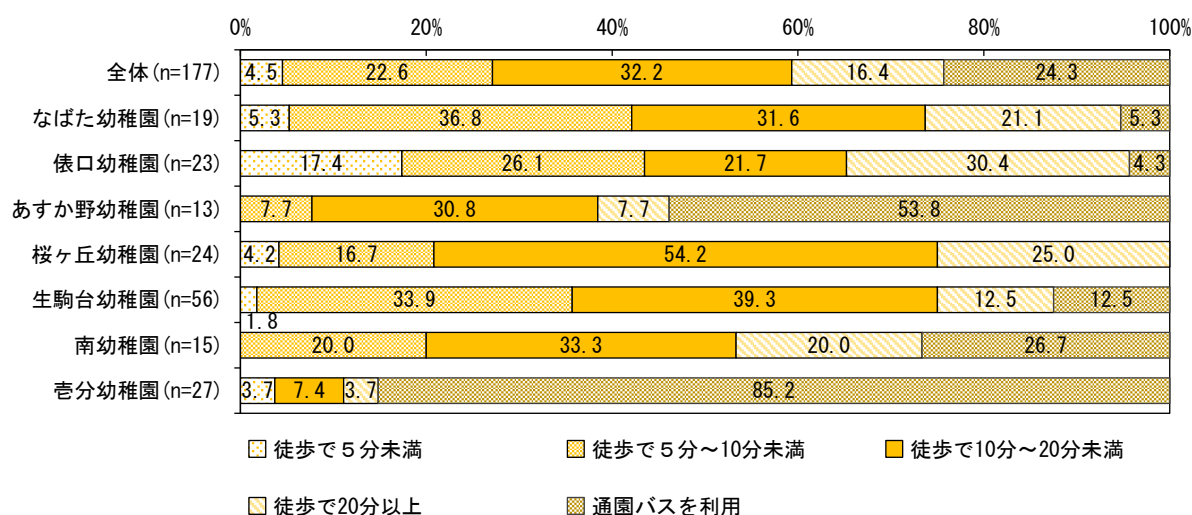


幼稚園への通園時間

通園時間について、全体では「徒歩で 10～20 分未満」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「通園バスを利用」の割合が 24.3%となっています。

あすか野幼稚園と壱分幼稚園では「通園バスを利用」の割合が、全体と比べて高くなっています。

■ 幼稚園への通園時間

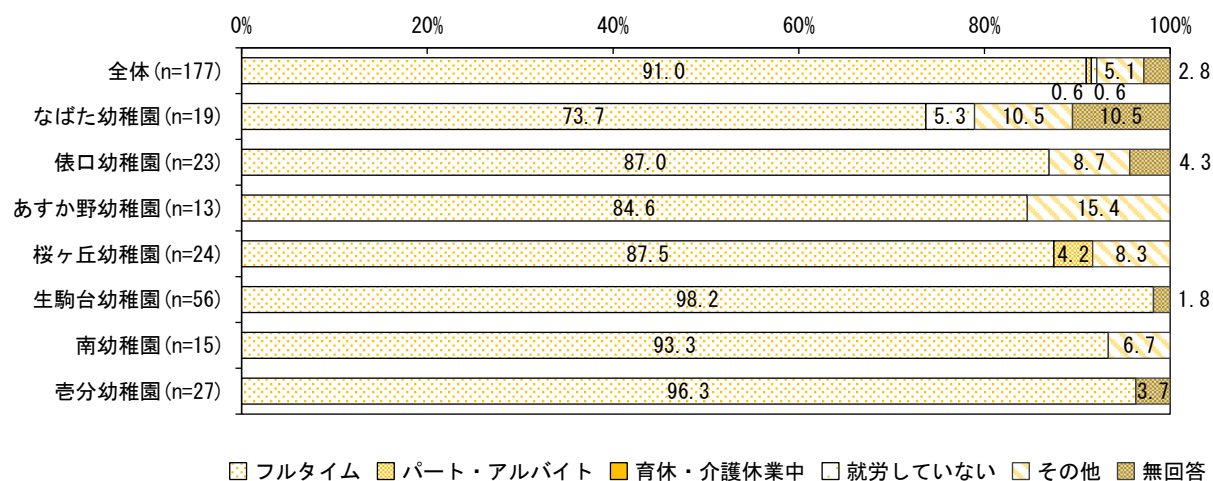


就労状況

父親の就労状況について、全体では「フルタイム」の割合が 91.0%、「その他」の割合が 5.1%、「パート・アルバイト」「育休・介護休業中」の割合が 0.6%となっています。

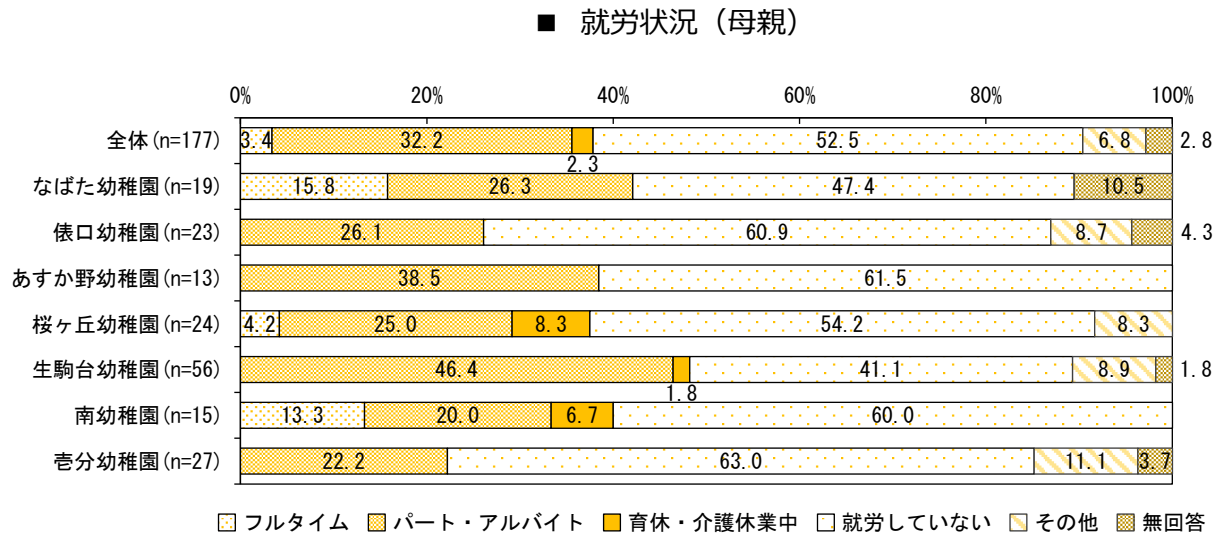
「フルタイム」の割合、生駒台幼稚園が 98.2%と最も高く、なばた幼稚園が 73.7%と最も低い水準となっています。

■ 就労状況（父親）



母親の就労状況について、全体では「就労していない」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 32.2%、「その他」の割合が 6.8%、「フルタイム」の割合が 3.4%、「育休・介護休業中」の割合が 2.3%の順となっています。

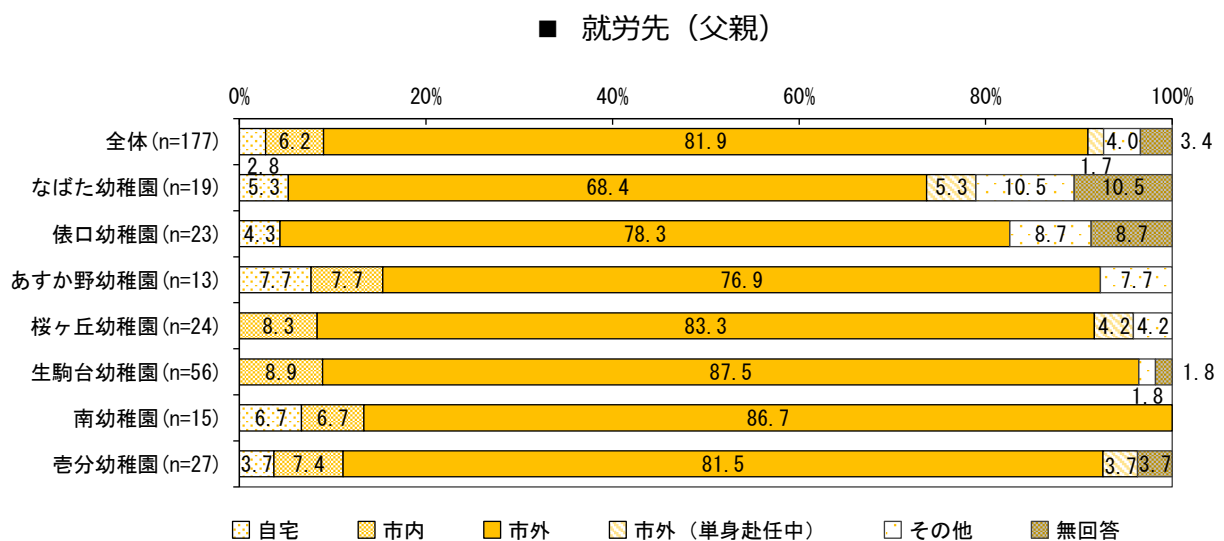
なばた幼稚園では「フルタイム」の割合が、生駒台幼稚園とあすか野幼稚園では「パート・アルバイト」の割合が、全体と比べて高くなっています。



就労先

父親の就労先について、全体では「市外」の割合が 81.9%、「市内」の割合が 6.2%、「その他」の割合が 4.0%となっています。

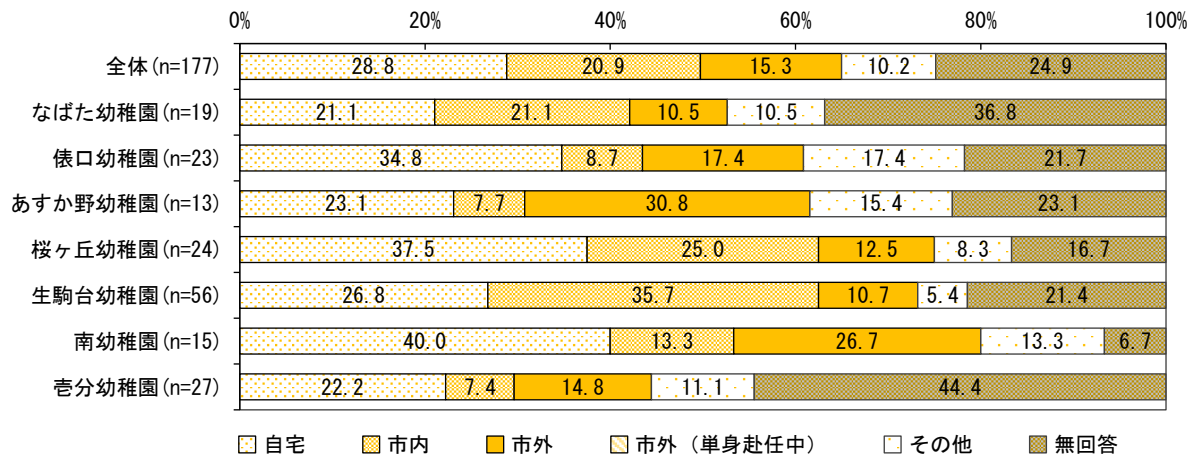
幼稚園別でみると、「市外」での就労は生駒台幼稚園が 87.5%と最も高く、なばた幼稚園が 68.4%と最も低くなっています。また、「自宅」「市内」を合わせた『市内』で就労している方は、あすか野幼稚園が 15.4%と最も高くなっています。



母親の就労先について、全体では「自宅」の割合が 28.8%と最も高く、次いで「市内」の割合が 20.9%、「市外」の割合が 15.3%となっています。

あすか野幼稚園と南幼稚園では「市外」の割合が、全体と比べて高くなっています。

■ 就労先（母親）



入園時に見学・検討した施設（※公立幼稚園以外）

入園前に見学・検討した公立幼稚園以外の施設について、全体では「特になし」の割合が 46.9%と最も高く、「私立幼稚園」の割合が 31.6%、「公立保育園」の割合が 20.9%、「公立認定こども園」の割合が 19.2%となっています。

幼稚園別でみると、桜ヶ丘幼稚園では「私立幼稚園」の割合が最も高い一方で、その他の園では「特になし」の割合が最も高くなっています。また、なばた幼稚園では「公立認定こども園」の割合が、あすか野幼稚園と生駒台幼稚園では「私立幼稚園」の割合が高くなっています。

■ 見学・検討した施設

	合計	私立幼稚園	公立保育園	私立保育園	公立認定こども園	私立認定こども園	特になし	その他
全体	177	31.6	20.9	6.2	19.2	7.9	46.9	1.1
なばた幼稚園	19	26.3	26.3	10.5	36.8	0.0	42.1	0.0
俵口幼稚園	23	21.7	17.4	0.0	17.4	0.0	60.9	0.0
あすか野幼稚園	13	30.8	23.1	15.4	7.7	7.7	38.5	7.7
桜ヶ丘幼稚園	24	41.7	37.5	0.0	16.7	4.2	29.2	4.2
生駒台幼稚園	56	33.9	21.4	8.9	14.3	14.3	48.2	0.0
南幼稚園	15	33.3	20.0	13.3	33.3	6.7	60.0	0.0
壱分幼稚園	27	29.6	3.7	0.0	18.5	11.1	48.1	0.0

※無回答は0人でした。

公立幼稚園を選んだ主な理由

公立幼稚園を選ぶ際に重視した点について、「自宅から近い」の割合が 62.7%と最も高く、次いで「小学校と連携している」の割合が 42.9%、「金銭的負担が少ない」の割合が 33.3%、「兄弟や近所の知り合いの子が通っている」の割合が 22.6%となっています。

幼稚園別でみると、あすか野幼稚園では「自宅から近い」と「先生の対応が良い」の割合が、生駒台幼稚園では「小学校と連携している」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

■ 公立幼稚園を選んだ理由で重視した点

	合計	自宅から近い	金銭的負担が少ない	保育園に就園できなかった	兄弟や近所の知り合いの子が通っている	生活習慣が身につく	行事等による地域との交流がある	評判が良い
全体	177	62.7	33.3	9.6	22.6	4.5	6.8	3.4
なばた幼稚園	19	73.7	36.8	5.3	36.8	0.0	10.5	0.0
俵口幼稚園	23	60.9	39.1	8.7	17.4	4.3	8.7	4.3
あすか野幼稚園	13	53.8	23.1	0.0	23.1	15.4	0.0	15.4
桜ヶ丘幼稚園	24	62.5	33.3	12.5	25.0	4.2	4.2	4.2
生駒台幼稚園	56	57.1	23.2	8.9	23.2	1.8	5.4	3.6
南幼稚園	15	73.3	46.7	20.0	20.0	13.3	0.0	0.0
壱分幼稚園	27	66.7	44.4	11.1	14.8	3.7	14.8	0.0

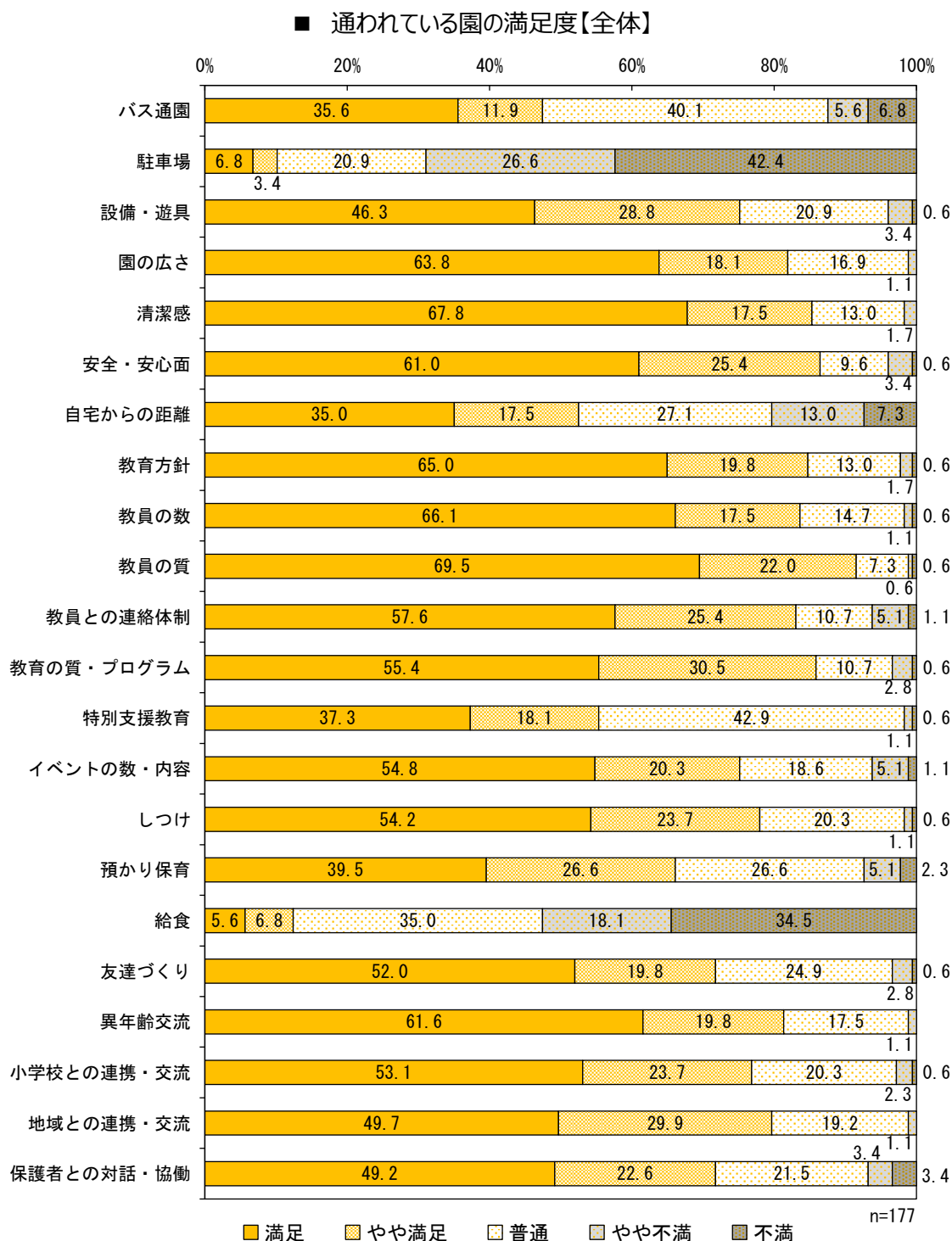
	合計	先生の対応が良い	保護者同士の関わりができる	保育内容・教育内容がよい	小学校と連携している	希望園に入園できる	特になし	その他
全体	177	19.8	4.0	15.3	42.9	3.4	2.3	4.5
なばた幼稚園	19	15.8	0.0	10.5	42.1	0.0	5.3	0.0
俵口幼稚園	23	17.4	0.0	13.0	47.8	8.7	4.3	0.0
あすか野幼稚園	13	53.8	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	23.1
桜ヶ丘幼稚園	24	8.3	8.3	25.0	37.5	0.0	4.2	8.3
生駒台幼稚園	56	25.0	7.1	14.3	67.9	3.6	0.0	1.8
南幼稚園	15	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0
壱分幼稚園	27	18.5	3.7	18.5	33.3	3.7	0.0	7.4

※無回答は0人でした。

こどもが通う園の現在の満足度・重要度

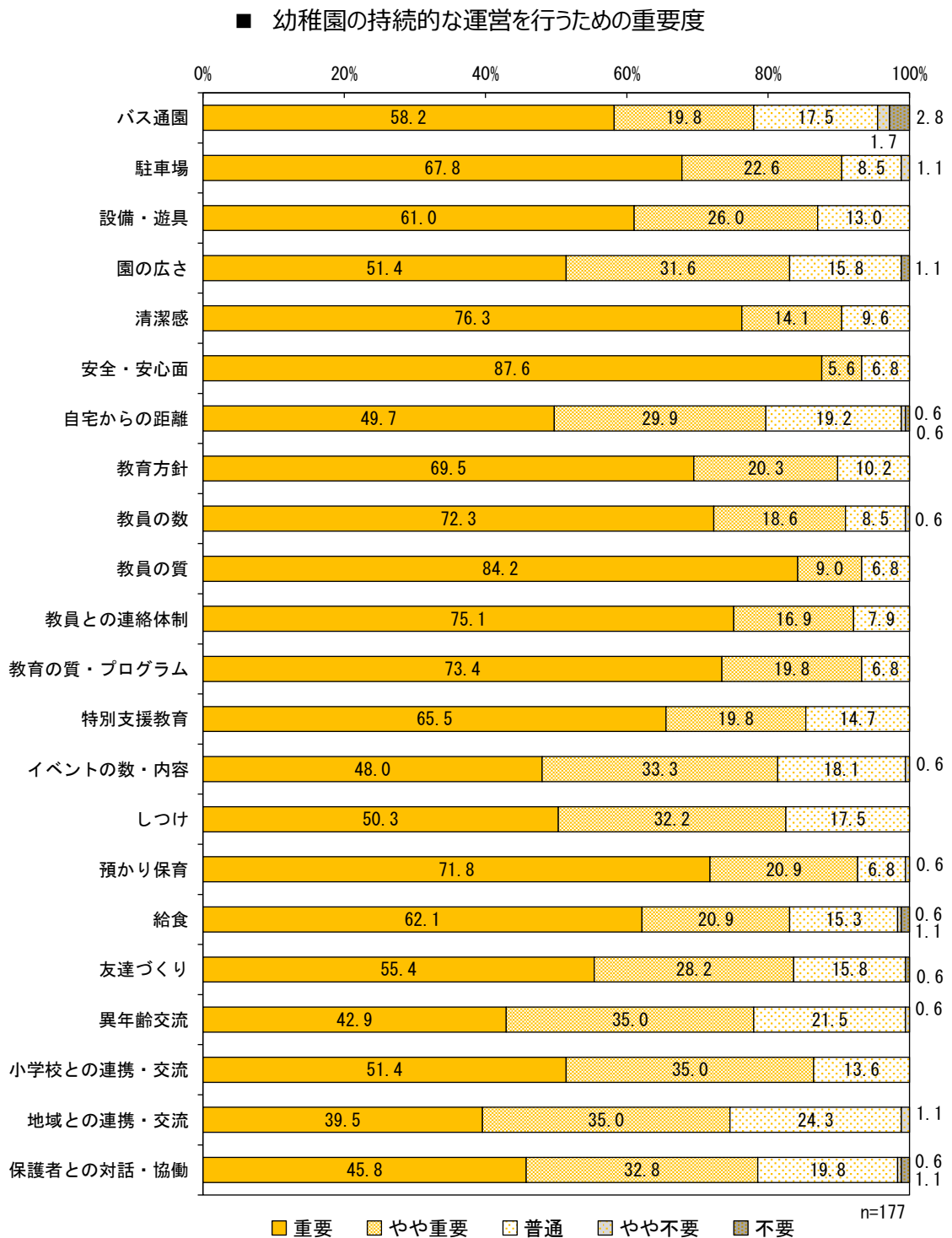
通われている園の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「教員の質」の割合が91.5%と最も高く、次いで「安全・安心面」の割合が86.4%、「清潔感」の割合が85.3%と高くなっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が69.0%と最も高く、次いで「給食」の割合が52.6%、「自宅からの距離」の割合が20.3%となっています。



幼稚園の将来の持続的な運営を行うための重要度のうち「重要」（重要＋やや重要）について、「安全・安心面」「教員の質」「教育の質・プログラム」「預かり保育」の割合がいずれも 93.2%と最も高く、次いで「預かり保育」の割合が 92.7%となっています。

その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、いずれも 1 割に達しておらず、「バス通園」の割合が 4.5%と最も高くなっています。

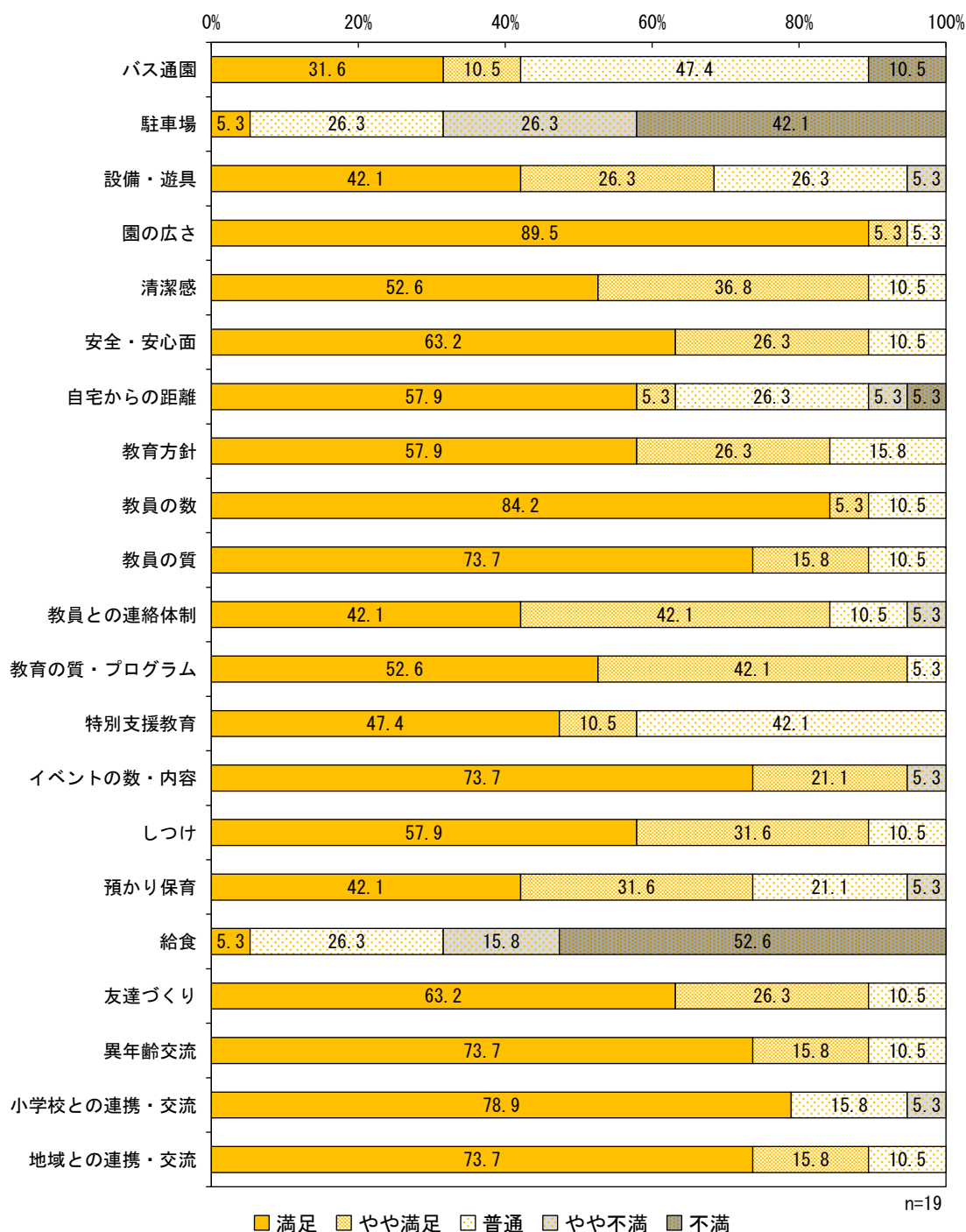


(1) なばた幼稚園

なばた幼稚園に通う児童の保護者の、現在の満足度については「満足」（満足＋やや満足）について、「園の広さ」「教育の質・プログラム」「イベントの数・内容」の割合が最も高くなっています。

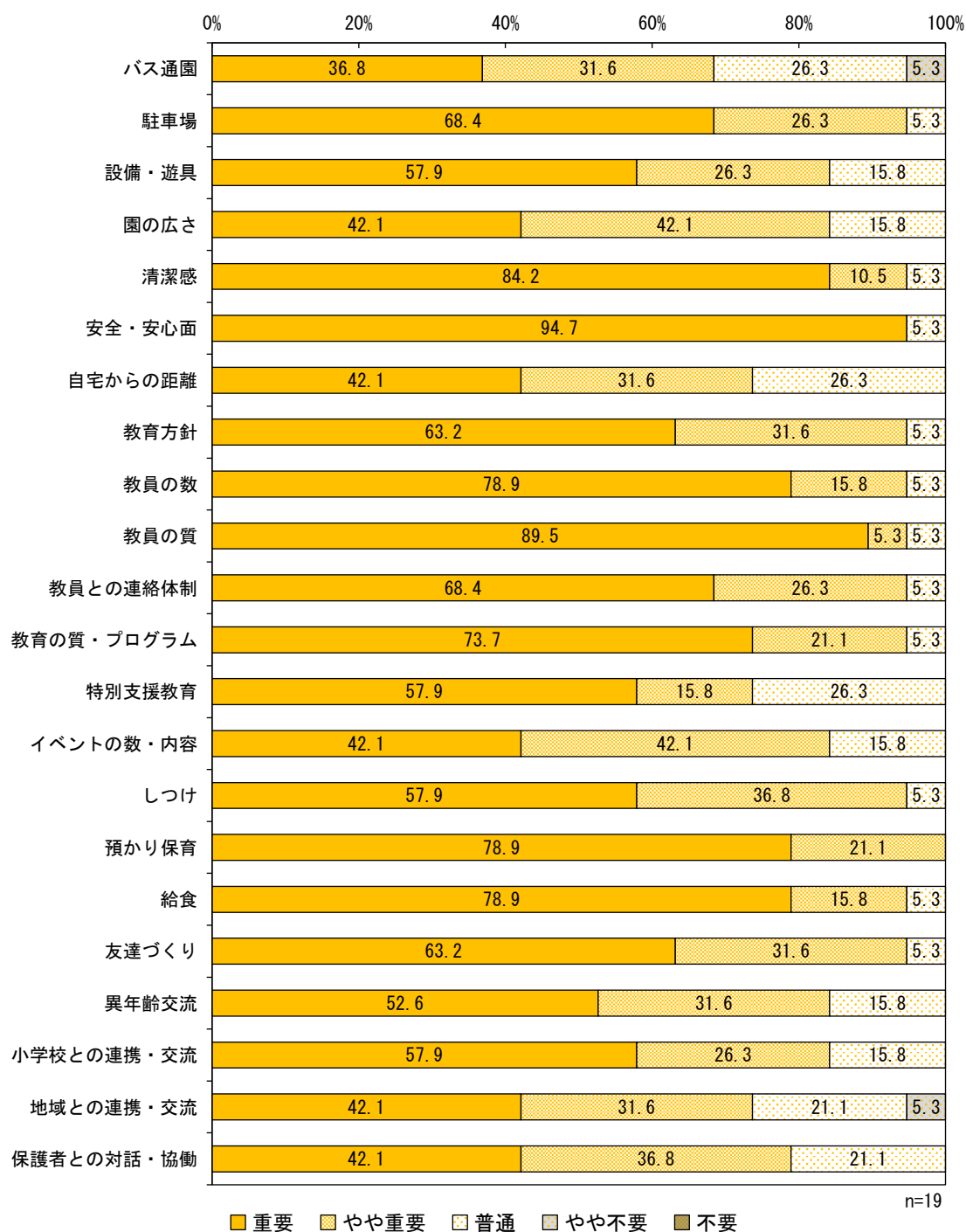
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」「給食」の割合が 68.4%と最も高くなっています。

■ 通われている園の満足度【なばた幼稚園】



なばた幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための項目について、その重要度は、「重要」で「安全・安心面」の割合が 94.7%と最も高くなっており、「重要」（重要＋やや重要）で「預かり保育」の割合が 100.0%と最も高くなっています。

■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【なばた幼稚園】

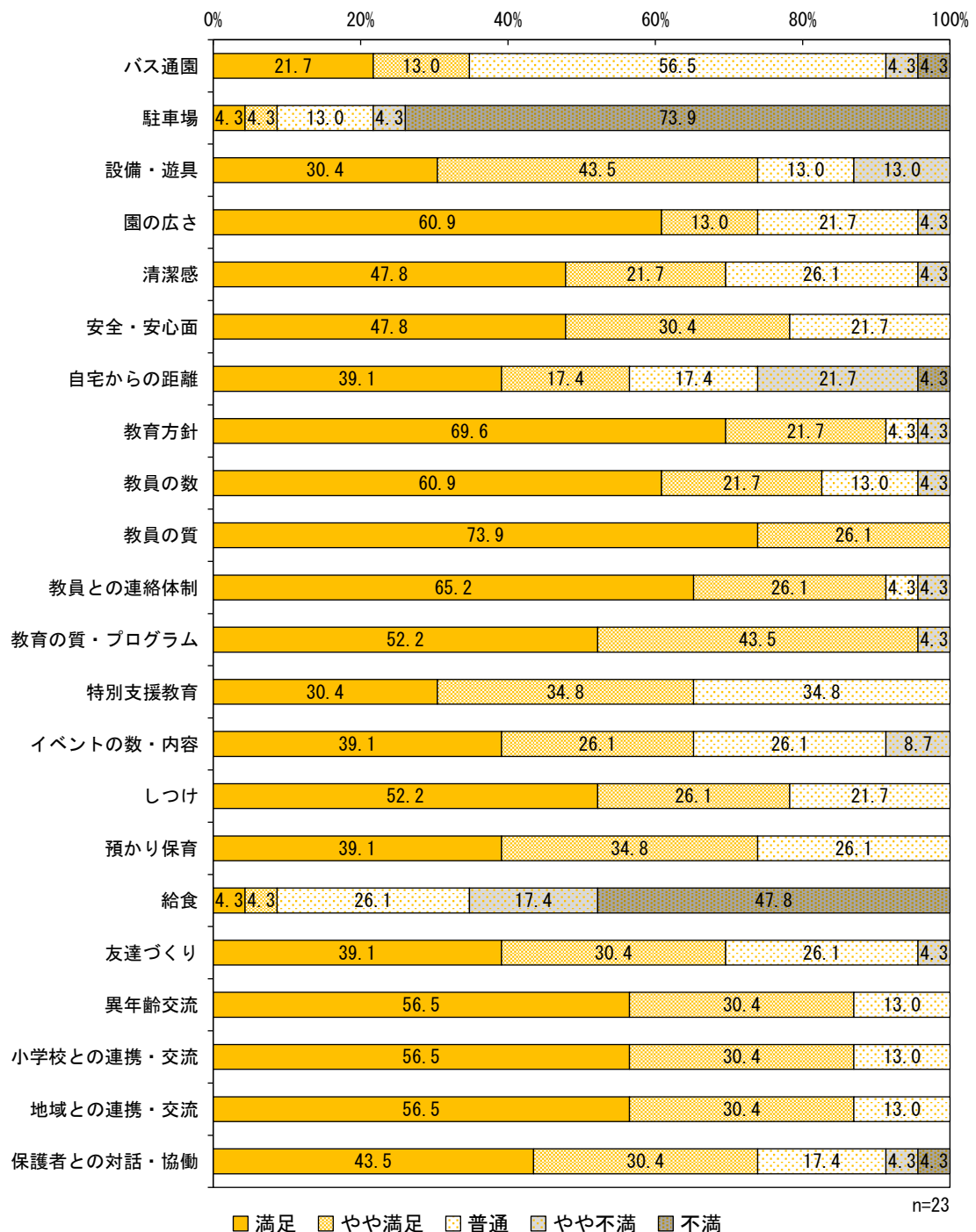


（２）俵口幼稚園

俵口幼稚園に通う保護者の現在の満足度については、「満足」（満足＋やや満足）のうち、「教員の質」の割合が 100.0%と最も高くなっており、次いで「教育の質・プログラム」の割合が 95.7%となっています。

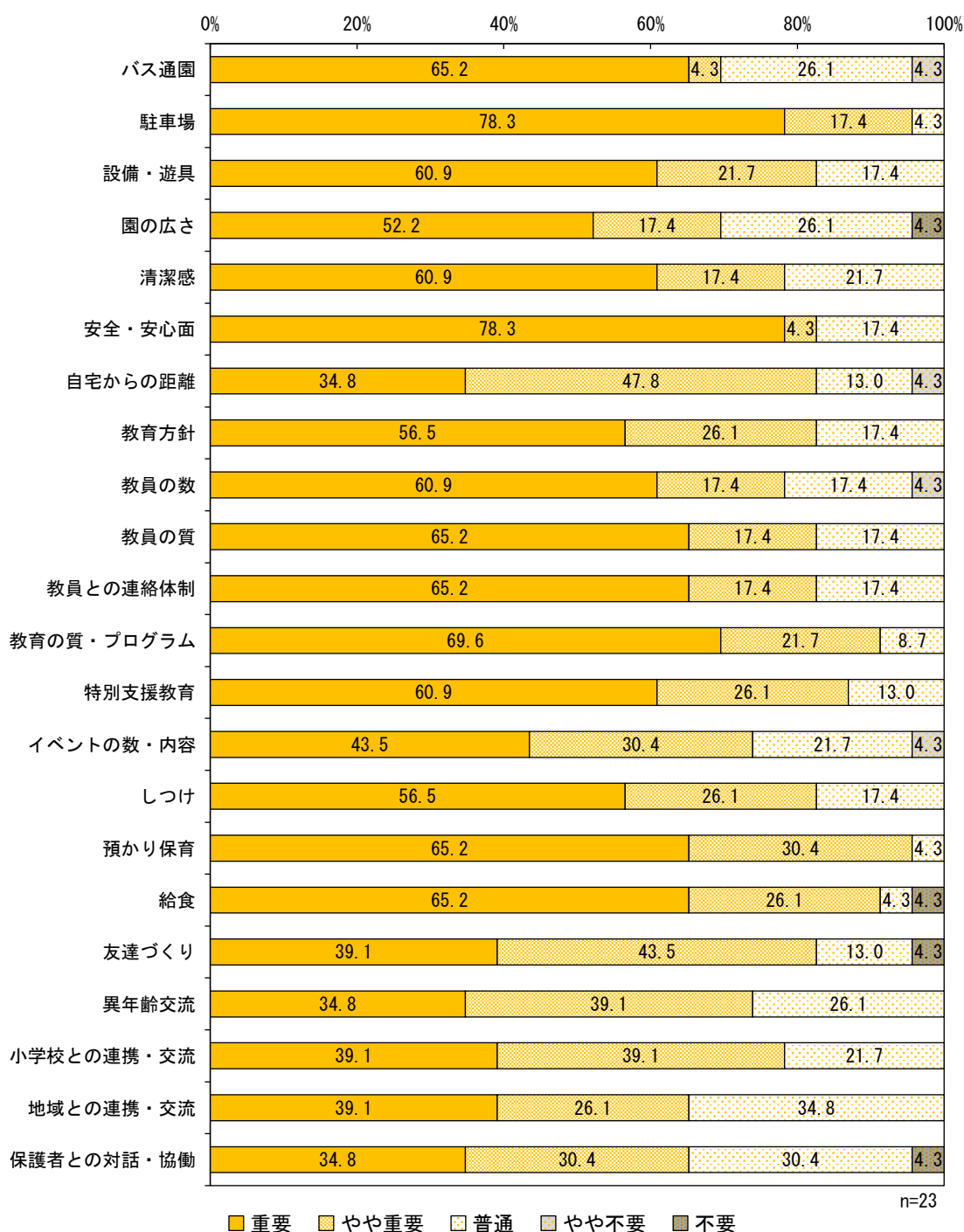
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が 78.2%と最も高く、次いで「給食」の割合が 65.2%、「自宅からの距離」の割合が 26.0%となっています。

■ 通われている園の満足度【俵口幼稚園】



俵口幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための項目について、その重要度は、「重要」では「駐車場」「安全・安心面」の割合が 78.3%と最も高くなっており、「重要」（重要＋やや重要）では「駐車場」の割合が 95.7%、「預かり保育」の割合が 95.6%と高くなっています。

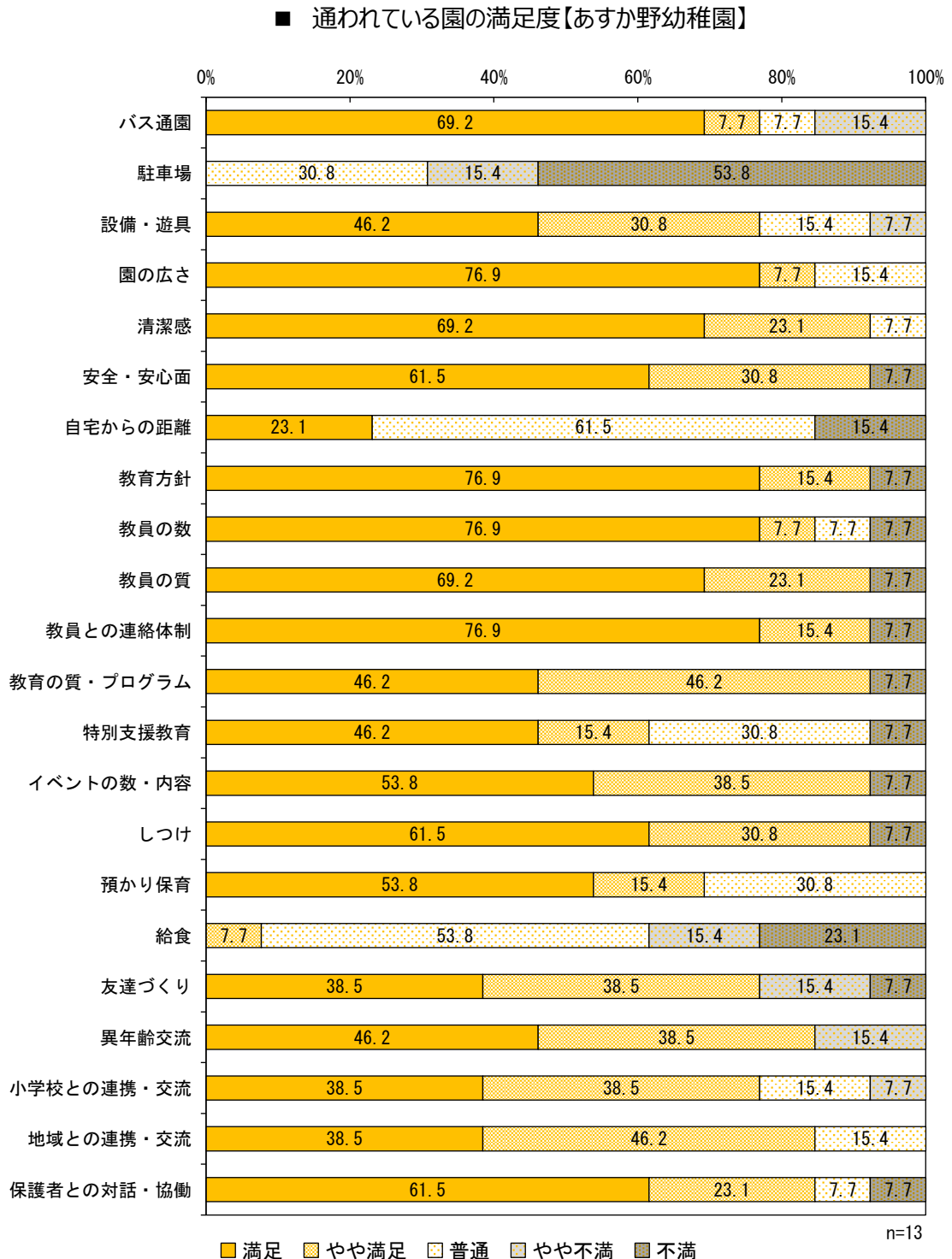
■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【俵口幼稚園】



（３）あすか野幼稚園

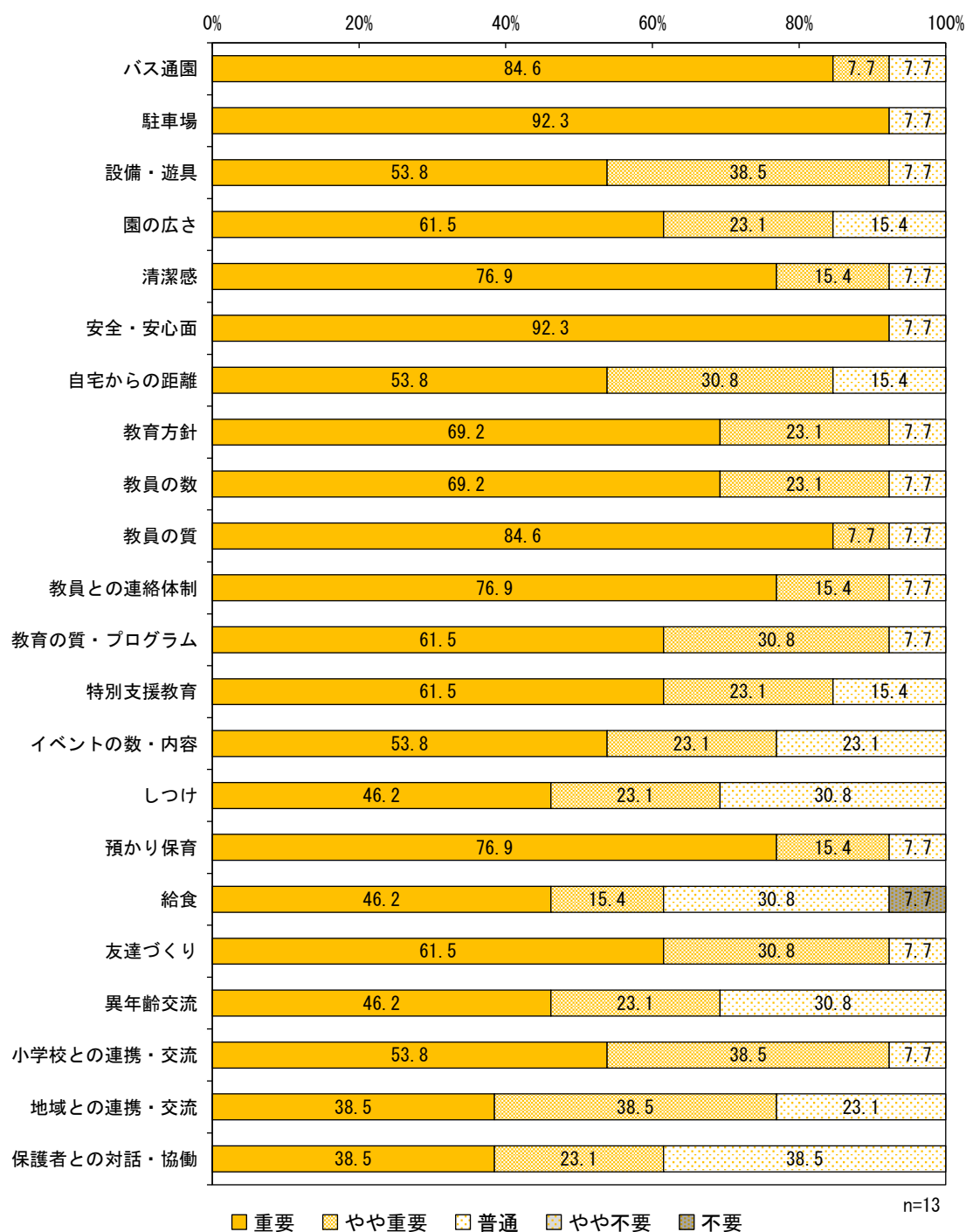
あすか野幼稚園に通う児童の満足度は「満足」（満足＋やや満足）について、「清潔感」「安全・安心面」「教育方針」「教員の質」「教員との連絡体制」「教育の質・プログラム」「イベントの数・内容」「しつけ」の割合が最も高くなっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「給食」の割合が 38.5%、「友達づくり」の割合が 23.1%となっています。



あすか野幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための重要な項目について、「重要」では「駐車場」「安全・安心面」の割合が 92.3%と最も高くなっており、次いで「バス通園」「教員の質」の割合が 84.6%となっています。

■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【あすか野幼稚園】

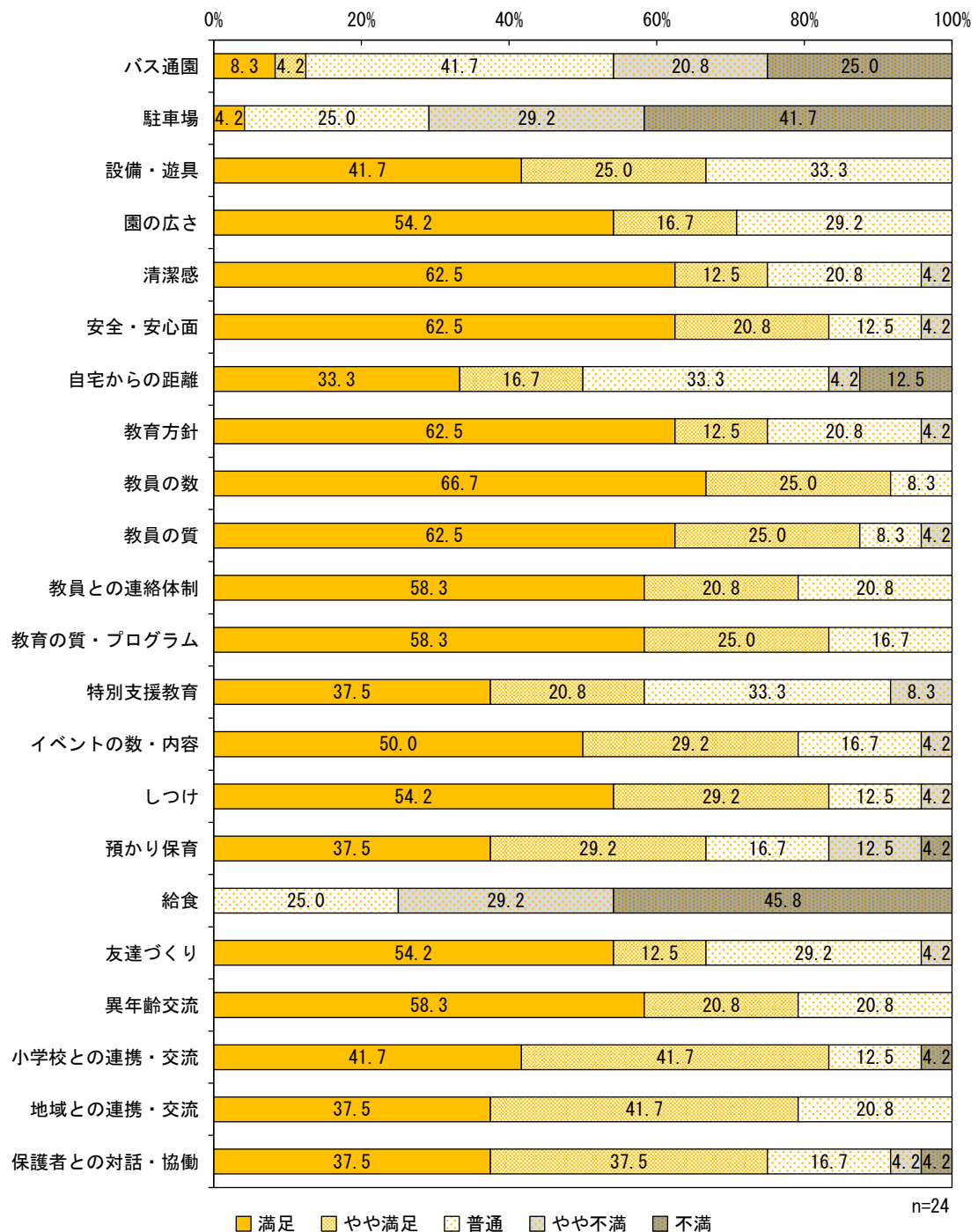


(4) 桜ヶ丘幼稚園

桜ヶ丘幼稚園に通う保護者の現在の満足度は「満足」（満足＋やや満足）について、「教員の数」の割合が91.7%と最も多く、次いで「教員の質」の割合が87.5%となっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「給食」の割合が75.0%と最も高く、次いで「駐車場」の割合が70.9%、「バス通園」の割合が45.8%となっています。

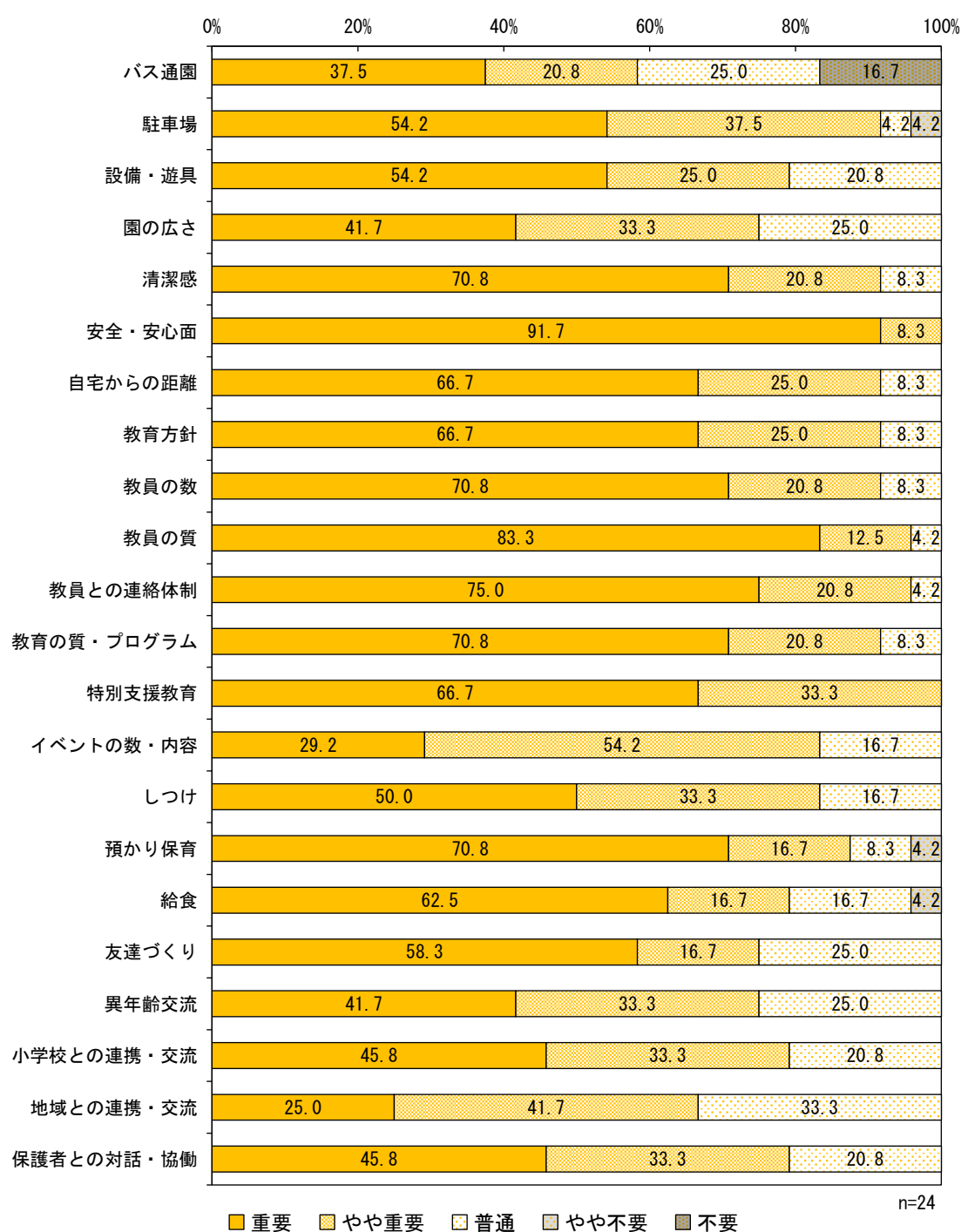
■ 通われている園の満足度【桜ヶ丘幼稚園】



桜ヶ丘幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うために重要な項目のうち、「重要」では、「安全・安心面」の割合が 91.7%と最も高く、次いで「教員の質」の割合が 83.3%となっています。また、「重要」（重要+やや重要）では「安全・安心面」「特別支援教育」の割合が 100.0%と高くなっています。

その一方で「不要」（不要+やや不要）については、「バス通園」の割合が 16.7%と最も高くなっています。

■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【桜ヶ丘幼稚園】

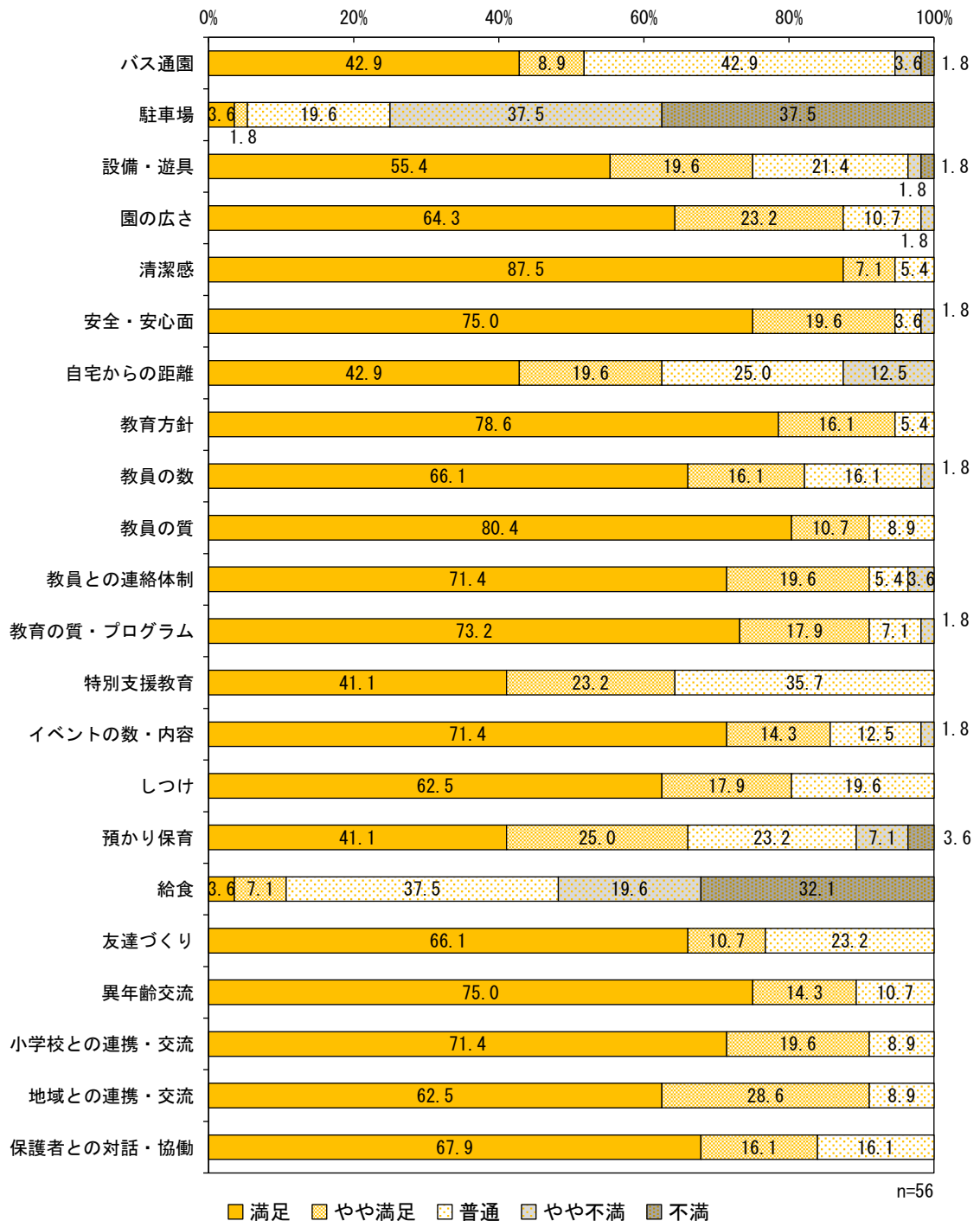


（５）生駒台幼稚園

生駒台幼稚園に通う児童の現在の満足度は「満足」（満足＋やや満足）について、「清潔感」「安全・安心面」「教育方針」の割合が最も高くなっています。

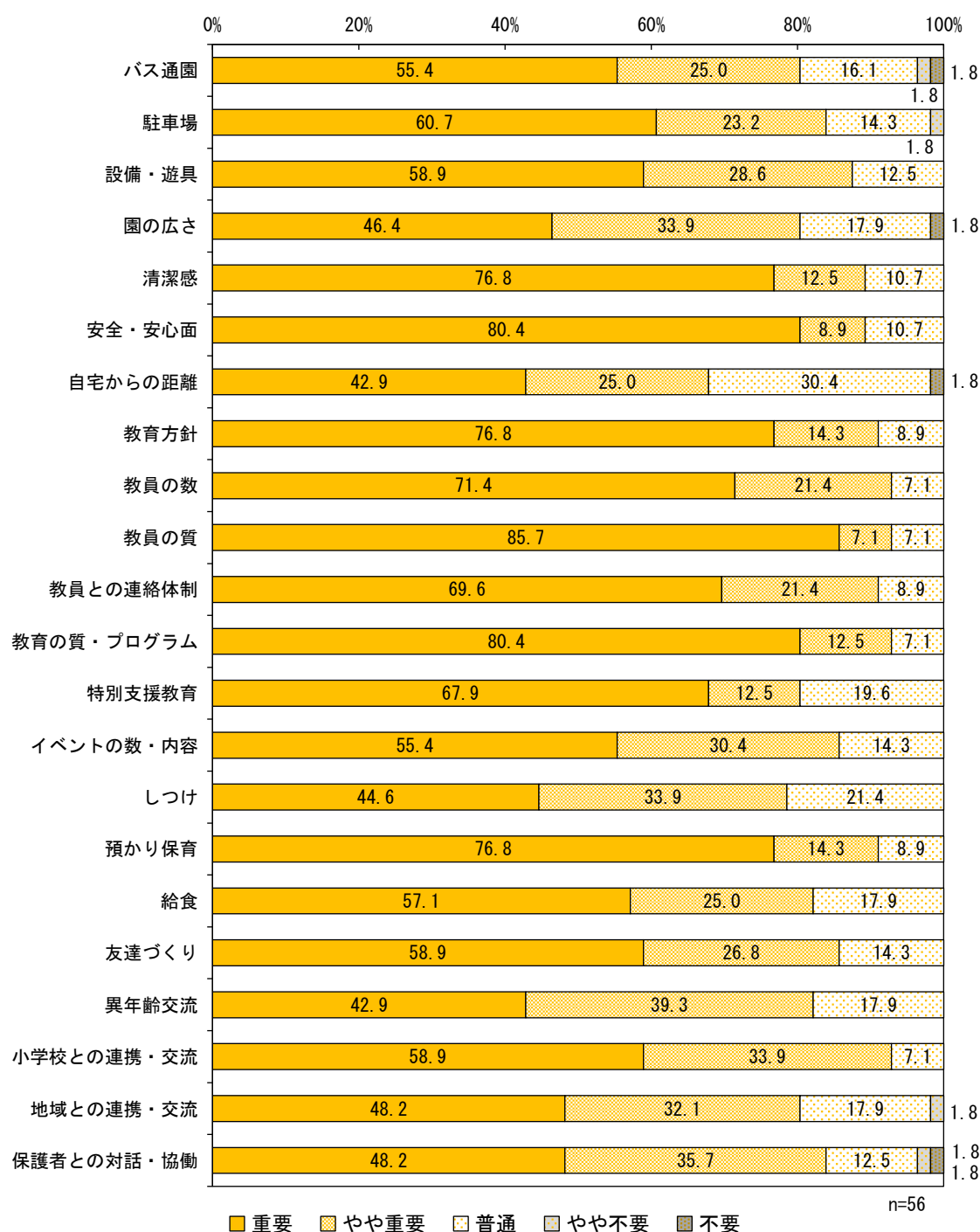
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が 75.0%と最も高く、次いで「給食」の割合が 51.7%となっています。

■ 通われている園の満足度【生駒台幼稚園】



生駒台幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための重要な項目のうち、「重要」では「教員の質」の割合が 85.7%と最も高くなっており、次いで「安全・安心面」「教育の質・プログラム」の割合が 80.4%となっています。また、「重要」（重要+やや重要）では「教員の数」「教員の質」「教育の質・プログラム」「小学校との連携・交流」の割合が高くなっています。

■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【生駒台幼稚園】

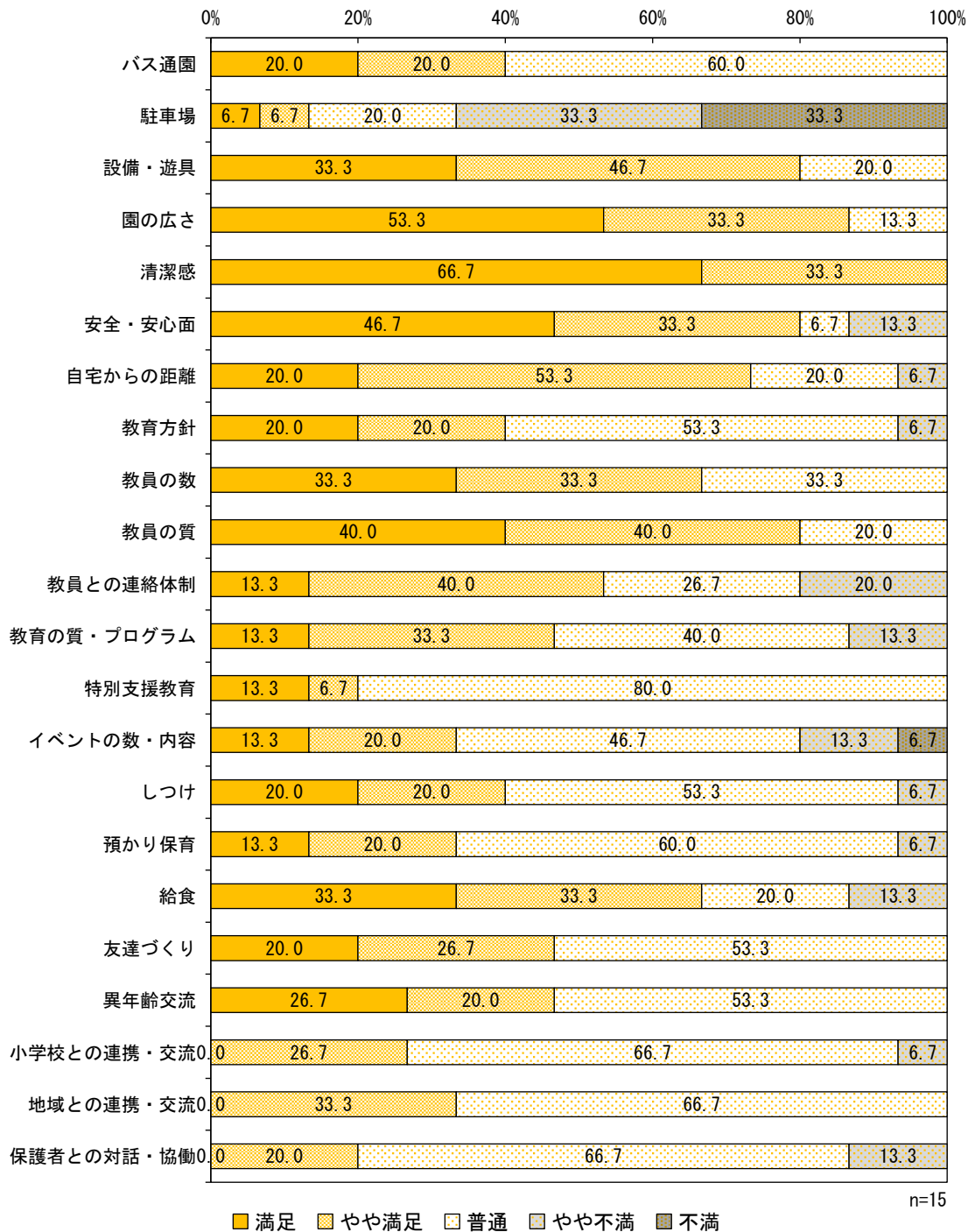


（６）南幼稚園

南幼稚園に通う児童の保護者の満足度は「満足」（満足＋やや満足）について、「清潔感」の割合が100.0%と最も高く、次いで「園の広さ」の割合が86.6%となっています。

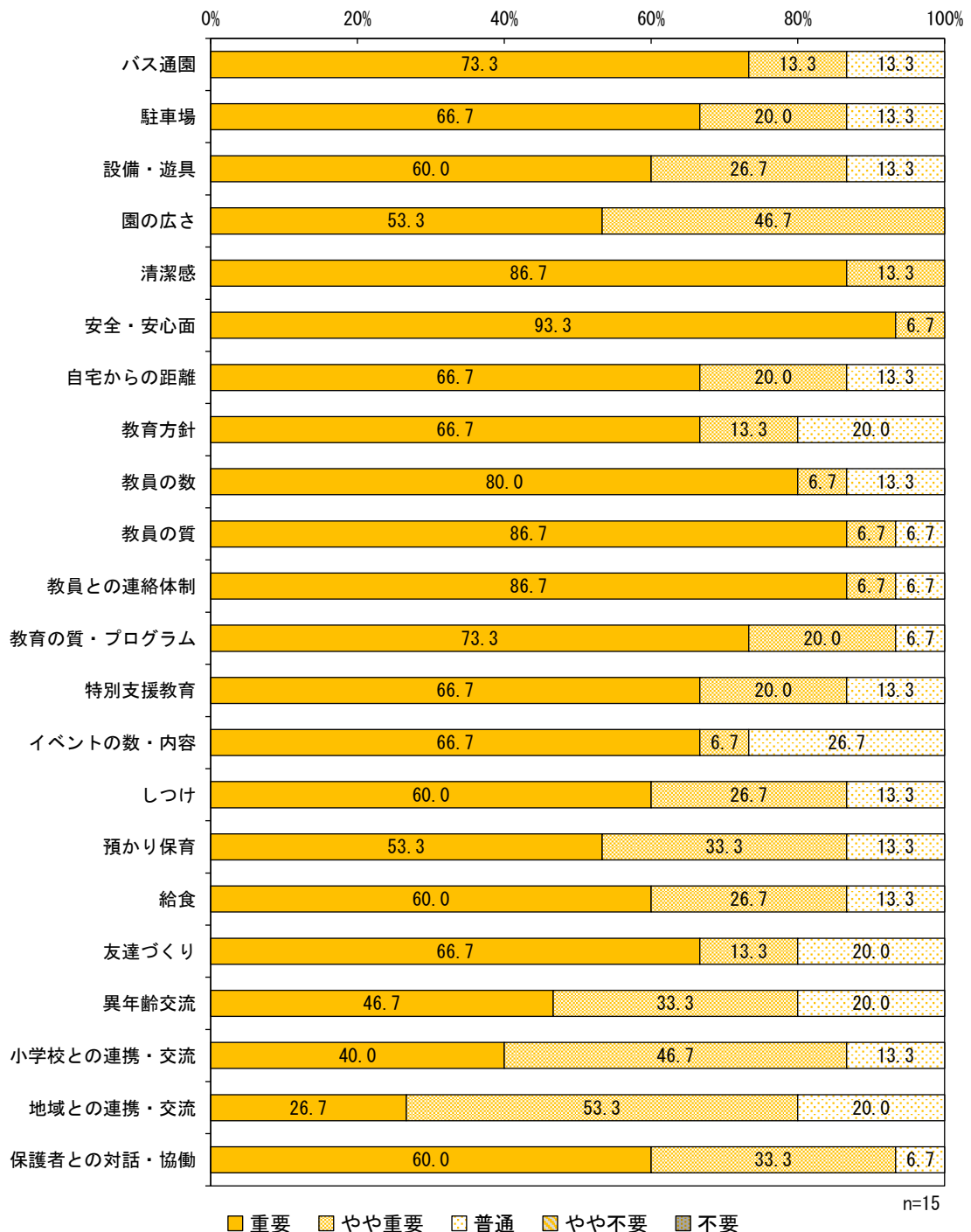
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が66.6%と最も高く、次いで「教員との連絡体制」「イベントの数・内容」の割合が20.0%となっています。

■ 通われている園の満足度【南幼稚園】



南幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための重要な項目のうち、「重要」では「安全・安心面」の割合が 93.3%と最も高く、次いで「清潔感」「教員の質」「教員との連絡体制」の割合が 86.7%となっています。また、「重要」（重要＋やや重要）では「園の広さ」「清潔感」「安全・安心面」の割合が 100.0%と高くなっています。

■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【南幼稚園】

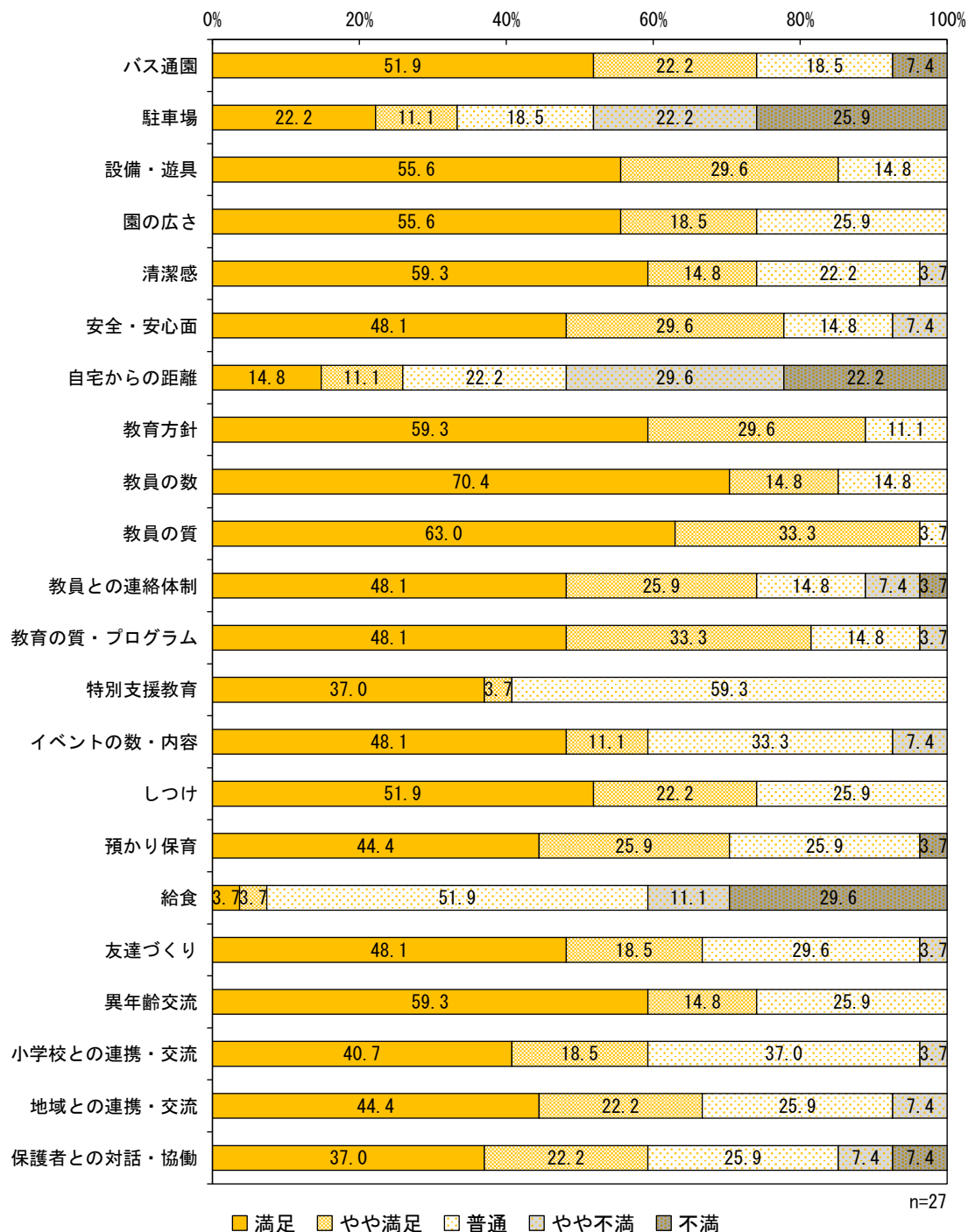


（７）壱分幼稚園

壱分幼稚園に通う児童の保護者の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「教員の質」の割合が 96.3%と最も高く、次いで「教育方針」の割合が 88.9%、「設備・遊具」「教員の数」の割合が 85.2%となっています。

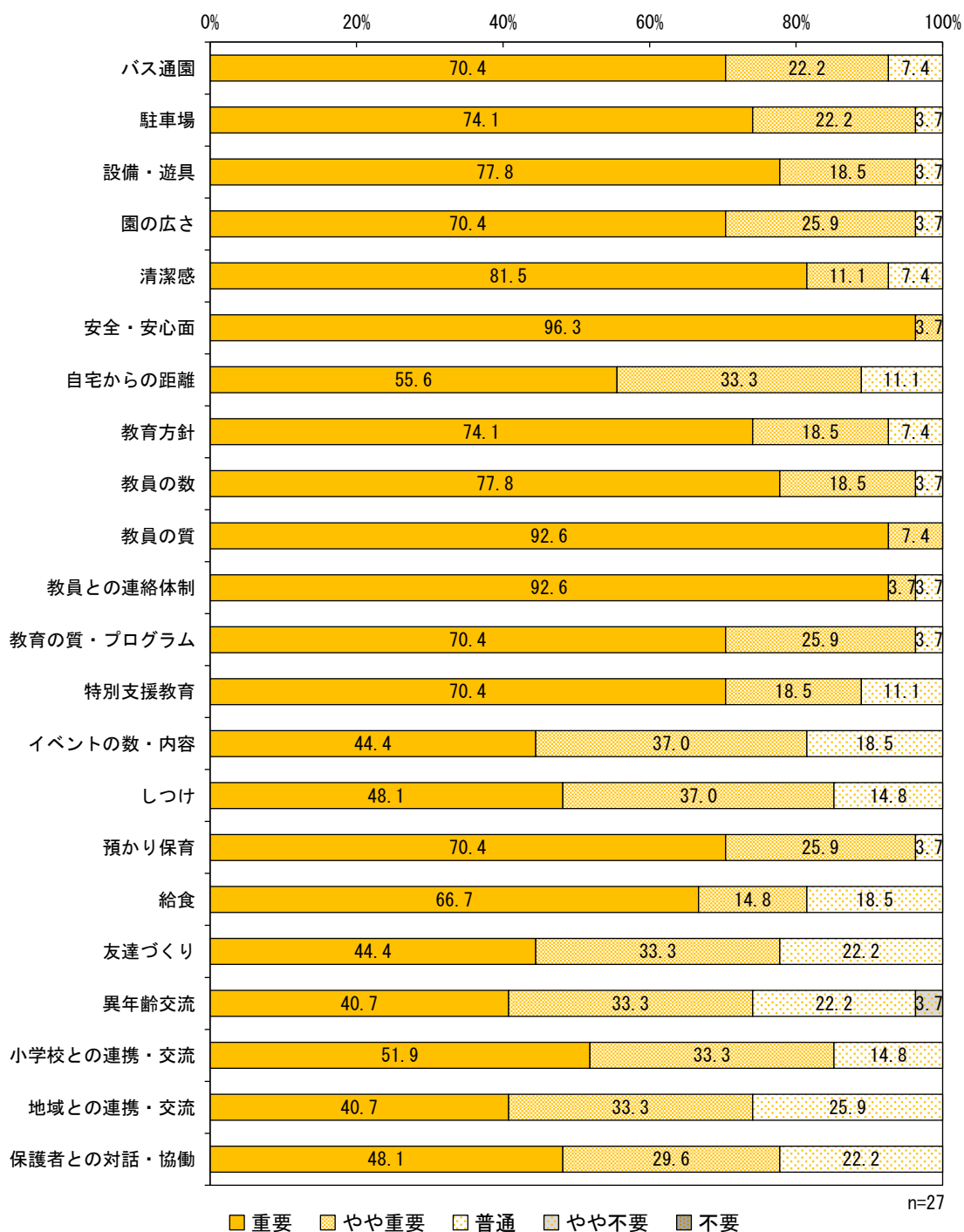
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「自宅からの距離」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「駐車場」の割合が 48.1%、「給食」の割合が 40.7%となっています。

■ 通われている園の満足度【壱分幼稚園】



壱分幼稚園に通う児童の保護者が考える幼稚園が将来にわたり持続的な運営を行うための重要な項目のうち、「重要」では「安全・安心面」の割合が 96.3%と最も高くなっており、次いで「教員の質」「教員との連絡体制」の割合が 92.6%となっています。また、「重要」（重要+やや重要）では「安全・安心面」「教員の質」の割合が 100.0%と最も高く、次いで「駐車場」「設備・遊具」「園の広さ」「教員の数」「教員との連絡体制」「教育の質・プログラム」「預かり保育」の割合が 96.3%となっています。

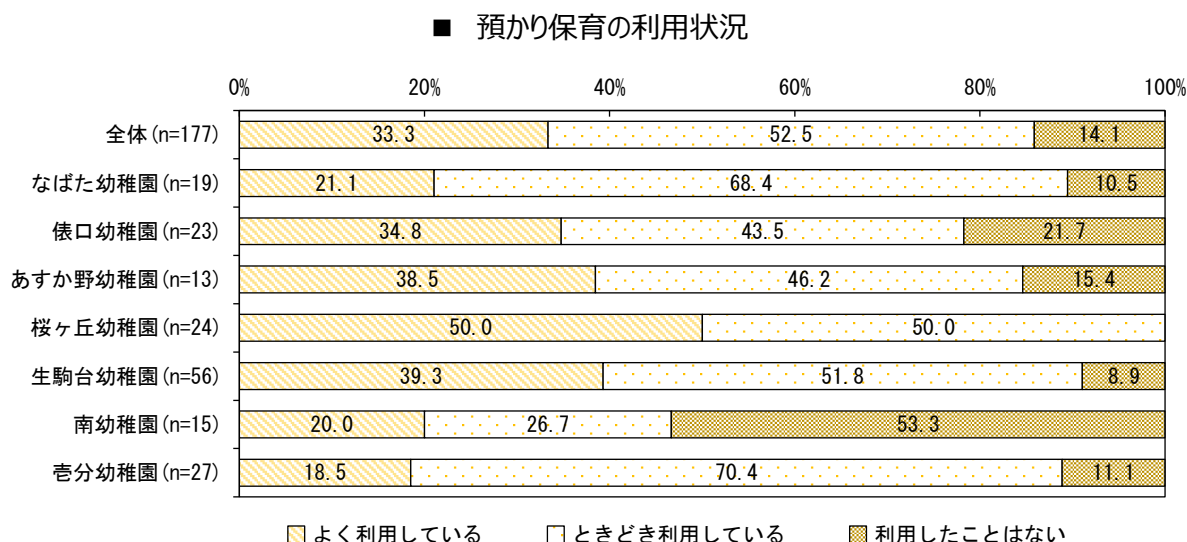
■ 幼稚園の持続的な運営を行うための重要度【壱分幼稚園】



預かり保育の利用状況

預かり保育の利用状況について、全体では「ときどき利用している」の割合が 52.5%で、「よく利用している」の割合と合わせると、8 割以上の方が利用しています。

幼稚園別でみると、南幼稚園では「利用したことがない」の割合が 53.3%で、全体と比べて高くなっています。



預かり保育に対する要望

預かり保育に対する要望について、「利用料の負担軽減」の割合が46.9%と最も高く、「特になし」の割合が 29.4%、「長期休養中（夏・冬・春休み）の実施」の割合が 24.3%、「預かり時間の延長」の割合が 20.9%となっています。

■ 預かり保育に対する要望

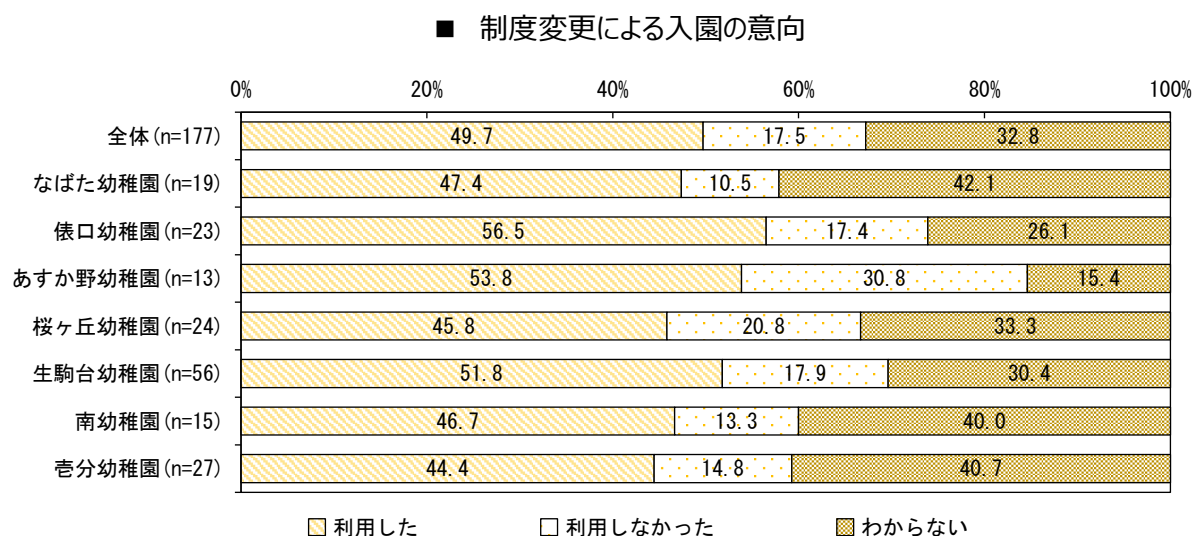
	合計	預かり時間の延長	長期休養中（夏・冬・春休み）の実施	土曜日の実施	利用料の負担軽減	特になし	その他	無回答
全体	177	20.9	24.3	11.3	46.9	29.4	3.4	0.0
なばた幼稚園	19	31.6	21.1	5.3	42.1	31.6	5.3	0.0
俵口幼稚園	23	17.4	13.0	17.4	47.8	30.4	4.3	0.0
あすか野幼稚園	13	30.8	15.4	7.7	53.8	23.1	7.7	0.0
桜ヶ丘幼稚園	24	16.7	41.7	25.0	50.0	16.7	0.0	0.0
生駒台幼稚園	56	19.6	26.8	3.6	48.2	32.1	1.8	0.0
南幼稚園	15	13.3	0.0	26.7	53.3	26.7	6.7	0.0
壱分幼稚園	27	22.2	33.3	7.4	37.0	37.0	3.7	0.0

※無回答は0人でした。

満3歳の翌月から入園ができる制度の利用意向

満3歳の翌月から入園できる制度があった場合の利用状況については、全体では「利用した」の割合が49.7%、「利用しなかった」の割合が17.5%となっています。

幼稚園別でも、どの園も「利用した」の割合が約50%と最も高くなっています。



公立幼稚園にあればいいサービス

公立幼稚園にあればいいと思うサービスについて、全体では「お弁当や給食の提供がある」の割合が80.2%と最も高くなっています。

幼稚園別でみると、南幼稚園では「駐車場を利用して送迎できる」の割合が73.3%と最も高く、他園では「お弁当や給食の提供がある」の割合が高くなっています。

公立幼稚園にあればいいサービス

	合計	受け入れ開始時間が早い	お弁当や給食の提供がある	預かり保育等により、長時間の教育・保育が受けられる	長期休暇期間中の教育・保育が受けられる	駐車場を利用して送迎できる	特になし	その他
全体	177	11.9	80.2	20.3	16.9	54.8	1.1	0.6
なばた幼稚園	19	15.8	100.0	10.5	10.5	36.8	0.0	0.0
俵口幼稚園	23	17.4	91.3	8.7	4.3	69.6	0.0	0.0
あすか野幼稚園	13	7.7	76.9	46.2	7.7	61.5	0.0	0.0
桜ヶ丘幼稚園	24	12.5	75.0	20.8	33.3	50.0	0.0	0.0
生駒台幼稚園	56	14.3	78.6	17.9	16.1	55.4	1.8	0.0
南幼稚園	15	0.0	46.7	40.0	20.0	73.3	0.0	0.0
壱分幼稚園	27	7.4	85.2	18.5	22.2	44.4	3.7	3.7

※無回答は0人でした。

公立幼稚園のいいところ

実際に公立幼稚園を利用されている立場から思う公立幼稚園のいいところについて、全体では、「参観や行事などを通して園での様子がよくわかる」の割合が 66.1%で最も高く、次いで「適正な規模での教育・保育が受けられる」の割合が 65.0%、「地域との交流がある」の割合が 46.3%となっています。

幼稚園別でみると、生駒台幼稚園と南幼稚園では「適正な規模での教育・保育が受けられる」の割合が、あすか野幼稚園では「質の高い教育・保育が受けられる」がそれぞれ最も高く、他園では「参観や行事などを通して園での様子がよくわかる」の割合が高くなっています。

■ 公立幼稚園のいいところ

	合計	適正な規模での教育・保育が受けられる	質の高い教育・保育が受けられる	異年齢の子と交流できる	参観や行事などを通して園での様子がよくわかる	地域との交流がある	子育ての相談体制が充実している	保護者の日中の保育の状況が変わっても継続して利用できる	わからない	その他
全体	177	65.0	39.5	38.4	66.1	46.3	20.3	39.0	5.1	2.8
なばた幼稚園	19	68.4	36.8	52.6	78.9	73.7	26.3	57.9	0.0	0.0
俵口幼稚園	23	52.2	30.4	39.1	73.9	47.8	17.4	39.1	4.3	8.7
あすか野幼稚園	13	69.2	76.9	38.5	46.2	30.8	23.1	23.1	7.7	0.0
桜ヶ丘幼稚園	24	58.3	37.5	29.2	62.5	20.8	20.8	37.5	12.5	4.2
生駒台幼稚園	56	75.0	48.2	37.5	69.6	53.6	17.9	39.3	0.0	1.8
南幼稚園	15	46.7	0.0	40.0	33.3	20.0	6.7	33.3	26.7	0.0
壱分幼稚園	27	66.7	37.0	37.0	74.1	55.6	29.6	37.0	0.0	3.7

※無回答は0人でした。

公立幼稚園に改善が必要と思うところ

実際に公立幼稚園を利用されている立場から思う公立幼稚園に改善が必要と思うところについて、全体では、「駐車場がなく、徒歩や自転車の通園が負担に感じる」の割合が63.8%と最も高く、次いで「親子イベントやPTA活動等、保護者の負担が多い」の割合が45.8%、「受入れ時間が短い」の割合が43.5%となっています。

幼稚園別でみると、あすか野幼稚園と桜ヶ丘幼稚園では「親子イベントやPTA活動等、保護者の負担が多い」の割合が、壱分幼稚園では「受入れ時間が短い」の割合が最も高くなっています。

■ 公立幼稚園の改善が必要と思うところ

	合計	親子イベントやPTA活動等、保護者の負担が多い	家庭の状況により、無償化になる対象に違いがあり不公平に感じる	カリキュラムが多く、こどもにとって慌ただしく感じる	駐車場がなく、徒歩や自転車の通園が負担に感じる	受入れ時間が短い	わからない	その他
全体	177	45.8	14.7	0.6	63.8	43.5	9.6	6.2
なばた幼稚園	19	52.6	0.0	0.0	63.2	57.9	15.8	5.3
俵口幼稚園	23	56.5	13.0	0.0	82.6	39.1	4.3	4.3
あすか野幼稚園	13	76.9	23.1	0.0	76.9	38.5	0.0	7.7
桜ヶ丘幼稚園	24	70.8	20.8	4.2	62.5	33.3	8.3	12.5
生駒台幼稚園	56	35.7	14.3	0.0	62.5	44.6	8.9	7.1
南幼稚園	15	20.0	26.7	0.0	66.7	26.7	20.0	0.0
壱分幼稚園	27	29.6	11.1	0.0	44.4	55.6	11.1	3.7

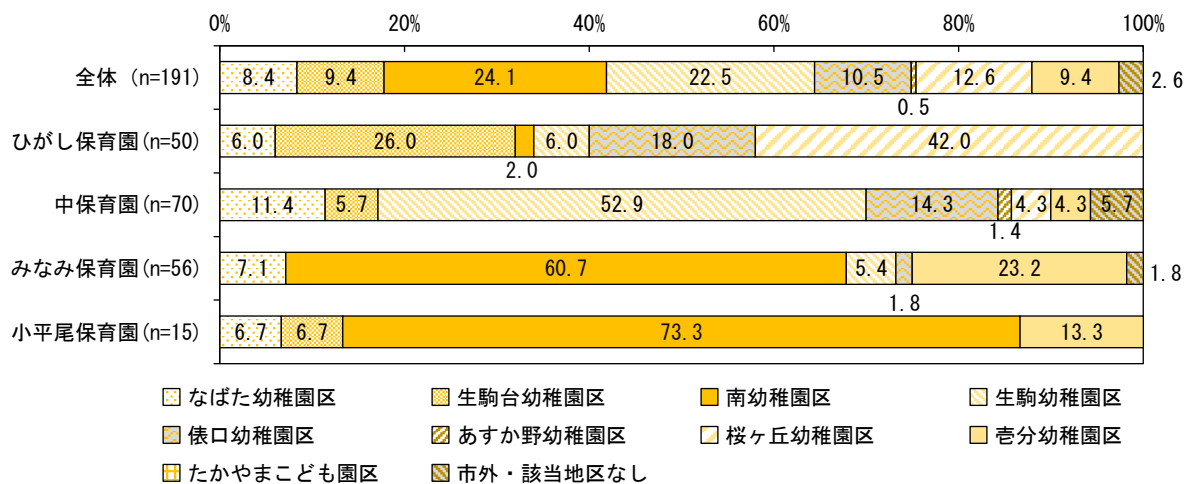
※無回答は0人でした。

2 公立保育園園児保護者向けアンケート調査結果

お住まいの地域

お住まいの地域について、全体では「南幼稚園区」の割合が 24.1%、「生駒幼稚園区」の割合が 22.5%、「桜ヶ丘幼稚園区」の割合が 12.6%、「俵口幼稚園区」の割合が 10.5%、「生駒台幼稚園」と「壺分幼稚園区」の割合が 9.4%、「なばた幼稚園区」の割合が 8.4%となっています。
各保育園では、保育園が所在する通園区域内にお住まいの方が多い傾向にあります。

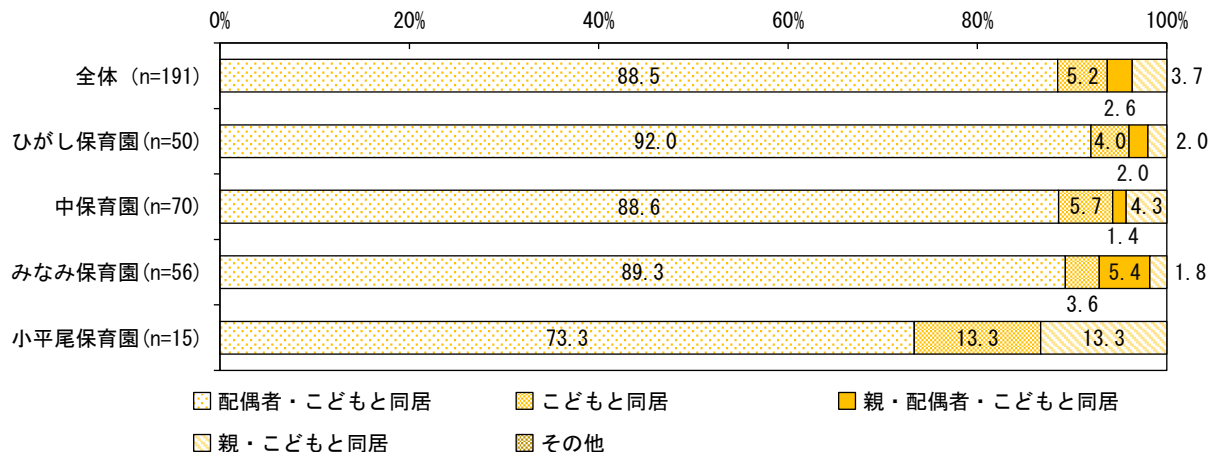
■ 園児（保護者）の居住地



家族構成

家族構成について、全体では「配偶者・子どもと同居」の割合が高く 88.5%となっています。
小平尾保育園では「子どもと同居」「親・子どもと同居」の割合が、全体と比べて高くなっています。

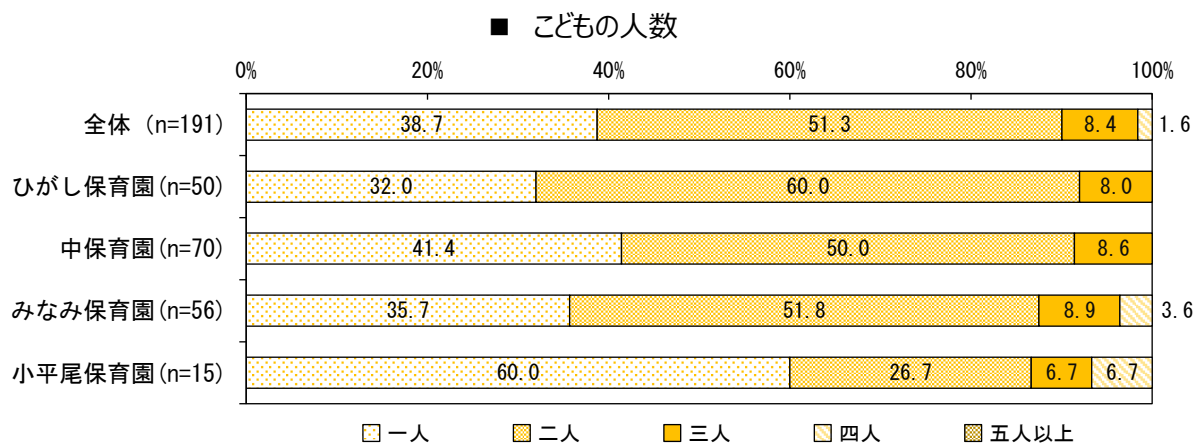
■ 家族構成



こどもの人数

こどもの人数について、全体では「二人」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「一人」の割合が 38.7%、「三人」の割合が 8.4%、「四人」の割合が 1.6%となっています。

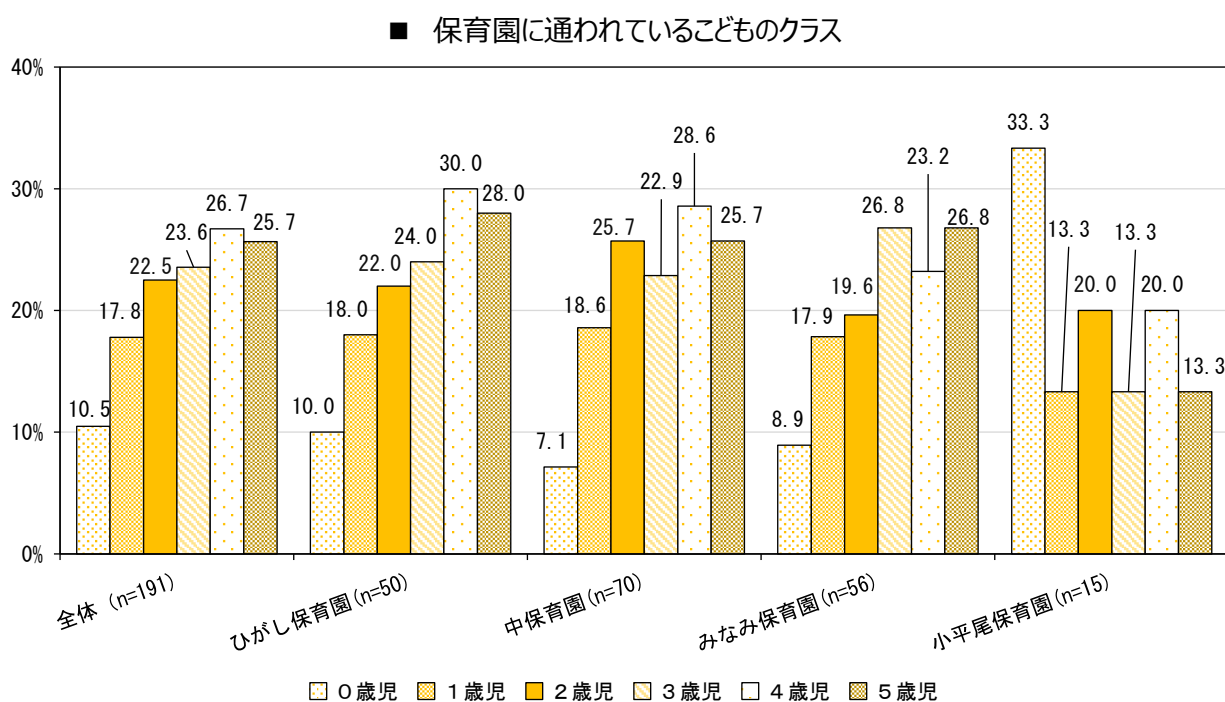
ひがし保育園では「二人」の割合が、小平尾保育園では「一人」の割合が、全体と比べて高くなっています。



保育園に通うこどものクラス

こどものクラスについて、全体では「4歳児」の割合が 26.7%と最も高く、「5歳児」の割合が 25.7%、「3歳児」の割合が 23.6%、「2歳児」の割合 22.5%、「1歳児」の割合が 17.8%、「0歳児」の割合が 10.5%の順となっています。

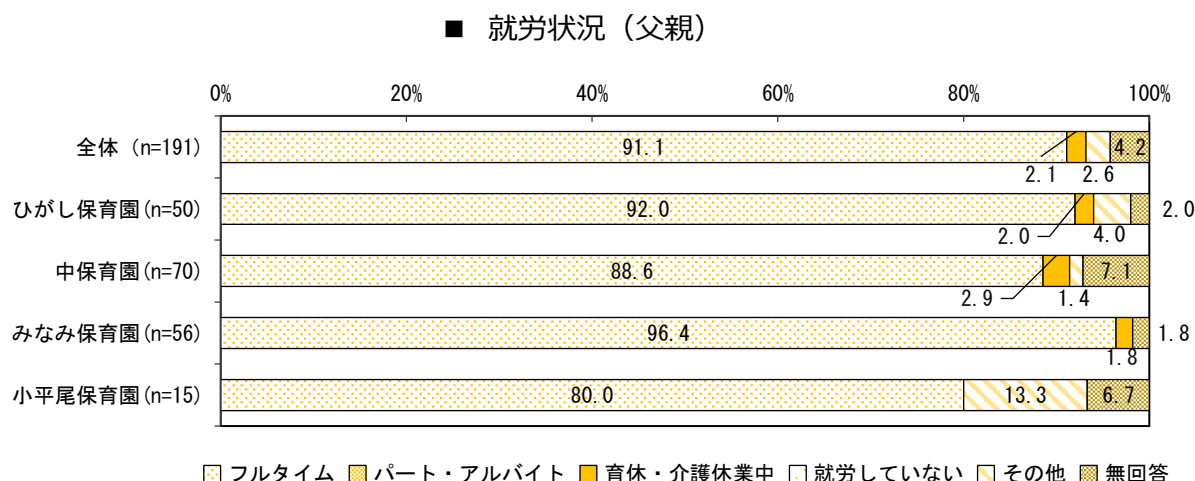
小平尾保育園の「0歳児」の割合が、全体と比べて高くなっています。



就労状況

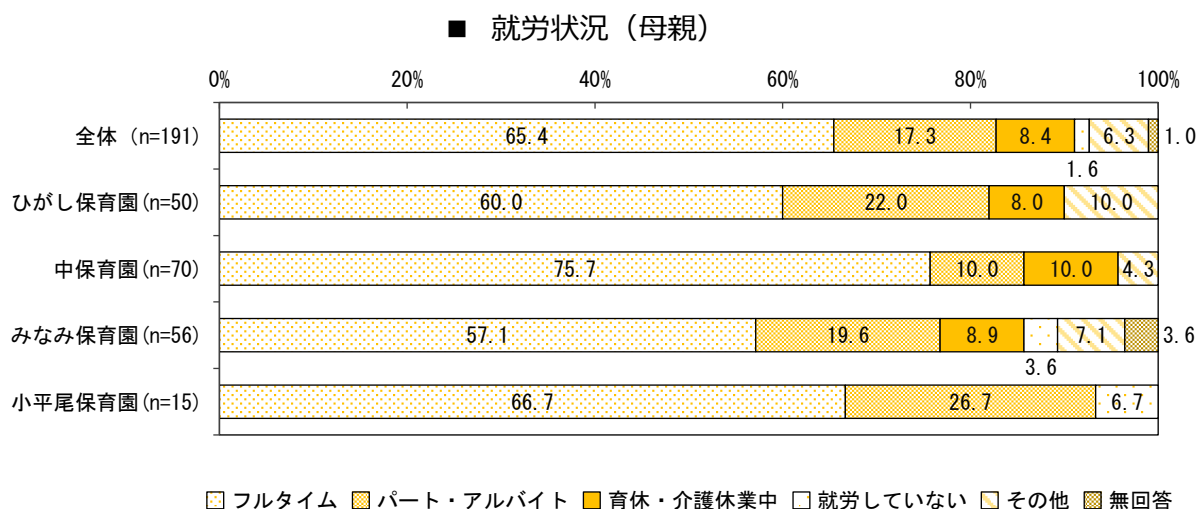
父親の就労状況について、全体では「フルタイム」の割合が 91.1%、「育休・介護休業中」の割合が 2.1%、「その他」の割合が 2.6%となっています。

みなみ保育園では「フルタイム」の割合が、小平尾保育園では「その他」の割合が、全体と比べて高くなっています。



母親の就労状況について、全体では「フルタイム」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合 17.3%、「育休・介護休業中」の割合が 8.4%となっています。

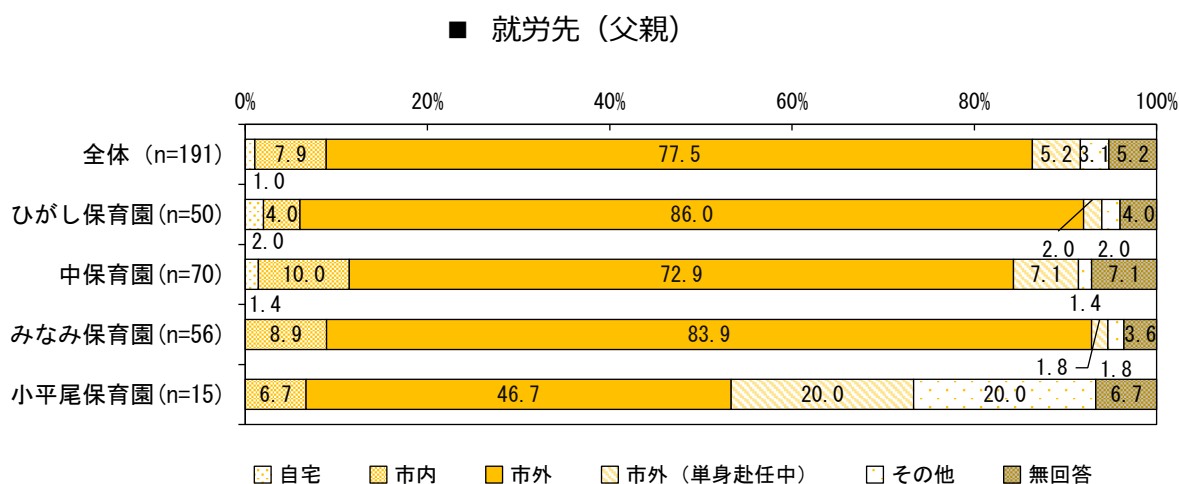
保育園別でみると、中保育園では「フルタイム」の割合が、小平尾保育園では「パート・アルバイト」の割合が、全体と比べて高くなっています。



就労先

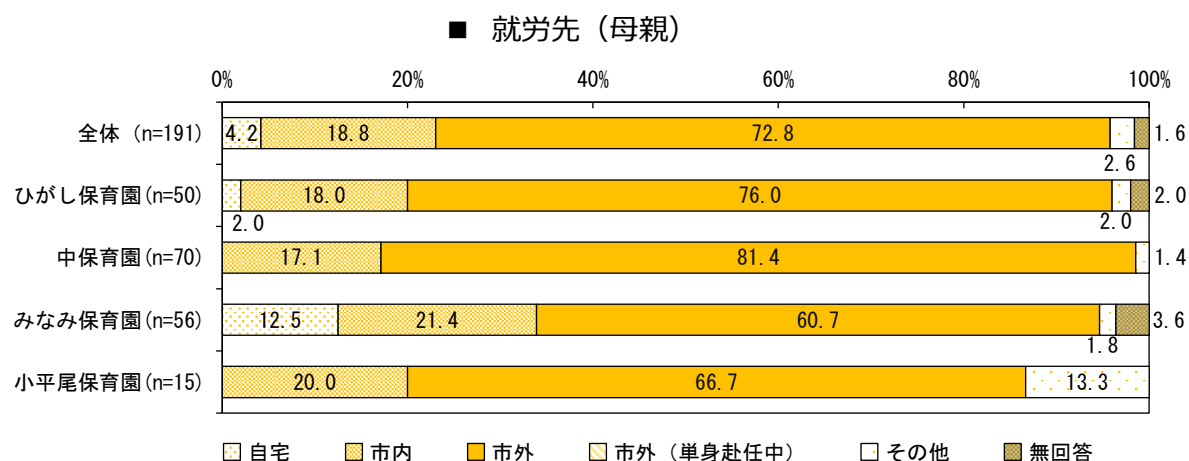
父親の就労先について、全体では「市外」の割合が 77.5%、「市外（単身赴任中）」の割合が 5.2%となっており、市外で就労している人が 8 割以上となっています。

小平尾保育園では、全体と比べると「市外」の割合が低く、「市外（単身赴任中）」と「その他」の割合が高くなっています。



母親の就労先について、全体では「市外」の割合が 72.8%と最も高く、次いで「市内」の割合が 18.8%、「自宅」の割合が 4.2%となっています。

中保育園では「市外」の割合が、みなみ保育園では「自宅」の割合が、全体と比べて高くなっています。



入園時に見学・検討した施設（※公立保育園以外）

見学・検討した施設について、全体では「私立保育園」の割合が 54.5%と最も高く、「公立認定こども園」の割合が 51.8%、「私立認定こども園」の割合が 34.0%で、保育園の機能を持った施設の割合が高くなっています。

■ 見学・検討した施設

	合計	公立幼稚園	私立幼稚園	私立保育園	公立認定こども園	私立認定こども園	特になし	その他
合計	191	14.7	5.8	54.5	51.8	34.0	18.3	1.0
ひがし保育園	50	18.0	4.0	56.0	40.0	36.0	22.0	2.0
中保育園	70	10.0	4.3	62.9	45.7	34.3	18.6	0.0
みなみ保育園	56	17.9	8.9	39.3	62.5	30.4	17.9	1.8
小平尾保育園	15	13.3	6.7	66.7	80.0	40.0	6.7	0.0

※無回答は0人でした。

公立保育園を選んだ理由のうち重視した点

重視した点について、全体では「自宅から近い」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「給食の提供がある」の割合が 34.0%、「延長保育を行っている」の割合が 24.1%となっています。

■ 公立保育園を選んだ理由で重視した点

	合計	自宅から近い	金銭的負担が少ない	延長保育を行っている	乳児保育を行っている	土曜保育を行っている	給食の提供がある	兄弟や近所の子がいる	生活習慣が身につく
合計	191	73.3	23.6	24.1	9.4	11.5	34.0	7.9	4.7
ひがし保育園	50	76.0	24.0	22.0	8.0	6.0	32.0	14.0	6.0
中保育園	70	68.6	21.4	37.1	11.4	15.7	34.3	4.3	4.3
みなみ保育園	56	75.0	23.2	10.7	5.4	14.3	37.5	7.1	3.6
小平尾保育園	15	80.0	33.3	20.0	20.0	0.0	26.7	6.7	6.7

	合計	行事等による地域との交流がある	評判が良い	先生の対応が良い	保育・教育内容がよい	保護者同士の関わりができる	小学校と連携している	特になし	その他
合計	191	1.0	7.9	11.5	6.8	0.5	2.1	2.6	11.0
ひがし保育園	50	0.0	4.0	6.0	6.0	2.0	2.0	4.0	14.0
中保育園	70	1.4	10.0	12.9	8.6	0.0	1.4	2.9	15.7
みなみ保育園	56	1.8	8.9	16.1	5.4	0.0	3.6	1.8	5.4
小平尾保育園	15	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0

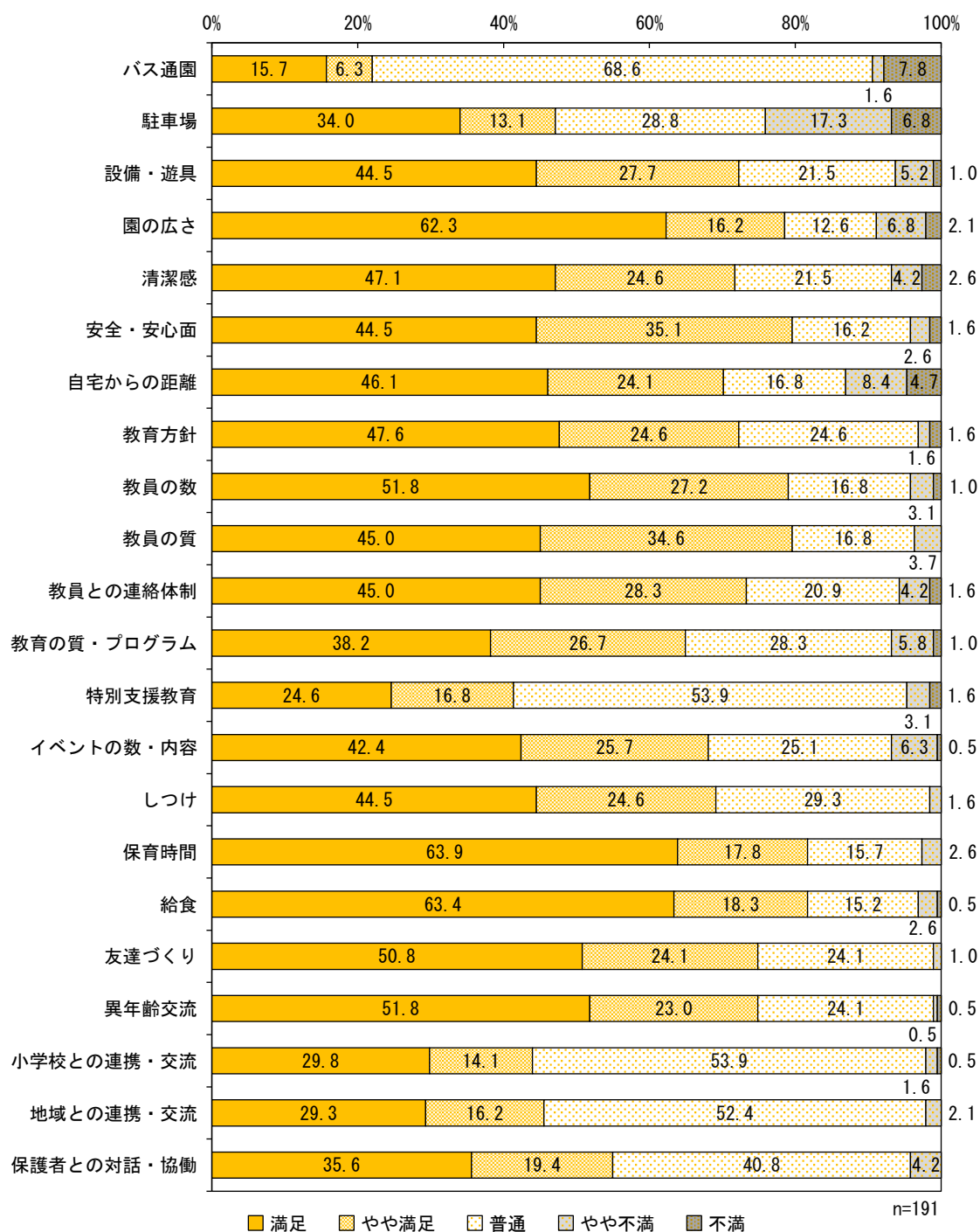
※無回答は0人でした。

こどもが通う園の満足度と重要度

通われている園の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「保育時間」「給食」の割合がともに81.7%と高く、次いで「安全・安心面」「教員の質」の割合が79.6%となっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が24.1%と最も高く、次いで「自宅からの距離」の割合が13.1%、「バス通園」の割合が9.4%となっています。

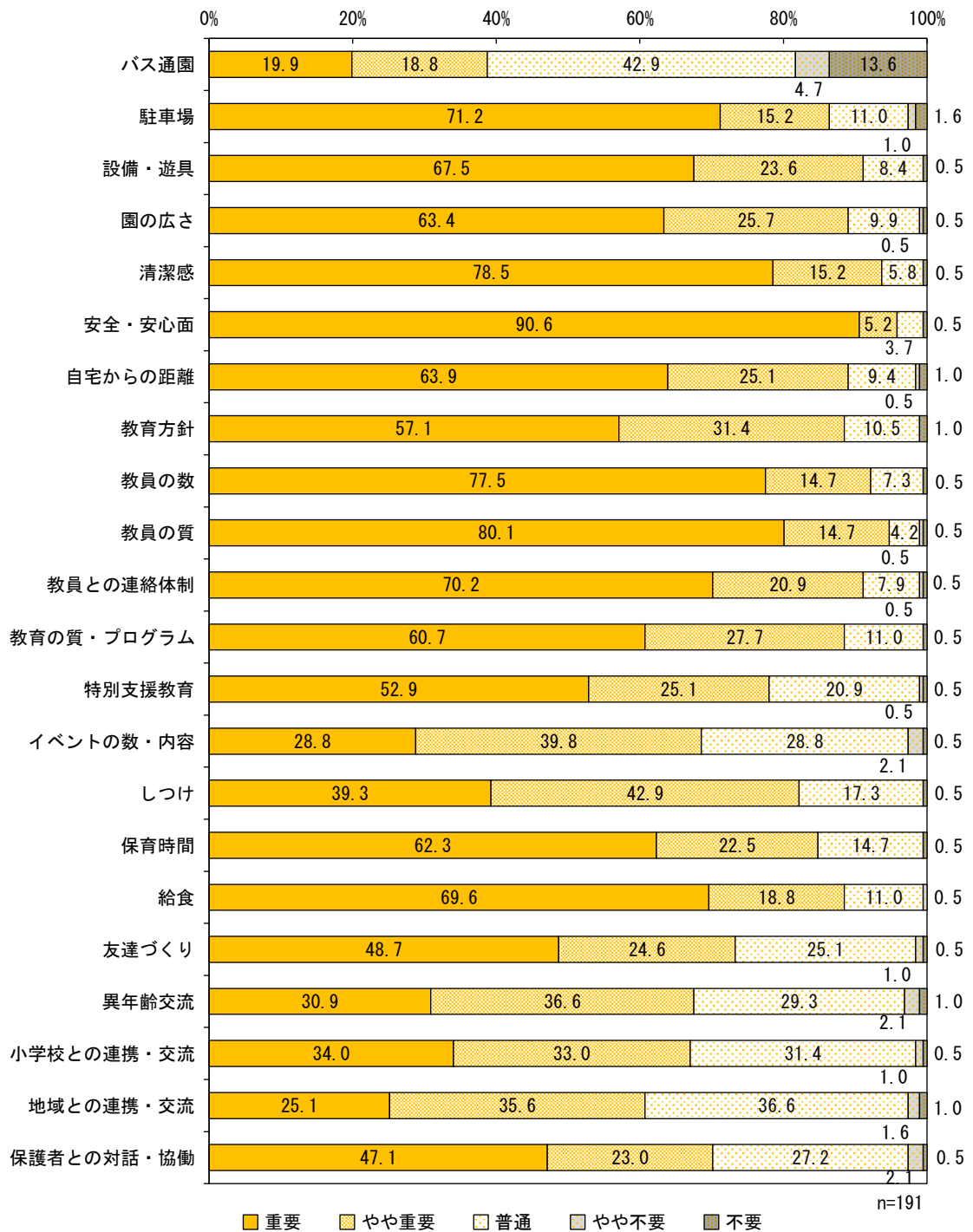
■ 通われている園の満足度【全体】



園の将来の持続的な運営を行うための重要度のうち「重要」（重要＋やや重要）について、「安全・安心面」の割合が 95.8%と最も高く、次いで「教育の質」の割合が 94.8%、「清潔感」の割合が 93.7%となっています。

その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、「バス通園」の割合が 18.3%と最も高くなっています。

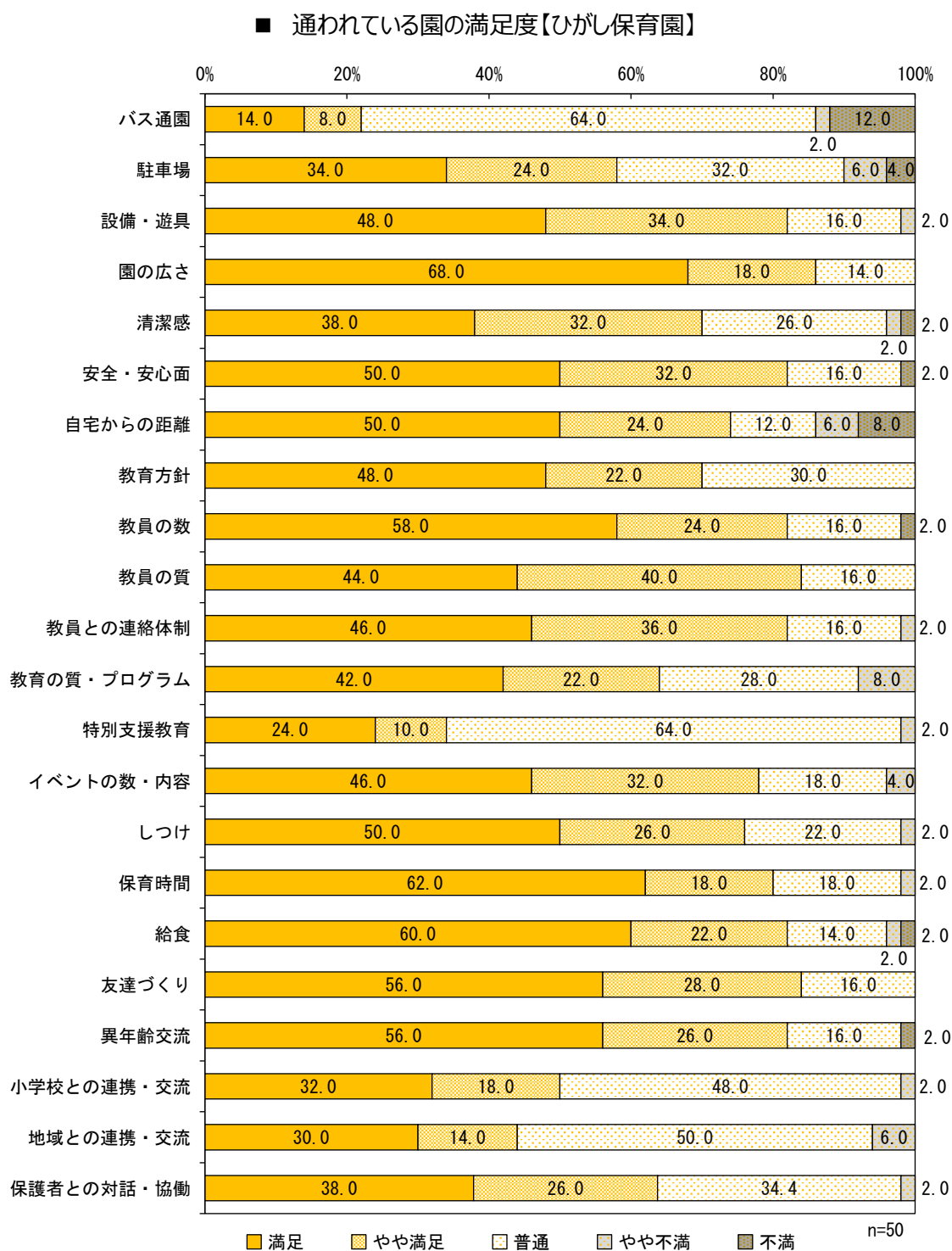
■ 園の持続的な運営を行うための重要度【全体】



（１）ひがし保育園

ひがし保育園に通う児童の保護者の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「園の広さ」の割合が 86.0%と最も高く、次いで「教員の質」「友達づくり」の割合がいずれも 84.0%となっています。

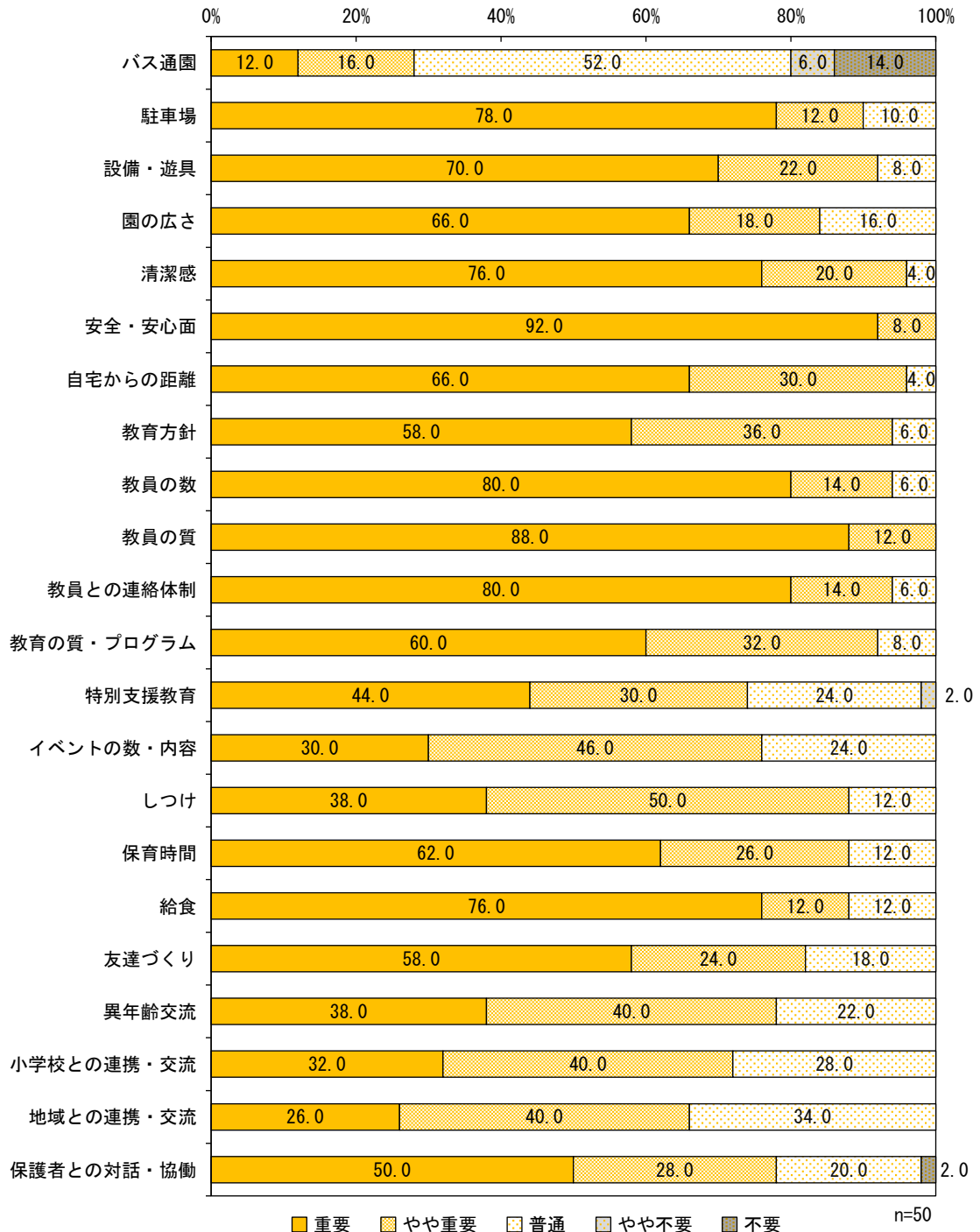
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「バス通園」「自宅からの距離」の割合がいずれも 14.0%と最も高くなっています。



ひがし保育園に通う児童の保護者が考える将来にわたり持続的な運営を行うための重要な項目のうち、「重要」（重要＋やや重要）では「安全・安心面」「教員の質」の割合が、いずれも 100.0%と最も高くなっています。

その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、「バス通園」の割合が 20.0%と最も高くなっています。

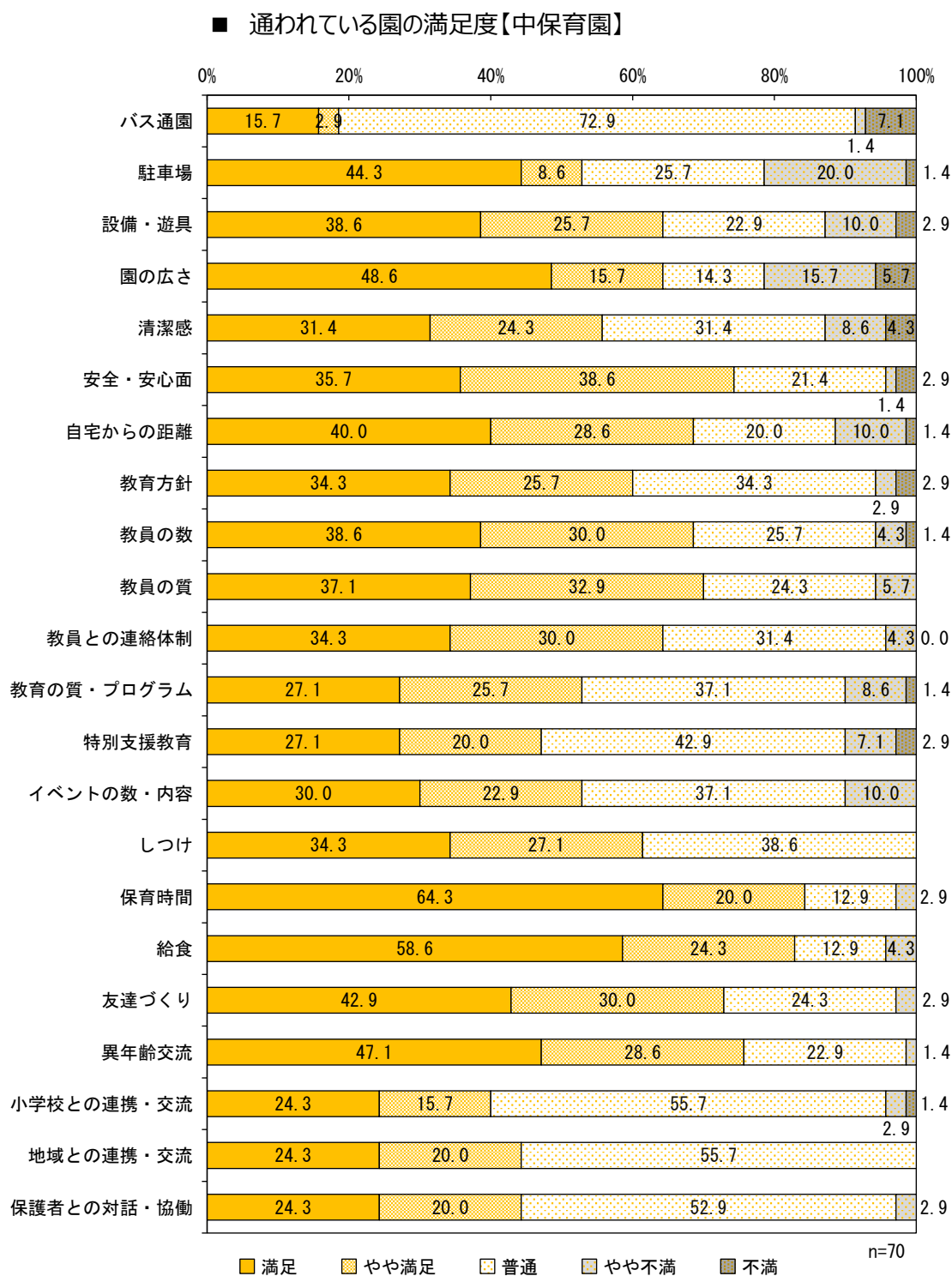
■ 園の持続的な運営を行うための重要度【ひがし保育園】



（２）中保育園

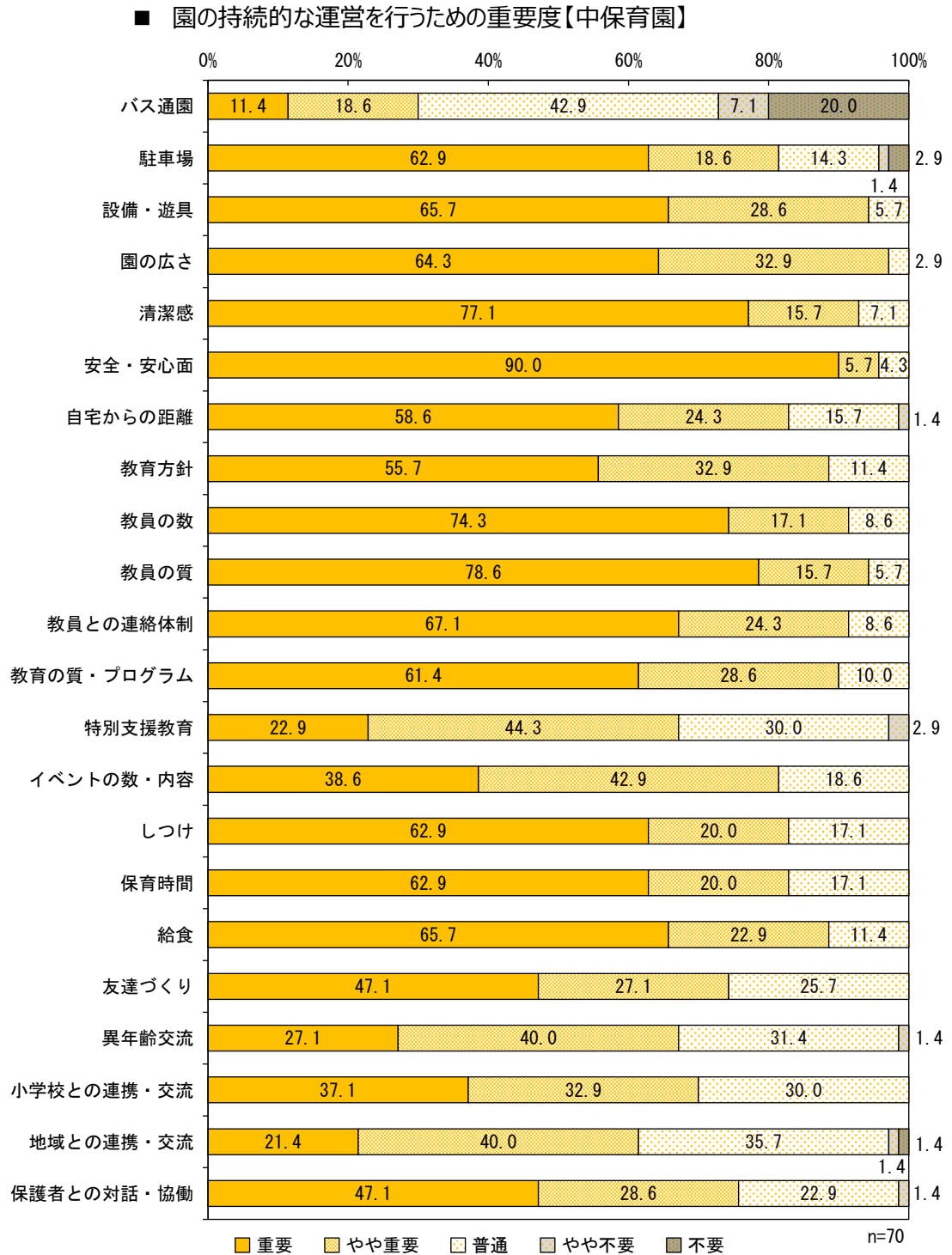
中保育園に通う児童の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「保育時間」の割合が84.3%と最も高く、次いで「給食」の割合が82.9%、「異年齢交流」の割合が75.7%となっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」「園の広さ」の割合がいずれも21.4%と最も高くなっています。



中保育園に通う児童の保護者が考える将来にわたり持続的な運営を行うための重要度のうち、「重要」では「安全・安心面」の割合が 90.0%と最も高く、「重要」（重要+やや重要）では「園の広さ」の割合が 97.2%と最も高くなっています。

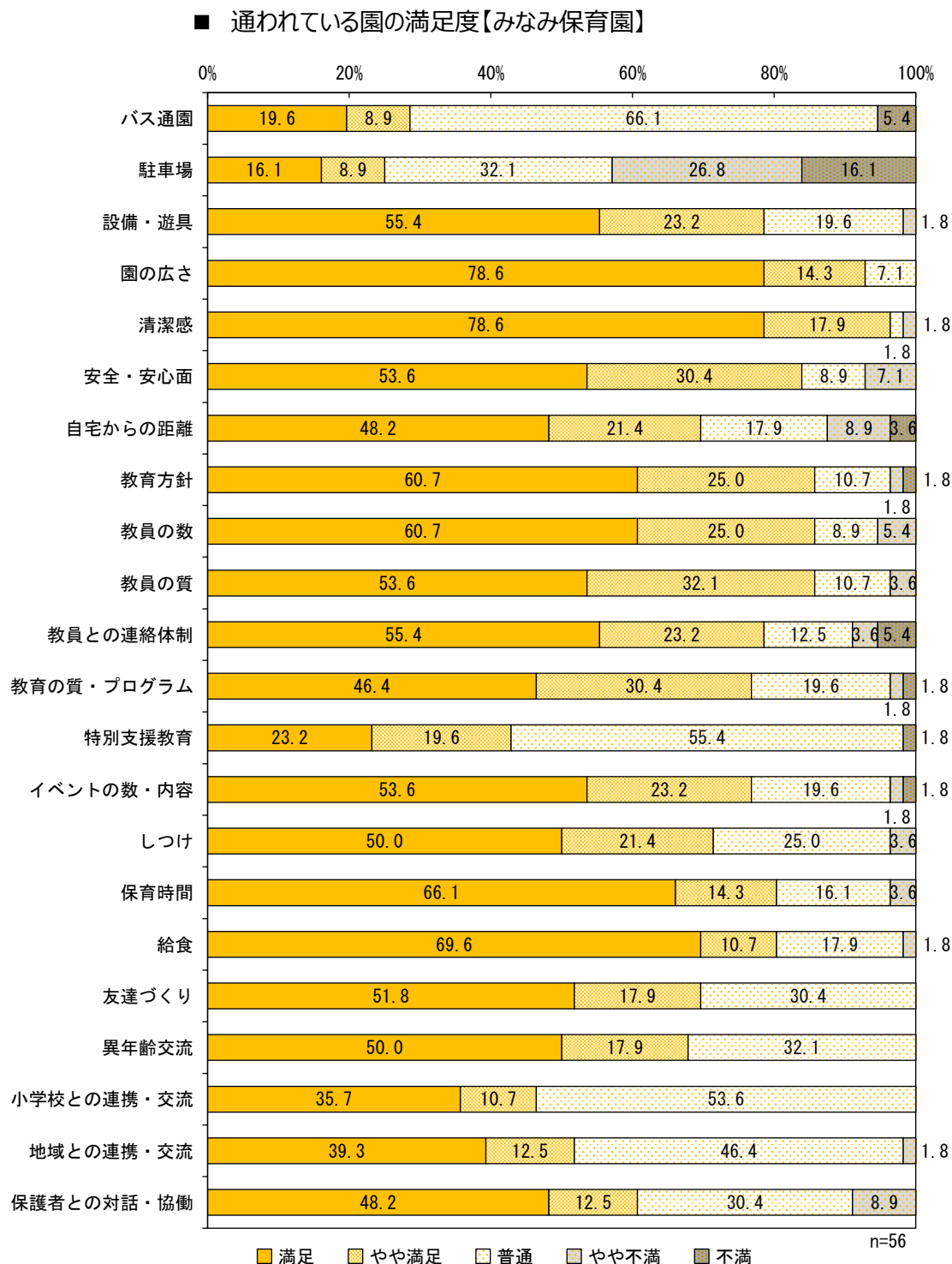
その一方で「不要」（不要+やや不要）については、「バス通園」の割合が 27.1%と最も高くなっています。



(3) みなみ保育園

みなみ保育園に通う児童の保護者の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「清潔感」の割合が 96.5%と最も高く、次いで「園の広さ」が 92.9%、「教育方針」「教員の数」「教員の質」がいずれも 85.7%となっています。

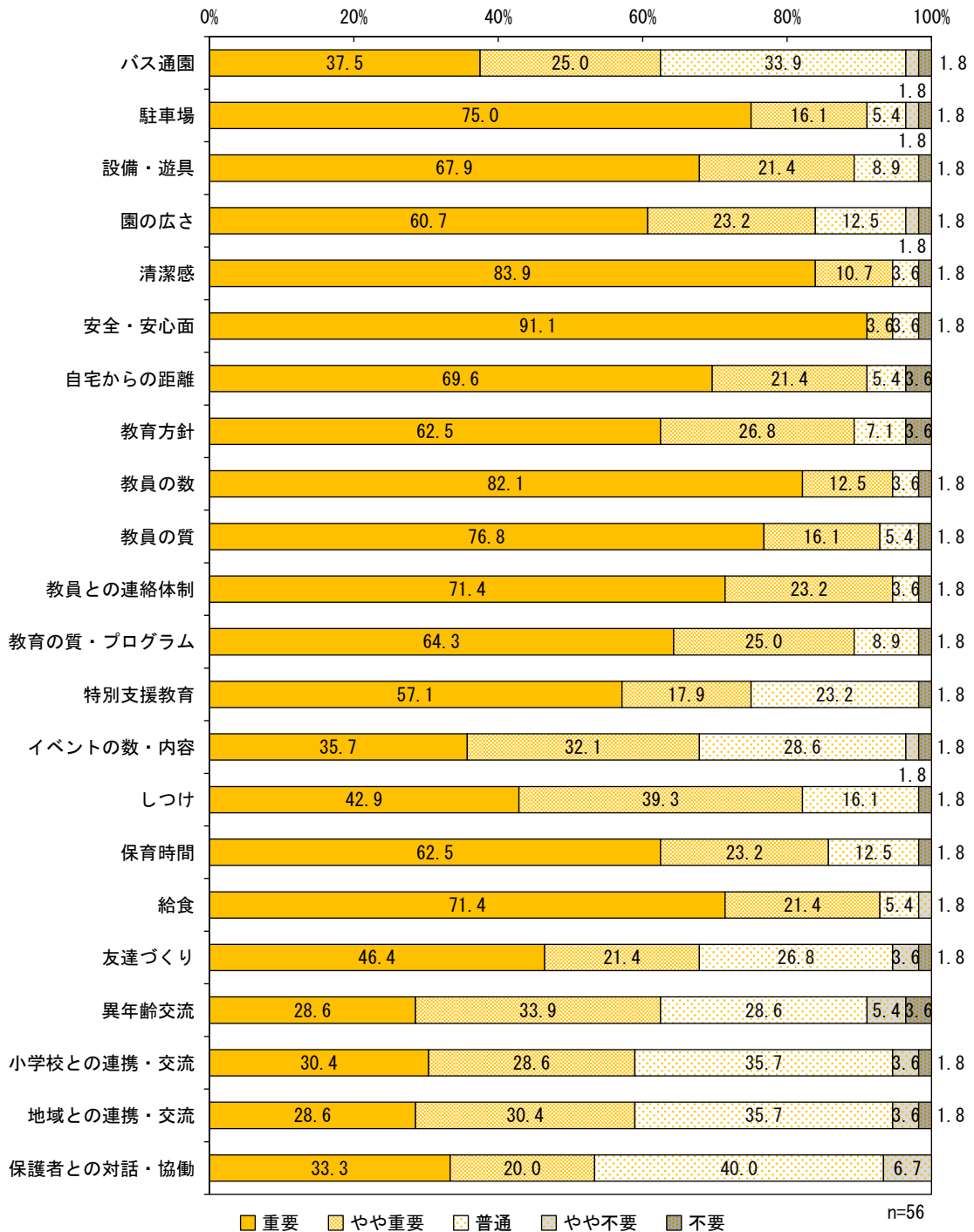
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「自宅からの距離」の割合が 12.5%となっています。



みなみ保育園に通う児童の保護者が考える将来にわたり持続的な運営を行うための重要度のうち、「重要」（重要＋やや重要）では「安全・安心面」の割合が 94.7%と最も高く、次いで「清潔感」「安全・安心面」「教員の数」「教員との連絡体制」の割合がいずれも 94.6%となっています。

その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、全ての項目において 1 割未満で、「異年齢交流」の割合が 9.0%と最も高くなっています。

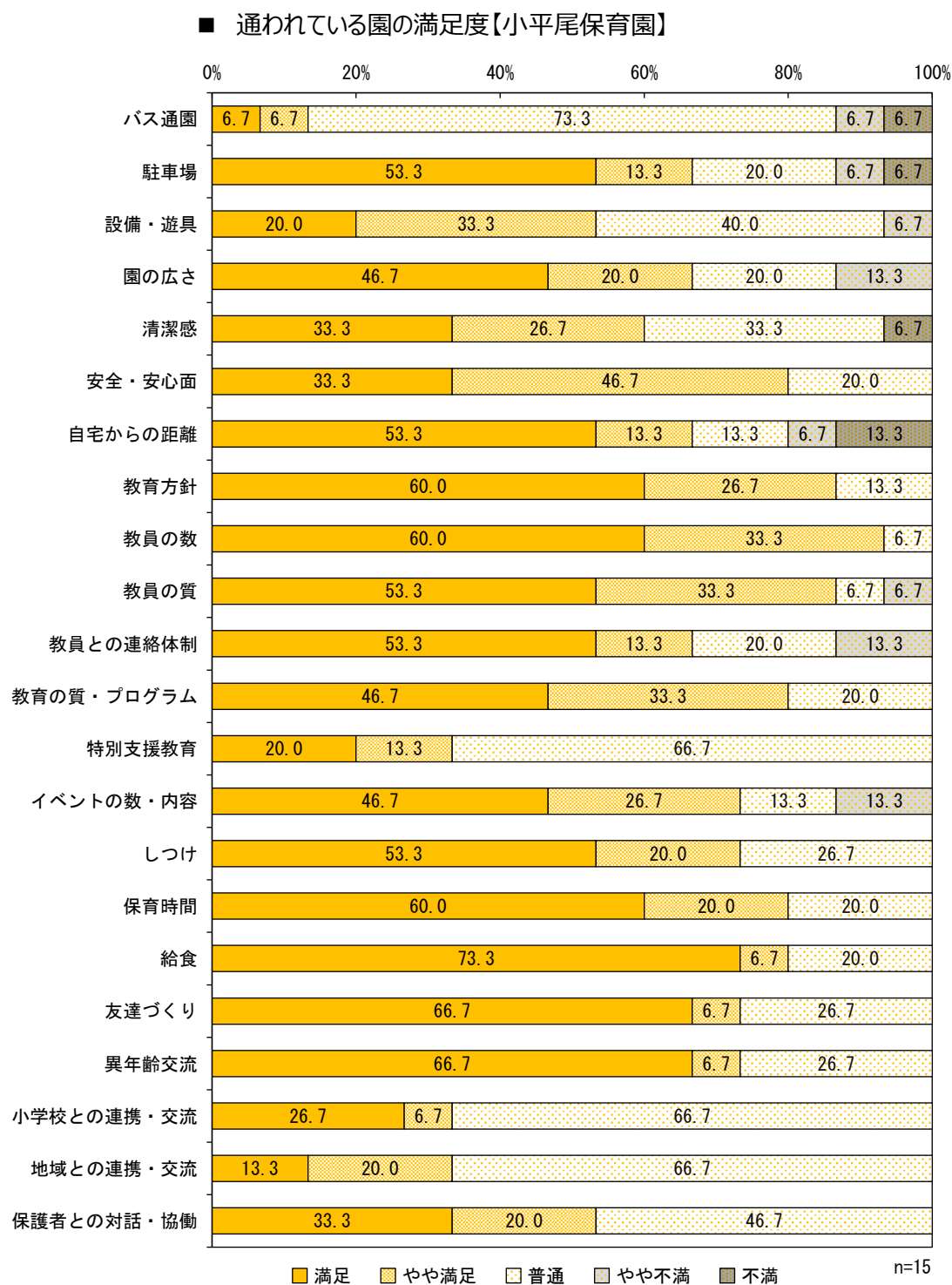
■ 園の持続的な運営を行うための重要度【みなみ保育園】



(4) 小平尾保育園

小平尾保育園に通う児童の保護者の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「教員の数」の割合が93.3%と最も高く、次いで「教育方針」の割合が86.7%、「教員の質」の割合が86.6%となっています。

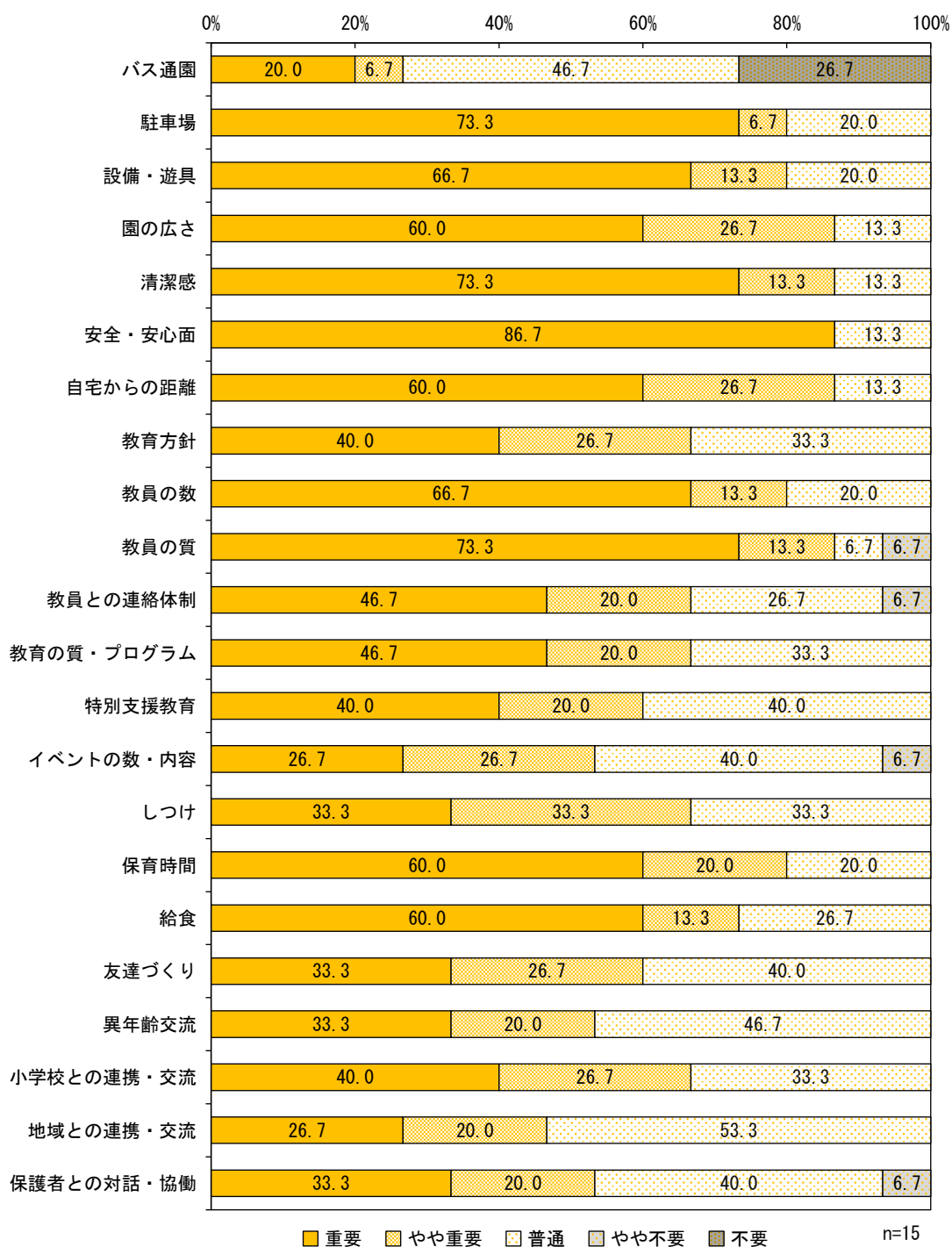
その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「自宅からの距離」の割合が20.0%と最も高くなっています。



小平尾保育園に通う児童の保護者が考える将来にわたり持続的な運営を行うための重要度のうち、「重要」（重要＋やや重要）では「園の広さ」「安全・安心面」「自宅からの距離」の割合が、いずれも86.7%と最も高くなっています。

その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、「バス通園」の割合が 26.7%と最も高くなっています。

■ 園の持続的な運営を行うための重要度【小平尾保育園】



公立幼稚園にあればいいサービス

どのようなサービスがあれば公立幼稚園を利用したいかについて、全体では「預かり保育等により、長時間の教育・保育が受けられる」「お弁当や給食の提供がある」の割合が高く、約 50%となっています。

■ 公立幼稚園にあればいいサービス

	合計	受け入れ開始時間が早い	お弁当や給食の提供がある	預かり保育等により、長時間の教育・保育が受けられる	長期休暇期間中の教育・保育が受けられる	駐車場を利用して送迎できる	利用は考えられない	その他
合計	191	15.7	50.3	50.8	32.5	19.9	11.0	1.6
ひがし保育園	50	12.0	54.0	60.0	36.0	14.0	6.0	4.0
中保育園	70	17.1	48.6	58.6	34.3	14.3	11.4	0.0
みなみ保育園	56	17.9	51.8	35.7	30.4	26.8	14.3	0.0
小平尾保育園	15	13.3	40.0	40.0	20.0	40.0	13.3	6.7

※無回答は0人でした。

公立保育園のいいところ

実際に利用されている立場から思う公立保育園のいいところについて、全体では、「受け入れ時間が長い」が 75.4%で最も高く、次いで「適正な規模での教育・保育が受けられる」のが 65.4%、「参観や行事を通して園での様子がよくわかる」が 38.2%の順となっています。

保育園別でみると、ひがし保育園と中保育園では「受け入れ時間が長い」の割合が、みなみ保育園と小平尾保育園では「適正な規模での教育・保育が受けられる」の割合が高くなっています。

■ 公立保育園のいいところ

	合計	適正な規模での教育・保育が受けられる	質の高い教育・保育が受けられる	異年齢の子と交流できる	参観や行事を通して園での様子がよくわかる	地域との交流がある	子育ての相談体制が充実している	受け入れ時間が長い	わからない	その他
合計	191	65.4	22.0	36.6	38.2	9.4	20.9	75.4	4.7	3.7
ひがし保育園	50	64.0	24.0	44.0	50.0	16.0	26.0	82.0	0.0	4.0
中保育園	70	62.9	17.1	25.7	27.1	5.7	24.3	80.0	4.3	2.9
みなみ保育園	56	67.9	26.8	39.3	39.3	8.9	14.3	66.1	8.9	3.6
小平尾保育園	15	73.3	20.0	53.3	46.7	6.7	13.3	66.7	6.7	6.7

※無回答は0人でした。

公立保育園に改善が必要と思うところ

実際に公立保育園を利用されている立場から思う公立保育園に改善が必要と思うところについて、全体では「保護者の日中の保育の状況が変わると、継続して利用できない」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「親子イベントや PTA 活動等、保護者の負担が多い」が 24.1%、「家庭の状況により、無償化になる対象に違いがあり不公平に感じる」が 18.8%となっています。

保育園別でも、全ての園において「保護者の日中の保育の状況が変わると、継続して利用できない」の割合が最も高くなっています。

■ 公立保育園の改善が必要と思うところ

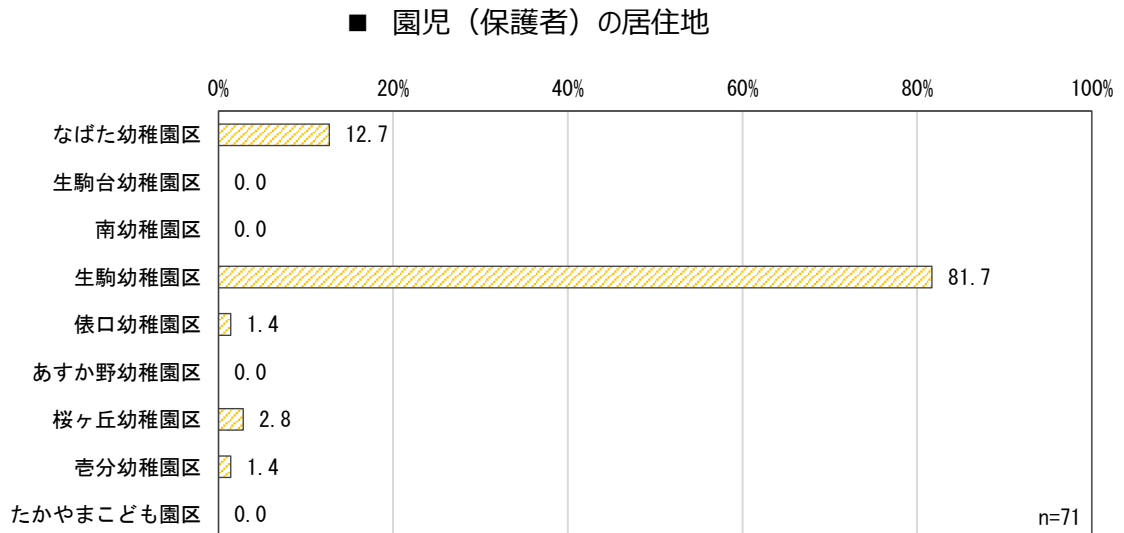
	合計	親子イベントや PTA 活動等、保護者の負担が多い	家庭の状況により、無償化になる対象に違いがあり不公平に感じる	カリキュラムが多く、子どもにとって慌ただしく感じる	保護者の日中の保育の状況が変わると、継続して利用できない	送迎時間がバラバラで、保護者同士の関係が希薄である	わからない	その他
合計	191	24.1	18.8	0.0	59.7	17.8	15.2	8.4
ひがし保育園	50	10.0	22.0	0.0	74.0	16.0	6.0	14.0
中保育園	70	28.6	12.9	0.0	58.6	18.6	18.6	5.7
みなみ保育園	56	35.7	21.4	0.0	42.9	21.4	19.6	7.1
小平尾保育園	15	6.7	26.7	0.0	80.0	6.7	13.3	6.7

※無回答は 0 人でした。

3 認定こども園園児保護者向けアンケート調査結果

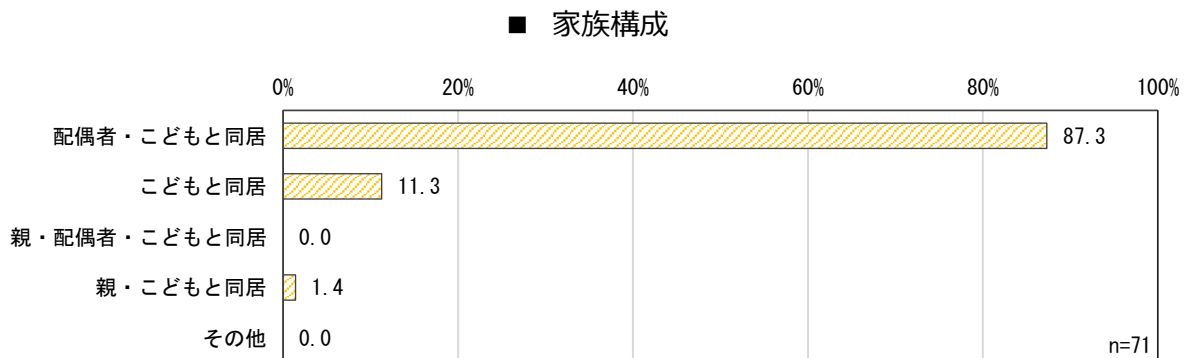
お住まいの地域

お住まいの地域について、「生駒幼稚園区」の割合が 81.7%、通園区域外が 18.3%となっています。通園区域外では「なばた幼稚園区」が最も高く、12.7%となっています。



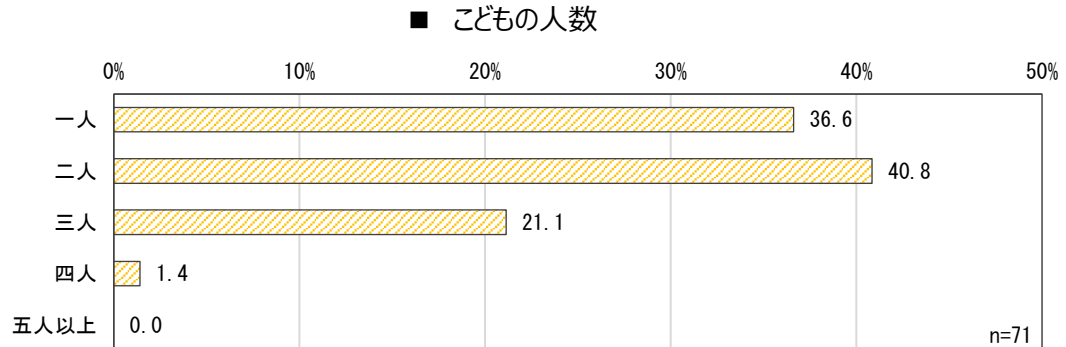
家族構成

家族構成について、「配偶者・子どもと同居」が 87.3%、「子どもと同居」が 11.3%、「親・子どもと同居」が 1.4%となっています。



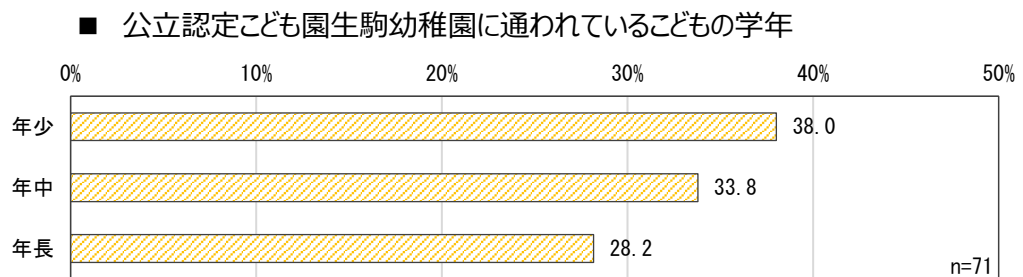
こどもの人数

こどもの人数について、「二人」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「一人」の割合が 36.6%、「三人」の割合が 21.1%となっています。



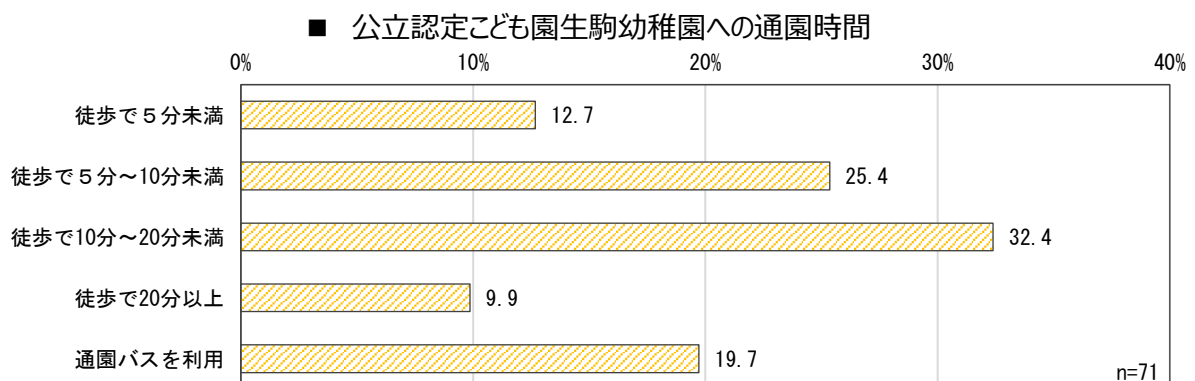
公立認定こども園生駒幼稚園に通うこどもの学年

こどもの学年について、「年少」の割合が 38.0%と最も高く、「年中」の割合が 33.8%、「年長」の割合が 28.2%となっています。



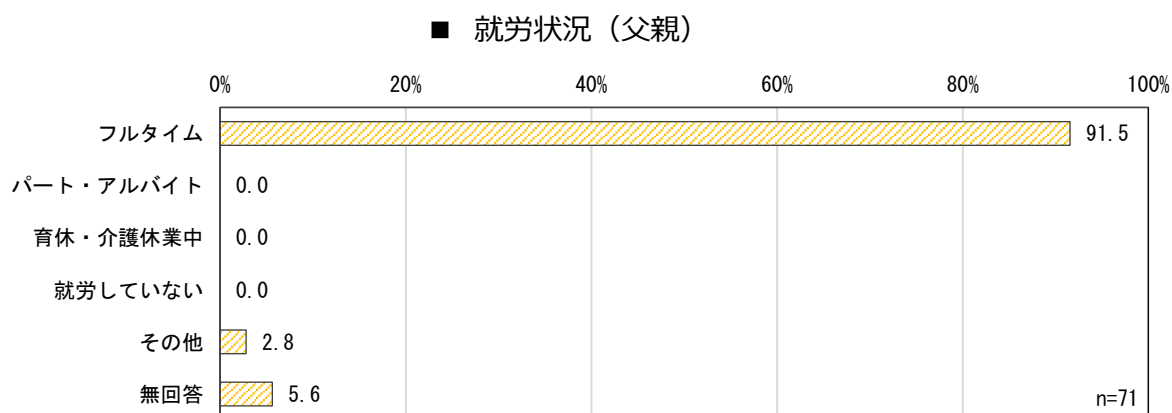
公立認定こども園生駒幼稚園への通園時間

通園時間について、「徒歩で 10 分～20 分未満」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「徒歩で 5 分～10 分未満」の割合が 25.4%、「通園バスを利用」の割合が 19.7%、「徒歩で 5 分未満」の割合が 12.7%、「徒歩で 20 分以上」の割合が 9.9%となっています。

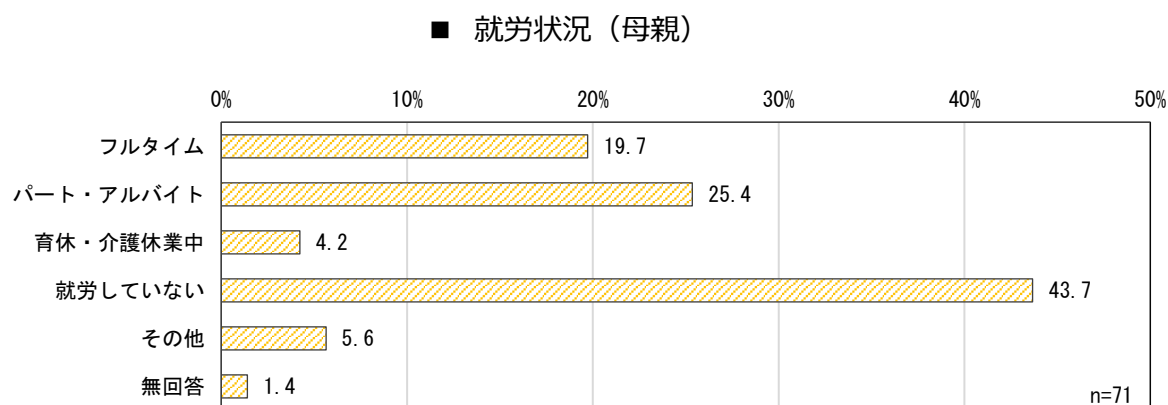


就労状況

父親の就労状況について、「フルタイム」の割合が 91.5%、「その他」の割合が 2.8%となっています。

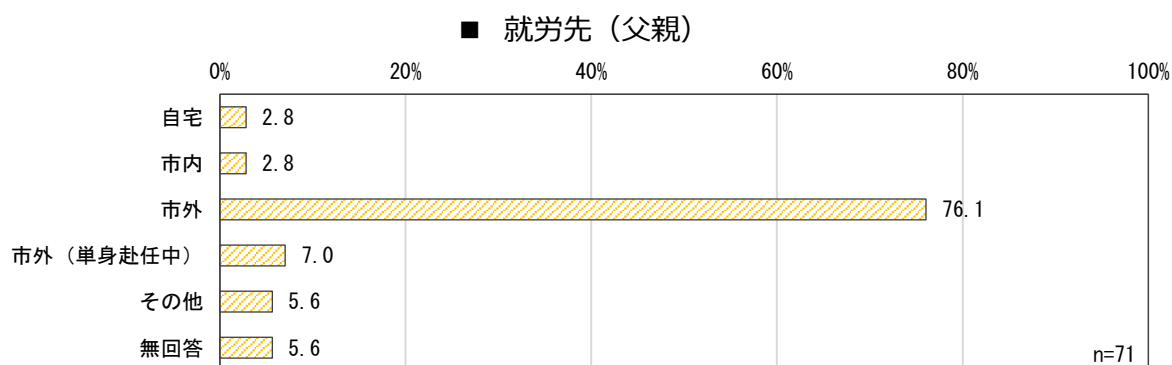


母親の就労状況について、「就労していない」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 25.4%、「フルタイム」の割合が 19.7%となっています。

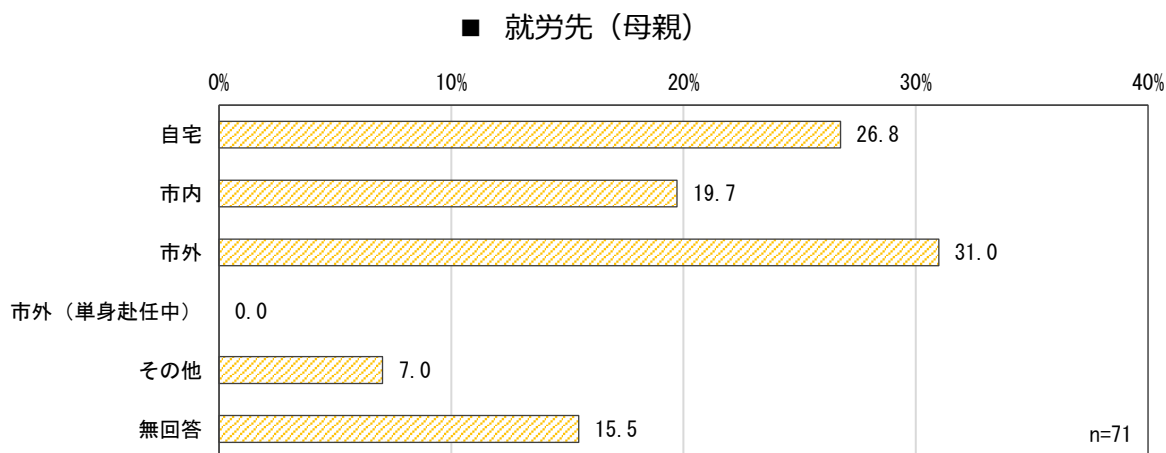


就労先

父親の就労先について、「市外」の割合が 76.1%、「市外（単身赴任中）」の割合が 7.0%となっており、市外で就労している人が 8 割以上となっています。

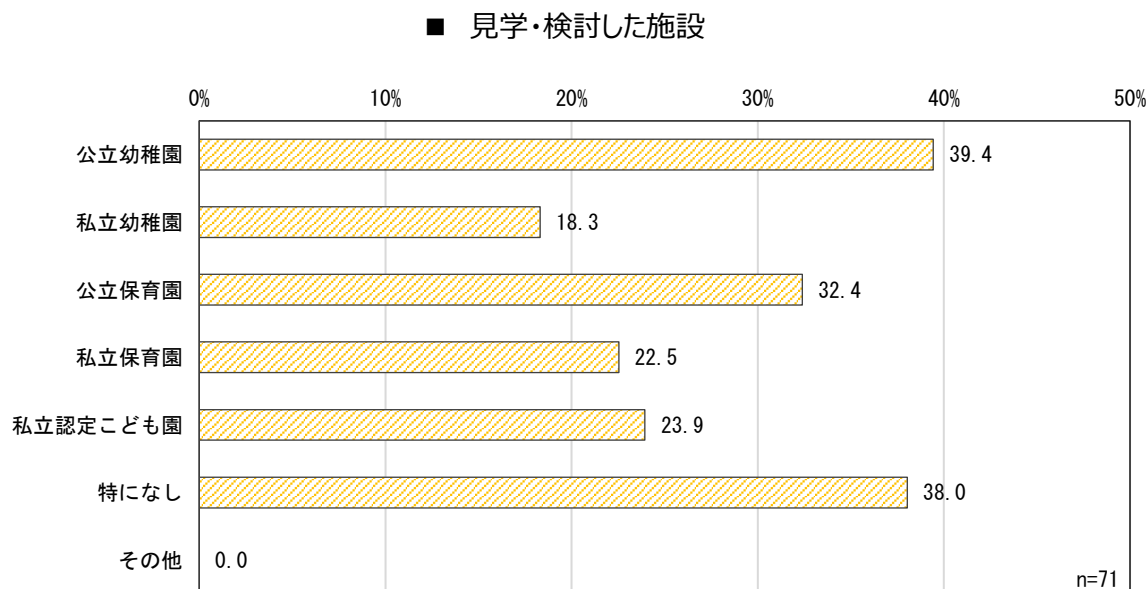


母親の就労先について、「市外」の割合が31.0%と最も高く、次いで「自宅」の割合が26.8%、「市内」割合が19.7%となっています。



入園時に見学・検討した施設 ※認定こども園生駒幼稚園以外

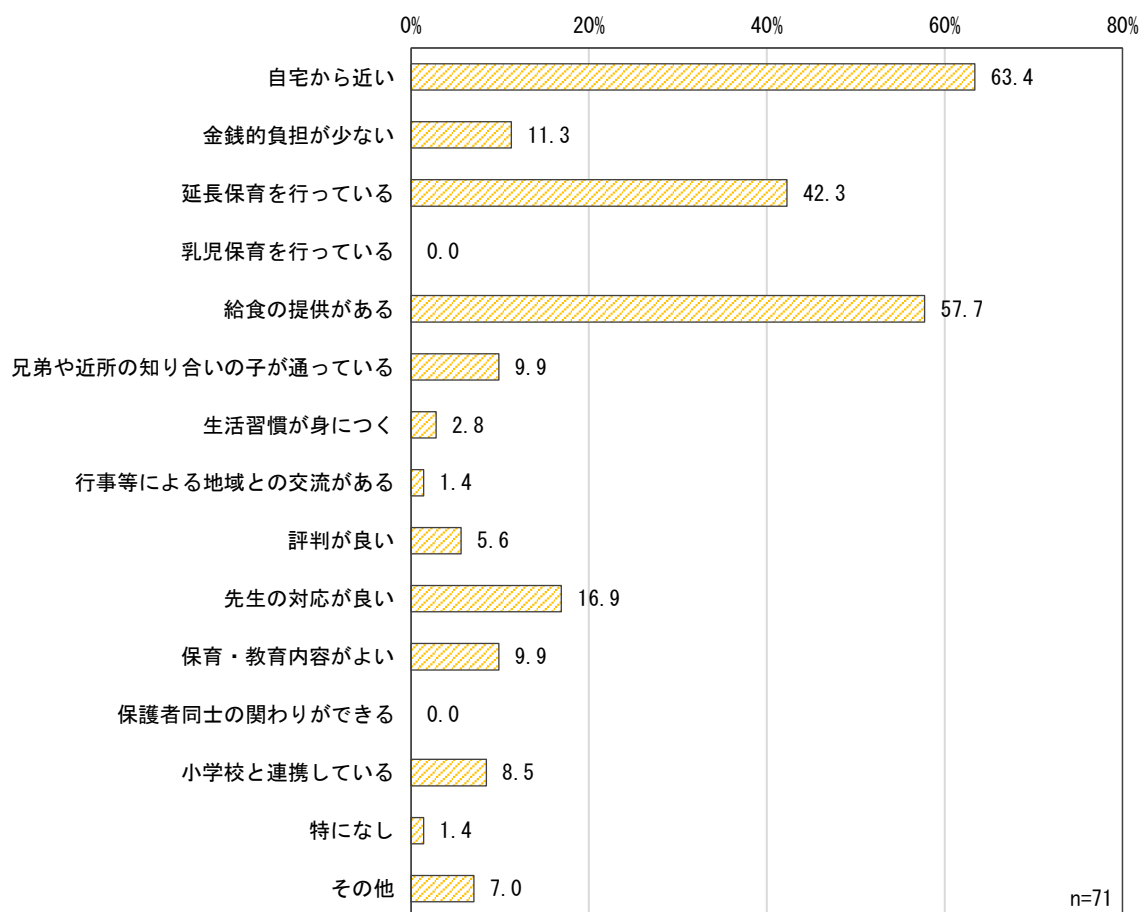
入園時に見学・検討した施設について、「公立幼稚園」の割合が39.4%と最も高く、「特になし」の割合が38.0%、「公立保育園」の割合が32.4%となっています。



公立認定こども園生駒幼稚園を選んだ主な理由

公立認定こども園生駒幼稚園を選ぶ際に重視した点について、「自宅から近い」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「給食の提供がある」の割合が 57.7%、「延長保育を行っている」の割合が 42.3%となっています。

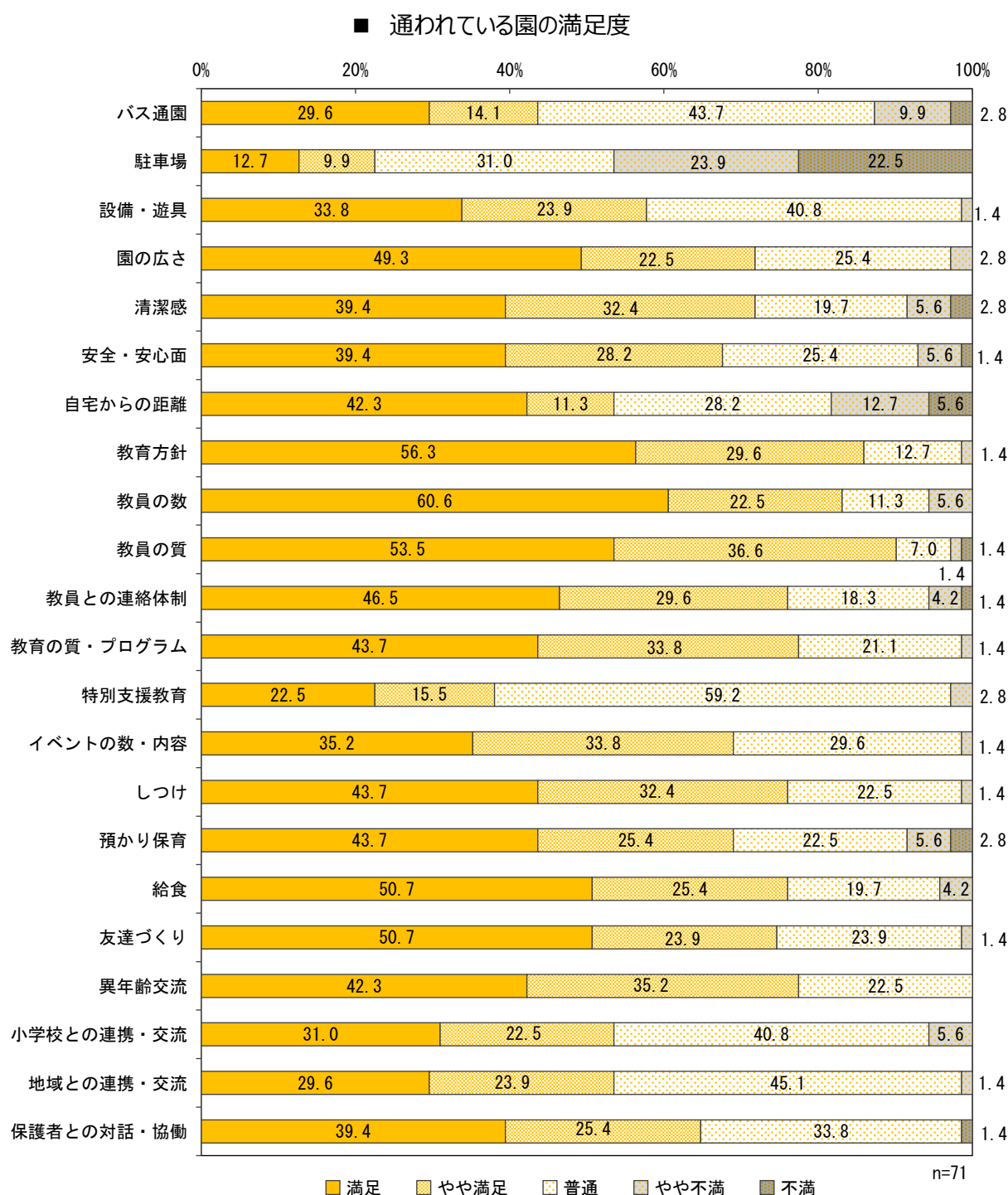
■ 公立認定こども園生駒幼稚園を選んだ理由で重視した点



こどもが通う園の現在の満足度

通われている園の現在の満足度のうち「満足」（満足＋やや満足）について、「教員の質」が90.1%と最も高く、次いで「教育方針」が85.9%、「教員の数」が83.1%の順となっています。

その一方で「不満」（不満＋やや不満）については、「駐車場」が46.4%と最も高く、次いで「自宅からの距離」が18.3%、「バス通園」が12.7%となっています。

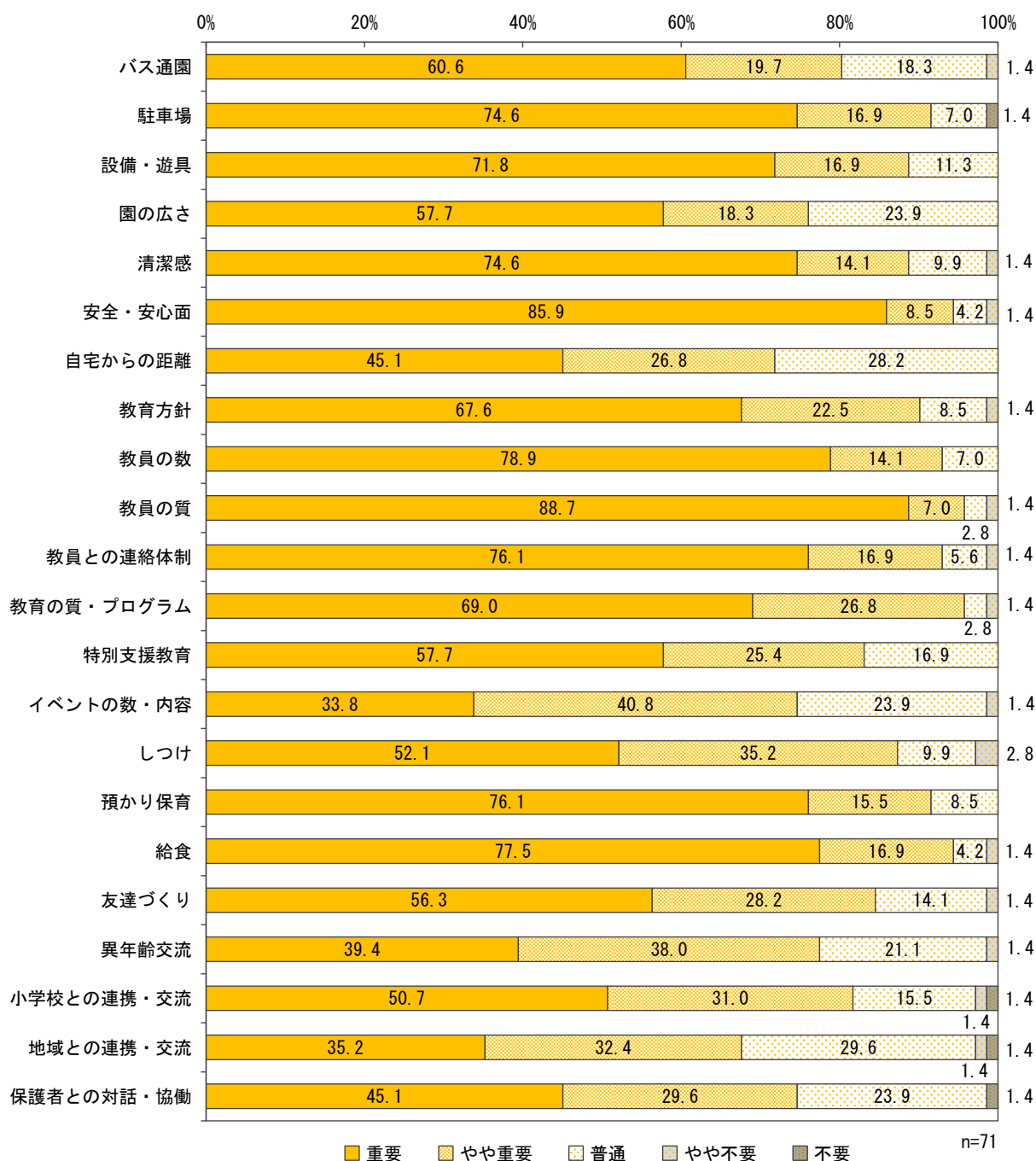


将来の持続的な運営を行うための重要度

公立認定こども園生駒幼稚園に通う児童の保護者が考える将来の持続的な運営を行うための重要度のうち「重要」（重要＋やや重要）について、「教育の質」の割合が 95.8%と最も高く、次いで「教員の質・プログラム」の割合が 95.7%、「安全・安心面」「給食」の割合がともに 94.4%となっています。

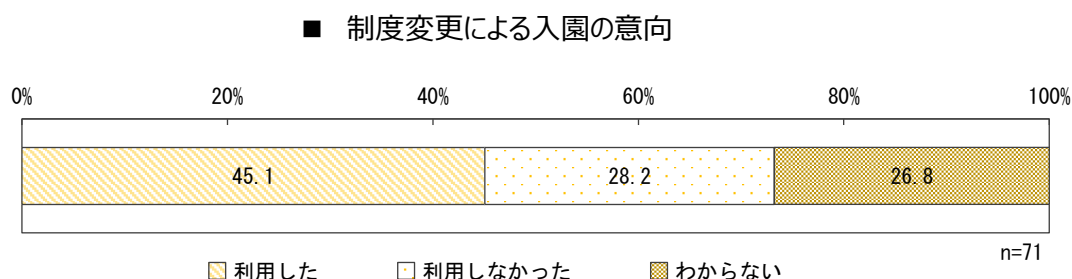
その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、いずれも 1 割に達しておらず、「しつけ」「小学校との連携・交流」「地域との連携・交流」の割合がともに 2.8%となっています。

■ 公立認定こども園生駒幼稚園の持続的な運営を行うための重要度



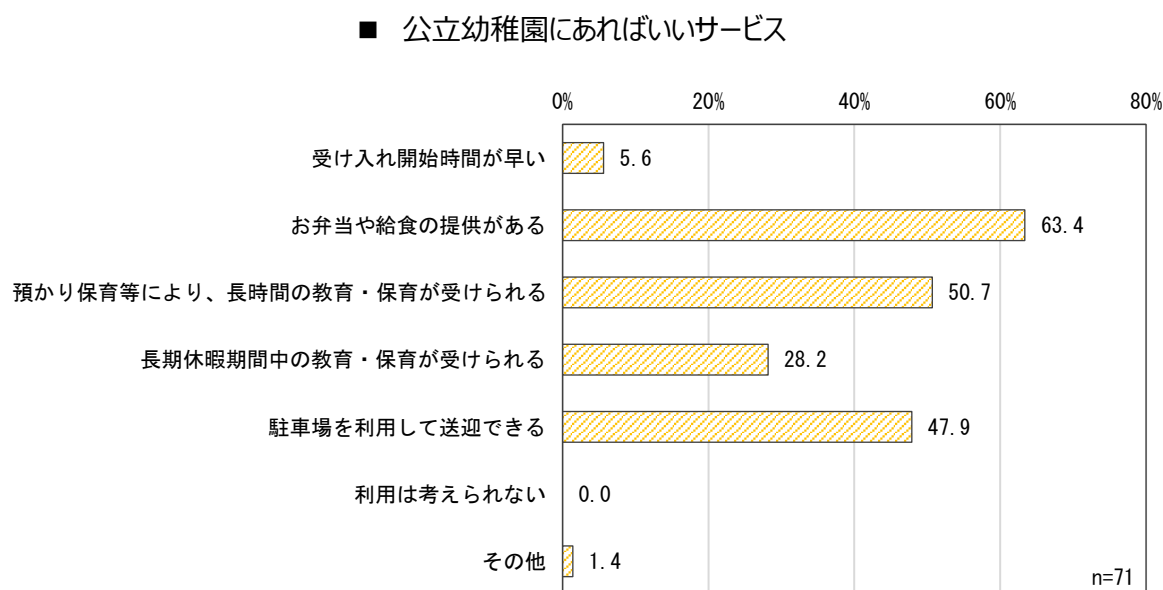
満3歳の翌月から入園ができる制度の利用意向

満3歳になった翌月から入園ができる制度があった場合の利用状況について、「利用した」の割合が45.1%、「利用しなかった」の割合が28.2%、「わからない」が26.8%となっています。



公立幼稚園にあればいいサービス

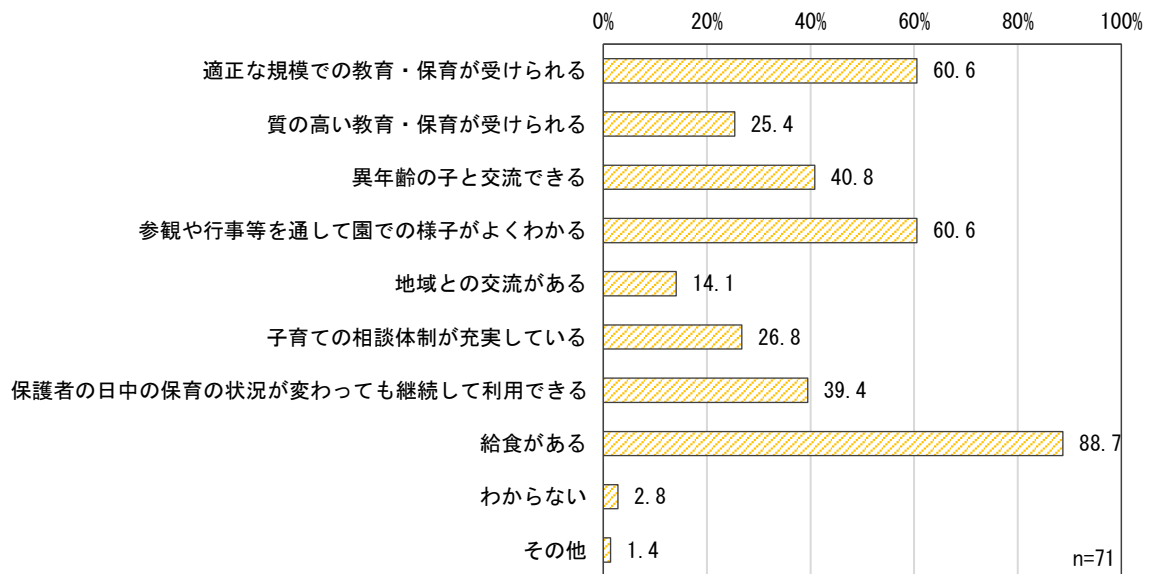
どのようなサービスがあれば公立幼稚園を利用したいと思うかについて、「お弁当や給食の提供がある」の割合が63.4%と最も高く、次いで「預かり保育等により、長時間の教育・保育が受けられる」の割合が50.7%、「駐車場を利用して送迎できる」の割合が47.9%となっています。



公立認定こども園生駒幼稚園のいいところ

公立認定こども園生駒幼稚園のいいところについて、「給食がある」の割合が 88.7%と最も高く、次いで「適正な規模での教育・保育が受けられる」「参観や行事等を通して園での様子がよくわかる」の割合が同率で 60.6%となっています。

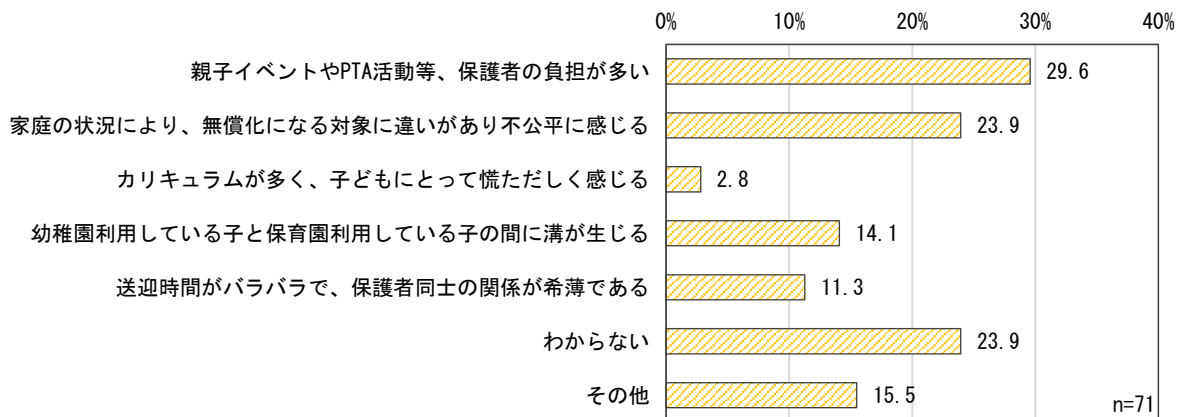
■ 公立認定こども園生駒幼稚園のいいところ



公立認定こども園生駒幼稚園の改善が必要と思うところ

公立認定こども園生駒幼稚園の改善が必要と思うところについて、「親子イベントや PTA 活動等、保護者の負担が多い」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「家庭の状況により、無償化になる対象に違いがあり不公平に感じる」の割合と「わからない」の割合が 23.9%となっています。

■ 公立認定こども園生駒幼稚園の改善が必要と思うところ



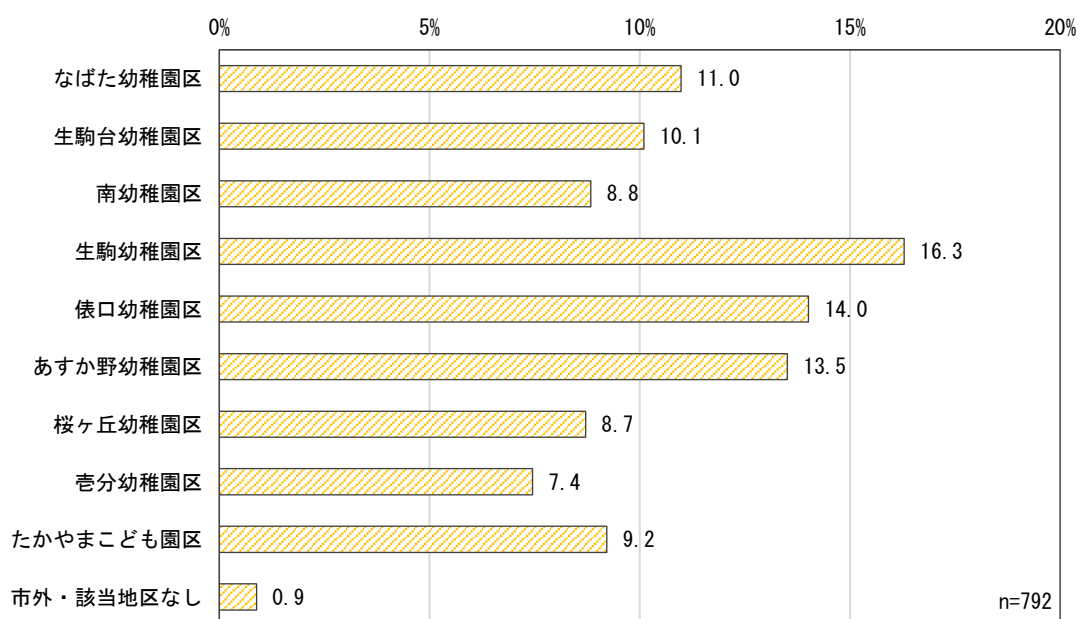
4

0～2歳児をもつ保護者向けアンケート調査結果

お住まいの地域

お住まいの地域について、「生駒幼稚園区」の割合が 16.3%と最も高く、次いで「俵口幼稚園区」の割合が 14.0%、「あすか野幼稚園区」の割合が 13.5%となっています。

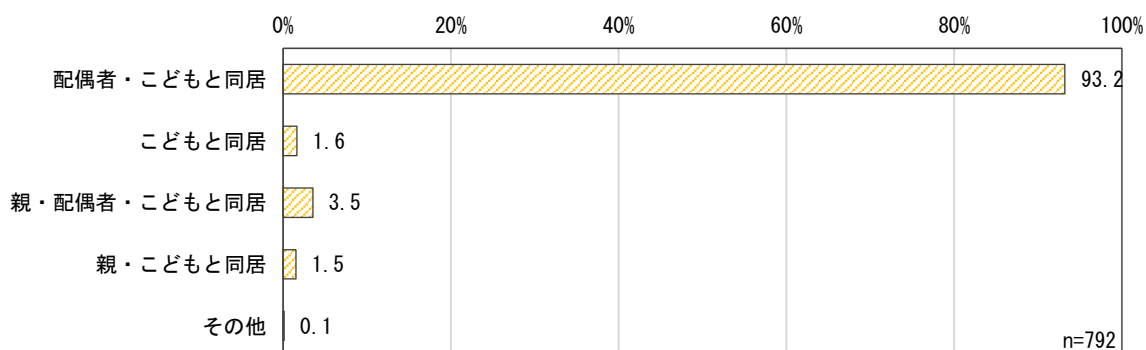
■ こども（保護者）の居住地



家族構成

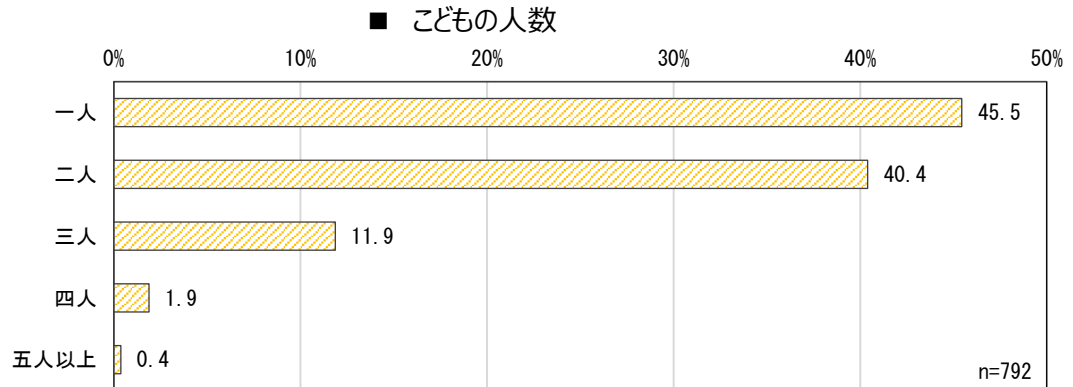
家族構成について、「配偶者・子どもと同居」の割合が 93.2%、次いで「親・配偶者・子どもと同居」の割合が 3.5%、「子どもと同居」の割合が 1.6%となっています。

■ 家族構成



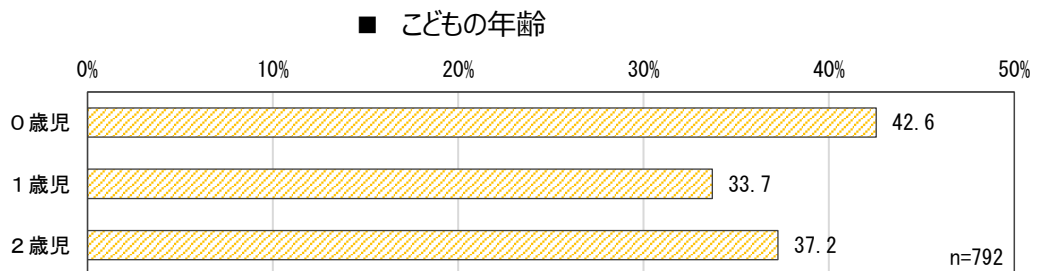
こどもの人数

こどもの人数について、「一人」の割合が 45.5%と最も高く、「二人」の割合が 40.4%、「三人」の割合が 11.9%、「四人」の割合が 1.9%、「五人以上」の割合が 0.4%となっています。



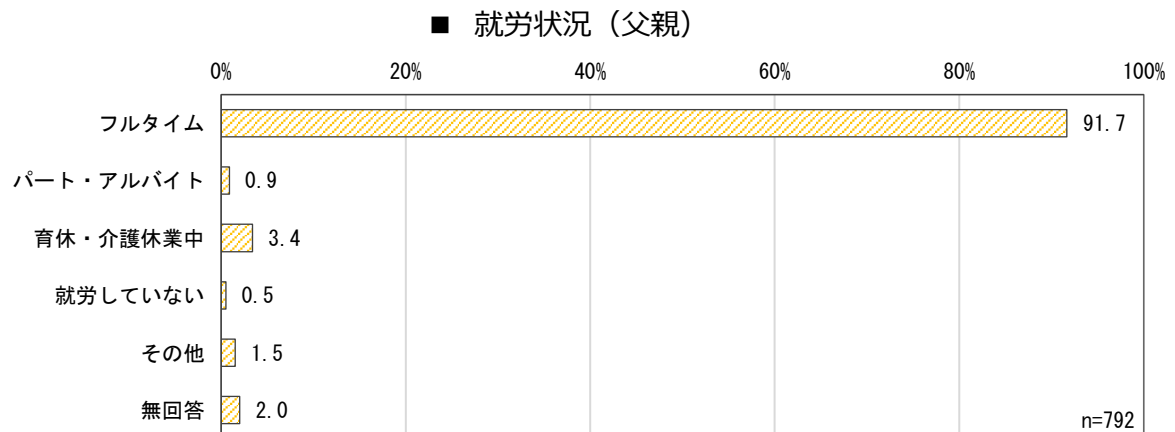
こどもの年齢

こどもの年齢について、「0歳児」の割合が 42.6%、「1歳児」の割合が 33.7%、「2歳児」の割合が 37.2%となっています。

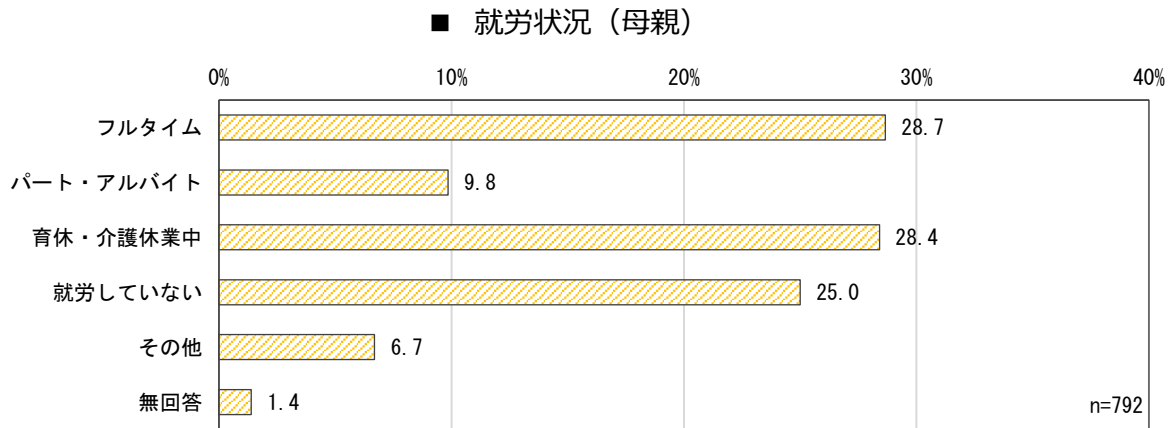


就労状況

父親の就労状況について、「フルタイム」の割合が 91.7%と最も高く、「育休・介護休業中」の割合が 3.4%、「その他」の割合が 1.5%となっています。

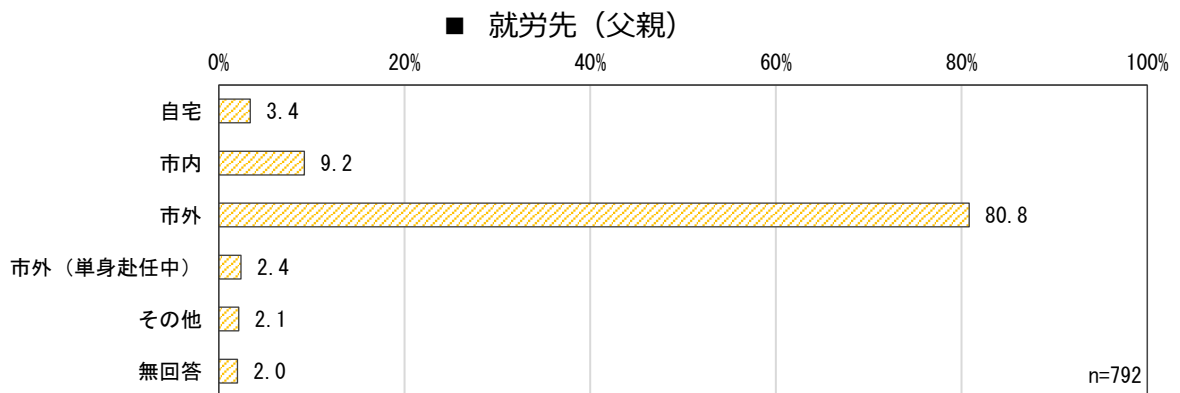


母親の就労状況について、「フルタイム」の割合が 28.7%と最も高く、「育休・介護休業中」の割合が 28.4%、「就労していない」の割合が 25.0%となっています。

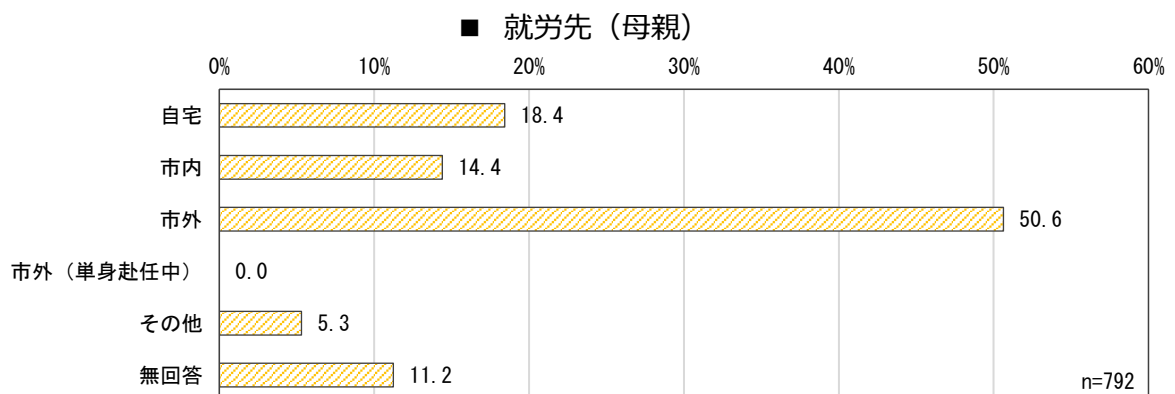


就労先

父親の就労先について、「市外」の割合が 80.8%、「市外（単身赴任中）」の割合が 2.4%となっており、市外で就労している人が 8 割以上となっています。

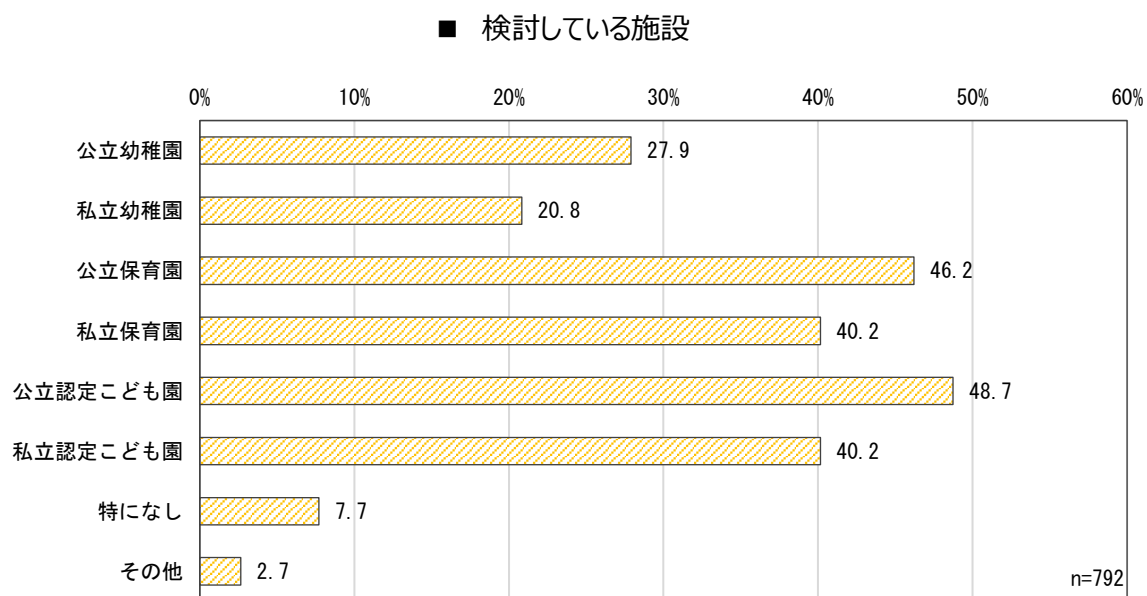


母親の就労先について、「市外」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「自宅」の割合が 18.4%、「市内」割合が 14.4%となっています。



検討している施設

検討している施設について、「公立認定こども園」の割合が48.7%と最も高く、次いで「公立保育園」の割合が46.2%、「私立保育園」「私立認定こども園」の割合がともに40.2%の順となっています。

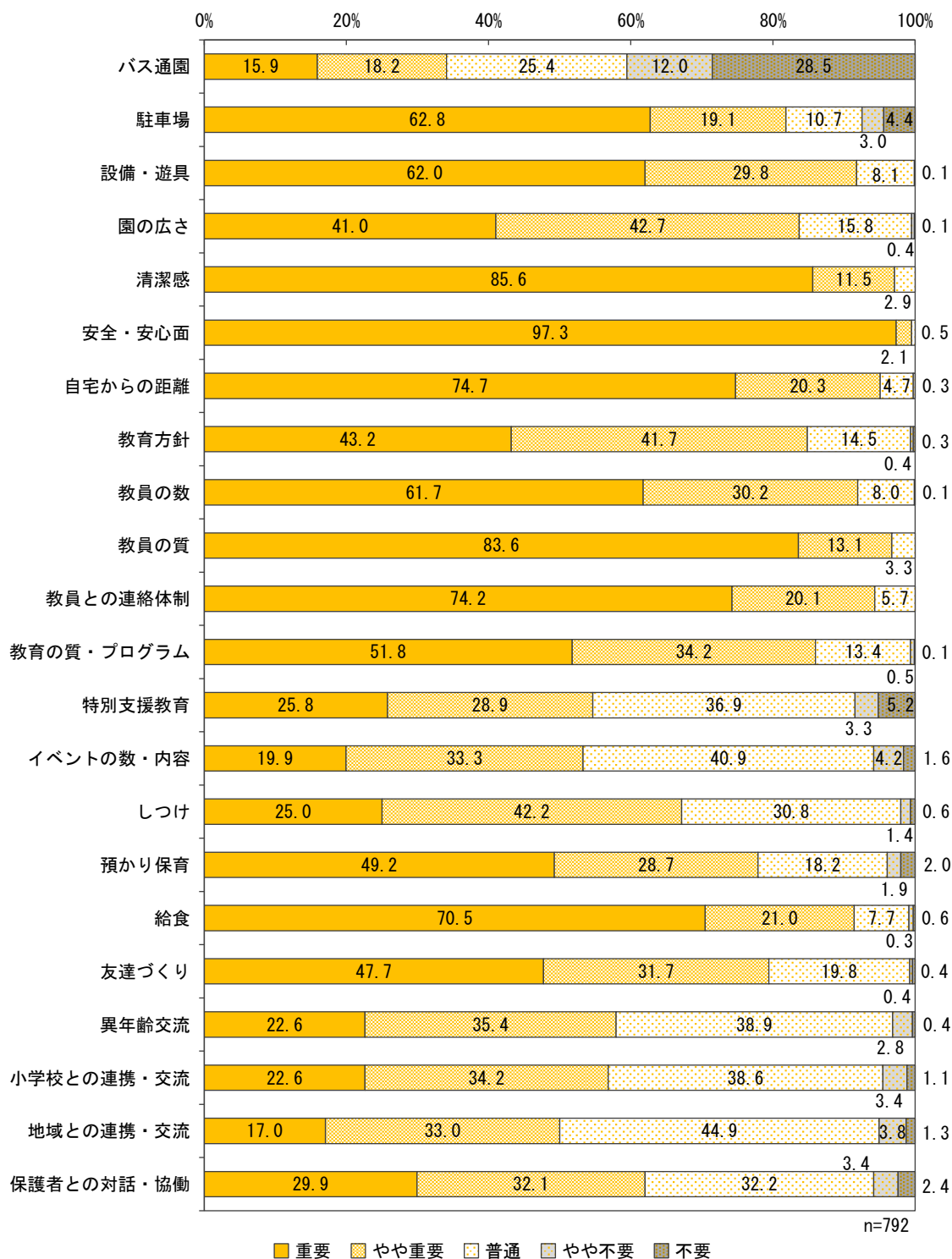


入園を検討する際の重要度

入園を検討する際の重要度のうち「重要」（重要＋やや重要）について、「安全・安心面」の割合が99.4%と最も高く、次いで「清潔感」の割合が97.1%、「教員の質」の割合が96.7%となっています。

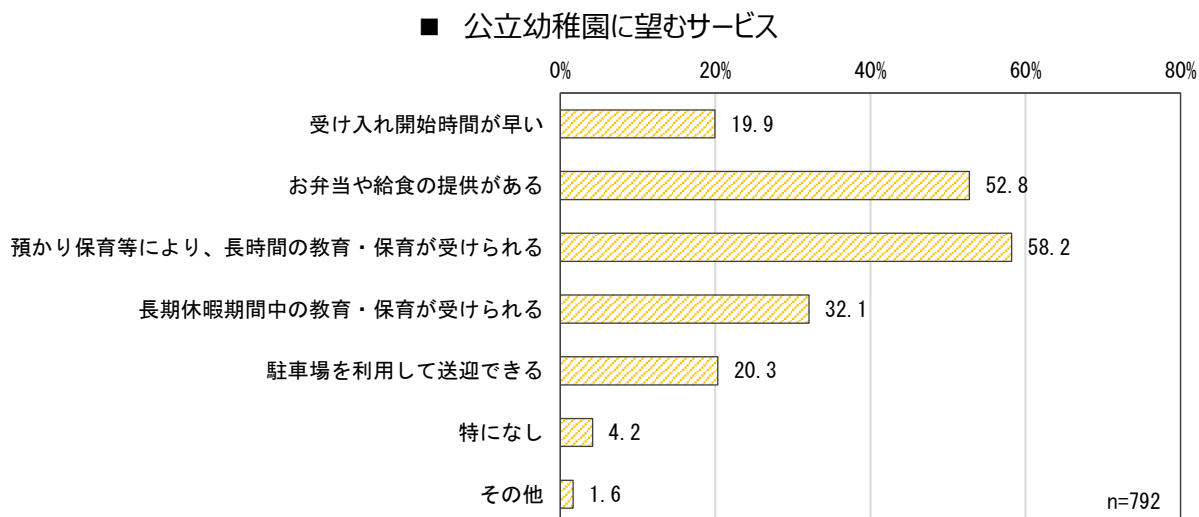
その一方で「不要」（不要＋やや不要）については、「バス通園」の割合が40.5%と最も高く、それ以外は1割以下になっています。

■ 入園を検討する際の重要度



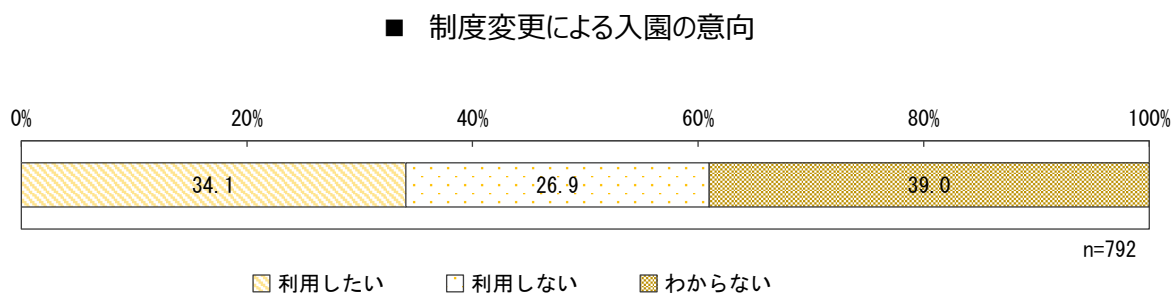
どのようなサービスがあれば公立幼稚園を利用したいか

どのようなサービスがあれば公立幼稚園を利用したいと思うかについて、「預かり保育等により、長時間の教育・保育が受けられる」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「お弁当や給食の提供がある」の割合が 52.8%、「長期休暇期間中の教育・保育が受けられる」の割合が 32.1%となっています。



満3歳の翌月から入園ができる制度の利用意向

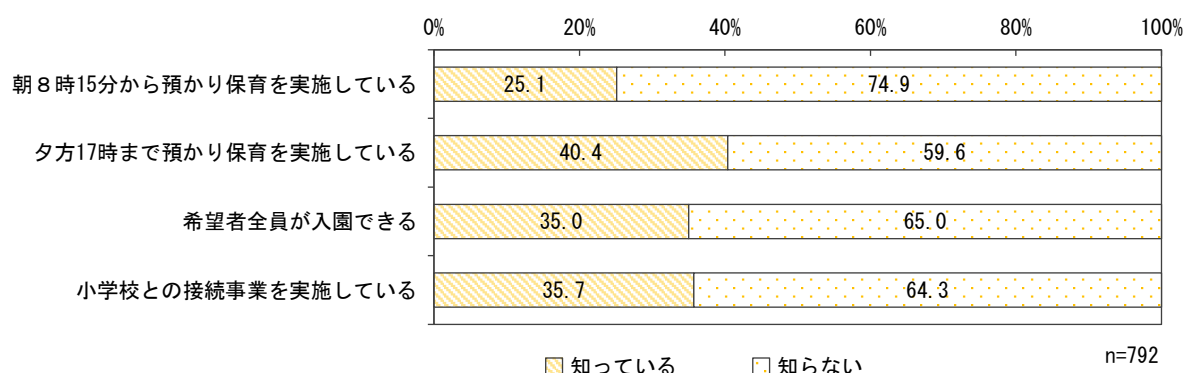
満3歳になった翌月から入園ができる制度があった場合について、「利用したい」の割合が 34.1%、「利用しない」の割合が 26.9%、「わからない」が 39.0%となっています。



各取組や特徴の認知度

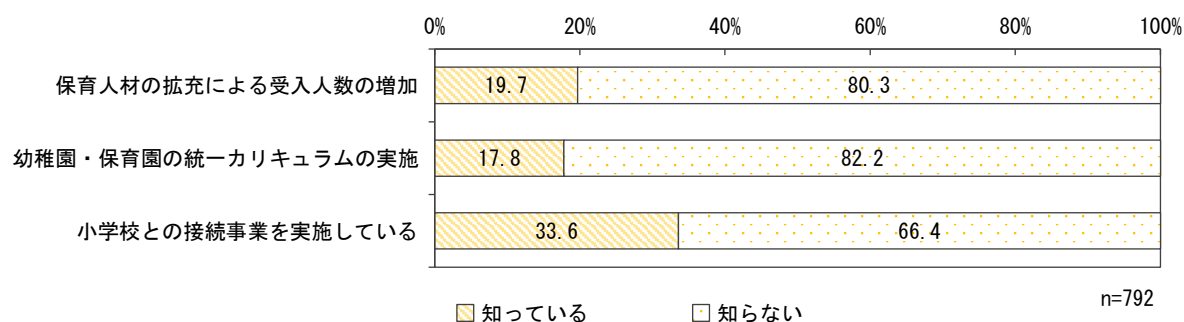
公立幼稚園の取組や特徴の認知度について、「朝 8 時 15 分から預かり保育を実施している」を「知っている」の割合が 25.1%、「夕方 17 時まで預かり保育を実施している」を「知っている」の割合が 40.4%、「希望者全員が入園できる」を「知っている」の割合が 35.0%、「小学校との接続事業を実施している」を「知っている」の割合が 35.7%となっていて、どの項目も「知っている」の割合が「知らない」の割合を下回っています。

■ 各取組や特徴の認知度（公立幼稚園）



公立保育園の取組や特徴の認知度について、「保育人材の拡充による受入人数の増加」を「知っている」の割合が 19.7%、「幼稚園・保育園の統一カリキュラムの実施」を「知っている」の割合が 17.8%、「小学校との継続事業を実施している」を「知っている」の割合が 33.6%で、どの項目も「知っている」の割合が「知らない」の割合を下回っています。

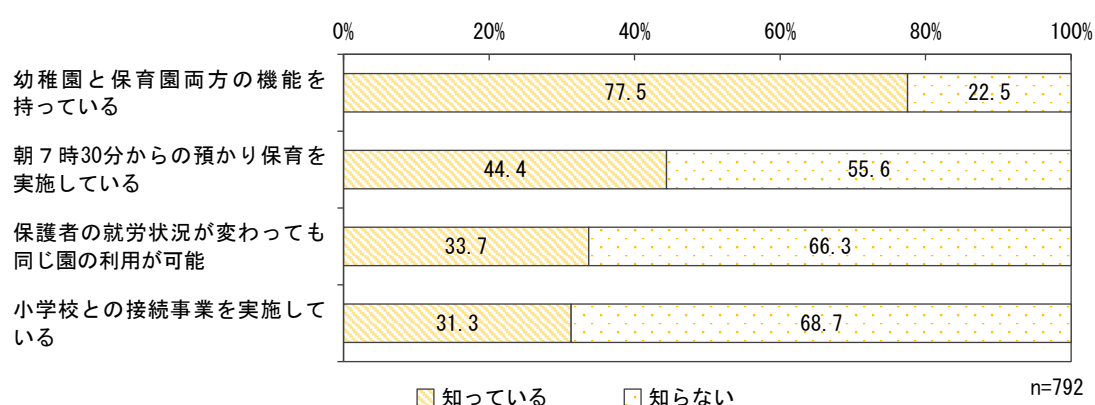
■ 各取組や特徴の認知度（公立保育園）



公立認定こども園生駒幼稚園の取組や特徴の認知度について、「幼稚園と保育園両方の機能を持っている」を「知っている」の割合が 77.5%と認知度が高くなっています。

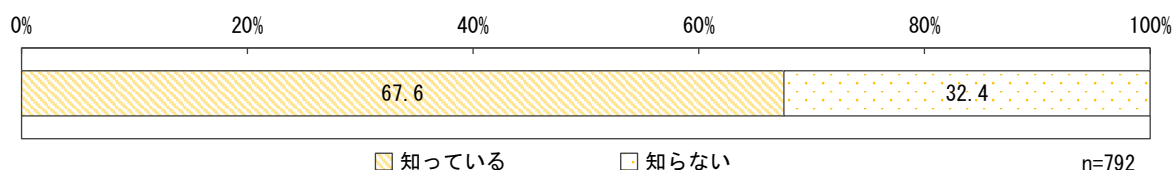
一方で「朝 7 時 30 分からの預かり保育を実施している」を「知っている」の割合が 44.4%、「保護者の就労状況が変わっても同じ園の利用が可能」を「知っている」の割合が 33.7%、「小学校との継続事業を実施している」を「知っている」の割合が 31.3%となっていて、「知っている」の割合が「知らない」の割合を下回っています。

■ 各取組や特徴の認知度（公立認定こども園生駒幼稚園）



保育コンシェルジュの認知度

「保育コンシェルジュ」を配置していることを知っているかについて、「知っている」の割合が 67.6%となっています。



5 教育・保育行政に対するご要望等

(1) 公立幼稚園児童保護者の意見・要望等

本市の教育・保育行政に対するご要望等として、62 件の意見がありました。

主な意見は以下のとおり。

■再編について

- ・しっかりと教育する施設としての公立の「幼稚園」は残して欲しい。
- ・幼稚園の恵まれた環境、恵まれた人材が活かされていない現状にもったいなさを感じています。公立幼稚園での給食の実施を導入するだけで入園希望者がどっと増えると思いますし、それができるならば生駒幼稚園のようにこども園化したらいいと思います。
- ・幼稚園区にたくさん新興住宅が建設されている中、待機児童問題もさらに深刻化する事が容易に予想できますがその中でどうして給食室の問題、駐車場の問題だけの為に幼稚園がこども園化できずに廃園という方向が検討されてしまうのか理解できません。
- ・公立の園に通えてとても良かったと思っていました。時代で仕方はないと思いますが、公立園の良い部分が引き継がれていくと良い。
- ・人数が少ない園はさっさと再編してほしい。
- ・公立幼稚園の人数減少について、少子化と保育園やこども園に流れていることで仕方のないことだとは思う。
- ・これから通う子どもたちだけではなく現在通園している子どもたちのことも大切に考えていただき、慎重に計画を進めていただきたいと思います。
- ・公立は、私立みたいな派手な施設や行事はないですが、そもそもそれが幼児に必須とは思いませんし、たくさんの先生が丁寧に関わってくれる日常生活が何より大事です。できる限り維持してもらえたらと思います。
- ・発達の遅れてる子どものびのびと過ごせる園でとても、良かったです。人員の問題もあるかとは思いますが、なんとか、存続して行って欲しいなあと願っております。
- ・今後は、職員の子どもも同じ公立園に通いやすくなるような制度・環境の整備を強く望みます。
- ・幼稚園の今後について、強く存続を希望いたします。耐震、駐車場や給食調理室などの課題があることは理解しておりますが、広い園庭や恵まれた環境を活かせば、改善の余地はあるはずです。「できない理由」ではなく、「どうすればできるか」を前向きに検討していただきたいと思います。加えて、公立園が減ってしまえば、現場で働きたいと願う保育士たちの受け皿も減ってしまいます。特に子育て中の職員にとって、公立園での勤務は働きやすさの点でも重要な選択肢です。
- ・保護者の方も働いている方が増えてきているため今後改善が必要かと思う。給食もあると尚更良いと感じています。

- ・ 保育園と幼稚園の差別化はとても重要だと思う。保育園を選ばないと行けない人でも本当は幼稚園に行きたいと思っている人がいると思う。
- ・ 市としては公立園よりも納税してくれる私立園を増やしたいのかもしれませんが、私立化は望みません。発達に偏りのある子でも選別されることなく、学区内の園に通える環境を残していただきたい。
- ・ 幼稚園の再編について、市の職員の方に一番伝えたいことは、「情報を PTA 役員だけではなく、他の全保護者へ必ず同じタイミングで同じ内容を伝えてください。そして、同じタイミングで意見を聞いてください。」ということです。
- ・ 幼稚園では、先生に子ども 1 人 1 人と向き合ってもらえる時間も多く、園での様子を細かく教えてもらえ、イベント時の写真の多さなど大変嬉しく思っています。また少ないからこそ年長～年少までママ達みんな仲良く、兄弟姉妹がいる人には小学校のことを教えてもらえるのはメリットだと思います。
- ・ 合併は仕方ないが、距離が遠くなるため、駐車場の確保を考慮してはどうか。
- ・ 幼稚園は小学校と隣同士で連携があり、かつ先生の質、教育方針がとても素敵だと思います。近年では働き方改革がなされており、給食、車送迎の需要が高く、負担を改善したら幼稚園に行きたいというご家庭がとても多いです。
- ・ 幼稚園の工事のため、別の幼稚園での保育になりましたが、先生の配置に配慮を感じられ、とてもありがたかったです。
- ・ 公立の良さである地域交流や保育の質、教員の質の良さも不便な所ばかりに目がいってしまい魅力を感じる保護者も少ないと思います。マイナスに感じている送迎の問題、早朝保育、お弁当などを改善してもらえると、公立幼稚園も検討してもらえるのではと考えます。

■給食について

- ・ お弁当を作るのが大変。週 1 回でもいいので、あれば助かる。
- ・ 給食を導入してほしい。
- ・ 夏場のお弁当の安全性・衛生面が心配です。
- ・ 給食では毎日さまざまなメニューが出されるため、家では食べない食材でも友達と一緒に挑戦してみたり、季節のメニューを知ることで食の幅を広げる良い機会になると思います。

■PTA について

- ・ PTA 活動の負担が大きい。PTA 役員を廃止してほしい。
- ・ 幼稚園児の数が負担になることで、保護者の一人当たりの仕事量が増える。
- ・ 他の保護者と関わりたくない。
- ・ 外部委託も検討してほしい。

■駐車場について

- ・ 緊急時以外でも車の送迎ができればいい。
- ・ 預かり保育のときだけでも駐車場が使えるといい。
- ・ 酷暑やゲリラ豪雨などの天候不安定な日に、下の子をつれて送迎するのは負担。

- ・ イベント時に駐車場を使っているのは下の子がいる人だけ。遠い人ほど駐車スペースが必要。子どもたちが使っているバス停を全部回してほしい。イベント時に親が行きにくいのはどうか。
- ・ 駐車場も必要だと感じるが、公立だと仕方ないのか。

■情報共有について

- ・ アプリがあるなら、写真付きで毎日の様子を配信してほしい。
- ・ 園では普段の様子を掲示しているが、バス通園だと見れない。
- ・ 預かり保育が彩でできるようになったことはうれしいが、送られてくる情報が多くて困る。カテゴリ分けなどがあるといい。
- ・ 保護者向けの講演会などは毎年似た内容なら、動画配信などで良い。
- ・ 今春から人事異動が非公表になった。自園の先生については3月中に知りたい。

■預かり保育について

- ・ 預かり保育の時間を延長できたらうれしい。
- ・ 共働き家庭も公立幼稚園を選択できる保育体制を整備してほしい。
- ・ 長期休みの預かり実施。一時保育だと費用が高み、家計を圧迫する。
- ・ 預かりの助成金を受けるための条件が保育園と幼稚園が同じなのは厳しすぎる。

■その他

- ・ 教師の質を上げて欲しい。職員の質の低下が心配。
- ・ 園まで遠い。バス通園があるといい。
- ・ 遠いので通園バスで通っているが、子どもが幼稚園で過ごせる時間が短い。行事などで保護者が幼稚園まで行かないといけませんが不便。市の方で何か対策を。
- ・ 子どもの特性や発達において、様々なものがあり、在園中に診断がつかないケース、レアケースなどの場合、園での対応も個々で大きく異なり、理解していただくまでに時間を要するので、市で共有していただきながら、対策を考えてもらえたらと思います。
- ・ もう少しお勉強や習い事のようなカリキュラムが充実するといい。
- ・ 先生方がとても優しく、子どもも楽しく通っている。卒園して小学生になった上の子に対しても優しく接してくれたり気にかけていただき嬉しく思います。
- ・ 熱中症対策を考えて欲しい。外(園庭)に出られず、遊べない。通園も大変なので、臨時バスまたは車で送迎を許可してほしい。切にお願いします。
- ・ 保育時間が短い、毎日のお弁当、PTA 活動などの負担が大きい、慣らし保育期間が長いことなど、保護者の負担が大きすぎて、他の私立園を選んでしまう人をよく見かけます。
- ・ 空き教室を利用し、長期休暇中だけ小学生を学童保育として受け入れていただけたら助かります。
- ・ 私自身、子どもを公立幼稚園に預けて後悔は全くありませんが、負担の大きさは常に感じます。もっと今の家族の在り方に寄り添った園の在り方に変えて欲しいですし、そこが変われば通う子どもの人

数はぐっと増えるのではないかと思います。今預けている子どもの同級生はとても少なく4人です。多人数での集団生活ができないまま、急に小学校に上がり、子どもが戸惑うことがないか、とても心配です。

（２）公立保育園児童保護者の意見・要望等

本市の教育・保育行政に対するご要望等として、76 件の意見がありました。

主な意見は以下のとおり。

■保育園制度について

- ・ 共働きが多いので、保育園の受け入れ人数を増やしてほしい。
- ・ 保育園の申し込み要件が厳しい。
- ・ 待機児童の状況を改善してほしい。
- ・ 出生数から保育の需要を概算し、受け入れ枠を設定してほしい。
- ・ 親の就労状況が変わっても、在園児には継続した保育を行ってほしい。
- ・ 産休明けの就労がたいへん。
- ・ 就労証明の提出方法など、他の市町村と保育園入園に関する足並みをそろえてほしい。
- ・ 保育園よりも学童保育を充実させてほしい。
- ・ 下の子を上の子と同じ保育園に入れたいが、パートを始めると入れない。
- ・ 兄弟で同じ保育園に入れるようにしてほしい。
- ・ 病欠してしばらくしてから保育料の還付について教えてもらった。制度があること自体をさきに案内してほしい。

■再編について

- ・ 兄弟別園に通うのはきつい。こども園になれば、別園での苦労はないし、より柔軟に働ける保護者が増える。
- ・ 幼稚園は預かり時間が短く、フルタイムで仕事ができない。
- ・ 幼稚園単独は時代に合っていない。こども園にするのも良い。
- ・ こども園や幼稚園の入所希望だったが、親の負担が大きき断念。親の都合で通わせられずに残念。市内に公立こども園が増えるといい。
- ・ 全員が納得して再編するのはありえない。少しでもサービスが良くなるのであれば、積極的に進めてほしい。
- ・ 公立幼稚園の受け入れ時間が短いのと、給食がないのが問題。
- ・ 園区によっては住宅開発が進んでいるので、近隣保育園のキャパも限界。幼稚園のこども園化が必要。
- ・ 保育園で待機児童が出ているので、幼稚園として存続させる意味がわからない。こども園化して待機児童の解消と、就労状況が変わっても通園できる形態の運営に早く取り組んでほしい。

■教育内容について

- ・ カリキュラムが充実している園の方が人気。
- ・ 子どもが身体を動かす時間をもう少し作ってほしい。

- ・ 子どもの好奇心を伸ばしてあげる環境であってほしい。

■情報共有について

- ・ バス通園児の親は子どもの園での様子がほとんどわからないので、対策してほしい。
- ・ 連絡帳を電子化してほしい。さらに写真付きで見れたらうれしい。
- ・ 教育実習生の方と保育士の先生との連携が取れていない感じがする。
- ・ 時間外の保育の先生の、名前も顔も不確かなのは不安。

■安全面について

- ・ 保育園の駐車場側の門扉の調子が悪いので、修繕または交換してほしい。
- ・ 通園時に危険だと思う道がある。園の周辺には、ガードレールや柵があるといい。
- ・ 保育園の設備が古すぎる。
- ・ 園舎が古く、地震などの災害があった時が不安。

■イベントについて

- ・ コロナ禍で行事の縮小された後、参観の時間が減ったまま。
- ・ 5歳児の卒園イベントがなく、親として残念。
- ・ もっと自然にふれる機会をふやしてほしい。

■教員の人数について

- ・ 先生がたの人数が多くてありがたい。
- ・ 保育士、保育教諭不足対策をしてほしい。
- ・ 人材を増やし、保育士の負担を減らしてほしい。

■先生への感謝

- ・ 感謝しています。
- ・ 待遇面や人員配置は法的根拠のもと整備されていると思うが、現場の意見に即したものとなるような働きかけが必要。

■その他

- ・ 行事のときに近隣に駐車場がない。図書館などの駐車場を利用できるようにしてほしい。
- ・ 自宅との距離よりも、駅から近い方が重要である。
- ・ 公立保育園の分布に偏りがあり、地域によっては選択肢がない。
- ・ 保護者が負担。
- ・ 小1の壁が気になる。
- ・ リズム室も保育室になっており、園児の数からすると、園庭も狭い。
- ・ 園に入るのに毎回チャイムを押し、先生が対応するが、お互いに負担。
- ・ 現場のしんどさを汲み取り先生方の待遇の改善等にしっかり取り組んでいただきたい。

- ・体調が悪くても登園させている保護者も多い。
- ・体調不良によるお迎え養成が大変。病院受診もハードルが高い。
- ・保育料を安くしてもらいたい。
- ・保育料が前年の年収ベースなので、転職したばかりだときつい。
- ・就業している母親が多いのに、公立幼稚園だと受け入れ時間・帰る時間が問題になる。どこかと連携して、子どもが待てるサービスがあるといい。
- ・先生方が上履きで下足エリアを歩くため、特に裸足で過ごす低年齢児達にとって衛生的とは言えない。先生方の意識改革またはインフラ整備が必要だと感じる。
- ・おやつは市販菓子が多い。できれば手づくりおやつを増やしてほしい。
- ・いつもの子どもの様子が見れる仕組みをつくってほしい。
- ・特別な支援を必要とする子が増えてきているので、支援の対応が出来る先生も必要。
- ・日曜・祝日も預けられるといい。
- ・雨の日の翌日、ブランコの足場に水がたまる。水はけを良くしてもらいたい。

（３）認定こども園児童保護者の意見・要望等

本市の教育・保育行政に対するご要望等として、29 件の意見がありました。

主な意見は以下のとおり。

■駐車場について

- ・ 駐車場の利用拡大。延長保育を利用し、2 号の利用する時間帯と同じだったら、駐車場も同じ様に利用可能にしてほしい。
- ・ 自転車通園の人が多いため、駐輪場が手狭で子どもの乗せ下ろしや自転車の出し入れが難しく、危ない。
- ・ 天候不良や保護者の体調不良時など、緊急時には 1 号認定児家庭でも利用できるとありがたい。
- ・ 園区外からの通園だと、雨の日の通園が大変。

■行事について

- ・ 父の日や母の日は特別なことをしないのに、敬老の日だけ敬老参観などがあるのが理解できない。家庭の事情も様々なので、なくしてほしい。
- ・ 幼稚園と小学校に子どもが要る場合、一方に懇談等のときに大変。兄弟が待機できる場所があるといい。
- ・ 幼稚園イベントがたくさんあるのはうれしいことだが、先生方の負担になっていないかと危惧する。
- ・ 10 月の運動会が暑すぎる。10 月 4 週目～11 月頭の土曜日で実施してほしい。

■園区について

- ・ 園区外から通園している場合、入学予定の小学校と交流がないまま入学を迎えることが不安。市内全体で、それぞれの入学予定の小学校へとの交流の日を設けてほしい。
- ・ 園区外でも、自宅から幼稚園が近い場合は、園区内として認めてほしい。
- ・ 小学校区には幼稚園・こども園が一つ以上必要。

■預かり保育について

- ・ 預かり保育を充実させてほしい。創意工夫も十分理解しているが、委託で習い事を導入してほしい。
- ・ 土曜日の預かり保育がほしい。
- ・ 19:30 までの延長保育を実施してほしい。

■先生の処遇改善について

- ・ 保育士さんたちが働きやすい環境、働いた時に得られる金額など、子どもの未来のためにも保育士さんたちにしっかりとした還元をしていただけると嬉しい。
- ・ 幼稚園、保育園の先生方の負担が減るように、少しでもお給料が上がるように、市には財源確保などを頑張ってもらいたい。
- ・ 先生方がどれだけ子どもたちの未来を担ってくれているのかをもっと評価していただき、今後も長く続けていけるようなシステムと、保護者の仕事との塩梅を沢山話し合っていたきたい。

■認定について

- ・ 保育園枠を増やしてほしい。ひとり親なのに 1 号認定でしか入園できなかった。
- ・ ゲリラ豪雨のたびに警報でお迎えが必要になり、数十分後にはすでに晴天の中迎えに行くことには無意味さを感じてしまいます。今後働きながら子育てをしていくうえで就労によって新 2 号認定が通る条件なのであれば、幼稚園部に準ずる警報と分けて柔軟に対応していただける制度を作っていただきたい。
- ・ 新 2 号認定の認定基準を細分化して欲しい。原則、2 号認定の基準で新 2 号認定が降りるが、週 3 日以上働いても月 64 時間を超える人はフルタイムの方以外ほばいない。よって、パートのため預かり保育を申請しないといけないのに、新 2 号認定がおりずに助成されず、結局家計のために働いているのに、お金が貯まらず、子どもと過ごす時間も減り、悪循環になっていると感じる。新 2 号認定第 1 段階として、『週 1 日以上、月 20 時間以上で、助成金 1 日当たり 240 円』といった形での実施の検討をお願いする。

■その他

- ・ PTA は廃止すべき。今の時代のあり方を今一度見直すべき。
- ・ 正門の入り口通路がせまい。大人がすれ違うことができる幅だとありがたい。
- ・ 日中どう過ごしたのか、クラスごとに簡単な内容で構わないので配信してほしい。
- ・ いつもたくさんの子どもを見くださっている先生方には本当に感謝しています。ありがとうございます。
- ・ 暑い時期のお迎えが 14 時だと、1 番陽の高い時間で、熱中症のリスクが高い。その期間はお迎えの時間を 16 時にするなどの対策をしてほしい。
- ・ 1 号認定児の水曜日の半日保育を 1 日保育にしてほしい。なぜ水曜日だけ半日保育なのか、説明がほしい。
- ・ 従来の年少～年長にとらわれず満 3 歳児教育を取り入れてほしい。

(4) 0～2歳児をもつ保護者の意見・要望等

本市の教育・保育行政に対するご要望等として、269 件の意見がありました。

主な意見は以下のとおり。

■保育園制度について

- ・ 保育園への入園のハードルの高さが辛いです。仕事をしたいけれど、保育園が決まらないから働けない。働き先が決まっていないから保育園には入れない。無限ループです。
- ・ 自宅安静・入院が必要だった際、保育園には申し込んだのですが通えず、子どもを預かってもらえる先に困りました。保育が必要な全ての人が、保育園など、何らかの施設で保育を受けられるようになってほしい。
- ・ 保育園の入園制度の書類は世帯全員でなく両親だけでいいと思います。祖父母と一緒に住んでいても教育できる環境とは限りません。
- ・ 情報公開や申込開始から締切までの期間が短すぎる。保育園の一斉入園の情報公開を早くするか、締切を遅くしてほしい。
- ・ 保育園については、1 歳児の競争倍率が高すぎる。もっと受け入れ人数を増やしてほしい。
- ・ 年度途中の転園に対する条件が厳しい。
- ・ 0 歳児入所が困難で、市外通勤であると非常に育休復帰後の生活が時間的に体力的にしんどい。
- ・ 3 歳までの園の場合、継続して親が働くために新たに保育園活動しないといけないうのが面倒。任意でエスカレーター式、または『A 園なら B.C 園だと優先して"必ず"入園できる』等あればありがたいなと思います。
- ・ 保育園の申し込みの点数制度に疑問を持っている。実家が近く支援が受けられて長い間働ける両親が高得点になって、支援が受けられないから仕方なく短時間で働いていると点数が低くなる。大阪のように実家が近いと点数をマイナスにする制度が必要ではないかと思う。
- ・ 上の子とは 5 歳離れているので、兄弟の加算指数を受けることができません。点数を高くするために、フルタイムで働くしかないと思っていますが、2 人の子どもの子育てをしながらフルタイムで働けるかどうかとても不安です。上の子との歳の差を関係なく、以前兄弟が保育園に通っていたら加点してもらえると子育てと仕事の両立に対する不安が減るのにと勝手ですが感じています。
- ・ 産休に入ってから上の子を預かってもらえるシステムではなく、妊娠した時点で上の子を最大 3 年間預かってもらえるような保育施設（育休が最大 3 年間取れる人や公務員がいる）を希望します。
- ・ 小規模保育園は増えているものの 0～5 歳で一貫して通える園が少ない。
- ・ 自宅から徒歩圏内で通える保育園を優先に通える体制を整えて欲しい。
- ・ パートの労働時間が短時間でも預かって欲しい。

- ・フルタイムで働きたいが、職場が遠方だと時短勤務をするしかなく、点数が低くなって、入園が厳しくなる悪循環である。
- ・現状、途中入所できる園はほとんどない。
- ・求職中だと保育園に応募できないことが納得できない。
- ・産休取得中の兄弟在園の決まりが厳しい。産後 2 ヶ月での仕事復帰は厳しい。
- ・誰でも通園制度を充実させて欲しいです。
- ・保育園は仕事や病気など事情がある人しか通園できないのが現状と思いますが、誰でも通園できるようになったらいい。
- ・両親がフルタイム勤務の場合、私立しか選べない。
- ・入所選考時に時短勤務（予定含む）の場合に低い点数で計算されるのは古い。保育ニーズの需要と供給のバランス上難しいのは承知していますが、今一度、時短勤務者の点数のカウントは再考いただきたいところです。
- ・保育園 4 月一斉入所の兄弟加点を増やして欲しい。幼い兄弟がいるからこそ時短をとって復帰したい。同園でないと送迎に時間がかかり時短をとった意味がない。兄弟を別園に通わせていた際、運動会等の行事も同じ日になったこともある。働きながら子育てがしやすい生駒市になってほしい。
- ・親の就労状況が変わっても、転園しなくてよい施設が増えてほしい。

■再編について

- ・こども園のような内容の園が増えるとよい。
- ・こども園がもっと増えれば、教育的にも満足でき、預ける可能時間にも余裕ができて働ける。
- ・幼稚園のニーズが減り、保育園を落とされるのに、いつまでたってもこども園にせず、幼稚園のままにしているのは、子育て支援に力を注いでいないように感じる。
- ・人数が多いと効率をとるために、どうしても一人一人が選択したり考えて行動できる環境が失われてしまいます。小規模（各学年 1 クラスずつ）なこども園をたくさん作ることが必要なのではないかと思っています。
- ・理想的には、就労状況に関わらず、全員こども園に預けられるようにして欲しい。その上で、働くかどうか選べたらいいと思う。
- ・現在公立幼稚園がある場所の近くに保育園がないところもあるので、再編でなくなるのではなく、公立園として幼稚園のままか、保育園かこども園として残してほしいと思います。
- ・現在小規模保育園に通園させている 1 歳児と小学生になる子どもがいます。下の子が 3 歳児になる時、近くに保育園がないため、幼稚園も検討していますが幼稚園は預かり開始時間が遅く、また夏休み冬休みなどの長期休暇にあたる時も預かりがない期間が長いと上の子の保護者から聞いており、これでは働けないなと思っています。
- ・育休から復帰するタイミングで、1 歳児が入りやすい(倍率の低い)こども園が近所であれば是非入れたかったなと思います。

- ・ 幼稚園の受入れ時間は拡大しているものの、生駒市民の多くが大阪府で就労していることと思えば、勤務及び移動時間の都合上、幼稚園は就園先候補になりません。生駒駅近隣の保育園が満員であることを思えば、幼稚園を認定こども園化して、子どもの受け入れ先を増やしていただけると助かります。こども園化に時間がかかるのであれば、主要駅からの送迎バスを整備する等、遠方の保育園でも通いやすくなる仕組みを作っていただけると助かります。希望園の倍率が高く、キャリアを諦めています。
- ・ 共働きなので、幼稚園が給食又はお弁当ありで 9 時から 17 時まで無償で見えて頂ける、土日はお休みで夏休みや冬休みもなく認定こども園のような場所なら預けたい。
- ・ ベットタウンになっている生駒市では、市外に働きに出ているので、幼稚園の預かり保育は合致しない。保育園の待機が他市よりもあると思う。まずは保育園の充実が優先ではないか。
- ・ 幼稚園に入園希望です。働いている為、市の補助を利用しつつ預かり保育をお願いする予定です。こども園化されれば、保育園と同様に標準時間であれば一時預かり代はかからないかと思しますので、こども園化を希望しております。
- ・ 幼稚園をこども園にしてほしい。もしくは、こども園と同じ様に長時間預けられるようにしてほしい。
- ・ 幼稚園がこども園化することを希望していました。反対された数が多かったから実現不可だったと思いますが、実際に保育を必要とする世代の意見をもっと広く聞いてほしかった。
- ・ 幼稚園のこども園化は、かなり需要があると思います。給食の提供と車の送迎可能 & バス登園、午前 7 時 30 分～18 時半までの預かりが出来るようにして下さい。可能であれば、土曜日の保育も希望しています。
- ・ 私立の幼稚園もこども園になるといいと思う。
- ・ 幼稚園がこども園になったら救われる保護者はたくさんいます。
- ・ 統廃合したいようですが、子どもを連れて行く事は距離、地形によっては大変な事です。幼稚園、保育園等がアクセスしやすい場所にある。長距離になる場合、無料の送迎がある。長距離にならない様に学区編成を変える。など考えられる方法は様々ですが、対話されているように感じない。
- ・ 公立幼稚園の入園者がとても少ないにもかかわらず、なぜ多額の維持コストをかけてまで存続させているのか疑問。費用対効果が悪すぎる。
- ・ 1 人の保育士が休業しただけで預かれる児童が大きく減る状態は健全な経営とはいえません。施設のキャパ以上の保育士を雇えるよう助成金を出す等して対応する事を望みます。

■待機児童について

- ・ 待機児童をゼロにしてほしい。
- ・ 希望保育園への入所ができるようにしてほしい。
- ・ 0 歳児以外の年齢でも、保育園に預けやすい環境があればよい。
- ・ 4 月以外の入所も容易にしてほしい。
- ・ 1 歳児の枠を増やしてほしい。

- ・ 仕事への復帰が妨げられ、働きたくても働けない状況をつくられてしまうのは、本当につらい。
- ・ 幼稚園より保育園の需要があるのは何年も前から分かっていること。ニーズの把握も遅いし、スピード感をもって対応してほしい。

■ 預かり保育について

- ・ フルタイムで働いていると、幼稚園に預けられない。
- ・ 幼稚園でも夏休みや冬休みなどの長期休みにも預かってほしい。
- ・ 朝の時間を早めてほしい。7時希望。
- ・ 18時くらいまでないと、余裕をもってお迎えにいけない。
- ・ 長時間開いている園があってもよいのでは。
- ・ 幼稚園でも保育園と同じ時間預かってもらえると助かる。

■ 幼稚園がいい

- ・ 幼稚園に入園させたかったが、フルタイム勤務だと預けるのが難しい。間に合いません。
- ・ 幼稚園に通うにあたり、給食の提供と車送迎が可能になれば。
- ・ 幼稚園をなくさないで下さい！！先生も優しく子どもがのびのび育つ場所だと感じています！！
- ・ 先生の質が何より大切だと思っており、幼稚園にしようと思っています。幼稚園に何度かお邪魔しました。おもちゃも壊れているものが多く、施設も綺麗とはいえませんが、先生方もベテランが多く、園長先生も積極的に動き回っている様子を拝見して幼稚園に通わせたいと考えています。
- ・ 公立幼稚園が不必要な訳ではないと思うので、安易に公立幼稚園を閉鎖などせず、早急に公立幼稚園を利用したい人が利用できるように設備・システムを整えてほしいです。公立幼稚園（市）ももう少し頑張ってこちらの要望に寄り添い、公立幼稚園の良いところを活かしていけるような方針を立てていただきたい。※具体的には、夏休みなど長期休みのお預かりをできる日数を増やす、給食を整備（もしくは委託する）できるようにする、など。
- ・ 保護者の就労状況によらず子どもを預けられる公立幼稚園のニーズは、園児数が減少傾向だとしても一定数は必ずあるわけで、安易に統廃合してほしくない。統廃合された場合、遠方になって通うのが大変になったり、園と合わない場合に他の園へ転園できなくなったりすることが懸念される。
- ・ 統廃合ではなく、預かり保育を在園児さんだけでなく地域の0歳からの子も達を対象にする、空いている部屋や園庭を地域の子も達の遊び場として開放する、などしてもらえたら、嬉しいです。
- ・ 育休中に子どもが公立幼稚園に通えたことで、友達と同じ小学校に通うことが出来てとてもありがたかった。公立幼稚園にも、就労している保護者でも預けられるような設備やサービスが整って欲しいと願っている。

■ 給食について

- ・ お弁当持参というのを給食が提供されるようになれば、ありがたい。
- ・ 主食を持参となっている保育園で、主食も提供するようにしてほしい。
- ・ 公立幼稚園でも希望者に給食を提供してほしい。

- ・ 公立幼稚園を利用しない一番の点は給食がないことです。
- ・ 今保育園ですが、給食はありがたい。自宅で食べるのを嫌がっていた食材も、給食を通して食べられるようになりました。
- ・ 生駒市の学校給食はとてもひどいと噂に聞きました。他市では学校内で調理し提供している市もあります。
- ・ 全ての公立幼稚園、こども園で給食、おやつを提供して欲しい。

■小学校について

- ・ 小学校区の学区を見直し
- ・ 学童の無償化
- ・ 小 1 の壁で大変そうにしている方が多い。学童保育が充実しているとありがたい。
- ・ 子どもが小学校に行ってもしんどくならないような、学校に向けての予備訓練みたいな導入してほしい。
- ・ 要望ですが、熱中症対策のために冷水機の設置と体育館のエアコンの設置を希望します。
- ・ 豊中市では、小学生になっても 7 時から預かりをしてくれる事業があります。大阪市内で働く人が多い生駒市でも、同じ制度が必要だと考えています。現状制度ですと、特に長期休暇中は、我が家の場合、子どもが小学生になれば、1 人で開門前から 30 分以上待つ必要が出てきますので、大変心配です。

■立地について

- ・ 駅の近くにたくさんあれば便利だなと思う。
- ・ 生駒市の特に駅付近などは倍率が高く待機児童も多いと聞きます。もう少し子どもを預けやすい環境があれば。
- ・ 車がないので徒歩で駅までの経路に近いところ、かつ夕方まで預かれる所でないと勤務を継続できない。
- ・ 生駒駅周辺にマンション新築分譲、賃貸マンションがたっている中で徒歩圏内での 3 歳児以降受入れ園が少なすぎるのでは、と感じています。

■兄弟について

- ・ 第一子が在園している保育園で、第二子の育休中もそのまま同じ園に在園させて欲しい。
- ・ 自宅保育中の第 1 子は 4 月から公立幼稚園入園予定。第二子は早めに保育園等利用して、仕事復帰を考えているが兄妹で預け先が違ってしまう為、送迎が困難では無いかと危惧している。
- ・ 兄弟の同園入園もむずかしく、それぞれの送迎に時間がかかるため、必然的に預かり時間が早めに設定しないといけなくなる。

■教員の人数について

- ・ 保育園(こども園)に子どもを預けていて、先生方の人数が足りていない様子を感じています。先生の人数が増えてもう少し余裕が出たら良いなと感じます。
- ・ 保育園に入れたくても保育保留通知がきて入園できずにいます。今は幼稚園より保育園の方が需要が高いのは明らかです。対応が遅すぎます。どんな家庭でも子どもが保育園に入れるようにしてください。保育園に入れないので私は仕事に行けていません。
- ・ 求職中では保育園を利用できないほど保育士の人数不足やその他事情により入園できない現状です。現在就労中の方が優先されるのは分かりますが、子どもを預かっていただければ復職が叶わないので、保育士の確保、また保育士の方が就業しやすい環境づくりが必要と思います。
- ・ 保育園の先生方がより負担のないように、園内の清掃やお布団の管理、外部業者を活用できるようなシステムにして欲しいです。保育補助の学生アルバイト、短時間パートさんの活用など人手不足を無くし、保育士の辞職を減らしてもらえると嬉しいです。
- ・ 人員確保に向けての取り組みや、出産後の戻り保育士の確保に向けての方針などはあるのか？保育士や教諭確保のための対策がわからない。
- ・ 外国人教諭を入れないでほしい。

■処遇改善について

- ・ 保育士の給与を上げ、保育士の確保、質の向上をお願いしたい。
- ・ 子どもの安心安全が守られるための体制（保育士の質ではなく量）に不安を抱くこともあります。先生方個々は精一杯子どもを見てくださいと思っています。保育士の待遇改善を。
- ・ 正社員の方もパートの方も、保育や教育に関わる方の待遇をせめてもう少し上げるべきだと思います。生駒市は子育てに優しい街だと感じますが、子どもを預けて働きたい人にとってはまだ多分戦場です。わたしも保育の仕事をしたい！と志のある人が先生になり、保育士さんが疲弊することなく、私生活も余裕のある生活ができるような街であってほしいです。
- ・ 子どもの大切な時期に家庭の事情で仕事に行かざるを得ない親からすると、自分の代わりになって保育をしてくださる先生方の賃金アップや、公休、待遇をもっとよくしてくだされば自ずと他の地域からも先生が集まって来ますし、子ども達も増えるかと思っています。

■駐車場について

- ・ 来年度こども園の入所を考えていますが、再来年度新 2 号になった時に、駐車場を使えないことが本当に困っています。こども園課、幼稚園に要望を出し、他の保護者の方は市長にもお願いしたと聞いていますが、一向に検討すらしてもらえない状況です。生駒市は保育園が受からない、こども園がない、ということは他市でも有名な話になってきています。
- ・ 幼稚園には駐車場があればと常々思っています。駐車場がないのは、幼稚園を選択しない大きな要因となっています。
- ・ 小規模保育園で駐車場が 1 台しか停められない。

- ・ 認定こども園で新 2 号の送迎で朝だけでも駐車場を利用させてほしい。
- ・ 送り迎えの駐車場を完備してほしい。

■満 3 歳制度について

- ・ 3 歳になった翌月からの入園、朝の幼稚園バス運行時間をもう少し早く設定、車で送迎可があればすごく助かります。
- ・ 3 歳から入園できるというのはとても魅力的です。時短勤務が 3 歳の誕生日の前日までで、時短勤務が終わると保育園の利用時間が長くなり過ぎてしまい、子どもに負担をかけるなど心配しています。なので 3 歳になる時に仕事を辞めるか悩んでいます。
- ・ 就労先が決定していないと保育園に入園する事は難しい、しかし仕事先を探すには保育園が決まっていないと厳しい、と負のループになります。その受け皿として、満 3 歳から通える幼稚園、もしくは 2 歳児クラスの幼稚園があれば、就労も可能になり、子どもにとっても集団生活で過ごし、様々な経験をさせて貰えるいい機会かなと思います。
- ・ 6 月生まれのため、すでに 3 歳になって活動的なのにいきたい公立幼稚園に入園できるのは来年の 4 月からなので三歳から入園できるようにしてもらえると嬉しい。

■遊び場について

- ・ 市内に親水施設がないので、遊べる噴水や水辺の整備を求めます。
- ・ 小学生以上の子が遊べる場所が少ない。小学生以上の子が安心して遊べる市営の屋内施設を今以上に充実させてもらいたいです。
- ・ みっきランドは 3 歳児までとなり幼稚園以降の室遊び場がありません。年々気温も高まり特に夏の遊び場に困ります。

■情報について

- ・ コンシェルジュのことは知っていましたが乳児についての健康の相談だけなのかなと勘違いしていました。引っ越してきたので何も情報がなく、自分で調べて決めるのは大変でした。
- ・ 元々生駒市に住んでいなかったのであまりどこに幼稚園があるかなど知らないまま。年少になる前の年などに幼稚園などの情報があると考えやすい。
- ・ 保護者自身が情報を取りに行かないと保育園や小学校就学などの情報を知る機会が得られないことに不安を感じる。

■料金について

- ・ 保育料の無償化。0 歳児から無償化。費用を安くしてほしい。
- ・ 時間外保育の無償化。
- ・ 幼稚園で預かり保育を利用すると保育園以上の金額になり、無償化の恩恵を受けにくい。

■コンシェルジュについて

- ・ 転職や保活時期には、コンシェルジュの方々にも本当にお世話になりました。親切にしてくださり、右も左も分からない中、本当に心強かったです。
- ・ 保育コンシェルジュの方々には 2 回程親身に相談にのっていただきました。
- ・ 保育コンシェルジュ利用しましたが、申請の仕方の説明のみ、という感じでした。こちらは何を相談して良いのかさえも分からない状態だったので、もう少し聞き取り等してマッチしそうな幼稚園保育園の特色等の提案があれば良かったと思いました。
- ・ 保育コンシェルジュは紹介されたが実際に役所の保育の窓口に行くとしばらく無視され数分後にようやくやれやれという感じで対応されるので極力赴きたくないという気持ちが勝る。

■一時預かりについて

- ・ こども園に幼稚園児として在籍していた場合、保護者の就労が始まっても保育園児として同じ園で受け入れてほしい。
- ・ 認定こども園生駒幼稚園でも半年または 1 歳児から一時預かりをやってほしい。西菜畑町・緑ヶ丘周辺にも保育園を作してほしい。
- ・ 生駒市にはファミリーサポート事業がありますが、どこもなく不安で利用したことがありません。また、生駒市の保育施設で一時預かりを利用すると、1 ヶ月前から予約しないといけませんが、子どもの病院など 1 ヶ月前からわかるものではないので少し不便に感じています。その代わり三郷町にある、一時預かり専門のところを利用しています。そこは当日でも空きがあれば受け入れてくれますし、スタッフも保育士の資格があり、とても心強い存在になっています。ただ、少し遠いので、生駒市にも、一時預かり専門の施設を是非作って欲しいと心から願っています。どうかご検討よろしくお願いします。
- ・ こども園でも一時預かりをできるようにして欲しい。
- ・ 支援センターの一時預かりの利用可能時間を延長してほしい。決められた時間帯の 3 時間では出来ることに限りがあり、利用しにくい。
- ・ 一時保育が全て 1 歳からの所しかないなので不便。

■その他

- ・ 教員、保育者同士がうまく関わり合えていないと保育自体がうまく回らないと思う。特に上司。嫌な雰囲気は部下に伝わり、子どもに伝わり、保護者に伝わり、結局園自体を悪くさせる。入園者数が増えないのは当たり前。感情で保育する年配保育士、教員は保育の現場に必要なと思う。
- ・ 市内の保育園に見学に行った際、案内係の事務員以外、目が合っても職員が誰一人挨拶をしませんでした。教育者としてどうなのかと疑問に思い、我が子を預けたいと思いませんでした。
- ・ 役所は、サービスどころよりも、保育に関わるすべての人が関係者として様々なことをきちんと理解してほしいと思う。
- ・ 親の通勤事情から、子どもの通う保育施設はほぼ選択の余地がないのが現状です。私立公立、保育園幼稚園によって保育の質に差がないことを願います。
- ・ 第一子から保育園費を助成してほしいし、もっと子育て関係の施策を充実させてほしい。

- ・ I hope the documents of applying the nursery can be more flexible. (保育園の申込書類がもっと柔軟になることを期待します。)
- ・ 保育園の入園申し込みで、入園不可でも連絡はほしい。
- ・ 通園バス制度を導入してほしい。
- ・ 公立保育園は、中保育園以外は駅から遠い印象がある。車を持っていないため、通園バスがあつて乗せやすい場所（生駒駅など）に滞留していただくと、通わせやすいです。
- ・ 今回のアンケートで初めて公立の幼稚園やこども園の場所を知りました。知っている園がすべて私立だったと驚きました。
- ・ 保育園へ見学にいったとき、物が多く通路まで置かれていたり、階段に近い場所にピラミッドのように物を積み上げられており、危ないと感じました。非常時に迅速な行動ができないので注意した方がよいと思います。
- ・ 生駒市ではないが、幼稚園バスに子どもが閉じ込められて死亡した事故が気になり、公立に入園させたかったが、バス通園しか選択肢がなかったため、諦めました。安全面に配慮していることがあれば、もっと周知した方がいいです。
- ・ すべての幼稚園、保育園で性教育を進めていくようお願いします。身体測定や水着の着替えを一緒に部屋ですせてはいけない。トイレも男女分けて設置するべきだと思います。
- ・ 就労していると子どもに習い事をさせることが難しいため、教育にもう少し力を入れた保育園・幼稚園が増えてほしい。
- ・ 平日は給食・おやつありにしたり、家までバスで送迎したりしないと、立て直しは困難。親の利便性向上、預かり保育の充実、ホームページの情報充実などは公立には足りていません。
- ・ 幼稚園の送迎を車で可能にしてほしい。
- ・ 共働きしている親からすると、0歳から預かり、給食も充実している保育園と比べると、幼稚園に入園させることは選択肢にならない。
- ・ 幼稚園を希望していたが、入園するころまでにその幼稚園があるか、同じ学年に友達がいらないのなら、保育園の方がよいかと迷っている。
- ・ 4年保育の施設がないのが残念。
- ・ 3歳までの育休が選択できたらいいのに。
- ・ PTAの廃止
- ・ 月齢の集まりの会が近くの保育園でもあれば行きやすいと思う。
- ・ 生駒市ではオムツのサブスクを導入している保育園が多くないので、市内すべての保育園等で導入を検討してほしい。
- ・ 早朝から預けたりできたら、たすかります。
- ・ こども園でも保育園と同じく土曜日の預かりを可能にしてほしい。
- ・ こども園では保育園と違って平日の親参加行事が多い。就労中の親の休日取得負担が大きい。

- ・ シングルマザーでも育てやすい環境になるといい。
- ・ 自由保育の公立幼稚園や自由保育を学んでくれる大人が増えるといいな。
- ・ 幼稚園等の統合で認定こども園にするのならば、その建設費用を子育て施策に活用してはどうか。
1人出産につき100万円など、子どもを増やす方法を考えてほしい。
- ・ 園内で問題やトラブルがあっても転園させてもらえない。
- ・ 育休後に働き方を変えたいお母さんは多いと思う。育休中に転職できるシステムやルールができればいいのに。
- ・ 難病の子は、健常者より入所が難しく、制限があるのが残念。親の就労にも影響がある。
- ・ 幼稚園入園前のプレ保育において、親子分離型プログラムがもう少しあってもよい。
- ・ 幼稚園・保育園の充実。小学校の学童保育の充実。
- ・ 働いているママが多いこのご時世、公立幼稚園に行くメリットがないので、どんどん減っていくと思う。こども園にした方がよいと思う。
- ・ お昼寝時のコットンかレンタル布団をお願いしたい。

